令和6(2024)年度
長崎国際大学
教員個人による諸活動について
自己点検・評価報告書

いつも、人から。そして、心から。

長崎国際大学

Nagasaki International University

自己点検・評価委員会

	教育職員	氏名	頁
	人間社会学部国際観光学科		
1	学部長・教授	井上　英也	1
2	学科長・教授	田中　誠	5
3	教授	落合　知子	10
4	教授	乙須　翼	14
5	教授	城前　奈美	18
6	教授	滝　知則	22
7	教授	松山　博明	27
8	教授	山内　美穂	31
9	特任教授(甲)	池永　正人	35
10	特任教授(甲)	嶋内　麻佐子	39
11	准教授	落合　和昭	45
12	准教授	尾場　均	50
13	准教授	川上　直彦	55
14	准教授	佐野　香織	60
15	准教授	竹田　文雄	64
16	准教授	Thom W. Rawson	68
17	准教授	森尾　真之	72
18	講師	井畑　敦子	75
19	講師	浦郷　淳	79
20	講師	江島　弘晃	85
21	講師	川上　知子	89
22	講師	John Patrick Owatari—Dorgan	93
23	講師	末永　貴久	98
24	講師	張　美慶	103
25	講師	東出　朋	107
26	助教	小泉　優莉菜	110
27	助教	長津　恒輝	114
28	助教	余　乾生	118
	人間社会学部社会福祉学科		
1	副学長・教授	木村　勝彦	122
2	学科長・教授	柳　智盛	127
3	教授	大畠　啓	132
4	教授	大町　いづみ	136
5	准教授	梅野　潤子	140
6	准教授	野田　健	145
7	准教授	韓　榮芝	150
8	講師	足立　孝子	155
9	講師	浦　秀美	159
10	講師	中村　尚生	166

	教育職員	氏名	頁
11	講師	久田　貴幸	171
12	講師	裵　孝承	175
13	講師	丸山　貴志	179
14	助教	針塚　緑樹	183
15	助教	山下　彦	187
16	助手	金子　麻美	191
	健康管理学部健康栄養学科		
1	学部長・教授	野村　秀一	194
2	学科長・教授	熊井　まどか	198
3	教授	古賀　貴子	202
4	教授	林　俊介	207
5	教授	廣田　昌彦	212
6	准教授	松尾　嘉代子	216
7	准教授	山口　留美	220
8	講師	小田　和人	223
9	講師	川内　美樹	227
10	講師	川野　香織	231
11	講師	髙江洲　有沙	235
12	講師	藤井　俊輔	239
13	講師	宮原　恵子	243
14	特任講師(甲)	吉村　亮二	247
15	助教	射場　仁美	251
16	助教	菊地　優子	254
17	助教	吉永　奈津希	257
18	助手	井上　朋奈	260
19	助手	嘉数　圭祐	263
20	助手	久保　玲奈	266
21	助手	野田　智章	269
22	助手	古田　美咲	272
23	助手	山下　千尋	275
	薬学部薬学科		
1	学長・教授	中村　誠司	278
2	学部長・教授	藤田　英明	282
3	学科長・教授	佐々木　茂貴	286
4	教授	椛島　力	290
5	教授	市川　和洋	294
6	教授	宇都　拓洋	298
7	教授	大磯　茂	303
8	教授	大庭　義史	307
9	教授	小川　由起子	311

	教育職員	氏名	頁
10	図書館長・教授	岸原　健二	316
11	教授	隈　博幸	320
12	教授	黒川　健児	324
13	教授	小島　直人	328
14	教授	小林　秀光	332
15	教授	高井　伸彦	336
16	教授	長岡　寛明	340
17	教授	西奥　剛	344
18	教授	深澤　昌史	348
19	教授	室　高広	352
20	教授	山口　拓	356
21	教授	山口　泰史	361
22	教授	淀　光昭	366
23	准教授	太田　一寿	369
24	准教授	神谷　誠太郎	372
25	准教授	神田　紘介	375
26	准教授	田中　宏光	379
27	准教授	出口　雄也	383
28	准教授	藤井　佑樹	387
29	准教授	藤木　司	391
30	准教授	藤本　京子	395
31	准教授	山田　耕平	399
32	講師	石原　知明	403
33	講師	榎本　彩乃	407
34	講師	大久保　伸哉	411
35	講師	川嵜　達也	415
36	講師	倉岡　卓也	419
37	講師	末廣　真理恵	423
38	講師	相田　美和	427
39	講師	髙崎　伸也	430
40	講師	中村　沙織	433
41	講師	縄田　陽子	437
42	講師	吉田　達貞	441
43	助教	大神　正次	445
44	助教	北川　翔大	449
45	助教	中島　健輔	452
46	助教	波多江　日成子	455
47	助教	福森　良	459
48	助手	李　政洙	463
49	助手	福成　温	466

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 井上　英也

1．教育理念

観光産業を日本の主産業へとの機運が高まり、アジア地域の経済発展に伴う大きな旅行需要により、その機運が現実味を帯びてきた中、喫緊の課題は、それを支える経営感覚を持った人材の育成だと考える。しっかりとした国際感覚を身につけた高度な専門職業人育成に取り組み、将来の観光産業を担う人材を育成し、社会に供給することに私の経験・知見を教育の現場で最大限に活かしていければと考えている。

特にわが国の宿泊産業は、伝統的な　“おもてなし”　に根ざした情緒的な運営手法に加え、欧米の先端ホテル企業において日々築かれている近代的な運営、経営戦略の構築が求められている。宿泊業の専門教育においては、基礎教育におけるマーケティング、ファイナンス、人材管理、システム管理などの概論を発展させて、ホテル、旅館の課題に対して総合的な解を求めていく実践的な授業の構築および運営を行う。

また、実習の企画・運営並びに就職支援も重要だと考える。加えて今後の宿泊産業の人材ニーズに鑑みるに、社会人の学び直しも視野に入れたプログラムを構築することも必要である。特にこの産業においては、高卒、専門学校卒の従業員も多く、経営幹部へのキャリア形成を考えると、この人材層に高等専門教育を提供することは現在の業界並びに観光立国を目指す社会への多大なる貢献である。

以下に、専門教育における教育理念を掲げる。

1.　グローバルな視点の育成

観光産業の内なる国際化に対応し、文化的な理解に基づく旅行者への提案、受け入れができる素養を身につけた人材の育成。

2.　経営感覚の養成

宿泊業およびその周辺産業に関する基礎知識を修得した上で、豊富な事例研究により、著しく変化する事業環境に柔軟に対応する応用力を身につけた人材育成。

3.　地域貢献の志

地域に根ざした産業である観光/宿泊業を通じて地方創成をなし、社会に貢献する志を持った人材の育成。

以上

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(前期)	4	1	⑥⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	13	⑥⑫
Hotel Management	15/15(前期)	2	12	①②④⑤⑥⑦
ホテル管理論	15/15(後期)	2	33	②④⑤⑥⑦
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	12	②④⑥⑦
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	11	②④⑥⑦
ＩＲ論	15/15(前期)	2	35	②④⑤⑦⑩
起業論	15/15(前期)	2	58	②④⑥
観光リーダーシップ論	15/15(後期)	2	27	②③④⑤⑥⑦⑧
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	13	②④⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	13	②④⑥⑦
ホテルビジネス英語	15/15(後期)	2	15	②⑦⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
宿泊業特講	15/15(後期)	2	9

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【前期】

・IR論　4.7
・起業論 4.7
【後期】
・ホテル管理論　4.7
・観光リーダーシップ論　4.6

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①　ホスピタリティ産業における人事管理および人材開発
②　グローバル・ホテル・チェーンの経営管理
③　宿泊業におけるインバウンド戦略
④　地域の観光振興　－Destination　Management　Organizationの在り方－
⑤　統合型リゾート（IR）における人材マネジメント

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育	委員	なし
教員資格審査	委員	なし
防火・防災	委員	なし
危機管理	委員	なし
人事	委員	なし
輸出管理	委員	なし
グローバル推進協議会	委員	なし
全学教育会議	委員	なし

地域連携センター	アドバイザー	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
改革総合支援事業対応策検討WG	委員	特記することはなし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

国際観光研究所の活動を通じたメディアへの情報提供
（国税庁・酒造ツーリズム事業など）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
観光の未来を担う人材育成パネルディスカッション	2024年10月5日	長崎国際大学1101教室	長崎国際大学国際観光学会
内なる国際化に向けた人材戦略	2024年11月5日	十八親和銀行佐世保本店 別館９階ホール	長崎経済同友会
おおむらインバウンド戦略シンポジウム	2024年11月25日	大村市中央公民館大会議室	大村青年会議所

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県観光審議会	会長	2019年2月～現在に至る	長崎県知事
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏	委員	2017年7月～現在に至る	「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会会長
佐世保市行財政改革推進会議	副会長	2023年6月～現在に至る	佐世保市長
佐世保市俵が浦半島の自然公園化に向けた民間提案選定委員会	副会長	2024年11月~現在に至る	佐世保市長

一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会	代表理事	2017年3月～現在に至る	一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会理事会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍がようやく収束し、教育面においては、産官学での観光プロジェクトが再開し、多くの学生が参加する活動ができたことは成果であった。特に国税庁、酒造メーカー、ホテルおよび長崎の自治体と連携した「酒蔵ツーリズム」のプロジェクトは連携先からの評価も高かった。

以下に教育面および研究面を総括する。

１．教育

ホテル関連科目については、引き続き、受講生に基礎知識をしっかりと植えつけると共に、実践的な視点を持たせることに注力した。また、ホテル関連科目以外では、講義と演習を組み合わせた「起業論」は佐世保市が開催するビジネスプランコンテストへの応募を目指した。結果、30組以上の応募の中から10組の本選出場の中に選ばれることができた。ゼミにおいては、引き続き、地域の要望に応える必要もあり、上述したプロジェクトなどにおいて学生の主体性を重んじることで創造性を育み、その成果物を第三者に伝えるコミュニケーション能力を育成することができた。

２．研究

具体的な成果を上げられなかった。来年度は、「国際観光人材育成」および「観光産業のDX化」に関する研究を進めていくこととする。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 田中　誠

1．教育理念

私は、次の2点の教育理念を特に重視して教育実践を行っている。1点目は「教えることは学ぶこと」、2点目は「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」である。

よって、1点目の教育理念に基づき、すべての授業で授業内容をしっかり自らが学び、教材研究をしっかり行うこと、また、該当クラスの学生の特質を理解した上で、事前に入念に各授業を構成することを重視している。

2点目の教育理念の実践のためにも、学生がどうしたら「主体的に学び、考え、行動できる人材」となることができるのか、私の授業を通して学生に学んでもらうために、以下のような授業方法を行っている。

講義系の科目では、まず予習をして授業に参加してもらうこと、授業中も各自が主体的に参加できる内容を盛り込むこと、学生には授業のポイントをノートに書き取り、授業後にそれらをポートフォリオにまとめることで振り返りをさせること、ポートフォリオに授業のポイントをまとめたら、他の学生は、どのような点がポイントと考えたのか、他の学生のポートフォリオもチェックすることなどを学生に実践してもらう。

各ゼミでも、講義系の科目同様、しっかり予習をして授業に参加してもらう。また、少人数教育の特性を活かし、論理的に考えた上で、自分の意見が言えるだけでなく、他者の意見も傾聴できるようなトレーニングを行う。さらに、生涯にわたって主体的に学び続ける習慣をつけてもらうために、毎回課題を出し、その提出を徹底する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(前期)	4	1	⑥⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	3	⑥⑫
教育実習Ａ	60/60(通年)	4	10	④
教育実習Ｂ	40/40(通年)	2	4	④
事前・事後指導	4/8(通年)	1	14	④⑦
TOEIC対策Ａ	15/15(前期)	2	33	①⑩
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	15	①④⑤⑥⑦⑪⑫
TOEIC対策Ｂ	15/15(後期)	2	34	①⑩
英語科教育法Ⅱ	15/15(前期)	2	5	①⑤
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	14	⑤⑦⑩⑪
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	6	①⑥
英語科教育法Ⅲ	15/15(前期)	2	3	①⑤
英語科教育法Ⅰ	15/15(後期)	2	2	①⑤
英語科教育法Ⅳ	15/15(後期)	2	4	①⑤
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	11	①⑥
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	5	①⑥
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	3	①⑥
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	14	①④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
グローバルコミュニケーション特講	15/15(前期)	2	3
グローバルコミュニケーション特講	15/15(前期)	2	2
事例研究（グローバルコミュニケーション）	15/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業に関しては、例年、私が最も力を入れている事項である。今年度も、熱意のある、わかりやすい授業を展開できるように努力をした。しかしながら、1年生に関しては、昨年度までの反省点を活かし授業内容を検討したのであるが、効果的な授業が展開できないこともあり、反省点が残った。

まず履修生の多くが1年生である講義型の授業について、前期の「TOEIC対策A」に関しては、授業終了時に、これまで同様にmanabaを使用して「授業の理解度」「授業外学修」「コメント」等を記載してもらうことを実施した。学生のコメントに関しても、次回の授業で導入時に話をしたり、プリントを作成し配布したりした。また、授業外学修の時間を増やすことを意図して、こちらも例年通り毎回２つの課題を与えた。１つは、manabaに、その日の授業のポイントや覚えたいと思った事項を箇条書きでまとめさせること、２つ目は、manabaで、その日の授業内容の小テストを受けるというものである。さらに、manabaで、授業後すぐにその日の「解答・解説」のプリントを見ることができるようにしておき、復習がすぐできるような工夫もした。しかしながら、授業アンケートのQ13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目については、昨年度が4.7で、今年度は4.4という結果となった。今年度も、プレイスメントテストの結果から英語力の低下が危惧される状況であったので、英語力の低い学生の対応に初めからかなり気をつかったが、学生からの満足度評価は昨年度と比較すると、0.3ポイント低下ということになってしまった。TOEICの試験は難しい上に、データ的にも学生の英語力の差がますます大きくなってきている。こちらが想定する以上に、もっと低いレベルの層に対する指導方法を検討していかないといけないと痛切に感じている。もちろん、常に英語が苦手な学生に対しても満足してもらえるような授業内容の工夫を考えているが、非常に厳しい状況だと思う。

後期の「TOEIC対策B」においても、前期同様に丁寧な熱意のある授業を心がけた。授業アンケートＱ７の「熱意の感じられる授業でしたか」については、4.7となり、Q13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.5でであった。例年のことではあるが、なかなか全員を満足させることは難しいと感じている。英語が苦手な学生にも満足できるような授業内容になるように常に工夫してはいるが、非常に難しい。今後とも、学生の英語力を最大限に伸ばすことができるような授業内容、参考資料の作成の仕方などを研究していくことで、さらに改善していきたい。

「専門演習」に関しては、少人数クラスということもあり、例年通り、双方向型の授業が適切に行えるよう意識した内容を取り入れ、学生に発表をさせる機会をできるだけ持たせるよう努力した。授業外学修時間を確保するための課題も毎回提出させ、英語力の向上にも努めるとともに、日々学修に取り組む習慣作りにも取り組んだ。しかしながら、授業を欠席しがちな学生が複数いて、なかなか改善させることができなかったことについては、大きな反省点である。

教職科目に関しては、将来の教育者の育成という重要な課題を認識し、例年通り、私個人の高校教諭時代の経験談を含めて、分かりやすい講義を心がけた。履修学生たちは、熱心に取り組んでくれたと考えている。

大学院の科目に関しては、今年度も厳しくも丁寧な指導を心がけて指導を行った。しかし、留学生の日本語のレベルが少し低い学生もいて、指導の際には苦労をした。今年度は、日本語力が低いだけでなく、英語力も低い学生も履修していたので、英語の文献の読み込みには苦労したが、パワーポイント等を効果的に使用し、理解の促進に努めた。レポート等に関しては、丁寧なフィードバックも意識して行い、今後の論文を書く際の手助けになるような指導を心がけた。

全体を通しての反省としては、これまで以上に学生の学力格差が目立つ状況となり、それに対応するため、様々な工夫をするものの、こちらの想定どおりには授業が進まない場合が増えてきた。また、やる気のない学生のやる気を出させるために、色々試してみるのだが、そう簡単にことは運ばない。この点は、ここ数年、ずっと試行錯誤している状況が続いている。学生にやる気を出させ、学修時間を延ばすことができるように、これからも適切な課題を出し、授業外でも机に向かわせるような仕組みを構築していく必要がある。時には授業内容から離れてでも、やる気がでるような話しを入れていくことも行っているのだが、効果のほどは、まだ不透明である。多様な学生が入学してくる中で、理想的な授業を提供することは至難の業であるが、今後とも様々な方策を実施し、ポートフォリオ等を活用して、教育力の向上に努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
TOEIC対策（オンデマンド型）	5	18	2024年10月1日～12月1日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・外国語としての英語教育
・教育学
・言語学
・翻訳研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務委員会委員として、適切な委員会運営に寄与した。
自己点検・評価委員会	委員	自己点検・評価報告書の作成に貢献した。
発明等審査委員会	委員	発明等審査委員会委員として、適切な委員会運営に寄与した。
教職課程委員会	委員	教職課程委員会委員として、適切な委員会運営に寄与した。
教育基盤センター運営委員会	委員	教育基盤センター運営委員会委員として、適切な委員会運営に寄与した。
産学連携・研究支援センター委員会	委員	産学連携・研究支援センター委員会委員として、適切な運営に寄与した。
グローバルツーリズムコース委員会	委員	学科のグローバルツーリズムコース委員会の委員として、適切なコース運営に寄与した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業 対策会議 ワーキンググループ（タイプ4）	メンバー	私立大学等改革総合支援事業 対策会議　ワーキンググループ（タイプ4）のメンバーとして、資料作成等に寄与した。

(3) 課外活動の指導等

①英語リーディング力を高めるためのプリント学習指導

②TOEIC対策講座　担当

③IP TOEIC 実施責任者

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・オープンキャンパスにおいて、英語教育、留学等の説明担当。

・「佐賀県高等学校教育研究会進路指導部会」の進路指導主事等研修会において、国際観光学科の学科説明担当。

・波佐見高校 大学見学会の学科説明、施設見学案内担当

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	出席

2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
本学教員の日常業務　＊アクティブアカデミーによる履修登録方法の内容を含む	4月2日	長崎国際大学	教育基盤センター運営委員会
ICTを活用した長崎国際大学教員の日常業務	4月10日	長崎国際大学	教務委員会
アクティブアカデミーによる成績入力方法	7月3日	長崎国際大学	教育基盤センター運営委員会、自己点検・評価委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会	会長	2019年11月～現在に至る	佐世保市
佐世保市教育委員会自己点検及び評価における外部評価委員	委員	2022年6月～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

第20回長崎国際大学国際観光学会研究発表会、第1部研究発表で座長を務める。（10月5日）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

国際観光学科　学科長として、学科マネジメントを担当。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、国際観光学科の学科長という要職を拝命し、本当に日々、格闘していたというのが率直な感想である。そのような多忙な中、教育の質を下げないために、なんとか業務を遂行してきた。また、今年度は、年度途中で離職する教員が複数いたために、その対応で、学科教員にかかるストレス負荷は相当大きなものであった。そのような困難な状況下でも、学科のマネジメントをどうにか遂行していく必要があり、私のストレスレベルはかなり高い状況であったが、周りの教職員のサポートのおかげで、なんとか学科長の業務を遂行できている状況である。学科運営をどうにか滞りなく運営できたことは、本当に私をサポートしてくださる教職員の方々の献身的な努力のおかげだと考えている。心から感謝したい。

教育面に関しては、例年通りのレベルの業務遂行はできたと考えている。その他の様々な業務についても概ね満足のいける内容であったと考える。ただし、研究面に関しては、多様な業務をこなす中で、あまり進めていくことができなかったことが反省点である。

今年度もあっという間に年度末を迎える多忙な一年であった。体調面でも、かなり無理がきかなくなってきている。体調を壊してしまうと、周りの方々に多大な迷惑をかけてしまうので、体調管理には、これまで以上に留意していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 落合　知子

1．教育理念

担当する科目は博物館学芸員資格の取得に関する科目が多いため、知識は勿論のこと、学芸員としての技能、礼節などについても教育の中に取り入れている。特に、博物館実習Bにおいては、歴史資料の取扱いを指導する中で、単に取扱い方法を修得するのではなく、その歴史的背景をも理解し、資料の構造、法律的側面、コンディションなどの把握により、ひとつひとつの資料に対する最良の保存方法を見極める力を養うことを目的として指導している。

また、学芸員は研究者でもあり、教育者でもあるため、コミュニケーション能力が必要とされる。学生一人一人の個性を最大限に引き出し、否定するのではなく褒める教育を心掛けている。博物館実習Bに関しては、これまでの教育理念で概ね成功している。

一方、資格の取得を目的とせずに卒業単位として履修する学生が多くの割合を占める講義に関しては、学芸員資格を目指す一部の学生のみならず、その他大勢に対しての教育となるため、実習で実践している教育理念は当てはまらない。しかし、資格取得を目的とする学生への教育の質を下げることなく、多くの学生に博物館に興味を持ってもらい、博物館に誘うような講義を心掛けている。

大学院教育においては、博物館学を核として学生が取り組む研究分野を最大限に引き出すような指導を心掛けている。また、業績を付けることが重要であることから、大学院生を取り込んだ本の出版を実践している。これまで本学に就任してから4冊の本を雄山閣から出版した。令和6年11月に『医学・歯学・薬学系博物館事典　増補改訂版』を出版した。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
博物館実習A	15/15(前期)	1	39	⑥⑦⑪
卒業研究	30/30(前期)	4	1	⑥⑪
博物館実習C	15/15(通年)	1	27	⑦⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	6	⑥⑫
博物館実習C	15/15(前期)	1	3	⑦⑪
博物館資料保存論	15/15(前期)	2	125	②⑨
博物館資料論	15/15(後期)	2	135	②⑨
博物館実習B	30/30(通年)	1	13	②⑪⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	7	①⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	7	①⑫
博物館実習B	30/30(通年)	1	12	②⑪⑫
博物館概論	15/15(後期)	2	107	②⑨
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	7	⑥⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	7	⑥⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	7	①⑥⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	8	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
博物館特講	15/15(後期)	2	5
博物館特講	15/15(後期)	2	6
事例研究（博物館）	15/15(前期)	2	4
事例研究（博物館）	15/15(前期)	2	1
特別研究	30/3(通年)	8	2
地域マネジメント論特別演習	5/5(前期)	2	2
特別研究指導Ⅰ	30/30(通年)	4	2

特別研究指導Ⅱ	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

博物館実習Bに関するアンケート評価は高い評価を得た。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

医学系博物館

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	0	1	1	1	20万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

『医歯薬学系博物館事典 増補改訂版』／共著・編著／2024年11月25日／雄山閣／全353頁

『鎌倉の人物事典』／共著・編著／2024年9月25日／雄山閣／共著p. 2, 28, 159

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

「人体展示の歴史と医学系博物館の現状と課題」／2024年5月25日／日本医史学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
未活動資料を通じた学生の資料調査・展示能力養成に関する研究	全国大学博物館学講座協議会西日本部会	2023年10月1日～2024年9月31日	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
カリキュラム委員会	委員	カリキュラム作成に寄与した。
観光マネジメント委員会	委員	観光学科の諸活動の企画を推進した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

長崎大学医学部付属熱帯医学ミュージアムの展示指導。

西海国立公園樹十九島水族館収蔵資料整備指導。

ハウステンボス美術館収蔵資料整備指導。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

テレビ佐世保で博物館学芸員課程の活動を2回情報発信した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
波佐見町歴史文化交流館評議委員会	委員	令和3年4月～現在に至る	波佐見町教育委員会
長崎市恐竜博物館運営協議会	委員	令和5年4月～現在に至る	長崎県教育委員会
アルカス佐世保評議委員会	委員	令和元年4月～現在に至る	佐世保市地域文化事業財団

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

地域の博物館施設（ハウステンボス美術館・海きらら）の収蔵庫資料調査を大学院生たちを中心に指導し、
成果として標本目録を刊行した。また、長崎大学熱帯医学ミュージアムと共催で特別展を開催し、大学院生の資質の向上を図ることができた。さらに、大学院生を編集に参加させて雄山閣から『医歯薬学系博物館事典』を出版し、医学界からも高く評価された。この後も学生の育成、研究に尽力する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 乙須　翼

1．教育理念

・授業に関して

私が授業をする上で最も重視しているのは、学生の批判的思考力の醸成である。つまり、授業を通して、学生の視野が受講前より広がり、物事を多角的・多面的に考え、また自分の言葉でその考えを表現できるようになればと願い、授業を展開するようにしている。

教育学というと、多くの学生は学校や教師の話を期待するが、学校という場所は社会の縮図とも言える場所であり、子ども達は、現代という時代や日本社会という社会が親や教師、学校に要求・期待している様々な機能や働きの対象として存在し、常にそれらの影響を受ける形で生活している。したがって、教育という現象を捉え、教育について考えるためには、現代とはどういう時代なのか、日本社会はどういう特徴を有しているのかなど、物事を多面的・多角的に考え、俯瞰で見る姿勢、また自身の価値観を相対化したり、客観視したりする力が必要となる。

上記の点を鑑み、授業をする際には、子どもや学校、教育や家族の問題が、どのようにその時代や社会と繋がっているのかを必ず学生に考えさせるように心掛けている。具体的に言えば、講義形式の授業で話をする際には、そのテーマの歴史（文化や宗教も含む）や社会（法や制度、政治など）との関連性を意識して話すよう心がけている。また、学生が授業で扱うテーマと自分自身の生活との関係性に気づき、自分の言葉で物事を深く、そして多角的・多面的に考えるくせがつくよう、必ず授業では「問い」を冒頭で設定し、その「問い」に関して学生がコメントやノートを作成するような流れで授業を構成している。そして、グループワークやディスカッション、スピーチといったアクティブ・ラーニング型の授業においては、「問い」に関連して、学生が自分自身の考えを言葉にして表現し、学生同士で意見交換をする中で、多様な考え方があることを知り、それらを互いに認めることができるような雰囲気づくりを心がけている。

大学という場所が、学生が社会人（市民）として生きていくために最後に学ぶ場所であると考えると、大学での一コマ一コマの授業が成人教育の重要な時間である。その点を常に考えながら授業を展開するようにしている。

・学生の指導全般に関して

学生と接する際に大事にしているのは、学ぶという目的において教員と学生は上下関係ではなく、フラットな関係であるという点を常に意識するということである。教員と学生はとかく上下の関係と捉えられがちであるが、そういった考えは、大学で教育にあたる大学教員としては非常に危険であり、また研究者としても自身の考えを狭めるものである。したがって、私自身は、学生のどんな些細な疑問や悩みに対しても、真摯に向き合うという姿勢を心がけ、むしろ、自分の発想にはなかった考えや、自分の年齢や立場になると思いつかない観点を与えてくれる存在として学生を位置づけ、接するようにしている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(前期)	4	2	⑥⑩⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	4	⑥⑩⑫
教育実習Ａ	2/60(通年)	4	10	⑪
教育実習Ｂ	2/30(通年)	2	4	⑪
事前・事後指導	2/8(通年)	1	14	⑥⑦⑫
教師論	15/15(前期)	2	35	②④⑤⑥⑦⑫
教育原理	15/15(後期)	2	38	①③⑪
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	8	②⑤⑥⑫
教職実践演習(中・高)	5/15(後期)	2	14	①⑤⑦⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	6	⑥⑩⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	6	⑥⑩⑫
キャリア開発Ⅰ	13/15(後期)	2	288	④⑨⑩⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	12	①⑤⑥⑦⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	11	①⑤⑥⑦⑫
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	6	⑥⑩⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	4	⑥⑩⑫

専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	7	⑥⑩⑫
教育学	15/15(前期)	2	50	②⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光教育特講	15/15(後期)	2	2
観光教育特講	15/15(後期)	2	4
事例研究（観光教育）	15/15(前期)	2	1
事例研究（観光教育）	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートは前期に教養セミナーと教師論、後期に教育原理で実施した。満足度は、4.5と4.7、4.6であり、例年よりも高い結果となった。特に教師論は受講数も66人と多い方であったが、満足度は過去最高であった。教職課程の授業に関しては、新しい試みを入れたり、授業方法を工夫したり、といったことよりも受講学生のモチベーションや基礎学力に影響されやすい。したがって、学生のモチベーションを上げつつ、基礎学力をつけさせていくことが課題である。

大学院の授業を今年度初めて担当したが、論文の講読などがメインの授業であったため、授業方法というよりも、講読した論文への大学院生の興味や関心が結果に反映したものと考えている。授業中の質問や討議に関して、特定の大学院生に発言が偏ってしまう傾向にあったため、その点については次年度少し工夫をしてみたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	教育学	15/15(前期)	2	31
長崎外国語大学	教育原理	15/15(集中)	2	17

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・欧米の子ども・教育・家族の歴史（18世紀後半から19世紀初頭のアメリカを中心に）

・教師教育（教員養成段階）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	1	1	7万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

18世紀末アメリカの学校教師の自己像 ― フィラデルフィアの学校教師ジョン・イーリーを通して ―／2025年3月／長崎国際大学論叢第25巻／13頁～28頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
教職課程履修学生の教職イメージと教職に対する意識の変容 に関する研究－教育実習前の学校・授業見学の経験を通してー	2024年度(令和6年度)国際観光学科学科共同研究費	2024年4月～2025年3月	7万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教職課程委員会	副委員長	教職課程運営の事務的な調整や確認、教育実習事前事後指導や教職実践演習などのオムニバス授業の調整や進行、学生への履修指導や注意勧告などを中心に、教職課程委員長を支援した。
教育基盤センター運営委員会	副委員長	会議での委員長の補佐を行うと共に、学修支援部門委員として学科の離学防止対策（学修支援）のとりまとめなどを行ったほか、教養セミナーWGメンバー、紀要編集委員長として業務を遂行した。
教務委員会	副委員長	会議での委員長の補佐を行うと共に、会議の事前打ち合わせでの教務課員との確認・調整、学部教授会での議題説明などを行った。また学科教員への教務事項の説明やオリエンテーションなどでの学科編入生への履修指導なども行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナーワーキング・グループ（教育基盤センター運営委員会内）	委員	シラバスの検討、教材の検討、学科教員に対するmanabaによる諸連絡等を行った。また、次年度のホスピタリティセミナーの立ち上げに向けて、シラバスの検討などを行った。
教育基盤センター紀要編集委員会（教育基盤センター運営委員会内）	編集委員長	編集委員と共に、『教育基盤センター紀要』の第8巻発行に向けて、原稿の確認、査読者の選定、査読、査読後論文の修正確認などを行った。
全学共通科目カリキュラム改革ワーキング・グループ（全学共通教育委員会内）	委員	国際観光学科選出の委員として、全学共通科目のカリキュラム改革案の提示、学科への説明・調整などを行った。
初年次教育委員会（国際観光学科内）	委員長	委員長として、前期は全学の教養セミナーWGとの調整を行い、後期は教材や授業展開の作成と発信、及び教員への連絡等を行い、教養セミナーBの授業運営を行った。
カリキュラム委員会（国際観光学科内）	委員	国際観光学科のカリキュラム改編に関して、全学共通科目のカリキュラム改革WG、教務委員、教職課程委員の立場から会議に参加した。
『観光学論集』編集委員会（長崎国際大学国際観光学会内）	委員	『観光学論集』の第20巻の発行に向けて、原稿の確認、査読者の選定、査読、査読後論文の修正確認、校正作業などを行った。
観光学専攻会議書記	書記	人間社会学研究科観光学専攻の書記として事前打ち合わせ、資料準備、議事録作成、専攻教員等への諸連絡などを行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席

2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
リレー企画第一弾「なりたい研究者像を描こう―研究者のワーク＆ライフ・バランスを考えてみよう！―」	2024年6月23日	オンライン・ウェビナー（話題提供者３名）	日本教育学会若手育成委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立早岐小学校 学校評議会	学校評議員	平成23年度～現在に至る	佐世保市教育委員会
佐世保市立早岐小学校 学校支援会議「早岐っ子会」	委員	平成29年度～現在に至る	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は新たな全学委員や学科内の委員、WGが増え、大学運営に関わる業務が大幅に増加した。また、それら大学運営の業務と共に、学生指導に関してもいくつか対応の難しい事案が生じたため、それらの事案への対応に苦慮した一年であった。これらの点は次年度も更なる業務の追加が予想されるため、他教員や他部署とも連携しつつ、進めていきたい。

授業に関しては、今年度は特に留学生への対応を行うため、授業準備に多大な時間を要した。また大学院の講義が新たに始まり、大学院生の教育にも携わることとなったため、授業負担も増えることとなった。ただし、大学院生の教育に携わることで、いくつか新たなテーマや分野の研究に接する時間が増えたことは、良い刺激となった。自身の研究に関しては、今年度、かつてから執筆途中となっていたものを論文としてまとめることができた。研究に関しては、次年度新たな論文を構想し、なんらかの形で発表したいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 城前　奈美

1．教育理念

学生自身の特性を活かし、その力を伸ばす。学生同士のつながり、社会とのつながりを密にさせ、コミュニケーション力を伸ばす。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	14	⑥⑫
旅行業務エキスパートＩB	8/15(通年)	2	4	①⑨
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	11	⑪⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	11	⑥
観光経済論	15/15(後期)	2	121	⑨
旅行業法・約款	15/15(前期)	2	67	①⑨
資産管理とライフプラン	15/15(後期)	2	15	②⑪
旅行業務エキスパートＩA	8/15(前期)	2	17	①⑨
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	12	⑪⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	14	⑥
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	14	⑥
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	14	⑥
地域観光研究A（ｱｼﾞｱ・ｵｾｱﾆｱ）	15/15(後期)	2	102	⑥⑨
観光学概論	15/15(前期)	2	251	②⑦
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	12	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光経済特講	15/15(後期)	2	3
観光経済特講	15/15(後期)	2	7
事例研究（観光経済）	15/15(前期)	2	3
特別研究	15/15(前期)	8	1
地域マネジメント論特別演習	5/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2024年度「観光経済論」の満足度評価は4.5、今年度から担当した1年次必修科目の「観光学概論」は4.5、「教養セミナー」は4.7であり、野村證券の寄付講座である「資産管理とライフプラン」は4.2であった。「観光学概論」は履修生270名ほどのうち、非漢字圏の留学生が1/3であったため、授業にペアワークを入れる等工夫した。ほとんどの科目の満足度評価は上昇していたが、「資産管理とライフプラン」だけは下落した。この要因として、アクティブラーニングとしてグループワークを多く取り入れたのであるが、複数の学部学科から履修生がいたため、このグループワークに馴染めなかったようである。次年度は工夫したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	観光法	15/15(前期)	2	168

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国内旅行業務取扱管理者試験対策の自習室（質問対応）	12	10	9/2, 9/2, 9/4, 9/5

３．研究活動

(1) 研究テーマ

台湾原住民族のエスニック・ツーリズム研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	・国際観光学科カリキュラムおよび担当者（編成） ・GPA3期連続1.0未満の学生への退学勧告の進行管理 ・3ポリシーの確認 ・学科オリエンテーションでの教務事項説明
国際観光学科事務局	副学科長	・離学防止対策としての出欠管理の情報共有 ・専門演習の選考手続きの運営（年間３回） ・卒業研究題目・卒業研究・ルーブリックの提出スケジュールの作成とチェック ・学科会議の議題管理と資料作成 ・学科事務局の打ち合わせ、学部長へのブリーフィング ・学科会議議事録のチェック
（国際観光学科内）カリキュラム委員会	委員長	・国際観光学科カリキュラムの改編作業
（国際観光学科内）観光マネジメントコース委員会	委員長	・ハウステンボスビジネスプランコンテストを企画、実施 ・学科オリエンテーションでのコース説明
国際観光学会編集委員会	編集委員	・出版社の相見積依頼 ・査読

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
HTB共創事業ワーキンググループ	委員	ハウステンボスとの連携強化のための月１回ミーティング

(3) 課外活動の指導等

準硬式野球部　顧問　公式試合の引率、練習試合の応援

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

九州文化学園高校１年生向け内部進学説明会／2025年3月10日／場所：九州文化学園高校

オープンキャンパスでの２回のブース運営／2024年8月4日「旅行業界を目指そう」・2025年3月16日「諸侯会社のお仕事～初級編～」／場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	欠席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
インバウンド観光と地域コンテンツ造成	2025年1月29日	長崎市：銀鍋	八戸商工会議所

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県押し魚委員会	委員	令和6～8年度	長崎県水産部
佐世保市景観審議会	委員	令和2～7年度	佐世保市都市整備部
長崎港における有識者検討会議	委員	令和6～7年度	日本観光振興協会
佐世保市過疎等地域振興持続支援事業審査委員会	委員	令和6～8年度	佐世保市地域未来共創部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

日本観光研究学会九州・韓国南部支部会　副支部長　第２回研究会の企画・運営「沖縄やんばる地域の自然資源の保全と観光活用」

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

日本観光研究学会主催 大学生論文発表大会にて、城前ゼミ３年「ピースツーリズムとその有用性」が優秀賞を受賞した。
ハウステンボスビジネスプランコンテストにて、城前ゼミ２年「『TをUに！HTBをHUBへ』～ハウステンボスを長崎・西九州の観光拠点へ～」が、最優秀賞を受賞した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

国際観光学科の副学科長２年目となる今年度は、学科長が井上先生から田中先生に移行し、田中学科長を支える1年であった。学科の業務は、学科生の離学防止対策や、ゼミ決定までの手続き、卒論運営管理など、多岐にわたる業務量であった。
教育活動では、49名の学科ゼミ生と3名の院生ゼミ生を担当し、14名の卒業生、1名の修了生を輩出した。
社会活動では、ハウステンボスとの連携強化の橋掛かりとして、ハウステンボスビジネスプランコンテストを企画・運営した。
また、日本観光研究学会では、沖縄やんばる地域での研究会開催を企画・運営した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 滝　知則

1．教育理念

１．教育理念

生命は一度きりであること。人間の尊厳を守ることの大切さ。この二つは、誰にでも共通して重要なことである。

本学の学生たちの中には、生命の不可逆性と人間の尊厳の大切さを、すでに明確に分かっている人たちも沢山いるはずである。この人たちには、本学での学修を通して、その理解をより深めたり広めたりしてほしいと思う。一方、直感的には分かっているという人たちもいる。この人たちには、その理解をことばで明示できるようになってほしいと思う。

今日の私たちが生きる場の特徴を、グローバル化の時代の地域社会という視点からとらえることができる。このような場の中で私たちは、お互いの尊厳を尊重するために何ができるのか。

その一つが、異文化を理解し、異文化を持つものどうしで一緒に働き、一緒に生きていけるようになることである。私たちは様々な異文化と出会う。相手の文化と自分の文化を比べると、確かに違いがある。しかし共通点もあるはずである。二つの文化の違いと共通点のどちらも、大切にすべきと考える。

文化の違いという言葉は、国民文化の違いという意味で使われることが、しばしばある。だが私たちは、これとは別の種類の文化の違いにも出会う。女性たちと男性たちの文化、障がいのある人たちと（今は）ない人たちの文化、地方（農村部）の社会と都市部の社会の文化などである。文化の違いと共通点の尊重は、国民文化以外の文化について考えるときにも、重要である。

これらのことを土台として、授業に臨んでいる。実施する授業方法は、講義に加えて、主に課題解決型の学修、学生同士の協働（グループワーク）や学外の地域社会の人たちとの交流である。

講義型と演習・実習型の授業で共通して取り組んでいるのは、地域社会（地元）で生きることの重視と、聞き手重視のコミュニケーションである。

都市部の地域社会と比べるとき、地方（農村部）の地域社会の人口や面積は小さい。盛り場も、消費できる商品やサービスも少ない。これは事実である。しかし、地方（農村部）の地域社会の文化を創造するための大変さ、創造されたすばらしさは、都市部の社会におけるものと共通するものがあると思う。

本学を卒業後に働き、暮らす場所が都会である人にも、地方（農村部）である人にも、地元に生きること、地元でがんばることに誇りを持つことができる人になってほしいと考えている。

コミュニケーションをとるとき、話し手には自分が伝えたいメッセージがある。ただし話し手の意向や都合のみに基づいて話しても、そのメッセージが聞き手に伝わりにくいことがある。話し手の伝えたいことが結果として伝わりやすくなるようにするため、少しでよいので、聞き手の立場を考慮して話すことが大切である。

実施する授業方法であるが、講義系の科目では、課題解決、グループワークや調査結果の報告（考えたことや感じたことの言語化）といった方法を用いる。可能な限り、地域社会への注目と聞き手重視のコミュニケーションの実施も行う。

演習・実習系の科目では、地域社会の人たちとのやりとりの機会を設ける。滝が担当する演習・実習系科目のフィールドは佐世保市（三川内町と黒島町）である。講義系科目と同様、課題解決、グループワークや調査結果の報告（考えたことや感じたことの言語化）を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ⅠA	15/15(前期)	1	35	②④⑥
地域連携活動ⅠB	15/15(後期)	1	30	②④⑥
地域連携活動ⅡA	15/15(前期)	1	1	②④⑥
卒業研究	15/15(通年)	4	9	⑥⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	11	④⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	11	④⑥
International Relations	15/15(前期)	2	16	①⑥⑨
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	10	④⑥
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論	15/15(前期)	2	85	①⑥
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	228	④⑤⑥⑦⑫
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	39	④⑤⑥⑦⑫
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	67	④⑤⑥⑦⑫

ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	89	④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	10	④⑥
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	10	④⑥
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	10	④⑥
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ビジネス文書	15/15(後期)	2	109	①⑨
国際関係論	15/15(前期)	2	120	①⑥⑨
政治学	15/15(後期)	2	33	①⑥⑨
国際交流研究	15/15(前期)	2	65	⑥⑨
比較文化論	15/15(後期)	2	143	⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
アカデミックライティング特講	15/15(後期)	2	7
国際関係特講	15/15(前期)	2	2
国際関係特講	15/15(前期)	2	5
事例研究（国際関係）	15/15(後期)	2	2
事例研究（国際関係）	15/15(後期)	2	1
地域観光政策特別演習	15/15(後期)	2	2
特別研究	15/15(後期)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期　国際関係論

Q13　R5実績3.9、R6実績4.4、差異0.5

昨年度と比べて、Q3からQ11まで評価に改善が見られた。ただし全体平均と同じレベルであり、更なる改善に取り組む。

予習確認問題を実施することが評価されている。予習することは授業内容の理解にプラスになると考える。予習確認問題の回答率が上がるよう、受講生が関心を持つ予習問題を工夫する。

講義では、自分が言いたいことを自分のペースで話してしまうような、自己満足の話し方を控えている。代わりに次のことを心掛けている。受講生に理解してもらいたいことを、理解しやすいように工夫して話す。文章をできるだけ短くする。話すスピードはゆっくりめにする。一方で、伝えるべき内容は薄めない。少なくともこれらのことを行い、授業内容をさらに改善させる。

後期　ビジネス文書

Q13　4.4

当科目については、今年度初めて授業アンケートを受けた。今回は2024年度の評価結果のみを記載する。2025年度に再度アンケートを受け、改善の有無とその状況を確認する。

アンケートのほぼすべての項目について、全体平均なみの結果であった。2025年度の授業では、受講する学生にとってさらに学修のしがいがある内容になるよう、引き続き励む。その結果として、評価のさらなる向上を目指す。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

a. 現代日本の国際関係と国際観光が相互に与える影響

b. 国際観光がホストとゲストの相互認識（ナショナリズム）に与える影響

c. 観光地の国際交流史の理解を活用した観光ガイド活動

d. 引揚の歴史との対比を通しての国際観光の特徴の把握
e. バリアフリー対応が佐世保市三川内町のやきもの観光にもたらす可能性の調査

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
初年次・共通教育部門の活動報告／2024年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要　第７巻／59／共著／活動報告
佐世保市立三川内小学校でのQSP異文化理解教室、佐世保市立広田小学校でのQSP異文化理解教室／2024年3月／QSP異文化理解教室活動報告書（令和5年度）／1-17／単著／活動報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員長	（１）キャリアセンターが提供する就職支援プログラムと各学科の就職支援活動の協働に向けた調整を行っている。 （２）進路決定届の提出率向上を、各学科に依頼した。
自己点検・評価委員会	委員	（１）授業公開の企画・実施・アンケートの集計・意見交換会の実施・アンケート集計結果の委員会への報告。 （２）授業アンケート結果に関する学部長面談の準備・面談結果の委員会への報告。 （３）2022-23 自己点検評価報告書ドラフトの点検。 （４）卒業生アンケートの提出率向上のため、大学評価・IR室の支援を得て、リマインダーの送付を複数回行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	初年次教育部門を担当し、「ホスピタリティとSDGs」の実施と、入学前教育の準備・実施を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等
サイレンブルーサークル顧問
ローターアクトサークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）
なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外

2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

前期の地域連携活動ＩA（佐世保市黒島）と、後期の地域連携活動ＩB（佐世保市三川内本町）の授業では、それぞれの地域の歴史と観光対象の特徴を調べたが、授業での活動の一部として、環境整備活動も行った。

一緒に活動を行うことを通じて、地元住民の方たちのお話を伺ったり、学生たちから住民の方たちにお話しすることが主たるねらいである。これと同時に、それぞれの地元社会への貢献を一定の程度行うことができたと考える。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
QSP異文化理解教室	小学６年生１クラスと留学生3名（中国とスリランカ）の文化交流	R5年6月、11月	佐世保市立三川内小学校
QSP異文化理解教室	小学６年生4クラスと留学生4名（スリランカ、中国とベトナム）の文化交流	R5年7月、10月	佐世保市立広田小学校
QSP異文化理解教室	高校２年生１クラスと留学生5名(ミャンマーとスリランカ)の文化交流	R5年7月	長崎県立猶興館高等学校
QSP異文化理解教室	高校１年生４クラスと留学生3名（スリランカと中国）の文化交流	R5年12月	九州文化学園高等学校

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動では、授業内容のさらなる向上、内容をより分かりやすくための説明の工夫を行う。2024年には、国際関係や環境問題における新たな諸課題が明らかになっている。この背景を踏まえて、授業内容のアップデートを行う。学生たちが落ちついて、かつ安心して授業を受けられる環境の整備に引き続き取り組む。

研究活動では、世界遺産の島としての黒島の景観整備、三川内地区の魅力の向上に、引き続き取り組む。本学の学生がこれらのフィールドでの環境整備に取り組むことは、まず社会貢献活動になる。

環境整備の活動中、ならびにその前後に地元住民の方たちと話す機会がある。このような場の中で話すことは、社会人としてのコミュニケーションのスキル向上に通じる。

さらに学生たちは、地元住民の方たちがそれぞれの地元での生活のプロであることを知り、地元に誇りを持っていることも知る。これらに触れることは、学生たちが在学中ならびに卒業後に生きていくうえでの大切な示唆になると考える。

大学運営活動に関しては、昨年度と同様のことに引き続き励む。具体的には、担当業務の実施にあたり、伝えるべき情報を関係者により分かりやすくすること、作業の依頼にあたってはより実施しやすくすること、連絡をするときには聞き手に伝わりやすいタイミングをとらえること、などである。ただし今回と同じことを機械的に繰り返すのではなく、さらなるアップグレードを行う。

日本で暮らす外国出身の人たちの人数が、2024年度は過去最大になっている。このような背景において、QSP異文化理解教室（イブケン）への取組みの重要性がますます高まると考える。長崎短期大学 ならびに西九州大学短期大学部との協働を、引き続き行う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 松山　博明

1．教育理念

近年、学生の多くは様々な局面の中で自ら自分で考え、行動に移すことができない学生が散見している。これは、大学という最終教育機関で考えると大学教育全体の課題だと捉えている。したがって、学生の人材の育成で最も大切な一つとして、学生自ら自分で考え、行動に移すことができる高い自己管理能力が必要である。また社会で羽ばたいていくためには、社会適応能力を併せ持ち、優れた特質を社会に活かすことのできる人材の育成を目指していく必要がある。したがって、これからの世代の学生にとっては、、世界に目を向けて学ぶグローバルな姿勢を重視し、社会適応能力を併せ持ち、優れた特質を社会に活かすことのできる人材を育成していきたいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スポーツ実習Ｄ（スキースノーボード実習）	15/15(後期)	1	3	①②④⑧⑫
スノースポーツ	15/15(後期)	1	2	①②④⑧⑫
教育実習Ａ	15/60(通年)	4	10	①②④⑤⑥⑦⑧⑫
教育実習Ｂ	15/30(通年)	2	4	①②④⑤⑥⑦⑧⑫
事前・事後指導	15/8(通年)	1	14	①②④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
球技Ｃ	15/15(後期)	1	5	②④⑫
スポーツ心理学	15/15(後期)	2	42	①②④⑥⑦⑨⑩
スポーツ科学概論	5/15(後期)	2	131	②④⑩
保健体育科教育法Ⅲ	15/15(後期)	2	20	①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	①②④⑤⑥⑦⑧
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	①②④⑤⑥⑦⑧
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	12	①②④⑤⑥⑦⑧
保健体育科教育法Ⅰ	5/15(後期)	2	26	①②④⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートに関しては、ある一定の評価があり、継続して実施していきたいと思う。授業効果に関しては、アクティブラーニングである、ディスカッション、ディベートなどを積極的に取り入れたため、学生たちのモチベーションを維持することができたと思う。また、授業の改善に関しては、授業に真摯に向き合わない、積極的に取り組まない学生に対して、しっかり指摘し態度を改めさせ、授業の質の担保を保っていきたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
京都先端科学大学	コーチ・スカウト担当	0/0(不定期)	0	0
慶應義塾大学体育研究所	兼任所員	0/0(不定期)	0	0

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
学習支援活動	0	10	2024年10月～2025年3月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマは、サッカーにおけるコーチング環境に着目して、コーチングやスポーツ心理学の分野からアプローチしていきたいと思う。具体的には、日本サッカーのみならずアジア、ヨーロッパなどを中心に育成年代のプレーヤーのフィジカル、テクニカル、メンタルなどのプレーヤーポテンシャルを調査する。また、コーチングによって、どのよう変化をもたらすのかも含めて指導者にも着目していきたい。したがって、今後は調査や研究を積み重ねて日本サッカーの発展に寄与したいと考えている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

サッカー選手・指導者のためのメンタルガイド／共著・編著／2024年1月／北大路書房／251

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

小学生男子野球選手のベースランニングタイムと体力テストとの関連／2024年3月／追手門学院大学スポーツ研究センター紀要／1-7頁／共著／紀要論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

指導する言葉／2024年2月／スポーツ言語学会2023年度総会・学会大会（学会設立10周年記念大会）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
スポーツサポートセンター	センター長	議事進行等、センター長として司会進行、センターを取りまとめる
学生委員会	委員	国際観光学科の委員として出席する
ハラスメント委員会	委員	国際観光学科の委員として出席する

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

強化指定部の体育会サッカー部顧問として、試合やトレーニングの視察活動を行い、指導者スタッフや選手に対して、アドバイスを行った。また、スポーツサポートセンター長として、体育会の視察を行い、各体育会の現状把握を行ってきた。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

2024年9月から着任した以降、2026年度体育会サッカー部の学生募集に関して、九州地区を中心に10校に対して大学の紹介と挨拶を行った。またテレビやラジオ番組の出演の際、大学名を公表して広報活動に尽力している。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/9/3	193	-	利益相反マネジメント研修	欠席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席

2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
31	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
京セララジオスポーツスペシャル	2024年4月7日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2024年5月11日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2024年5月19日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2024年6月1日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2024年7月14日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2024年9月22日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2024年10月06日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2024年10月19日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2024年12月08日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2025年2月22日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
京セララジオスポーツスペシャル	2025年3月27日	京都サンガスタジアム	KBS京都ラジオ
KBS京都のエキサイティングＪ	2024年8月7日	KBS京都スタジオ	KBS京都TV
エキサイティングＪ開幕ＳＰ	2025年2月14日	京都サンガスタジアム	KBS京都TV
明治安田J3 第2節(奈良vs長野)	2024年3月3日	ロートフィールド奈良	Jリーグ
明治安田J3 第6節(岐阜vs岩手)	2024年3月24日	岐阜メモリアルセンター長良川競技場	Jリーグ
明治安田J3 第8節(鳥取vs福島)	2024年4月6日	オールガイナーレYAJINスタジアム	Jリーグ
明治安田J2 第13節(徳島vs愛媛)	2024年5月3日	鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム	Jリーグ
明治安田J3 第2節(松本vs北九州)	2024年5月18日	サンプロ　アルウィン	Jリーグ
明治安田J2 第18節(山口vs清水)	2024年6月2日	維新みらいふスタジアム	Jリーグ
明治安田J3 第20節(FC大阪vs富山)	2024年7月6日	東大阪市花園ラグビー場	Jリーグ
明治安田J2 第26節(清水vs群馬)	2024年8月10日	ＩＡＩスタジアム日本平	Jリーグ
明治安田J2 第30節(愛媛vs横浜FC)	2024年9月7日	ニンジニアスタジアム	Jリーグ
明治安田J3 第32節(奈良vsFC大阪)	2024年10月13日	ロートフィールド奈良	Jリーグ
SHIN-YOUの会	2024年4月16日	京都ブライトンホテル	SHIN-YOUの会
モチベーションを高めるスポーツ・ペアレンティング	2024年6月4日	山城総合運動公園 太陽ヶ丘	京都府サッカー協会
モチベーションを高めるスポーツ・ペアレンティング	2024年6月11日	下鳥羽公園球技場	京都府サッカー協会
スポーツにおける心と体	2024年6月15日	八幡市スポーツ公園	京都府サッカー協会
スポーツと心理について	2024年7月16日	京丹後市アグリセンター大宮	京都府サッカー協会
モチベーションを高めるスポーツ・ペアレンティング	2024年7月19日	下鳥羽公園球技場	京都府サッカー協会
長崎県トレセンダイレクター研修会	2025年2月10日	オンライン	長崎県サッカー協会
長崎国際大学開催公開講座	2024年12月14日	長崎国際大学	長崎国際大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
Jリーグマッチコミッショナー	役員	2024年～2025年	Jリーグ
京都府サッカー協会	特任理事(ユースダイレクター)	2024年～2025年	京都府サッカー協会

九州地区大学体育協議会	委員	2025年～2026年	九州地区大学体育協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

10月19日、JFAキッズフェスティバル(京都)に特任理事役員として参加し、サッカー普及活動を展開した。
12月14日、スポーツフェスタに参加して、マイナースポーツの普及に努めた。
12月8日～22日、スポーツ庁「令和6年度感動する大学スポーツ総合支援事業：②大学生指導員の養成・確保に関する実証事業、③大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」の一環として、長崎国際大学開催公開講座に実行委員、登壇者として参加した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

2024年9月から着任した以降、教育面では、大学内の学生をしっかり観察し、ニーズやレベルに合った講義や教育内容を展開した。また、学内学生に多欠席や低単位学生のボトムアップ指導に力を入れた。ゼミ指導学生の状況は、教養セミナー10名、専門演習Ⅰ11名、専門演習Ⅱ12名の合計33名の学生を対応し、普段からの学生と向き合い、個別対応をしっかり行った。休学、退学などの学生に対しては相談を積極的に行い、一緒に改善方法を見出した。
全学委員会活動は、スポーツサポートセンター長として、各体育会の部長、監督やコーチ、学生との交流を図った。日々のトレーニングや試合の視察から、クラブの現状を把握し学生の教育と指導者の教育を行った。体育会学生や指導者によるチームの課題や選手の悩み(試合やトレーニング、指導方法、学生対応など多岐にわたる)に対して、対応策を考え方向性を見出した。
さらに、スポーツフェスタ、スポーツマネージメントセミナー、NIUスポーツアワードを参加した。学習支援プログラム9回参加して学業面での低い学生指導や補講を積極的に行い、学生アスリートを支援した。社会貢献事業の実施は、現在、所属しているマッチコミッショナー業務(Jリーグ、天皇杯、皇后杯、WEリーグ)2回や京都府サッカー協会主管FAチューター2回、京都府サッカー協会特任理事、ユースダイレクター20回参加して強化・育成面でのアドバイス、視察などの任務を遂行した。広報活動への貢献は、KBS京都テレビ解説、ラジオ解説など5回実施して大学のブランド力、知名度を上げた。
今後は、教育面では、大学内の学生と普段からの学生と向き合い、個別対応をしっかり行っていきたい。全学委員会活動は、スポーツサポートセンター長として、各体育会の部長、監督やコーチ、学生との交流を図り、よりよい環境を作り出すために方向性を見出したい。さらに、学内外のイベントを企画して積極的に参加したい。学業面での低い学生指導や補講を積極的に行い、学生アスリートを支援していく。社会貢献事業の実施は、引き続きマッチコミッショナー業務やFAチュータ、京都府サッカー協会特任理事、ユースダイレクターなどの任務を遂行していく。広報活動への貢献は、テレビやラジオ解説など実施して大学のブランド力、知名度を上げていく。

７．受賞等

2024年京都府右京警察署感謝状(警察官採用試験の勧奨活動)

８．活動全般についての自己点検・評価

2024年9月から大学に着任して、僅か6か月が経過しようとしている。着任時から、スポーツサポートセンター長を拝命し、大学スポーツに尽力してきた。その中で、体育会スポーツの実態を把握するため、トレーニングや試合の現場に足を運び、実情を把握することができた。今後は、体育会スポーツの発展に具体的な発案を行い、実行していきたい。また、大学として以前からスポーツ庁「令和6年度感動する大学スポーツ総合支援事業の一環として進めてきた事業に関しては、今後の事業拡大に向け積み上げとして発展していきたい。学科としては、学生委員、ハラスメント委員などの役割を担ってきた。学生課では、九州地区大学体育協議会の委員として大学を代表して参加し、大学スポーツの発展に寄与したい。体育会サッカー部の顧問として、試合やトレーニングの視察活動を行い、指導者スタッフや選手に対して、アドバイスを行った。今後も、継続して実施していく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 山内　美穂

1．教育理念

自ら考え主体的に行動できる人を育てることが私の教育理念である。

現代社会では以前に比べ情報が簡単に収集できるようになっているが、その実、現代の社会の在り様はますます複雑になっている。インターネットなどから簡単に得られる情報をうのみにしたり、それらから振り回されるのではなく、自ら深く考え、判断し、行動できる人を育成したい。そのために授業や学生の指導では、私が一方的に話すのではなく、できるだけ対話形式で、学生自身で深く思索したり、何かを発見したりしながら問題解決を図るように仕向けたいと考えている。

また、これからの社会で特に必要とされている「多様性への理解力」をはぐくむことにも重きをおいている。本学のように、さまざまな文化背景の人々がともに学ぶ環境で、自身とは違う部分を認め、色々な視点から物事を見られるような教育をしたい。そのために、自らも多様性理解力を高める努力を続けながら、学生には色々な年齢や文化背景の人々と交流できるようなチャンスを創出していくことに注力している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	10	①②⑥⑫
日本語表現法	15/15(前期)	2	87	⑧⑨⑩
日本文化論	15/15(後期)	2	75	①②④⑤
日本事情Ⅰ	15/15(後期)	2	58	①②③⑤⑥
日本語Ⅰ	30/30(前期)	2	6	②③⑧⑨
日本語Ⅰ	30/30(後期)	2	21	②③⑧⑨
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	10	①②⑥⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	10	①②⑥⑫
日本事情Ⅱ	15/15(前期)	2	20	①②③⑤⑥
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	17	①④⑤⑥
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	10	①④⑤⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光言語特講	15/15(前期)	2	2
事例研究（観光言語）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

各科目では教員の話をきくだけではなく、資料の空欄になった部分に重要語句を書き入れさせたり、クイズを取り入れたり、発表やグループ活動を実施することで学生の積極性が増し、授業アンケートの満足度ではおおむね高い評価を得られた。しかし、今後は授業前に必ず調べてこなければいけないタスクや語彙の予習課題を引き続き配布資料やmanabaを用いてできるようにするとともに、その確認も授業の中に取り入れ、予習・復習を促す工夫をする必要があると考えている。また、留学生対象の授業では、学生それぞれの日本語レベルにかなりの開きがあり、レベル照準を合わせるのかが難しいが、配布資料やPPTの改善および受講者1人1人をよく見ての授業展開やクラス・ゼミ運営を引き続きやっていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

日本語教育文法

多文化間共修

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	455万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

焼き物のテーマパークを目指せ ―波佐見での取組を一事例としたクラフトツーリズムの発展性と課題―／2025年3月31日／観光学論集第20号／27頁～34頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

日本のものづくり地域での体験から留学生が得た学び／2024年8月24日／留学生教育学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
ものづくり地域の住民と留学生との国際共修によってそれぞれが得られる学びの探究	科研費	2024-04-01 - 2027-03-31	455万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員長	国際交流活動 留学生支援
CHサポートセンター運営委員会	委員	配慮申請審査に向けた学生面談 ピアサポート活動への支援
国際観光学科カリキュラム委員会	委員	日本語科目カリキュラムの改善
国際観光学会・観光論集編集委員会	委員	観光論集の編集作業

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ダンスサークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

夏休みと春休みに九州のものづくり地域に留学生を引率し、地域のものづくり産業の体験をさせた。その体験に基づき参加留学生に母語でブログを書いてもらいWEBで発信した。ものづくり地域の産業従事者や地域住民にとっては、地域のものづくりに興味をもってもらったり、地域を訪れる人が増えるなどのメリットがあった。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

職位が教授となり、国際交流委員長を拝命するなど、教育活動だけでなく大学運営や地域にも貢献できるように可能な限り努めた。研究活動では留学生とものづくり地域社会の学びについて科研費を獲得し、初年度の研究を順調に進めている。また、自身の国際共修の研究も進めて学会発表した。日本語担当の先生方と協力して留学生の日本語向上のための実践もさらに進めた。日本語力が十分でない多くの留学生が入学しており、外部教育機関や非常勤講師の協力も得ながら日本語教育を推し進めている。今後、自身が関われるところでは極力業務の効率化を進めたい。一部のゼミ生の学習不振などの課題も抱えているため、ゼミ生や院生などを中心に学生対応はできるだけ温かく細やかに指導していきたいと思っている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 特任教授(甲)　　氏名 池永　正人

1．教育理念

地域における事象が、当該地域の自然環境や社会環境を反映していることから、地理学を専門とする筆者の学部および大学院の授業では、自身の調査研究や見聞・体験をもとにした内容の解説に努めている。この実証的な授業を教育理念としている。

講義型の授業は、授業内容の理解度を高める有効な手段として、自身が現地調査で撮影した写真・動画を投影して解説する。また、演習型の授業では、フィールドワークを実施して地域調査の手法、レポート作成やプレゼンテーションの技法を教授することにより観察力・考察力を身に付けさせる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ＩＢ	15/15(後期)	1	15	④⑦
地理学	15/15(前期)	2	201	②
観光政策論	15/15(後期)	2	149	②
観光地理学	15/15(前期)	2	133	②
社会科地理歴史科教育法	15/15(後期)	2	6	④⑦
地理歴史科教育法	15/15(前期)	2	4	④⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光地理特講	15/15(前期)	2	10
事例研究（観光地理）	15/15(後期)	2	1
特別研究	60/60(通年)	8	2
特別研究	60/60(前期)	8	1
地域マネジメント研究方法	15/15(後期)	2	2
観光資源特別演習	15/15(前期)	2	2
特別研究指導Ⅱ	15/15(前期)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【学部授業】

講義科目の授業アンケート評価は、地理学（前期・履修者251名、過去最高）4.5、観光地理学（前期188名）4.4、観光政策論（後期180名、過去最高）4.5であり、いずれも高かった。

上記3科目の成績評価については、昨年度同様に授業中に実施した2回の小テストの成績と、毎回宿題として与えた確認問題の解答得点を全体の6割の評価とした。また、最終回の総合テストは4割の評価を行い、専門知識を確実に習得させるように努めた。成績は全体的に良好であって、不合格者は少なかった。

授業アンケートの自由記述からは、授業に誠実に参加している学生が多くいることがわかり、貴重な感想や意見を謙虚に受け止めて授業改善に取り組むことにする。

今年度初めて開講した「地域連携活動ＩＢ」（後期15名）は、平戸市の松浦史料博物館で10月に開催された鎮信流宗家主催の「大心茶会」に参加して、ご宗家から茶道の指南を受けるとともに、平戸支部・佐世保支部の先輩茶人と共同して茶席を運営した。茶会の運営は学生の社会人基礎力を培うとともに、日本の伝統文化茶道の継承と平戸の観光まちづくりに寄与する機会であったと確信している。

教職課程の地理歴史科教育法（前期4名）は、学習指導案の作成と模擬授業の個別指導による教育実習の準備を行った。また、社会科地理歴史科教育法（後期6名）に関しては、高等学校の地理・歴史教育の内容と歴史的変遷、新課程の「地理総合」、「歴史総合」の科目内容について教授した。

【大学院授業】

講義科目は、観光学専攻修士課程の観光地理特講（前期10名）、事例研究（観光地理）（後期1名）、地域マネジメント博士後期課程の観光資源特別演習（前期2名）、地域マネジメント研究方法（後期2名）は、毎回予習・復習の課題を与えて専門用語の

説明記述レポートを提出させた。また、各自の修士論文および博士論文に資することを念頭にして、統計数値の表・グラフ表現および研究対象施設の地図表現の技法を指導した。

研究指導については、修業年限内（修士課程2年、博士後期課程3年）の学位論文提出を前提とした指導学生4名の修士論文および博士論文（地域マネジメント専攻）の作成は、盆休みと正月休み以外は毎週定期的に指導を行った。

以上、昨年度同様の教育・研究指導であり、授業アンケート評価に関しても問題点は指摘されておらず良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

【研究テーマ】

① スイスアルプスの温泉療養地形成に関する研究

② 日本の国立公園における観光資源の研究

【研究内容】

スイスアルプスの温泉地形成に関する研究については、これまで現地で収集した原書や聞き取り・観察調査結果の分析を行い、全国規模の学会誌「温泉地域研究」に論文を投稿して掲載された。

国内では、大分県九重連山、北海道の知床半島、釧路湿原、登別などの国立公園および温泉地の観光資源調査を実施して、その成果は学部・大学院の授業の教材として活用した。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

道後温泉湯めぐり／2024年9月／温泉地域研究　第43号／48頁～49頁／単著／温泉地情報

スイスアルプス・ロイカーバートの温泉地形成と初期温泉療養客／2025年3月／温泉地域研究　第44号／13頁～20頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員（国際交流・留学生支援センター長）	海外大学との教育・研究交流協定の締結、留学生募集、留学生の学修・生活支援等

グローバル推進協議会	委員（国際交流・留学生支援センター長）	教員の海外渡航目的、外国人留学生の入国等の把握 長崎国際大学「国際化ビジョン」の策定・進捗状況把握

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 上海大学社会学院短期研修・学外授業「雲仙温泉・小浜温泉」2024.8.2
② 佐世保南高等学校出張講義、講義名「長崎県の観光事情」2024.10.17
③ 上海中僑職業技術大学研修、講義名「長崎県の観光地域特性」2024.11.26
④ バートン・アンド・ダービシャス（イギリス）研修・学外授業「雲仙・島原」2025.2.21

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

① 日本風景街道 ながさきサンセットロード清掃活動、2024.11.16

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院短期研修	長崎国際大学の授業・福祉施設見学等	2024年7月29日～8月.2日	上海大学社会学院
上海中僑職業技術大学研修	長崎国際大学の授業等	2024年11月26日	上海中僑職業技術大学
バートン・アンド・ダービシャス大学（イギリス）研修	九州文化学園の教育機関の授業・ハウステンボス実習等	2025年2月17日～28日	バートン・アンド・ダービシャス大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

定年退職後の今年度は、「特任教授（甲）」（常勤）として在籍した。国際交流・留学生支援センター長の役職は継続したものの、学部・大学院のすべての役職から開放されて、講義・研究指導に専念でき、そのため教材研究や個人の研究活動に多くの時間を費やせた。

個人の研究活動の成果に関しては、全国規模の学術誌である『温泉地域研究』に2編の拙稿が掲載された。研究成果の内容は、学部・大学院の授業で活かすことにしている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 特任教授(甲)　　氏名 嶋内　麻佐子

1．教育理念

私は現在、長崎国際大学茶道文化研究所所長として、全学共通科目である「茶道文化」の講義と実技を担当している。

全学共通科目である「茶道文化」は、本学が立地している長崎県にゆかりの深い平戸発祥の武家茶である鎮信流茶道を取り入れ、茶道を通した人間教育に力を入れている。そのため、私の教育理念は、相手をもてなす心（ホスピタリティ）を持ち、日常生活に必要な礼儀作法や高いコミュニケーション力を有した学生を育成することである。したがって、「茶道文化」の授業では、配当年次毎にカリキュラムを編成し、学生の発達段階に即した授業内容を展開するよう努め、ホスピタリティの獲得を重視している。「茶道文化ⅠA・ⅠB」は、平成29年度から初年次教育の1科目となり、茶道の基本となる礼法や薄茶点前の習得を目標としている。また、「茶道文化ⅡA・ⅡB」についても、濃茶点前の習得を通して茶道の基礎を学ぶ内容となっている。「茶道文化ⅢA・ⅢB」では、不時点前や雪吹点前や逆勝手点前の習得と併せて、地域の方々をお客様として「観月茶会」を実施し、大寄せの茶会の実践を行う。「茶道文化ⅣA・ⅣB」は、
波佐見町歴史文化交流会館において「波佐見茶会」、学内では、「卒業の茶事」と2回の茶会を通して、学内外よりお客様をお呼びし、もてなしの実践をする。4年間の集大成となる茶事は、茶道の精神性を理解し、亭主と客が相互に協力することで成功するものであり、相互理解の関係性というものは一般の社会においても重要である。さらに「茶道文化ⅡとⅢでは、「ミニ茶会」と茶事を簡略化した茶会を授業時間内に実施。

以上のような授業内容を通して、学生には相手を思う気持ちを養うと同時に、それを行動に移すことができる主体性や実践力を学んで欲しいと考えており、そのために、授業では一貫して少人数教育を徹底し、学生が主体的に発言し、行動するという授業方法を行っている。また、補助員制度を有効に活用し、上級年次生が下級年次生に学んだことを伝える仕組みをつくり、自己修養のための活動も積極的に実施している。また、平成31年度に開校した九州文化学園小・中学校の茶道教育も担っており、そこで得た知見を「茶道文化」に反映し､教育活動に活かしている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ⅠB	15/15(後期)	1	15	④⑦
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	50	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	44	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	105	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	111	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	10	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	10	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	35	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	35	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	8	②④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅢB	15/15(後期)	1	5	②③④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	8	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	5	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	26	②④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡB	15/15(後期)	1	15	②③⑥⑦⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅢB	15/15(後期)	1	3	②③④⑥⑨⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

茶道文化Ⅰでは、満足度は4.8、4.7、と全体平均より0.1ポイント高い。茶道文化1は必修のため観光学科のように人数が100人を超えるクラスについては、茶室２か所と一般教室１か所にて授業を行っている。教室については、座る、立つ、道具を運ぶ練習はできないが、道具を使っての部分練習並びに、動画を使っての割稽古を中心に行った。後半の点前の流れについては、３会場をローテーションしながらの練習を行った。後期も同様のスタイルで授業を実施し、点前確認（実技試験）に臨んだ。特に少人数クラス（平均50人程度）の学生は質問がしやすいとか、丁寧な指導が受けられることに満足している。留学生は、言葉の壁や日本文化に不慣れなこともあり、点前を習得することは困難であったが、担当の指導をよく聞いて熱心に取り組んでいる様子が見受けられ、良好であった。前期と後期を比較すると前期は初めてのことばかりで、所作を覚えることに終始一貫するなど、指導者も学生もゆとりがなく、課題を必死にやり抜くことが多かった。後期になると、ゆとりが生まれ指導者と学生間の交流もでき、実技試験まえの個別指導にも熱が入り、茶道に対する意識の芽生えが見られた。茶道の歴史や禅語の紹介、茶花などに関心を寄せる学生も多くみられた。茶道文化Ⅱでは、満足度は、5,0で全体平均より0,2ポイント高い。Ⅱからは、自由選択となり人数的にも学びやすい環境となった。履修時間帯も他学科との混合履修もあり、学生間の交流も生まれコミュニケーション能力を高める良い機会となっている。また、少人数教育が徹底されており、学生間並びに指導者にも質問しやすい環境が整っており、点前習得につながっている。また今年度は、各種茶会（開国祭の茶会、錦秋茶会大学の茶会）のサポートをフィルドワークの一環として取り入れた。水屋としての裏方のサポートを通して、茶会の運営を学ぶ良い機会となった。100名近いお客様に対して、おいしいお茶の出し方等実践できたことで満足度の向上に繋がったと考える。さらにⅡを習得することで希望者には、鎮信流初歩伝免許を申請できるのも学生にとっては付加価値となっている。茶道文化Ⅲでは、満足度は5,0で全体より0,3ポイント高い。今年度は、５年ぶりに錦秋茶会（観月茶会）を開催することを目標として設定した。地域の方々を迎えて、学生が主催者になり茶会を開催できたことは、学生にとっての大きな達成感につながった。さらに、自分自身の役割を考えながらの行動は、自分のおかれた状況を把握するうえでも、大きな成長につながったと考える。茶会以外にも、色々な点前の種類、たとえば中風炉点前、雪吹点前の習得を目指し、様々な点前に挑戦できる楽しみは、学生の満足度の向上に付与したと考える。茶道文化Ⅳでは、満足度は4,6（全体平均より０，１ポイント低い）と5,0（全体平均より０，３ポイント高い）でクラスにより異なっている。本クラスは、前期に学外にて波佐見茶会を経験し、後期には４年間の集大成として懐石料理を含めた形の卒業茶会を開催することができた。学外、学内共に一般の客を呼んでのもてなしの実践は、それぞれの責任ある役割を遂行することができ、満足度の向上に繋がったと考える。同時に仲間とのチームワークづくりの大切さを学ぶ良い機会となった。４年間茶道を続けたことで、より茶道に向き合える自分に出会えたことに感動した学生の様子も見受けられた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	茶道文化Ⅱ	15/1(後期)	1	200
長崎短期大学	茶道文化Ⅲ	15/1(前期)	1	158
九州文化学園歯科衛生士学院	茶道文化Ⅰ	15/2(後期)	1	29
九州文化学園調理師専修学校	カップリング＆シュガー	15/2(後期)	1	11
九州文化学園中学校１年	日本文化教育	30/20(通年)	1	17
九州文化学園中学校２年	日本文化教育	30/20(通年)	1	18
九州文化学園中学校３年	日本文化教育	30/20(通年)	1	14
九州文化学園小学校１年	日本文化教育	30/26(通年)	1	32
九州文化学園小学校２年	日本文化教育	30/26(通年)	1	22
九州文化学園小学校３年	日本文化教育	30/26(通年)	1	37
九州文化学園小学校４年	日本文化教育	30/26(通年)	1	25
九州文化学園小学校５年	日本文化教育	30/26(通年)	1	25
九州文化学園小学校６年	日本文化教育	30/25(通年)	1	24

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
補助員研修会（春季研修）	16	22	2024年3月6日、3月8日、3月9日、3月13日、3月14日3月15日
補助員研修会（夏季研修）	16	22	2024年9月10日、9月11日、9月12日、9月17日、9月18日、9月19日
補助員会議	4	22	2024年6月26日、7月17日、7月31日、11月27日、2025年2月5日
茶道部開国祭の指導（道具説明、点前指導、リハーサル等）	17	15	2024年10月9日、10月16日、10月23日、10月25日、10月29日10月30日、11月3日

薬学部6年生の総合演習ⅢA（ヒューマニズム茶道教育）	3	97	2024年6月5日、6月12日
波佐見茶会指導	7	18	2024年6月29日
上海大学社会学院茶道体験	1	17	2024年8月1日
キッズキャンパス指導	2	7	2024年11月9日
平戸茶会指導（前日・当日含む）	21	15	2024年8月6日、8月8日、8月19日、8月20日、8月22日、9月6日、9月9日、9月17日、9月19日、9月24日、9月25日、10月2日、10月9日、10月12日、10月13日
錦秋茶会指導	2	51	2024年11月13日
上海中僑職業技術茶道紹介	1	37	2024年11月26日
中学校錦秋茶会指導	2	14	2024年11月25日
バートン・アンド・ダービシャス大学茶道体験	1	6	2025年2月19日
九州文化学園小学校3年生大学での合同授業指導	1	57	2024年7月17日
九州文化学園小学6年生卒業茶会指導	2	24	2025年2月12日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「小・中学校との比較による茶道教育の検討」

「茶道と教育」

「感性を育む大学教育の実践」

「小・中学の取り組みを還元した茶道教育の実践」

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	10万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
早期大学体験＆地域貢献事業	令和6年度長崎国際大学学長裁量経費採択	2024年４月～2025年３月	10万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携委員会	アドバイザー	2024履修ポログラム、長崎国際大学寄付講座に関する実践の検討、GSPｄの活動報告アドバイスを行った。キッズキャンパスでは、茶道部門で学生指導にあたった。学園内での行事についての見直しや開催する行事などについてのアドバイスを行った。

茶道文化研究所	所長	茶道教育に携わる九州文化学園全体の教職員に対しての教育と茶道の技術指導を行った。新任1年年目の教員に対して茶道文化指導を行う上での実技確認の指導を行った。大学では、３年生の「錦秋茶会」を実施。４年生の「波佐見茶会」を波佐見歴史文化交流館にて実施した。さらに、九州文化学園中学３年生の「錦秋茶会」を開催した。また、中学１年と２年生、小学１年～５年生までの参観日の合計７回。完成年度の行事として、小学６年生の「卒業茶会」を実施し、保護者に対して教育内容の紹介を行った。
ハイスクール茶会実行委員会	実行委員長	第11回ハイスクール茶会innハウステンボスを開催し、高校生の茶道促進及び日本文化の再認識、社会との交流を通して健全な青少年育成に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
茶道文化補助員の教育指導	特任教授	大学規定に沿って補助員選考を行い、春、夏に補助員研修を企画し、技術指導と授業での教育指導を行った。また、授業終了後の反省会や1年間全体での反省会を企画し、指導者教育を行った。また、2年生と3年生の茶道文化履修学生に対して補助員活動報告を行った。（動画配信と授業時に補助員から活動報告を行った）
九州文化学園小中学校教員の茶道指導	特任教授	小中学校では日本文化の授儀容の際に、担当教員に対しての授儀容計画に従い茶道の技術指導を各学年ごとに毎時間行った。
九州文化学園小中学校夏季茶道研修会	特任教授	夏季茶道練習企画として、8月に教職員に対して集中的に実技指導を行った。
長崎短期大学教職員の茶道指導	特任教授	短期大学の教職員が茶道文化の授業を担当するにあたり、点前の技術の確認を（4/26）前期5人、後期（9/18）4人の教職員に対して試験を実施した。その結果を確認し、さらに技術指導のアドバイスを行った。
九州文化学園小学校３年生・大学生合同学習	特任教授	大学の茶室にて、小学３年生38名の茶道合同学習の際、大学生が点前技術を確認すると同時に、茶巾裁き、菓子の取り方、お茶の飲み方、礼法を含む形で合同授業を企画し実践した。
九州文化学園中学３年生・錦秋茶会	特任教授	中学３年生が茶道の集大成として「鎮信流のおもてなし」の発表する場として、錦秋茶会を企画し、11月28日に実施した。（参加者は,3年生の保護者）

(3) 課外活動の指導等

・茶道部顧問　茶道部の茶道活動支援を行っている。学祭での茶席運営と点前指導を行った。
・補助員研修　大学及び小中学校茶道指導のための支援活動を行った。
・茶道文化Ⅳ　波佐見茶会（６月２９日）実施の際、茶席運営と茶会運営指導並びに技術指導を行った。
・長崎短期大学茶道大会　大会前の道具の選択並びに学生への道具説明うと点前指導を行った。大会当日は、本学フィルドワーク参加の学生への指導を行った。
・九州文化学園中学校（中1，中2）２回の参観日に生徒指導を行った。
・九州文化学園小学校（小１、小２、小3，小4，小5）５回の参観日に児童の指導を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス/7/21/長崎国際大学（自明堂）
オープンキャンパス/8/4/長崎国際大学（自明堂）
オープンキャンパス/8/25長崎国際大学（自明堂）
オープンキャンパス/3/16長崎国際大学（自明堂）
大学祭にて鎮信流茶道紹介/11/2・3/長崎国際大学（自明堂）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外

2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	欠席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
新任教員研修会「建学の精神と茶道教育」	令和６年４月2日	長崎国際大学	長崎国際大学基盤センター/自己点検・評価委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
NPO 法人茶道鎮信流梶の会（全国組織）	幹事	２０１２年～現在に至る	茶道鎮信流宗家　松浦章
茶道鎮信流佐世保支部松清会	幹事	２００６年～現在に至る	鎮信流佐世保支部支部長　川崎君代

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①5月18日　「第11回ハイスクール茶会inハウステンボス」実行委員長として参加　主催：大学と参加高校15校とで構成し、2250人規模の茶会を開催した。

②6月29日「波佐見茶会」茶道文化Ⅳ指導者として参加（波佐見史料博物館に100名の客を導入。その客が館内見学を導入する企画　主催：大学と波佐見町歴史文化交流館館長

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
江南スカイ語学学院	学生間茶道交流会を実施	7月31日	長崎国際大学国際交流・留学生支援室
上海大学社会学院短期研修	学生間茶道体験を１７人に実施	8月1日	長崎国際大学社会福祉学科・上海大学
上海中僑職業技術学院大学	学生間茶道交流体験を実施（24名、引率３名）	11月26日	長崎国際大学国際交流・留学生支援室
バートン・アンド・ダービシャス大学	茶道体験	2月１９日	長崎国際大学国際交流・留学生支援室

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

今年で２年目となるが、学芸員過程の教員並びに大学院生との共同作業で、茶道具（水指）の写真を入れたカレンダーを作成。「季節を語る水の器」と題して監修を行った。茶道関係者、長崎短期大学茶道大会の保護者、大学では入試関連の高校に配布を行い、大変好評であった。次年度は、８０周年事業としての取り組みを計画している。

小中学校での茶道教育では、小学１年生から6年生まで、中学生は１年生から３年生までの保護者に対して授業公開を実施した。中学３年生は「錦秋茶会」、小学６年生は完成年度の集大成として６年間の歩みと題して、「卒業茶会」を大学の茶室にて実施し、保護者を招待した。生徒もさることながら保護者も感無量で涙する姿も見られ６年間の結果を茶会という形で実践できた。今後の小中学校の茶道の行事として継続していくことになる。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、茶道文化Ⅲ履修の学生による「錦秋茶会」を５年ぶりに再開した「錦秋茶会」は、学生自身が亭主、半東、接待、水屋、受付、舞台づくり、客席づくり等、すべて手作りで客迎えの準備を行った。特に、表舞台に立つ学生たちは,何度も自主練習に励み学生自ら挑戦する姿が見てとれた。さらに今回初めての試みとして、茶道文化Ⅱ履修の学生をフィールドワークとして、水屋の協力を要請した。先輩たちとのチームワークづくりや裏方の仕事の大切さを感じ取る良い機会となった。今後もそれぞれの茶会では、後輩たちの裏方の取り組みができるように活躍の場を提供したいと考えている。また、小学生と大学生とも合同授業を実施したところ、大学生が小学生の点前のサポートだったにもかかわらず、逆に小学生の点前の確実性を見て、もっと自分たちも頑張りたいとの声が上がった。学園では、同じ鎮信流を学ぶことで、今回のような合同授業を実施することができた。それぞれの立場に置いて、互いに自分の振り返りができる良い機会となった。今後も、合同での茶道教育を目指していきたい。

今年は、多くの留学生を迎えてそれぞれの国の違いを超えて、茶道文化の授業に取り組んだ。国によっては、お箸を使えない、正座ができない、日本語が分からないなど多くの問題をかかえたが、急遽授業内容を変更した。まずは日本の文化を楽しむ方向性で指導を行った。すると留学生なりに一生懸命日本の文化に取り組む姿が、随所に見られた。指導に当たっては、補助員の学生を中心に行い、学生間の交流も試みた。授業の終わりには、留学生と補助員が一緒に写真撮影をするなどの光景も見ることができ、楽しく充実した時間であったと思われる。今後は、留学生の国やレベル等も考慮しながら、独自の授業内容の工夫を考えていきたいと思う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 落合　和昭

1．教育理念

建学の理念を基として、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現を図るため、これまでの実務経験を背景にホテルビジネスマネジメントを追求する。また人を育てる喜びを通じて、その普及や浸透を図るとともに、今後一層期待される「事業性を正しく理解し、その向上をもって礎とする」人材の育成と研究を推進し、もって文化と健康を大切にする社会の建設に資する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(前期)	4	1	②④⑥⑦
国内観光研修D（九州・沖縄）	7/7(通年)	2	29	②④⑥⑦
卒業研究	15/15(通年)	4	9	②④⑥⑦
ホテル・ブライダルオペレーション	15/15(後期)	2	105	②④⑤⑥⑦
キャリア開発Ⅱ	15/15(前期)	2	261	①②⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	12	②④⑥⑦
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	11	②④⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	11	②④⑥⑦
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	12	②④⑥⑦
教養セミナーA	15/15(前期)	1	12	①⑥⑦⑧⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ホテルビジネス実務エキスパート	15/15(前期)	2	64	①⑨
観光倫理	5/15(前期)	2	203	①③
宿泊業論	15/15(後期)	2	167	②④⑤⑥⑦
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	12	②④⑥⑦
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	13	②④⑥⑦
学際連携研究	5/15(前期)	2	198	⑪

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期の授業アンケートでは、教養セミナーが4.6・ホテルビジネス実務エキスパートが4.5と、いずれも目標（4.5）を上回ることができた。但し、課題としては、教養セミナーは回収率が75%に留まったこと、ホテルビジネス実務エキスパートでは、回収率は72%に達したものの不満足が1名見受けられた点である。教養セミナーの未回収は留学生が中心で、日本語に対する配慮強化が必要と認識する。ホテルビジネス実務エキスパートでは、問題の連番記載や小テストの実施、学生の参加機会促進などの自由コメントが寄せられており、授業品質の改善に役立てたい。後期は宿泊業論が4.5・専門演習ⅡBが4.9と、前期同様に目標を達成した。課題としては、宿泊業論では回収率が60.5%に留まったことと、同様に不満足が1名記録されている点があげられる。評価5と4の合計が92.5%を占めているため、抜本的な変更の必要性は認められないが、細部にわたり検討を続けて行きたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
ホテルビジネス実務検定（ベーシック1級・2級）認定に向けたQ-LEARNによる遠隔指導	30	30	2024年4月～2025年3月
ホテルビジネス実務検定（ベーシック1級・2級）団体受験主宰	1	13	2024年11月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ホテル開発論・顧客満足とホテルの事業性における考察

2021年度より、3年間にわたり長崎国際大学論叢に寄稿した。2021年度はコロナ禍におけるホテル開発の適切な対処方法について研究し、2022年度ではホテルの事業性向上に必要とされる評価方法について考察した。2023年度では、部門別に要件整理を行うことでホテルが有する多様性や拡張性などの事業特性について認識し、更に事業性の向上を月次単位での繁閑格差是正に求め、その要因を収入諸元の回帰分析や相関係数の検証によって明らかにすることで、ホテルタイプ別に最も効果的な事業方針を提言した。今後の課題として、これらの研究結果を踏まえた顧客満足度との検証を行うため、大学周辺で実践的な研究活動が可能な宿泊施設を模索している。一方で、日本観光研究学会第39回全国大会に出席したほか、本学の観光学論集編集委員を務めるなど、より幅広い観光学における研究活動を行った。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	3	0	0	3	3	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ホテル・旅館の経営者から次世代へおくる熱いメッセージ／共著・編著／2017年1月／株式会社オータパブリケーションズ／70頁～71頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

市場変動を見据えたホテル開発プロセスの再見／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／85頁～102頁／単著／研究ノート

ホテルの事業性向上に資する実績評価の考察／2023年3月／長崎国際大学論叢第23巻／33頁～46頁／単著／研究ノート

ホテルの特性理解と要因解析から導く運営改善の方向性／2024年3月／長崎国際大学論叢第24巻／73頁～92頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
満足度調査の活用による事業性向上について	一般社団法人　平戸観光協会	2021年3月	0万円
プライベートアイランド構想に基づく観光コンテンツの再考Ⅰ	一般社団法人　宇久町観光協会	2021年3月	0万円
プライベートアイランド構想に基づく観光コンテンツの再考Ⅱ	一般社団法人　宇久町観光協会	2022年3月	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研修・地域連携委員会	委員長	研修・地域連携委員会の任務は、今年度の「観光研修」「地域連携活動」プログラムの履修者確認と催行不催行の確認、引率補助教員の選任を行うとともに、次年度のプログラムの募集と調整を行うことである。 １．2024年度国内・海外観光研修及び地域連携活動の催行 2024年度の観光研修について、国内4本は無事催行されるものの、前年に引き続き海外は不開講となったため、後期追加にて1本を募集、催行した。なお地域連携活動は、新たにスポーツや茶道に関わる新プログラムを含めた計7本のうち、履修者のあった6本が催行される。 2．2025年度観光研修・地域連携活動プログラムの募集と調整 2025年度の観光研修プログラムについては、学科教員から提案された観光研修国内7本、海外3本の計10本を計画する。地域連携活動プログラムについては計12本が承認された。
キャリア委員会	長期インターンシップ責任者	長短インターンシップのうち、ホテル関連施設の合計4施設・9名（前期：短期：4名・後期：短期5名）を担当し、キャリア開発の促進を図った。特記事項として、本年度ではホテルオークラJRハウステンボスの長期インターンシップに関して、前後期とも履修希望者が無く、今後の課題とする。
コース委員会（観光マネジメント）	委員	観光マネジメントコースで想定される取得資格として、「ホテルビジネス実務検定」の認定を鑑み、受験指導と団体受験の主宰を行うものである。 一般財団法人日本ホテル教育センターによる「ホテルビジネス実務検定ベーシックコース1・2級」団体受験の実施 11月28日の第1回団体受験では総数17名が応募（受験13名）し、2級10名（合格率90.9％：過去最高）・1級1名（合格率50％）の認定を受けることができた。これは、本年度より開始した対面授業「ホテルビジネス実務エキスパート」が奏功したものと評価し、今後も更なる強化を目指したい。今後の課題としては、第2回目の団体受験において、希望者が定員（3名以上）に満たず、個人受験となったことが挙げられ、授業のみならずその後のフォローについて検討を行いたい。
カリキュラム委員会	委員	観光への意識高揚と就職成就率向上による離学防止を図るため、「ホテルビジネス実務検定」認定に特化した授業として「ホテルビジネス実務エキスパート」を2024年度より開講した。伴って、ゲストスピーカーの確保が難しくなっている「ブライダルマネジメント」と「ホテルオペレーション」の2講義を統合して「ホテル・ブライダルオペレーション」として再編し、授業の臨場感と目的達成の両立を図った。授業アンケートの結果なども踏まえながら、一層の改善を図っていきたい。
就職委員会	委員	キャリア委員会およびキャリアセンター協力のもと、第2回目のキックオフセミナーを7月13日に開催し、合計16社の企業が本学で270名の学生を対象とした合同説明会を実施した。本学の就職成就率向上に向けた取り組みとして、引き続き2025年度も開催を計画するとともに専門会社のサポートを検討するほか、マイナビの協力を得て、学外の合同説明会への参加を必修授業の出席に振り替え、より有効な就職支援活動を模索する予定である。
スポーツサポートセンター委員会	委員	強化指定部6団体所属の学生のうち、本年前期までの履修結果において一定の支援が必要と考えられる学生を抽出し、アンケートの結果最も1限授業が集中している火曜日の8時20分から授業前支援教育を行うこととなり、本年度は12月に担当している。
地域連携センター委員会	副委員長	佐世保商工会議所100周年事業としての作文コンテストで本学が優秀賞に多数選出されるなど、今後も地域との連携強化に向けた諸活動を実践していく。
国際観光学会	編集委員	期中より編集委員を任命され、観光学論集第20巻発翰に向け、自身の担当論文に対する査読指導のみならず、全体の発行取り纏め窓口として編集統括作業を遂行する。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会	委員	IR誘致は見送りとなったが、本学への波及拡大に関して活動を行う。
オープンキャンパス	ブース担当・模擬授業	7月21日と8月25日にホテル・ブライダル関連のブースを出店したほか、3月16日には模擬授業を行い、観光を希望する学生募集を図っている。
観光人材養成大学間連携会議	メンバー	長崎へのIR誘致は見送りとなったため、近畿地区大学間連携会議に引き続き参加して、本学における人材育成に関する活路を確保していく。

(3) 課外活動の指導等

2024年度は、専門演習Ⅱを中心とするゼミ生により、初めて開国祭に模擬店を出店し課外活動の実践を図った。今後は、自身の経験から音楽系の課外活動を中心として活動の範囲を拡大していきたい。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

讀賣新聞等に対する有識者コメントを提供しているほか、委員長を務める「長崎コンシェルジュ」の授賞式では、県内メディアを中心に本学の貢献が告知されている。また、「長崎マリオットホテルホテル」の開業に合わせて、同ホテルのインスタグラムコンテンツ提供を請け負い、２・３年のゼミ生により50コンテンツを提供、うち10コンテンツが採択され、学校名とともにWebに掲示された。更にオークラJRハウステンボスに対する商品企画提案をゼミ生が実施し、当該ホテルの社会貢献活動として告知される。また高等学校を中心として、ホテルを中心とする観光人材育成に関わる本学教育の意義を告知している。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
7	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
サービス業とは	2021年5月	長崎県　佐世保東翔高校	長崎県　佐世保東翔高校
ホテル・観光・ブライダル	2022年11月	沖縄県　名護高校	沖縄県　名護高校
サービスの職業（ホテルマン等）	2022年12月	長崎県　私立創生館高校	長崎県　私立創生館高校
サービスの職業	2023年3月	長崎県　佐世保東翔高校	長崎県　佐世保東翔高校
長崎コンシェルジュ勉強会講演	2023年10月	長崎県庁	長崎県　観光振興課
サービス業体験型授業	2024年3月	長崎県　佐世保中央高校	長崎県　佐世保中央高校
長崎コンシェルジュ勉強会講演	2024年10月	長崎県庁	長崎県　観光振興課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
川棚町観光施設運営あり方検討委員会	委員長	2021年12月～2022年9月	長崎県　川棚町
長崎コンシェルジュ認定委員会	委員長	2023年7月～	長崎県　観光振興課
川棚町地域公共交通活性化協議会	副委員長	2023年12月～	長崎県　川棚町
長崎県観光人材交流公募型プロポーザル審査会	審査員	2024年8月	長崎県　観光振興課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

教養セミナーを通じてSDG'sに関する講義を行い、学生への関心喚起と理解促進を図った。
なお、本学におけるクリーンキャンパス運動にも積極的に参加している。

6．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
日本観光研究学会第39回全国大会	研究者間交流	2025年12月6日～8日	日本観光研究学会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

優秀指導校賞　一般財団法人日本ホテル教育センター　2022年4月

8．活動全般についての自己点検・評価

大学教員4年目となる本年では、新たに「ホテルビジネス実務エキスパート」の授業を新設、開講し、「ホテルビジネス実務検定」試験では、大きく認定者数や合格率を向上させることができました。また、長崎県からは引き続き「長崎コンシェルジュ認定委員会」委員長、川棚町からは「地域公共交通活性化協議会」副委員長を拝命するなど、地域観光との連携を強化している一方、学内においても、既存の委員会活動に加えて、新たに本学国際観光学会の編集委員に任命され、観光学論集の編纂を通じて研究領域の拡大と大学運営にも積極的に関わって参りました。今後は、大学の方針に沿って、離学防止や本学の認証評価への貢献などに尽力するとともに、実践的な観光人材育成に向けて、一層邁進したいと思います。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 尾場　均

1．教育理念

「若者の人材育成と地域連携活動」と「PBLによる大学生の社会人基礎力育成」
地域と連携することにより、教育活動の成果を積極的に地域社会や産業界のニーズに結びつけ、幅広い情報を得ることで社会的な視野が広がる。理論だけにとらわれない実学重視のカリキュラムで、地域連携活動、プログラミング、映像制作、ラジオ放送、などの多くの実践の場で、学生が社会で通用する実践力（社会人基礎力）を身につけるカリキュラムをつねに考えている。
社会人基礎力が身につく効果的な実践教育で、考える力や人とつながる力、考え抜く力を身につけ、その教育成果を社会に活かせる人材の育成が、私の教育理念である。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国内観光研修B（東日本）	15/15(通年)	2	35	⑦⑩
卒業研究	15/15(通年)	4	8	⑤⑪
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	11	⑤⑪
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	8	⑤⑪
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	8	⑤⑪
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	9	⑤⑪
教養セミナーA	15/15(前期)	1	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	①⑥⑦⑧⑩⑫
コンピュータ基礎ＩA	15/15(前期)	1	68	③⑪
コンピュータ基礎ＩB	15/15(後期)	1	67	③⑪
映像文化論	15/15(前期)	2	77	②
情報処理論	15/15(後期)	2	56	②
コンピュータ基礎ⅡA	15/15(前期)	1	31	③⑪⑫
コンピュータ基礎ⅡB	15/15(後期)	1	21	③⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	7	⑤⑪
栄養情報処理	15/15(後期)	2	44	④⑪
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	8	⑤⑪
コンピュータ基礎ＩA	15/15(前期)	1	56	③⑪
コンピュータ基礎ＩB	15/15(後期)	1	43	③⑪
コンピュータ基礎ＩA	15/15(前期)	1	78	③⑪
コンピュータ基礎ＩB	15/15(後期)	1	90	③⑪
コンピュータ基礎ＩA	15/15(前期)	1	93	③⑪
コンピュータ基礎ＩB	15/15(後期)	1	90	③⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教養セミナーA
本年度の授業では、昨年度に引き続き、同じシラバスと共通の教科書を使い、個別で時事的なニュースなどを盛り込み、学生の興味を引くような授業内容を心掛けた。また、自由な意見交換の機会を設けることで、学生の主体的な学びを促そうと努力した。

しかし、昨年度同様に、学生からの積極的な発言が少なかったように感じられた。授業には参加し、課題やレポートもきちんと提出しているが、学生同士の活発な議論や、授業内容に対する深い思考が見られないケースもあり、テーマを決めて行うディスカッションでは、活発な意見交換が期待されたものの、実際のところ、意見が出しにくい雰囲気であった。
次年度も、同様の共通の授業内容を軸に、教養基礎の内容を充実させよと考えている。現在、欠席者が多いという課題に対しては、後期面談などを通じて学生一人ひとりの状況を把握し、個別に対応することで改善を図る。
また、学生の学習意欲を高めるため、他の教員と連携し、より効果的な授業展開について意見交換を行いたいと考えたい。授業内容の共通部分をより分かりやすく、興味深いものにすることで、全ての学生が満足度の高い学びを得られるよう、指導方法の改善にも努めていく。

コンピュータ基礎A
今回も多少の授業内容の見直しを行ったが、学生の評価に大きな変化は見られない。そのため、次年度も同様の内容で授業を進める。自由記述によるアンケート結果から、学生の満足度も高いことが確認できた。
学生からの意見を総合すると、最も改善すべき点、かつ学生が最も重要だと認識しているのは、やはり授業前の準備学習であるQ1の準備である。ただし、学生自身は、これらの課題を予習・復習とは捉えていないという点も明らかになった。このスコアが伸びず課題などを実施するべきか検討する。
毎回提出する復習や宿題は、学生の負担を考慮しながらも、スキル向上に繋がると学生自身が理解している。自由記述からは、自分の努力が結果として明確に現れることで、学習意欲が向上していることが伺える。
また、数年前と比較して、授業の進度をゆっくりにし、同じ内容を繰り返し行うことで、学生の理解度が深まり、評価に繋がっていると考える。
本授業では、学生が個々に問題解決に取り組むことを重視してる。そのため、質問しやすい環境づくりや、じっくり考える時間を確保するなど、学生が主体的に学習できるような授業展開を心掛けた。
回の授業の前半に復習時間を設け、学生の理解度に合わせて授業を進めるなど、学生一人ひとりの学習状況に合わせた指導を行った。特に、理解が遅れている学生に対しては、アシスタントと丁寧に個別指導を行い、必要な復習を徹底した。
授業アンケートの結果から、復習時間の有効性と、最新のICTに関する内容の評価の高さが確認できた。学生の理解度が低い箇所は、復習時間の中で再度説明することで、より深く理解を促すことができた。また、社会で役立つ実践的な知識や技術を授業に多く取り入れることで、学生の学習意欲を高め、興味を持ってくれることは、学生自身のスキルアップにつながると考えている。

コンピュータ基礎B
数年前まで自由記述に見られた『授業内容が難しい』『授業スピードが速い』という意見は、2年連続で寄せられていない。
一部の学生からは、ゆっくり説明しても授業スピードが速く感じるとの声があるため、授業内容を繰り返し説明するようにしている。
広い教室ですが、学生の画面を注視しながら進捗状況を確認する方法が、学生の理解度向上に繋がったと考えられる。
今年度も課題提出率はほぼ100%、テスト結果も良好であり、学生の理解が深まっていることが伺える。
学生のキャリアに役立つ授業を目指し、データ・AI活用や最新動向を取り入れている。データリテラシーも組み込み、学習意欲向上に繋げ、自由記述の雑談と書かれている点はデータ・AI活用や最新動向の話であり、それを具体的に説明している。
高評価を頂き、今後も学生の状況を注視して授業を進める。
自由記述で指摘された「授業中のスクリーンが見にくい」という点は、設備の改善が必要である。

映像文化論
映像教材を効果的に活用することで、学生の理解度を深めることができていると考えている。具体的には、高画質な映像や、時代背景や文化的な要素を盛り込んだ資料を豊富に用意し、学生の興味を引くような授業展開を心掛けている。昨年度、学生からの意見を参考に、SNSに関連する映像の制作や広報（広告）に関する内容も追加した。
現代社会との比較や、歴史的な背景を踏まえた解説など、学生が自ら考え、学ぶきっかけとなるような内容を意識的に取り入れることで、より深い理解へと繋げることができたと考えている。
今回も、映像の内容と質の向上、教材の選定に力を入れたことが、今回の高評価につながったと考えている。今後も、質の高い映像教材と、学生の興味関心を刺激する内容で授業を展開していく。
学生自身が映像について興味を持っている時代であること、そして歴史により、現代の映像があること、世界の文化歴史、映像や音楽を知ることに興味を持ったことで、学習意欲の向上にもつながったと思う。毎回の授業アンケートには、授業の感想に加え、そのテーマに関連する提案や助言などもあり、今後の授業の参考になる部分も多かった。次年度は質問１の「準備学習の向上」に工夫をしたい。

情報処理論
授業では、教科書の内容に加えて、情報関連の最新ニュースや社会情勢を分かりやすく解説し、学生にとって身近な事例を積極

的に紹介した。その結果、授業で学んだ知識を自ら行動に移し、その感想を報告する学生が多数見られた。実際に体験することで、授業内容への満足度が向上したと考えられる。体験学習や社会生活に関連する内容を充実させたことが、学生の満足度向上に繋がったと考えられる。教科書の陳腐化に対応するため、常に最新の情報を取り入れた授業準備を行った。
始めて外部企業の協力による授業を複数取り入れた。授業内のアンケートでは学生への情報関連の資格への意識が高まったことを感じている。学生には常に社会の情報にアンテナを張り多角的な視点を持つことの重要性を指導した。現代社会では、インターネットを通じて容易に情報を取得できる一方で、情報が偏りがちになる傾向があります。特に、新聞やテレビに触れる機会が少ない若年層に対しては、架空請求、詐欺、仮想通貨、ネットカジノなどの賭博など、実際に起こりうる社会問題を授業で取り上げ、正しい知識を身につけさせることが重要だと考えている。履修後も、この分野への関心を継続し、社会で活躍できる人材へと成長してくれることを願っている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	情報科学	10/10(1)	1	34

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

GPS情報を活用した地域情報コミュニティの研究
VRを活用したシュミレーションおよび教育の研究
ポートフォリオによる授業の実践とプロジェクト学習
地域活性化イベントの企画運営と回遊分析
社会人基礎力と起業支援、アントレプレナー醸成について

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	15万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

長崎国際大学学生のVR意識に関する研究／2025年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第8巻／11頁～20頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
早期大学体験＆地域貢献事業＝NIU ステークホルダー増計画	長崎国際大学　学長裁量経費	2024/4/1～2025/3/31	15万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学 地域連携センター委員会	センター長	地域連携、広報に関するすべての事項
国際観光学科 企画・広報委員会	委員長	学科の広報に関する運営・提案に関する事項

国際観光学科観光マネジメントコース委員会	委員	学科コースの運営・提案に関する事項
国際観光学科 カリキュラム委員会	委員	学科リキュラムに関する事項
全学 産学連携・研究支援センター	副委員長	産学連携・研究支援に関する事項

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

起業部サークル 顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

若者活躍フォーラム（佐世保市委託　企画・運営）
長崎県内の大学・企業・就活情報紙「長崎新聞 NR(エヌアール)
2024年きらきらフェスティバル in SASEBO」
テレビ番組「佐世保だよ!?全員集合」月曜22時30分
ラジオ番組「はっぴいRadio場」水曜19時

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象)	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保のDESIGN	2025年1月25日（土）	長崎国際大学	長崎国際大学
SASEBO若者活躍フォーラム	2025年12月4日（土）	佐世保市民文化ホール	佐世保市
データサイエンスリテラシー向上に向けたカリキュラム開発と実践	2024年12月6日(金)	長崎国際大学	QSP共同SD・FD
佐世保東翔高校連携事業依頼講座	2024年10月18日(金)	佐世保東翔高校	佐世保東翔高校
映画監督・樋口真嗣トークイベント	2024年11月4日(火)	佐世保市民文化ホール	佐世保観光コンベンション協会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県立佐世保中央高等学校理事会	委員	長崎県立佐世保中央高等学校	長崎県

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

させぼ戸尾市場で食べ歩き！
きらきらフェスティバル佐世保独楽大会
テレビ番組「佐世保だよ!?全員集合」月曜22時30分
ラジオ番組「はっぴいRadio場」水曜19時

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

○研　究：仮想空間活用のVRソフトウエア、３Dの研究を推進した。また小学生向けの講座を複数開講した。研究ノート「長崎国際大学学生のVR意識に関する研究」を提出中。FDSD講座「データサイエンスリテラシー向上に向けたカリキュラム開発と実践」。公開講座を3プログラム実施
VRまちなかスタンプラリーシステム研究開発。VR関連ソフトウエアの開発に従事した。
○教　育：学生たちの主体的な学びと地域貢献でテレビ・ラジオの番組制作指導、佐世保市役所依頼の事業および、新たにJR佐世保駅、戸尾市場、島瀬公園の事業についてプロジェクトを実践した。授業内容はアントレプレナーの醸成を展開している。
○社会貢献：若者未来フォーラムの企画雲煙、NIUキッズキャンパス、文化伝承の佐世保独楽大会を開催した。また戸尾市場活性化の「戸尾市場で食べ歩き」6月10月開催。
○大学運営：地域連携センターセンター長、産学連携・研究支援センター副委員長として、地域に関わる事業の企画運営、DX関連企業との包括連携、DXおよびアートに関する公開講座の開催、広報活動等を推進した。
○公開講座：「NIUわくわく立体デザイン体験・3Dで夢をカタチにしよう」・「佐世保でデザイン」・「QSPリケフェス in SASEBO」・「VR体験講座in九文」映画監督・樋口真嗣トークイベント

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 川上　直彦

1．教育理念

私の教育理念は、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、人間尊重の中で、主体的に参加するアクティブ・ラーニングを通して、学生一人ひとりがホスピタリティを構成する5つの能力（①専門力、②情報収集・分析力、③コミュニュケーション力、④協働・課題解決力、⑤多様性理解力）を獲得できる教育を実践することである。

私が担当する国際観光学の歴史関連の授業（世界文化遺産論、美術と観光、世界史、History A＆B）および専門演習IA-IIIBでは、①、②、④、⑤を重視している。①専門力について、遺跡・遺物や古代文明の歴史、そして関連する博物館・美術館に関心を抱かせ、専門的課題に取り組ませることにより、専門力を習得させている。②情報収集・分析力につて、事前学習、講義、そしてパワーポイント資料から情報収集を行い、配布資料に取得情報を記載し、講義ノートを作成することにより、情報収集と分析力を習得させている。④協働・課題解決力について、学生同士で協議させ、講義ノートを完成させることにより協働・課題解決力を習得させている。⑤多様性理解力について、世界の諸地域の主要な歴史の流れと古代文明の諸文化の違いを学ぶことにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業における講義、学生同士の協議、小テスト、そして2本から4本のレポート課題を課す授業方法を取り入れている。

また、私が担当する国際観光学の英語関連の授業（英語演習IA-IIB）においては、③と⑤を重視している。③コミュニュケーション力について、英語でのスピーキング力、リスニング力、リーディング力、ライティング力それぞれに焦点を当てた授業を行い、英語で学生同士の意見交換を頻繁に実践させることによりコミュニュケーション力を習得させている。⑤多様性理解力について、さまざまな世界の日常の生活に関するトピックについて英語で学習させることにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業において、学生同士の英会話、小テスト、宿題を課す授業方法を取り入れている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
世界史	15/15(前期)	2	65	①⑤⑥⑨⑩
英語ⅠA	15/15(前期)	1	23	①②
英語ⅡA	15/15(後期)	1	28	①②
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	6	①⑤⑥
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	2	①⑤⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	2	①⑤⑥
History A	15/15(前期)	2	7	①⑤⑥⑨⑩
教養セミナーA	15/15(前期)	1	13	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
History B	15/15(後期)	2	10	①⑤⑥⑨⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥
英語ⅡB	15/15(後期)	1	21	①②
美術と観光	15/15(前期)	2	19	①⑨
世界文化遺産論	15/15(後期)	2	51	①③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
芸術文化資源特講	15/15(前期)	2	4
芸術文化資源特講	15/15(前期)	2	6
Cultural Heritage Studies	15/15(前期)	2	4
事例研究（芸術文化資源）	15/15(後期)	2	5
事例研究（芸術文化資源）	15/15(後期)	2	1

観光事業特別演習	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教養セミナー　満足度4.6/5.0
教養セミナーの授業内容については、最初から決まっているものなので、学生が興味を持てる内容に勝手に変更することができないため、個人による改善は難しい。しかし、今後も努力して、グループワークなどを取り入れて、楽しい雰囲気を作りだし、学生が興味を持てる授業にしたいと考える。

美術と観光　理解度4.5/5.0＆満足度482/5.0
履修学生のこの授業に参加しての満足度は、4.8と非常に高かった。そのため、来年度に向けて特に講義内容等を変更する必要はないと考える。今年度は、非常にまじめで科目に興味を持つ学生が多数いたとかんじている。それが良い評価へと繋がっと考える。

英語演習IIB　理解度4.3/5.0＆満足度4.5/5.0
履修学生のこの授業に参加しての満足度は、4.5と高かった。そのため、来年度に向けて特に講義内容等を変更する必要はないと考える。今年度は、非常にまじめで英語に興味を持っている学生が多数いたとかんじている。それが良い評価へと繋がっと考える。

大学院芸術文化資源特講（前期）：満足度3.8/4.0
大学院事例研究（芸術文化資源）（後期）：満足度4.0/4.0
前期は、履修した学生は10人で、後期が6名であった。前期・後期共に満足度はそれなりに高かった。日本人学生と留学生との間で日本語能力のギャップが大きく、日本人の日本語レベルに合わせて授業を展開した。何人かの留学生はかなり理解に苦しんでいる様子だったので、多少満足度が低かったと推測する。来年度についても良い評価を取得できるようがんばりたい。

大学院Cultural Heritage Studies（後期）：満足度3.8/4.0
履修した学生は4名であった。3人が私が主指導を務める学生であったので、授業への姿勢及び理解度が非常に高かったため、満足度は非常に高かった。

大学院観光事業特別演習（後期）：満足度4.0/4.0
博物館関係の授業を展開し、様々な視点から博物館を勉強できる動画を多数活用し、非常に評判が良かったため、満足度が満点であったと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

紀元前2300年頃、古代メソポタミアにおいてアッカド王朝が人類史上初の統一国家を建設し、史上初の首都と定義可能な都市「アガデ」を創設した。しかし、このアガデの所在地は未だ発見に至っていない。近年、申請者は、楔形文字史料、3次元地形データ、及び衛星画像・写真を、地理情報システムを介して分析し、テル・シンカーの遺丘が、アガデに推定できることを示した。今後の研究では、1950年代まで遡り撮影されたアメリカ軍のU2スパイ偵察航空機及びGAMBIT衛星とHEXAGON衛星写真を、地理情報システムを介して分析し、機械による農地開拓から失われた同遺丘の地形景観の全貌を復元し、アッカド王朝の首都と定義可能な規模・範囲を持った遺丘であったのか検証する。更には、遠隔から地表面に散在する土器片の編年確立を試み、アッカド王朝時代に同遺丘を年代付けできるのか検証する。本研究の成果は、自身のアガデ＝テル・シンカーの仮説を補強し、次の発掘調査
へ繋げることが期待できる。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	2548万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

アッカド地域におけるシュメール初期王朝時代とアッカド王朝時代の型式学的特徴を持つ土器片に関する考察：キシュとその周辺地域におけるMcG. Gibsonの見解／2024/10/13／日本オリエント学会第66回大会

人類初の統一国家古代メソポタミア・アッカド王朝の首都アガデの所在地とアガデの有力候補テル・シンカーにおける今後の考古学調査（基調講演）／2025/01/26／日本・イラク合同文化遺産研究シンポジウム：古代メソポタミアのシュメール・アッカド地域を中心とした文化遺産研究と国際協力

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
人類初の統一国家古代メソポタミア・アッカド王朝の首都アガデの日本・イラク合同調査	日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(開拓)	2024年6月 － 2028年3月	2548万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会（学科、全学）	委員長（学科）、委員（全学）	学科の研究倫理委員会委員長として、教員が行う研究11件、学科生の卒業研究23件の計34件の研究倫理審査を行った。
国際観光学科グローバルツーリズムコース 委員会（学科）	委員（学科）	①前期・後期の国際観光学科所属の1年生及びグローバルツーリズム所属学生対象の英語試験（CASECテスト）の運営・管理業 務を補佐した。 ②学園祭で開催予定であった「高校生英語スピーチコンテスト」の運営・管理業務を補佐した。
国際観光学科共同研究予算委員会	委員長（学科）	令和6年度の学科共同研究12件、国際観光学会運営補助費、学科教育研究充実費4件、そして予備費の予算管理を委員長として厳正に行った。また令和7年度の共同研究の募集についても実施した。
研究費不正使用防止委員会	委員（全学）	他教員の科研費の支出状況の監査業務を行った。
ボランティアセンター運営委員会	副委員長（全学）	第1回ボランティアセンター運営委員会の事前会議に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外

2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市国民保護協議会	委員	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
日本・イラク合同文化遺産研究シンポジウム：古代メソポタミアのシュメール・アッカド地域を中心とした文化遺産研究と国際協力	企画・運営・発表	2025/1/26	国立科学博物館	テル・シンカー調査チーム

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】　大学院修士課程の学生3名への論文指導を主指導教員として継続中。学部では、継続して歴史に興味がある学生を幅広く受け入れられる内容のゼミ授業にするため変更を加えている。

【研究】　研究代表者として科学研究費「挑戦的研究（開拓）25,480,000円」に採択された。2024年10月に日本の学会において

口頭発表を1本行った。2025年1月26日に国立科学博物館で「古代メソポタミア・シンポジウム」を主導企画し、開催予定である。
【大学運営等】　上述で掲げた目標をすべて達成することができたと自己評価している。

研究代表者として科学研究費「挑戦的研究（開拓）：人類初の統一国家古代メソポタミア・アッカド王朝の首都アガデの日本・イラク合同調査：2,5480,000円」に採択されたことが今年度最大の功績といえる。今後4年間継続されるため、国際的に評価される研究結果が得られるようしっかりとした研究活動を行っていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 佐野　香織

1．教育理念

私の出発点でもあり研究関心は、異なる人々が共に学びよりよい社会を培うための日本語教育です。興味・関心を拡げ深めながら学ぶことと、ことばを共に培う教育実践を国内外で行って参りました。それは、人材育成の観点からも、興味・関心の学びとことばの教育は分けて考えることができるものではなく、共に育み培っていくものであると考えているためです。こうした観点から、研究、学生教育、教師教育の往還をめざし,実践を行っています。具体的には主に以下のようなことをしてきました。

１）ローカルな課題とグローバルな視座の学習デザイン・学習環境設計

①のローカルな発見から課題解決へのプロセスには、成人学習論、学習環境設計の理論が関わっています。自らのローカルな実践をふりかえり、グローバルな視座で主体的に学びあう学習環境デザイン、ラーニングコモンズにおける学習支援環境設計と運営、MOOCsを用いて自己決定感を持ちながら、自己調整学習を可能とする学習支援の企画開発・実践等を行ってきました。

２）協働で地域とことばを創るクリエイティブ・ラーニング

現在、複言語・複文化が進むことが想定される日本社会に対応した新たなことばの考え方、ことばの教育が求められています。留学生は日本の街に一時的に訪れる「お客様」としての存在だけではなく、留学生もまた、市民と一緒に安全で快適な、持続可能なまちを創ることに貢献できる存在です。私は、この「つくる」という経験を通して学び、共にことばをつくる観点から、次のような実践研究をしてきました。　1)「やさしい日本語」をつくる地域実践、2)SDGs達成をめざし、「食品ロス」の課題解決から、文化としてのそのまちの「食」、人のつながりをつくることば、まちの食と人の持続可能な仕組みづくりとモデル化をめざした実践研究

３）「体験の言語化」を通した、社会参加をめざした教育

身の回りの生活や文化を通して、社会にかかわり、社会に働きかけるための新たなことばと学びを「つくる」ことを念頭においた教育をめざします。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
日本語教育実習	15/15(後期)	2	1	⑦⑪⑫
卒業研究	15/15(通年)	4	8	⑥⑫
日本語Ⅳ	30/30(前期)	2	3	②③⑧⑨⑩
日本文化論	8/15(後期)	2	75	①④⑤⑥⑧⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑧⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	7	②③⑧⑨⑩
言語と文化	15/15(前期)	2	84	①⑥⑦⑧⑨⑪⑫
日本語Ⅳ	30/30(後期)	2	3	①⑥⑦⑧⑩
教養セミナーA	15/15(前期)	1	13	①④⑤⑦⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	11	①⑥⑦⑧⑩
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	9	①④⑤⑦⑩
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑩
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑤
アカデミックジャパニーズⅡＡ	15/15(前期)	2	10	①④⑤
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	8	②④⑩
言語と文化B	15/15(後期)	2	16	①④

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
まちづくりマネジメント特講	7/15(前期)	2	9
異文化理解特講	15/15(後期)	2	1
異文化理解特講	15/15(後期)	2	3

事例研究（異文化理解）	15/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

あらたな取組に関しては、概ね好評であったことから、次回以降に生かしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「多様な人が多様な関心を持って生きる社会と学びをつくる」観点をもとに、ことばの学びに軸を持って多様な領域を横断しながら実践と研究を続けている。科研研究　「産学官民協働まちづくりアクターとしての地域日本語教育：新たな価値協創をめざして」において、地域と連携した実践研究をすすめている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	2	0	5	1	1	370万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

『ことばが紡がれると き 対人関係職の「専門 性」を高めるために』／共著・編著／2024年11月／成文堂／ｐｐ.17 ~31，ｐｐ.129~153

『アートベース・リサーチ・ハンドブック』第37章　翻訳／共著・編著／2024年9月／福村出版／ 9784571410789

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

「「共生」の名のもとに日本社会はどのように形成されるのか　令和7年度各府省庁予算概算要求概要言説の考察」／2025年3月／長崎国際大学論叢／29頁～41頁／単著／論文

「何かが生まれる」ときを記録する―産学民のまちのひとの羅生門的手法による語り／2024年12月／言語文化教育研究　第22巻／https://doi.org/10.14960/gbkkg.22.306／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

「産官学民でまちを考える活動におけるアクターの「専門性」-協働省察による試みから」／2024年6月／日本言語政策学会　第26回研究大会

「大学日本語教師養成課程の日本語教育実習を引受先の日本語学校とのふりかえりで考える」／2024年8月／2024年日本語教育国際研究大会（ICJLE2024）

「日本語教育を社会にひらく実践の批判的検討―複数の視点を交差させる協働省察の可能性」／2024年11月／2024 年度日本語教育学会秋季大会

「日々の小さな色々なものと「ちょっと」ずつ，つながりながらまちで生きる活動実践」／2024年12月／第8回多文化社会実践研究フォーラムラウンドテーブル

「「今よりちょっといいまち」を実現することば「地域日本語」のデザイン―「まちづくり」「コミュニティデザイン」「エリアマネジメント」の主語を通して考える―」／2025年3月／言語文化教育研究学会　第11回年次大会　パネルセッション

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「産学官民協働まちづくりアクター科学研究費補助金　基盤C 2023年4月~206年3月 370万円 としての地域日本語教育：新たな価 値協創をめざして」	科学研究費補助金　基盤C	2023年4月~2026年3月	370万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	副委員長	長崎国際大学論叢第24巻発刊　大学レポジストリの整備、学術研究報告会開催
キャリア委員会	委員	短期インターンシップ　留学生のキャリア開発
ハラスメント相談員	相談員	観光学科ハラスメント相談員として任務を遂行した。
学生相談員	相談員	学生相談員として任務を遂行した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①オープンキャンパスでの広報活動

②メディアでの活動掲載

・三川内町おくんちにおけるゼミ、留学生活動　長崎新聞　2024年10月

・ながさき佐世保で多文化共生を考えるセミナー主催　長崎新聞　2025年1月

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	欠席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「「自」文化、「異」文化を考える ー異なる人とともに生きる社会づくりへのヒント」	2024年5月31日	アルカス佐世保	第51回九州西教区寺庭婦人研修会

「地域の「日本語教室」を開設する意義　市町村の役割」令和６年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業「日本語教室開設に向けた研究協議会」	2025年1月31日	オンライン	文部科学省総合教育政策局日本語教育課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
令和6年度　長崎県地域日本語教育推進事業総合調整会議委員	委員	令和6年4月～現在に至る	長崎県文化観光国際部国際課
文部科学省令和 6 年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」 有識者会議	委員	令和6年7月～現在に至る	文部科学省総合教育政策局日本語教育課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・三川内町おくんちにおける地域連携活動
・佐世保市における多文化共生ボランティア活動
・こども食堂　せかいテーブル
・多文化共生セミナーの開催（佐世保市コミュニティ協働・推進課との共催）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

・日本語教師養成課程で日本語教員をめざす学生へのキャリア教育を行うことができ、日本語教員を2名送り出すことができた。

・留学生教育への移行期間として、日本語教育の整備、日本語力評価方法の整備を行うことができた。

・科研研究２年目のスタートアップの実践と成果を出すことができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 竹田　文雄

1．教育理念

実務家教員であるからこそ出来る教育の在り方を常に考え、そして常に進化向上させていくことに力点を置く。
学生に対しては、常に以下の４点を求めていく。
・世間の動きを知ることを心掛けて、「様々なことに興味や関心を持つことを習慣化」する。
・「自身の意見をまとめる力」を伸ばす。
・自身のまとめた意見を他者とシェアすることで、「自身の意見を伝える力」を伸ばす。
・意見を出し合うことで、自分自身の「聴く力」と「語る力」を伸ばす。
以上の４点について、学生が自発的に取り組むように後押しをしていく。
そして長崎国際大学の学生を、ホスピタリティに溢れた、どこででも誰とでも堂々と渡り合える社会人となれるように育成していきたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(通年)	4	8	②④⑥⑦
海外観光資源Ａ	15/15(後期)	2	169	②⑨
地域観光研究B（ｱﾒﾘｶ･ﾖｰﾛｯﾊﾟ）	15/15(前期)	2	107	②⑨
観光倫理	4/15(前期)	2	203	①③
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	②④⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	8	②④⑥⑦
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	13	①②⑩⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	①②⑩⑫
航空業論	15/15(前期)	2	130	②⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	10	①⑥⑦⑧⑩⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	4	①②⑩⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	4	①②⑩⑫
旅行ビジネス英語	15/15(前期)	2	22	②⑨
ツアープランニング	15/15(後期)	2	57	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

スムーズな授業運営を第一に考え、あらゆる面において担当授業の準備とフォローアップを優先させました。また前年度の省察を踏まえた上で、資料の作成とその活用手法、および授業自体の進行手法についての改善を施すことができたと自己レビューしております。

＝授業アンケートの結果＝

前期；地域観光研究B（ｱﾒﾘｶ･ﾖｰﾛｯﾊﾟ）　＞授業内容の理解度：4.5　＞授業参加満足度：4.6
前期：教養セミナー　＞セミナー参加満足度：4.0
後期：海外観光資源A　＞授業内容の理解度：4.5　＞授業参加満足度：4.6

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・観光公害とオーバーツーリズム

・中世イタリアの都市国家群

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

観光都市ヴェネツィアの現状と今後の展望 ―2023年9月、危機遺産リスト登録の勧告を踏まえての一考察―／2024年4月／長崎国際大学論叢第24巻／93頁～106頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	副委員長	・毎月の委員会審議内容を学部教授会審議にダウンロードし、その結果を再び委員会へアップロードすることに注力した。 ・入試の学力試験会場では受験生への応対に留意し、受験生の本学への入学動機の向上を心掛けた。入試面接も同様である。 ・入試募集媒体（NIU STUDY、NIU LIFEなど）の改編に参画し、より魅力的な内容に改編できた。 ・令和7年海外入試ネパール会場での現地監督を遂行。 ・入試・募集委員会副委員長として、委員長をサポートしつつ、毎回の会議および委員会活動がスムーズに運営されるように注力した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①男子硬式テニス部　顧問

②女子硬式テニス部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
6	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
語学・国際ビジネス・ホテルの仕事について	5月22日	長崎県立 長崎明誠高校	長崎県立 長崎明誠高校
海外観光に関する講義	6月11日	長崎県立 清峰高校	長崎県立 清峰高校
観光に関する模擬授業	6月20日	長崎国際大学 1101教室	福井県立 福井南高校
観光学に関する模擬授業	6月21日	長崎国際大学 1101教室	長崎県立 佐世保東翔高校
中大連携事業　観光学科で学べること	7月11日	長崎国際大学 2204教室	佐世保市立 北中学校
観光・旅行の仕事に就くために	2月13日	創成館高校	創成館高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県消費生活審議会	委員	令和3年度より現在に至る	長崎県県民生活環境部 食品安全・消費生活課
一般社団法人大学ゴルフ授業研究会	委員	令和3年度より現在に至る	一般社団法人大学ゴルフ授業研究会
九州・長崎 国際観光人材育成コンソー委員会	委員	令和3年度より現在に至る	長崎県および佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県平戸市の「アルベルゴ・デイフーゾタウン」正式認証に向けたサポート活動（年間活動）。

（平戸市 文化観光商工部 観光課へのサポート活動）

・10月27日「担当ゼミ生を帯同して平戸アルベルゴ・デイフーゾ候補物件の視察を実施。

観光課への報告および本学HPに当該活動の紹介を掲載。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

スムーズな授業運営を第一に考え、あらゆる面において担当授業の準備とフォローアップを優先させました。しかしながら前期・後期のいずれにおいても、資料の作成とその活用手法、および授業自体の進行手法については、さらなる改善の余地があることを自己レビューしております。

次年度に向けてはポートフォリオを一層活用するように心がけてまいります。特に、マナバを用いて学生から収集する授業後コメントにて自身が気が付かなかった留意点や改善点を確認し、都度対応をすることで授業内容の向上を計ります。

また同時に、学生からのグッドコメントについても次年度の授業準備プロセスにフィードバックすることで、履修学生の受講満足度の向上を目指してまいります。

そして令和 6年度に得た知見を担当授業の運営に反映させて、授業運営の一層の充実を図ってまいります。さらには、九文法人全体、大学、学部、学科の運営に一層寄与できるように努めてまいります。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 Thom W Rawson

1．教育理念

私達は自らやってみることによって一番良く物事を学ぶ。伝統的な講義において、アイデアや考えは教授から学生へと伝えられる。このような学び方は有効である。しかしながら本当の学びと理解は実際に経験することによって得られると私は思っている。

誰かが、家がどのようにして建てられたについて話をしているのを聞くことにより、あなたが建築について少しは学ぶ事ができるのが良い例である。 誰かが家を作っているのをみて、あなたはさらに多くの事を学ぶだろう。しかしながら、一度最初から最後まで実際に家を建てる工程に関われば、その仕事を達成する知識を完全に得る事が出来る。

私が学生たちに英語を教える時、学生たちがその言語を使うときに一番活動的になる。私の講義を聞くことによって耳を慣れさせる事は出来るが、英語を使うスキルは、彼らが実際に練習するまでは基本的なレベルのままである。 それらの練習を助けるため、私は学生達に教室の外で学ぶ技術を大事にするように伝えている。 良い英語の勉強法を教えてあげて、それに慣れる事により、学生達は授業が終わった後でもずっと学び続ける事が可能である。

We learn things best by doing those things ourselves.

In a traditional lecture, ideas and thoughts are transferred from the teacher to the student. This way of learning can be effective. However, I believe real learning and understanding come from getting firsthand experiences. A good example is that by listening to someone talk about how a house is built, you can learn a bit about house building. Watching someone making a house, you will learn a lot more. However, once one participates in the actual process of building a house with the builder from start to finish, the knowledge of how to accomplish this task is fully realized.

When I teach English to students, the most active learning happens when the students make use of the language. Listening to my lecture helps to train their ears, but their skills in using English remain at a basic level until they can get firsthand practice. To support these practices, I require students to focus on the skills they need to learn outside of the classroom. By teaching good English study habits, students can carry on with learning long after the class is finished.

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
English Writing Skills Ⅱ	30/30(後期)	2	20	④⑧
英会話	30/30(後期)	2	9	①②③④
English Writing Skills Ⅲ	30/30(前期)	2	19	④⑧
英語ⅠA	15/15(前期)	1	18	①②
英語ⅡA	15/15(後期)	1	29	①②
Practical English ⅡB	30/30(後期)	2	19	①②③④⑤
English Reading Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	19	①④⑪
Practical English ⅠB	15/15(前期)	2	22	①②③④⑤
Practical English ⅢA	15/15(前期)	1	18	②③④
英語ⅡB	15/15(後期)	1	15	①②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Information Technology	15/15(後期)	2	1
Information Technology	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

I was satisfied with the course questionnaires from both the spring semester and the fall semester. In general, I was scored in the 4.5 range on average for every course.

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

Education technology to support learning in a blended classroom environment.

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Developing a Moodle User Guide for Students and Faculty／2024/02/18／2024 MoodleMoot Japan

Moodle-ception: Plugging a Moodle into another Moodle using LTI and Google Assignments with Moodle／2024/02/18／2024 MoodleMoot Japan

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	副委員長	委員会の動議と発表は、毎月の教授会で報告される。
グローバル・ツーリズム委員会	委員長	グローバル・ツーリズム・コースのカリキュラムとアクティビティを編成する。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	-	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	-	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	-	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	-	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	-	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	-	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	-	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	-	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
Moodle Association of Japan	Vice president	2023/04/01	2025/03/31

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

6．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

2024 Best teacher, innovation category

8．活動全般についての自己点検・評価

I've worked hard at this university for the past 11 years. I'm grateful for the opportunities I had to teach the

students and to do the research I wanted to do during my time here. I wish all faculty and staff and students all the success and happiness they deserve in life.

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 森尾　真之

1．教育理念

大学は社会のハブとして、元気な地域社会と成長する学生を育てるバックエンジン。
人材育成において社会に資する最も大切な力は「絵を描く力＝構想力」。
そのため学生一人一人の可能性を信じて、「感じる」場を提供すること。
そして胸を張って夢を語る学生を一人でも多く育てたい。
１．「学生同士が出会う場所」で仲間との学びを通して感じる。
２．「実社会との接点」のインプットで、社会とのかかわりと自分の可能性を感じる。
３．「思いを実現できる場所」で考えが現実化するダイナミズムと達成感を感じる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
インターンシップB	5/5(通年)	2	23	④⑦⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	11	②④⑥⑦
旅行業務エキスパートＩB	8/15(通年)	2	4	①⑨
国内旅行実務	15/15(前期)	2	49	①⑩
地域産業の魅力	15/15(後期)	2	109	①②⑥⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	7	②⑥⑦⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	6	②⑥⑦⑫
国内観光資源	15/15(前期)	2	105	①⑩
旅行業論	15/15(後期)	2	56	①⑨⑩
旅行業務エキスパートＩA	8/15(前期)	2	17	①⑨
長期インターンシップ	5/5(前期)	8	1	④⑦⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	11	①③④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	11	②⑥⑦⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	12	②④⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	12	②④⑥⑦
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	11	②⑥⑦⑫
MICE論	15/15(後期)	2	27	②⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光マーケティング特講	15/15(前期)	2	2
観光マーケティング特講	15/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

アンケートはほぼ4.5レベルの評価であるが、年々学生の授業への取り組みの態度に大きな格差が生じており、このままだと取り組まない学生より真剣に取り組む学生に対しての対応が疎かになることが危惧される。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡女学院大学	旅行業務研究A	15/15(前期)	2	15
福岡女学院大学	旅行業務研究B	15/15(前期集中)	2	15

福岡女学院大学	旅行業務研究C	15/15(前期)	2	15
福岡女学院大学	観光と文化J	15/15(後期)	2	14

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

大村湾の一体的な観光地経営

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
地域ブランド強化のための観光コンテンツ開発連携業務	川棚町	令和6年4月1日～令和7年2月28日	60万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	副委員長	広報イベントすべての実施見直し。広報予算の使途について再検討。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①ゴルフ部顧問

②バトミントン部顧問

③NIULABO（文化サークル）顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外

2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
大村湾の観光を考える	25年1月29日	coto大村	日本財団（海と日本プロジェクト）

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
東彼杵町総合戦略推進会議	委員	通年	東彼杵町

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

4月20日・21日　アースデイ川棚実行委員として参加（学生40名）
11月10日　香川第九へのボランティア参加（学生2名）
12月8日　第一生命ボッチャ大会の開催（学生20名）
12月15日　川棚町栄町商店街活性化企画（学生7名）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞（アウトリーチ部門）

８．活動全般についての自己点検・評価

次年度につながる活動が多く、県内関係各所や企業との連携が一層進むものと考えております。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和６(2024)年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 井畑　敦子

１．教育理念

第一に、教育の対象である学生を中心に置くということを掲げている。これは専門である医療人類学のアプローチによる。アクティブにコンフォートゾーンを飛び出し異文化理解を通して人間の探求するこの学問は、文献のみの限定的な情報で終わらず、フィールドワークという実体験を通して現場の声や風景から真実に近づく質的調査の手法を確立した。権威的な理論で一般化していく演繹ではなく、目の前の現実から推論する帰納法から成る。「王様は本当に裸か」と問うたように、世間の当たり前を疑い、うのみにせずに様々な実際のソースから反証を試みる姿勢は実証科学でありクリティカルシンキングがよってたつものである。下線は本学はもとより昨今グローバル化を掲げる大学が学際的に推進するキーワードであり、文化人類学を体現する。つまり、自分が担当するどの授業も受講者の声で構成し、クラスメイキングの主役は学生とし、教育は教員ではなく学生のためにあるとする。前提であるはずのこの教育理念は、しかし、教育界でさほど省みられることがない。また、こうした主客転倒の事象は、医療はもとより政治、産業など近代文化のあらゆる営みにも散見され、そのいきつく先がSDGｓと叫ばれる課題群といえる。コロナ以前から、時代はとっくに予測困難で目まぐるしく複雑に変動する不確定なＶＵＣＡ時代であったし、いかに突発的でつかみどころのない状況に臨機応変に対応するかが、この国では少子化も相まって一層求められる。

先の見えない時代を先取りし、限られた手持ちや前例に思考を限定されることなく、見えるものだけでなくその背景を観るつまり全体的な把握に基づく発見を通して積極的に仮説を打ち立て、すべての可能性にアクセスしていく解決志向のアブダクションまたは拡張的論理生成が、特に英語を通して世界に開かれていく次世代には今後不可欠なものとされる。

卒後においてもリスクマネジメントができるように、移民流入が見込まれる中にあっても飲み込まれず力強く日本人として誇りを持ちプレゼンスを打ち立てれるように、どんな相手に対しても存在と文化を尊重し対等に渡り合えるように、それまで客体とされていた学生を本来の教育の主体に取り戻すことが今こそ望まれる。

英語の授業において一部具体的すると、グーグルクラスでICTを促し、毎回詳細なリアクションペーパーを課して都度の学びを可視化し、アーカイブ化している。反転授業と反復学習で復習と定着を促し、英作文や語彙拡張につなげ、まねびがまなびになる。またそのフィードバックはクラス全員と共有され、仲間同士の刺激やインスピレーションにもつながり、互いの理解度と成長を高めあうものとなっており、分析的思考力も磨かれる。毎回質問、提案や改善点を聞き理解度を測るので、次の授業に反映でき、授業構成自体もその蓄積により、進度、深度を調整していく。よってカスタマイズが可能であり、毎年、毎回の授業を作っているのは、ゆえにまさに学生の声である。しかし安直な近視眼的見方に陥ることなく声なき声に聞き耳を立て、真に将来必要なインプットは何なのか長期的な展望をもって客観的に提示し、メタ認知的な捉え方を共有することにも努めている。俯瞰的な視点は、個を超えた包括的な見方が可能な教育者に不可欠であり、本学園教育の理念でもある「全人教育」にも通じ、看護でいうところの「全人的医療」が目指すものでもある。前任地では看護学校にて異文化コミュニケーションを教えていた。そこでは身体や精神などの一側面から患者としてのみ見るのではなく、人格や社会的立場なども含めた総合的な観点から医療を一人の生活、人生の一部としてとらえ、症例という対象としてではなく主体的な市民として尊重し、看護文化における他者理解を促してきた。これは、知・情・意・徳・体の均衡を保つ人格形成を目指す本学園の理念にも通ずるものであり、人類学のホリスティックアプローチでもある。全地球的な視野に立つには、対象に寄り添い代弁するだけでなくそれを一部とした全体像に相対化し、科学的に実像に迫り効果的な実装に近づく人類学のまなざしが不可欠である。

中でも根幹をなすのは対象を主体へシフトするドライブともなる自己成長力への着目であり、ナイチンゲールがいうところの自己治癒力に通ずる。癒す力は本来患者の中にあり、看護が最適な環境を整えれば自ずと発現するように、全ての学生は学ぶ力を潜在的に秘めている。教員はそのポテンシャルが最大限に発揮されるよう整えることにその矜持があり、花咲せる主役はあくまでも学生である。その環境整備、和敬清寂、土づくりが裏方として、おもてなしとして最善へと導き、この関係性を踏まえれば、表現方法としての授業形態や教授法は自ずと定まってくる。しかしこの土台がぶれると全てが崩れるので、ここで確認する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(通年)	4	6	④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
English Writing Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	21	②⑤⑥⑦⑩⑪
Practical English ⅡA	30/30(後期)	2	19	②④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	7	①③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	7	①③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

English Writing Skills Ⅱ	30/30(後期)	2	20	②④⑤⑥⑦⑧⑩⑪
教養セミナーA	15/15(前期)	1	12	⑤⑥⑦⑧⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	⑤⑥⑦⑧⑪⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	6	①③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	5	①③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫
English Reading Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	19	②④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	3	①③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	2	①③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

英語科目に関しては、本学において１４年間担当されてきた教員が主導権を持てるようにという大学からの指導があり、その通りにした。こちらのアイデアの反映がなくTeam Teachingが成立する難しさを感じた。しかし、Writingの前期の担当教員とは意見交換をよくして協働できたので、この限りではない。

専門演習に関しては、学生の要望を汲み取りフィールドワークを増やしたが、指示待ちでなく自ら動く重要性を事前に伝えても実戦に伴わず、教員側の準備の労力とかかる時間が大きく、今後の継続が困難だと感じてる。しかし、学外での現地調査の学びのインパクトは大きく異議を感じるので、バランスをとりながら授業内容を充実させていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

デジタルツインズによる水質保全と水害予防

マレーシアとインドの先住文化観光と伝統文化保全

プラネタリーメンタルヘルスとリテラシー

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

インド北東部少数民族の思惟の造形とその比較文化的考察／8月20日／アジア民族造形学会総会

プラネタリーメンタルヘルスへの試論／11月24日／多文化間精神医学学会

Planetary Tourism as the Solution for Sustainable Indigenous Culture Preservation and Mainstreaming It for the Future Education／11月26日／国際アジア教育学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティア委員会	委員	委員会に出席、活動に貢献した。
ハラスメント対策委員会	委員	委員会に出席、活動に貢献した。
オープンキャンパス委員会	委員	委員会に出席、活動に貢献した。
学事委員会　オリエンテーション	委員	委員会に出席、活動に貢献した。
国際観光学会	編集委員　幹事	委員会に出席、活動に貢献した。
GTコース委員会	委員	面接など活動に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

５月４日、１１月１６日、市教育委員会共催、佐世保Expo 実行委員、ブースにゼミとしてボランティア参加
１０月１４日　いしきの不思議、NPO佐世保市の公共事業を考える会主催、実行委員、ゼミとしてボランティア参加
１０月２０日　宮地区自治体主催、宮ふれあい祭り　実行委員、ブースにゼミとしてボランティア参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
佐世保Expo	佐世保市民が英語に触れる	５月４日、１１月１６日	佐世保市教育委員会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
アジア民族造形文化学会	講演	８月２４日	明治大学	同学会
多文化間精神医学学会総会	発表	11月24日	国際医療福祉大学	同学会
アジア国際教育学会	発表　分科会座長	11月26日	都市センター	同学会

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

全般としては、２年目ということもあり、教務以外の事務的な業務が格段に増え、本来の授業研究や学術研究に割り当てる時間がさらに減少した。これまでのように、英語を得意としない学生の学習意欲が上がり、学習時間が蓄積するようにモチベーション向上を促すクラス構成をし、フィードドバックをもとに授業内容を調整するよう進めたかったが、後期のTTの教員とは当事者中心、学生中心の視座が共有できず、結果として学生のモチベーション低下につながった。課題に取り組まない学生がこれまでになく多く見られ、教材の進行や内容の大幅な見直しが要求され提出物の確認や添削に時間が費やされた。取りこぼすことなく全体を底上げすることにつながったが、一方で課題に真摯に取り組み、順調な伸びを見せていたCEFER上位層が取り残された形となったので、これまでのやり方で伸びた学生が学習意欲の変化が見られない多勢に引っ張られる形にしたい。本来の大学としてのレベルを保ち成果が求められるのであれば、課題をこなすことにより英語力とアカデミックスキルが確実に伸びる基礎学力のある層に今後はフォーカスする必要性を感じる。もしくは学生がピアラーニングを通してサポートしあえる関係づくりの構築もより一層重要であると考える。今後は表面的な満足度をあげることに妥協せず、卒後を踏まえ真に学生が将来必要とする英語はもとより世界に通用するコミュニケーションスキルを英語を通して身につけれるよう、また強靭な精神と少々のことでは怯まない忍耐力と度胸が培える環境を提供していきたい。
研究に関しては、これまでの調査研究を形にしていくことに注力していきたい。自らの専門である文化人類学からの知見をより反映させ、豊かな学術的学びを提供していければと考える。専門演習をはじめ、留学生を受け持つ事が増えていくので、自らの留学経験を活かし、スムーズな指導やアドバイスをこれまで以上に提供し、授業はもとより大学全体の国際交流が円滑に進むように尽力したい。また、国際観光ということで、観光人類学や周辺領域の知見をより深め、今後の学科や大学のさらなるブランディング強化にも貢献し、観光を通して地域連携やコミュニティデザインをより豊かなものとし、課題解決に向けて実践的に始動していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 浦郷　淳

1．教育理念

I　think I can.
学びは一生涯続くもの。学校は、その価値に気付く場。
子どもは有能な学び手であり、その学びを支える存在として環境が存在する。
教師は一環境であり，学びの邪魔にはなってはならない。
授業は、単に知識を教授するのではなく、先人の知恵でもある知識に問いかけ、新たなものを見い出し、さらに世に発信する契機となるもの。
子どもを信じ、彼らに「I think I can(私にはできると思う)」そんな自信をもたせること。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国内観光研修C（西日本）	15/15(通年)	2	9	①⑦⑩⑫
国内観光研修D（九州・沖縄）	15/15(通年)	2	35	①⑦⑩⑫
卒業研究	15/15(通年)	4	10	①③⑧⑩⑫
教育実習Ａ	15/15(通年)	4	10	⑦⑫
教育実習Ｂ	15/15(通年)	2	4	⑦⑫
事前・事後指導	3/8(通年)	1	14	⑦⑫
ＩＣＴを活用した教育の理論及び方法	8/8(前期)	1	28	①④⑥⑧⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	11	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	9	①②⑩
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	9	①②⑩
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	10	①⑩
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	10	②⑩
ホスピタリティとSDGs	5/15(前期)	2	228	④⑤⑥⑦⑫
教職実践演習(中・高)	3/15(後期)	2	14	④⑤⑦⑧⑪
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	15	①⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	15	①④⑤⑩
ダイバーシティとグローバル市民論	15/15(後期)	2	164	①④⑥
教育方法論	15/15(後期)	2	46	①③④⑤⑥⑧⑩
教育課程論	15/15(前期)	2	30	①③④⑤⑧⑩⑪
総合的な学習の時間の指導法	8/8(前期)	1	29	①③④⑤⑧⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

1年生の教育方法論では、満足度として、4.7と過去2年と同様の結果であった。学生の予習をもとに授業を展開しているため、その学修を事前に行っている学生はしっかりと効果も見られている。「授業を受けた態度」については経年の評価では一番良い結果であったことから、学習方法が十分浸透したのだと考えられる。
3年生の教育課程論では、満足度として、4.4であったものの，目的意識をもった上で学修に取り組めている学生が多い。どの項目も大学全体の平均は超えており、学生の満足度も高い。
専門演習においても、どの学年においても平均4以上となっており、教育の効果が出ていると言える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	教育方法技術論	5/15(前期)	2	20
西九州大学	教育方法・技術論	8/8(集中)	1	50

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
教員採用試験に向けた模擬試験	3	5	2025年3月4・5・6日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①経験主義と系統主義を結び付けた教育活動の組織と展開

②グループ・モデレーション法を中心とした指導方法改善に資する評価研修法の開発

③児童・生徒の学びを促進する授業展開の在り方と教材開発

④教師が主体的に向かう校内研究の展開

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	4	2	3	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

新たな学び・学校のかたち（3）／共著・編著／2024年4月／「教職の魅力共創」編集委員会/愛知教育大学出版会／共著：1-8頁

算数授業研究vol152号／共著・編著／2024年5月／筑波大学附属小学校算数研究部/東洋館出版社／共著：39頁

子どもと教師の学びと育ち：新時代の探究をひらくポイント61＋α／共著・編著／2024年9月／三学出版／共著：184-188頁

初等教育資料12月号／共著・編著／2024年11月／文部科学省/東洋館出版社／共著：46-49頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

中動態を視点とした生活科授業における書くことに関する一考察／2025年3月／『長崎国際大学論叢』第25巻／１頁～12頁／単著／論文

文理選択・大学選択に教師・保護者が与えた影響に関する研究－A大学学生へのアンケート調査を通して－／2025年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第8巻／1頁～10頁／共著／研究ノート

長崎国際大学学生のVR意識に関する研究／2025年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第8巻／11頁～20頁／共著／研究ノート

「ずれ」を意識した算数科指導法の工夫／2025年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第8巻／21頁～29頁／単著／研究ノート

若手教師の生活科授業づくりに対する意識の要点に関する一考察／2025年3月／せいかつか&そうごう第32号／104頁～115頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

中動態を視点とした生活科授業に関する一考察／2024年6月／日本生活科総合的学習教育学会　第33回全国大会　新潟大会

子どもの学びのつながりを生む教師の関わり／2024年6月／日本生活科総合的学習教育学会　第33回全国大会　新潟大会

生活科まとめから見る学びの質の見取りに関する研究／2024年6月／日本生活科総合的学習教育学会　第33回全国大会　新潟大会

「ずれ」を可視化する算数科指導法の工夫／2024年8月／日本数学教育学会・第106回大阪大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター委員会	委員	人間社会学部国際観光学科の担当者として、学科内意見のとりまとめと委員会での報告、委員会で示されたデータをもとに学科への情報提供に努めた。
教職課程員会	委員	教職課程委員として、教育実習校への訪問、介護等体験施設への訪問等を行った。
教育基盤センター運営委員会	部門長	教育基盤センター運営員会、初年次・共通教育部門長を務めた。入学前教育及び入学前体験会の企画等について、部門の意見を取りまとめ、報告等行った。
学生生活サポート室	室員	学生生活サポート室室員として前期の担当を行った。
国際観光学科オープンキャンパス委員会	委員長	オープンキャンパス委員会の委員長として、4回のオープンキャンパスの企画・運営を行った。
国際観光学科初年次教育委員会	委員	学科内の初年次教育が円滑に進むように、委員長指示に沿って準備等に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ソフトテニス部顧問

フットサルサークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

講演の際には、本学のオープンキャンパス並びに広報活動を行うように努めた。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
50	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
講演：学力向上に向けた学校組織マネジメント	5月	オンライン	佐賀県教育委員会
講演：自ら気付き、考え、行動する主体的な児童の育成	5月1日	鹿島市立明倫小学校	鹿島市立明倫小学校
講演：自ら問いをもち，学びを深める児童の育成	5月15日	鳥栖市立旭小学校	鳥栖市立旭小学校
授業公開：中学1年生道徳　講演：「主体的」について考える	6月24日	嬉野市立吉田中学校	嬉野市立吉田中学校
講演：自ら学びを切り拓く児童の育成	6月26日	鹿島市立能古見小学校	鹿島市立能古見小学校
講演：互いを認め合い，主体的に学ぶ児童の育成	6月27日	武雄市立東川登小学校	武雄市立東川登小学校
講演：変化の大きい時代を生きていくわが子に親として何ができるんだろう？	6月29日	長崎国際大学	長崎国際大学
講演：自ら問いをもち，学びを深める児童の育成	7月3日	鳥栖市立旭小学校	鳥栖市立旭小学校
講演：問いをもって生活し、他者と関わり合いながら、主体的に学び続ける児童の育成	7月10日	嬉野市立轟小学校	嬉野市立轟小学校
議事進行：教育委員会評価委員会	7月24日	鹿島市教育委員会	鹿島市教育委員会
講演：算数がわかり、好きになる子どもの育成	7月25日	佐世保市教育センター	佐世保市教育センター
講演：自ら学びに向かう子どもの育成	7月26日	伊万里市立伊万里小学校	伊万里市立伊万里小学校
講演：学びをつなぐ	7月29日	鳥栖市立旭小学校	鳥栖市立旭小学校
講演：問いの連続とAARサイクルのつながり	7月30日	佐賀県鹿島市立能古見小学校	佐賀県鹿島市立能古見小学校
講演：見取りと評価	7月31日	長崎県佐世保市教育センター	長崎県佐世保市教育センター
司会・指導助言	8月3日	大阪市阪南小学校	日本数学教育学会・第106回大阪大会実行委員会
授業研究協議会のパネリスト	8月6日	筑波大学附属小学校	全国算数授業研究会
授業研究協議会のパネリスト	8月20日	広島大学東千田キャンパス	算数授業を創る会
講演：互いを認め合い，主体的に学ぶ児童の育成	9月18日	武雄市立東川登小学校	武雄市立東川登小学校
議事進行：教育委員会評価委員会	9月19日	佐賀県鹿島市教育委員会	佐賀県鹿島市教育委員会
講演：大野原小中学校の学び方	9月25日	嬉野市立大野原小中学校	嬉野市立大野原小中学校
講演：自ら学びに向かう子どもの姿の育成	9月27日	武雄市立御船が丘小学校	武雄市立御船が丘小学校
講演：自ら考え　伝え合い　深く学ぶことができる児童生徒の育成	9月30日	嬉野市立吉田小学校	嬉野市立吉田小中学校
講演：自ら学びに向かう子どもの姿の育成	10月2日	武雄市立御船が丘小学校	武雄市立御船が丘小学校
ブース担当：SAGAラビリンス version2.0	10月27日	佐賀大学	佐賀大学
講演：自ら問いをもち，学びを深める児童の育成	10月28日	鳥栖市立旭小学校	鳥栖市立旭小学校
講演：算数がわかり、好きになる子どもの育成	10月29日	佐世保市立江上小学校	長崎県佐世保市教育センター
講演：小柳先生の実践発表に何を見出し、何を学ぶか	11月1日	鹿島市立明倫小学校	佐賀県小学校教育研究会生活科・総合的学習部会・鹿島・嬉野・藤津支部
講演：自ら学びを切り拓く児童の育成に向けて何が必要か	11月11日	鹿島市立能古見小学校	鹿島市立能古見小学校

講演：生活科の授業を通して考えたい私たちの授業づくり	11月13日	武雄市立東川登小学校	佐賀県小学校教育研究会生活科・総合的学習部会・武雄支部
指導助言：生活科の授業作り	11月15日	大分県別府市立亀川小学校	佐賀県小学校教育研究会生活科・総合的学習部会・鹿島・嬉野・藤津支部
コーディネーター：次期学習指導要領に向けて	11月16日	佐賀県鳥栖市駅前不動産スタジアム	九州個性化教育学会
講演：算数がわかり、好きになる子どもの育成 ～単位量あたりの大きさを題材に～	11月18日	長崎県佐世保市立大久保小学校	長崎県佐世保市教育センター
サポート：票育活動	11月20日	長崎県立大村工業高等学校	大村市選挙管理委員会
講演：自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業づくり ―「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して―	11月20日	佐賀県嬉野市立塩田小学校	佐賀県嬉野市立塩田小学校
講演：自ら学びに向かう子どもの姿の育成	11月22日	武雄市立御船が丘小学校	武雄市立御船が丘小学校
講演：主体的、協働的に学ぶ児童・生徒の育成	11月27日	唐津市立厳木小中学校	唐津市立厳木小中学校
講演：大野原小中学校だからこそ生み出せる学びと学び方	12月6日	嬉野市立大野原小中学校	嬉野市立大野原小中学校
留学生と交流しよう　コーディネーター	12月11日	佐世保市立祇園小学校	佐世保市立祇園小学校
講演：問いをもって生活し、他者と関わり合いながら、主体的に学び続ける児童の育成 ～2年生かけ算の授業実践を手がかりに～	12月18日	嬉野市立轟小学校	嬉野市立轟小学校
コーディネーター：論文執筆の方策	1月5日	オンライン	日本生活科・総合的学習教育学会
講演：粘り強く、自ら学びに向かう児童の育成 ～ 主体的・対話的に学ぶ授業作りを通して ～	1月7日	小城市立岩松小学校	小城市立岩松小学校
授業公開：「おなじかずずつ」	1月10日	佐賀県鳥栖市立旭小学校	佐賀県鳥栖市立旭小学校
授業公開・研究協議：1年生「おなじかずずつ」	1月17日	熊本県熊本市立力合西小学校	全国算数授業研究会
話題提供：さがすたいる資料作成	1月17日	佐賀県庁	佐賀県県民協働課
運営：指導者研修会	2月8日	サンメッセ鳥栖	佐賀県生活科・総合的学習研究会
講演：令和7年度に向けて主体的、協働的に学ぶ児童・生徒の育成をどう進めていくか？	2月20日	唐津市立厳木小中学校	唐津市立厳木小中学校
協議：次年度の研究の進め方	2月21日	嬉野市立轟小学校	嬉野市立轟小学校
話題提供：さがすたいる資料作成	2月27日	佐賀県庁	佐賀県県民協働課
話題提供：さがすたいる資料作成	3月7日	佐賀県庁	佐賀県県民協働課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐賀県鹿島市教育委員会教育委員会評価委員会	委員長	2024年6月～現在に至る	佐賀県鹿島市教育委員会教育長
佐賀県武雄市立山内中学校学校評価委員	副委員長	2024年6月～現在に至る	佐賀県武雄市立山内中学校長
「さがすたいる」教材制作委員	委員	2025年1月～現在に至る	佐賀県県民環境部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①日本生活科総合的学習教育学会の理事を務め、学会誌編集部員として、論文執筆者セミナー等を担当する。

②日本学校教育学会の広報・デジタル委員会幹事として、ホームページ掲載記事の管理を行う。

③日本数学教育学会実践研究推進部小学校部会幹事を務める。

④九州個性化教育学会事務局長を務める。

⑤新興出版社啓林館から、生活科・算数教科書に関する業務委嘱を受ける。

⑥大村市選挙管理委員会　票育活動について、依頼を受け、参加者募集・事前指導・当日運営等に携わる。

⑦6月29日　リケフェスIN Sasebo の企画・運営に携わる。

⑧10月27日 リケフェス2024　佐賀大学　実験体験会の講座を担当する。
⑨11月9日 NIUキッズキャンパス　ブース担当
⑩2月8日　佐賀県生活科総合的学習教育研究会主催指導者研修会・技術サポート

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

①教育については、担当する4年生の学生全員が卒業を迎えることができ、単位習得、卒論指導ともに適切な指導ができた。1年生～3年生についても、個別指導を行いながら、それぞれの単位習得を促すことができた。教職課程の履修学生についても、しっかりとした指導をできたと考える。
②研究については、論文も5本の採択予定と学会発表が4本あり、数としては良いが、自身の専門分野での研究の充実と、学会への貢献を図っていきたい。
③地域貢献については、長崎県・佐賀県の教育委員会・教育センター・各学校への指導助言、講演等を30回以上行うことができ、自身の研究の還元ができていると考える。また、租税教室を佐世保法人会の方々と継続的に実施し、本年度も中学校で実施することができた。さらに、大村市選挙管理委員会の票育活動にも関わることができた。
④校務については、全学関係業務（教育基盤センター運営委員・IRセンター委員・教職課程委員・相談員）、学科内業務（オープンキャンパス委員長・初年次教育委員）のどちらも、自身の担当する部分についてはしっかりと取り組むことができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 江島　弘晃

1．教育理念

大学機関を通して、高度な学術的および専門的内容を主体とした知識を獲得する学生の育成教育を信条とする。具体的には、学生には、高い専門性と幅広い見識を獲得できるように、自身の講義、実習や専門演習を通して課題認識・課題解決を図る能力を育成する。講義に関しては、運動生理学を軸に授業内容の理解度を高めるために実例を多用したスライドを用いる工夫を行っている。専門演習に関しては学生の卒業論文を学術誌に掲載させることを目標にすることで学生の専門性向上を高めることを心掛けている。

大学教員として学生とともに探求心を育み、研究の醍醐味を理解させ教育することを大学教員としての理念として掲げている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
マリンスポーツⅠ	15/15(前期)	1	4	①⑫
マリンスポーツⅡ	15/15(前期)	1	2	①②⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	8	⑥⑫
武道	15/15(後期)	1	22	④⑪
発育発達論	15/15(前期)	2	81	①②⑨⑩
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	8	⑤⑪⑫
運動生理学	15/15(後期)	2	110	②⑤⑥
スポーツ科学概論	15/15(後期)	2	131	②⑤⑥⑩
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	⑤⑪⑫
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	9	②⑤⑥
健康科学	15/15(前期)	2	69	②⑦⑧⑩⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	12	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	31	④⑤⑪
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	②⑤⑥
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	10	②③⑤⑧
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	10	②③⑤⑧

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

勤務4年目ということで授業で使用するスライドや資料作成に修正を加え、学生が集中しやすい環境整備を図った。授業アンケートでは、概ね学生から理解しやすい、説明が丁寧などの好評を得ることが出来た。実習形式の授業では安全面に留意し、怪我などをおこした学生にも対応できた。教育効果としては授業ごとのレポート提出を求め、学生主体とした教育効果を行うことが出来、次年度ではさらに学生が授業に参加できるよう課題を提出させることで教育効果を担った授業を展開していく。アンケートの評価は次年度と今年度の比較を行うことで授業改善の内容を考慮していく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康と科学	30/30(通年)	2	80
長崎短期大学	スポーツ科学	15/15(後期)	2	3

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

脂質が骨格筋の形態・機能に及ぼす影響

健康増進を打ち出す運動の新規メカニズムの解明

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	3	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

Skeletal Muscle Health in Metabolic Diseases／共著・編著／2024年11月／Bentham books／ISBN: 9789815313932

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Inhibition of the skeletal muscle Lands cycle ameliorates weakness induced by physical inactivity／2024年2月／Journal of cachexia, sarcopenia and muscle／15(1) 319-330／共著／論文

Sedentary behavior in mice induces metabolic inflexibility by suppressing skeletal muscle pyruvate metabolism／2024年4月23日／The Journal of clinical investigation／134(11):e167371／共著／論文

The effects of wearing face masks on the perception and mood of male healthy male adults during treadmill running: A pilot study.／2024年5月／Physiological reports／12(10) e16036／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

UJA留学のすゝめ2024 ～日本の科学技術を推進するネットワーク構築～／2024年11月27日／第47回日本分子生物学会

骨格筋におけるフェロトーシス代謝／2024年9月3日／第78回日本体力医学会大会

Lipid peroxidation regulates muscle atrophy induced by diabetes／November 3-November 8, 2024／IRON, REACTIVE OXYGEN SPECIES & FERROPTOSIS IN LIFE, DEATH & DISEASE

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	長崎国際大学の発行のために原著論文の査読のとりまとめを担当した。また、本学の学術研究報告会の運営を担当する予定である。
スポーツサポートセンター	委員	委員として競技力向上支援部門および地域スポーツ振興・事業開拓部門を担当した。
国際観光学科事務局	学科事務局員	学科会議の打ち合わせを主担当で担当した。また学科長の運営補佐を主担当した。
国際観光学科スポーツツーリズムコース委員会	委員	コースの運営、イベントの企画などを担当した。
オープンキャンパス委員	委員	オープンキャンパスの企画、準備、運営を担当した。
長崎国際大学国際観光学会	主幹事	長崎国際大学国際観光学会の主幹事として評議委員、編集委員運営、補佐、幹事を主として担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

陸上競技部　顧問

剣道サークル　監督

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

九州文化学園オープンスクール講師／2024年8月22日／九州文化学園

キヨモト杯高校テニス大会講師／2024年3月20日／MGレジデンス

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
第78回 日本体力医学会大会（佐賀）	プログラム編集委員	2023年4月 － 2025年3月	日本体力医学会
九州体育・スポーツ学会第73回大会	実行委員	2023年4月 － 2025年3月	九州体育・スポーツ学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

令和6年度「感動する大学スポーツ総合支援事業、スポーツマネジメントセミナー、スポーツ留学とはの講師として登壇

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
UJA×コラボブレインズ「留学のすゝめ」～世界を舞台に！留学で広がるキャリアの可能性～	留学を検討する方への情報提供や支援の場として、そして教育・科学技術行政機関との情報交換および連携の場としての国際的なコミュニティの情報交換会を実施。	12月～1月	UJA:海外日本人研究者ネットワーク

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

The United Japanese researchers Around (UJA) 論文賞2024, 奨励賞,2024年5月

8．活動全般についての自己点検・評価

教育活動では、講義・実習を多数担当した。とくにマリンスポーツ実習の主担当を実施し、満足のいく教育活動を展開できた。
職務では、学科事務局員の主担当員として会議運営、資料準備、事前打ち合わせを担当した。とくに今年度は国際観光学会の主幹事として学会、会議運営を主で担当するすることで学科に大いに貢献できた。他委員活動も概ね職務を全うできた。
社会活動では、2つの学会の実行委員として運営を実施でき、セミナーの登壇、シンポジウムの企画など広報活動に尽力できた。
充実した研究活動を実施することで社会貢献に繋がる活動が出来たと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 川上　知子

1．教育理念

最も大事にしたいことは、学生一人ひとりの実態を把握することである。そのためには、時間を丁寧に共有することを意識したい。少人数のゼミであれば、定期的な個別面談を実施し、学生が何を目指し、どんなことを日々頑張って取り組んでいるのかを把握し、その学生の取り組みを認める声かけを大事にしたい。その積み重ねて構築された信頼関係を土台とし、時には学生自身の悩みや進路相談などにも丁寧に心を傾け、学生の主体的な人生への一歩を応援できる存在の一人となりたい。また、授業で関わる学生においては、週に1、2回の関わりとなることから信頼関係の構築には時間を要するものと思われる。しかし、授業準備や授業の展開、授業後の対応において、名前を意識的に呼ぶようにし、「自分のことを認識してくれている」という学生の自覚を促し、学生の授業内での変容もキャッチし、その成長をしっかりと言語化して伝えることを大事にしたい。学生たちは高い学費を払って学びに来ている、その学びの保証はもちろんだが学生自身の自信と成長を促せるような関わりを大事にしたいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	11	①④⑤⑥⑩⑫
教育実習Ａ	5/60(通年)	4	10	④
教育実習Ｂ	5/30(通年)	2	4	④
事前・事後指導	5/8(通年)	1	14	④⑦
教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。)	15/15(前期)	2	29	②⑤⑩
生徒指導論（栄養）	15/15(後期)	2	1	②⑤⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑩⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑩⑫
生徒指導論	8/8(後期)	1	29	②⑤⑩
進路指導論	8/8(後期)	1	28	②⑤⑩
教職実践演習(中・高)	4/15(後期)	2	14	⑤⑦⑩⑪
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	11	①④⑤⑥⑩⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥⑩⑫
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑩⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	12	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
特別活動論	15/15(前期)	2	29	①⑤⑪
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑩⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

概ね学生の満足度も高い傾向にあったが，毎年学生の実態は変わるため，まずは信頼関係の構築に努めるとともに，教育方法を適宜改善しながら授業を進めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学保育学科	教育経営論	30/30(前期)	2	84

長崎短期大学保育学科	教育方法論	30/30(後期)	2	84

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
教員採用試験面接練習	3	1	2024年7/26,7/31,8/3
教員採用試験模擬授業対応	2	1	2024年7/26,7/31

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「青年期における不登校傾向とアイデンティティ発達との関連」

今年度は，投稿論文の修正対応と次の研究計画のための文献整理を進めた。ただ，博論共に研究計画通りに進めることができず，科研の延長手続きを行った。次年度は，短い時間でも毎日取り組むことで研究の意識を絶やさないよう，時間の捻出を意識して研究活動を維持していきたいと考えている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	2	2	210万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

シンポジウム「青年心理学におけるアウトリーチ活動」　指定討論者として登壇／2024年11月10日／青年心理学会

School-based curriculum management -Teacher education and Lesson study perspective／2024年9月25日／World Association Lesson Studies　世界授業研究大会2024 国際大会（カザフスタン）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
青年期段階の不登校とアイデンティティ発達との関連にみる不登校対応モデルの構築（研究代表者）	日本学術振興会　基盤研究（C）	2022年4月～2025年3月	210万円
「レッスンスタディーとカリキュラムマネジメント教職研修」開発の国際的研究　（分担者）	日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2020年10月 － 2025年3月	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学事委員会（保護者会・卒業式）	学事委員・学事委員長	後期より学事委員長も兼任
CHサポート委員会	運営委員	ピアサポート委員 学生生活サポート室室員（後期より）
教職課程委員会	委員	委員会の決定事項に基づき，対応ができた。また必要に応じて，個別に依頼があった学生に対して，教員採用試験対策を行うことができた。
初年次教育委員会	初年次教育委員	他の委員と連携しながら，特に教養セミナーの円滑な運営に努めることができた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
障がい学生就職支援プロジェクト	メンバー	本格的に関与するのは4月からであるが，2月の会議に参加。国際観光学科のカリキュラムをもとに外部と連携しながら，障がい学生支援プロジェクトの案を作成する。

(3) 課外活動の指導等

バスケットボール部（後期より顧問）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスでの模擬授業

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和6年度福岡県立学校等生徒指導主事研究協議会夏季研修会 講演「不登校との向き合い方ー不登校を通して見えてくることー」　講師	2024年8月16日	福岡リーセントホテル	福岡県立学校等生徒指導主事研究協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
青年心理学会　研究委員会	研究委員	2022年4月～2025年3月	青年心理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

教職員，保護者相談

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
World Association Lesson Studies　世界授業研究大会 2024 国際大会（カザフスタン）	シンポジウム　話題提供登壇	2024年9月25日	カザフスタンアスタナ	共同科研代表研究者

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

学生対応は，信頼関係の構築をもとに，こまやかな対応ができたと考えている。授業においても学生の実態把握を踏まえ，適宜教材等も修正を重ねることができ，本授業における学生の成長・変容を実感することができた。学内業務は，関係者と連携しながらどの委員もすすめることができたと考えている。さいごに，研究においては，時間の捻出等がうまくいかず研究計画通りに進めることができなかった点は大きな反省点であった。この反省を次年度持ち越さないよう，精進したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 John Patrick Owatari-Dorgan

1．教育理念

教員として、学科を教えることだけでなく、学生に必要な機会と必要な力を与えることで、その学生達にとって、より良い人生や人として必要なことを教えることができると、私は信じています。私の教員としての目標は、学ぶことへのモチベーションをアップし保ち、自身で学ぶことの大切さを伝えることです。このことを目標においているので、学生を評価する時は、その学生の能力や成績、知識に重点を置くのではなく、その学生がどのように努力をしたかを見るようにしています。また、学生が、教員の私に対して、気軽に質問や応援、ヘルプを求めやすい雰囲気を心がけています。答えを学生に伝えるのではなく、学生自身に発見、解答を生むことを頭に置いています。このようなことを踏まえ、グループワーク、ディスカッション、ディベート、そして問題解決の思考が大切だと、私は思っています。NIUがアクティブラーニングを大切にしているので、私のこのような教育理念と通ずるものが多いと考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
英語ⅡA	15/15(後期)	1	33	①②
英語ⅠA	15/15(前期)	1	14	①②
Practical English ⅡA	30/30(後期)	2	19	②③④
Practical English ⅠA	30/30(前期)	2	22	②③④
英語ⅠA	15/15(前期)	1	29	①②
英語ⅡA	15/15(後期)	1	24	①②
English Reading Skills Ⅲ	30/30(前期)	2	18	①④⑤⑪
Practical English ⅠB	30/30(前期)	2	22	①②③④⑤
English Reading Skills Ⅱ	30/30(後期)	2	19	①④⑤⑪
Japanese Culture B	15/15(後期)	2	8	②⑤⑥⑨
Japanese Culture A	15/15(前期)	2	10	②⑤⑥⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期、「English Reading Skills Ⅲ」「Practical English ⅠA」の授業で、授業アンケートを実施しました。「Reading Skills III」の授業では、学生満足度は5.0点でした。「Practical English ⅠA」クラスでは、学生の満足度は4.8でした。学生の意見を参考に、授業中の教材を充実させることで、満足度を向上させることができると思います。

後期に「Reading Skills II」クラスと「英語ⅡA」クラスに対して、授業アンケートを実施しました。「Practical English ⅡB」は、グローバル・ツーリズムの授業です。「Reading Skills II」の授業では、満足度は4.8点でした。生徒の満足度は非常に高かったと思います。生徒の感想から、授業中のアクティビティーの説明をもっと充実させることが、授業の改善につながると思います。「英語ⅡA」クラスでの学生満足度は4.4でした。この授業に対する学生の満足度は高かったと思います。授業の改善点はたくさんありました。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	Western Culture	15/15(前期)	1	35
佐賀大学	Intercultural Communication III	15/15(前期)	1	35
佐賀大学	Cultural Metaphors	15/15(後期)	1	35

佐賀大学	Intercultural Communications IV	15/15(後期)	1	35

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマは、教育学、カリキュラムデザイン、言語学、異文化コミュニケーションです。特に、カリキュラム計画、バイリンガリズム、多読、留学、コンピュータ支援学習について研究しています。さらに、私は英語学習者に関する民族誌的研究に興味を持っています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	13	15	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Observations of On-Demand Curriculum Using MOOC Curriculum Methodology／2022年03月／長崎国際大学論叢／59～73／共著／論文

Exploring Modern Japanese Culture with Technology／2022年01月／2021 ICLE SIG Conference Proceedings／9~16／単著／論文

Developing an On-Demand Curriculum using MOOC Curriculum Methodology／2021年03月／長崎国際大学論叢／1~16／共著／論文

Reflections on Implementing ER Across All First-Year English Classes at a University in Japan／2020年03月／長崎国際大学論叢／1~8／共著／論文

Utilizing the Moodle Database Activity for Supporting Student-Centered Learning in Developing an Intensive English Program Curriculum／2019年03月／長崎国際大学論叢／31~44／共著／論文

Preparing Students to Study Abroad in the Netherlands／2019年03月／長崎国際大学論叢／1~10／共著／論文

Preparing Students for IELTS with Weekly Video Journals／2018年08月／2017 KoTESOL Conference Proceedings／60~72／単著／論文

Review of xreading／2017年11月／Extensive Reading in Japan／23~28／共著／論文

Improving the Global Tourism Course Curriculum with Regard to Study Abroad Preparation: Initial Observations on One Student's Experience at a Dutch University／2017年03月／長崎国際大学論叢／127~132／共著／論文

An Exploration of Creative Sentence Writing as a Means for EFL Vocabulary Acquisition／2017年03月／長崎国際大学論叢／97~104／共著／論文

Methodological Changes to an Active Learning Tourism Video Project／2017年03月／長崎国際大学論叢／91~96／共著／論文

The Benefits and Challenges of Using Google Forms with Extensive Reading／2017年03月／2016 PanSIG Conference Proceedings／100~119／共著／論文

Active Learning Tourism Video Project／2016年03月／長崎国際大学論叢／1~12／共著／論文

Supporting Active Learning with Moodle／2015年03月／長崎国際大学論叢／13~22／共著／論文

Building a Sustainable Curriculum／2015年03月／2014 PanSIG Conference Proceedings／98~112／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Google Assignments LTI workshop／2024年2月／2024 MoodleMoot

Developing a Moodle User Guide for Students and Faculty／2024年2月／2024 MoodleMoot

Methods for Managing Classroom Engagement／2024年2月／長崎国際大学　学術研究報告会

Creating a Multi-Lingual User Guide in Moodle／2023年03月／2023 MoodleMoot Japan

Benefits of Asynchronous Debates using Online Tools／2022年11月／48th Annual JALT Conference

Evaluating Three Semesters of On-Demand Courses／2022年2月／2022 MoodleMoot Japan

Exploring Modern Japanese Culture with Technology／2021年11月／47th Annual JALT Conference

Reflections on developing an on-demand curriculum／2021年11月／47th Annual JALT Conference

Teaching Culture in an On-Demand Context／2021年7月／1st ICLE Conference

Developing a Multilingual On-Demand Curriculum for English Communication Classes／2021年2月／2021 MoodleMoot
Implementing a Mobile App for University Classes／2020年11月／46th Annual JALT Conference
Moodle Strategies for On-Demand Lessons／2020年9月／2020 MoodleWeek Japan
Making a MOOC／2020年2月／2020 MoodleMoot Japan
Preparing Students for Study Abroad with Video Journals／2020年2月／16th Annual CamTESOL
Making a MOOC – What We've Learned So Far／2019年11月／45th Annual JALT Conference

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	長崎国際大学における男女共同参画の様々な取り組みについて議論。
グローバルツーリズム 委員会	委員	GT活動や学生の育成について話し合い、計画する。
オープンキャンパス委員会	委員	国際観光学科オープンキャンパスの準備します。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

クラブやサークルの担当ではありません。グローバルツーリズムコースの学生のために、イベントや活動の企画を手伝いました。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

024年2月にNIUで開催されたMoodleMoot Japan 2024学術会議を主催した委員会のメンバー。
佐世保海軍基地での「ひな祭り茶会」の企画をします。
2024年NIU英語スピーチコンテストの企画に協力。
毎年恒例のグローバル・リーダーシップ・フォーラムの企画をします。
佐賀県ディベート大会審査員
佐賀県スピーチコンテスト審査員

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	–	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	–	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	–	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	–	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	–	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	–	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	–	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席

2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
Homestay English Preparation	10月～2月	山内町 農村環境改善センター	たけおワールドフレンズ
Volunteer Morning English Class	4月～2月	武雄市立山内東小学校	武雄市立山内東小学校
Takeo City Christmas Event	12月24日	武雄市こども図書館	武雄市こども図書館

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
JALT（全国語学教育学会）異文化間コミュニケーション支部	財務管理者	2018年6月~現在	国内委員会
Takeo World Friends	委員	2009年4月~現在	国際交流団体

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

5月　ICE-T 異文化交流活動　ボランティア
9月 ICE-T スポーツエベント　ボランティア
11月　ICE-T 国際料理イベント　ボランティア
武雄市国際ウィンターフェスティバルボランティア
武雄市図書館冬の子どもイベントボランティア

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
Troy International Exchange Program	長期留学の手配をしました	2022年8月～2022年12月	トロイ大学留学生サービスセンター
Global College Network Conference	大学の会議でNIUを代表しました。	2025年1月	XABEC専門学校

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

アメリカ留学を企画する。
アメリカでの短期留学を企画する
武雄の中学生に国際交流の準備をさせる。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

GTコースのと英語演習の学生の英語レベルアップに大きく貢献できたと思っています。GTコースの学生は、TOEICテストで学期ごとに50点以上の向上を達成しています。さらに、国際的な大学への入学に使用されるIELTSテストの準備や対策を強化し、学生達もテストで良い結果を残しています。今年度も、GTの講師陣で、よりGTプログラムのレベルアップのために、大規模な復習や反復学習を取り入れています。私は他の英語教師と協力して、基礎英語のカリキュラムをよりよく改善し続けています。学生からのフィードバックをもとに、基礎英語と日本文化の授業に多くの改善を行いました。
研究面では、国際的なオンライン会議で複数の発表をすることができました。新しい科研費プロジェクトに実績を追加し、ま

た、他の先生方と共同で、QLEARNのユーザーガイドを作っているところです。
さらに、他の先生方と協力して、先生方へのQLEARNの活用方法ガイドを作っているところです。また、今年からNIUキャンパスにおいてのツーリズム動画フェスティバルを始めました。
研究面では、国際オンライン会議で複数の発表を行うことができました。また、国際ジャーナルに論文を発表することもできました。新しい科学研究費補助金に応募し、新しいテーマの研究を始められることを希望しています。また、他の教師陣と協力して、アフリカに関するSDGsとボランティア活動に焦点を当てた国際研究プロジェクトに取り組みました。さらに、一般英語コースで使用されるオンラインアプリを改善するための研究プロジェクトにも参加しました。
国際交流センターの英語スタッフが不在だったので、学生たちと一緒に、留学への計画と準備を密に進めました。と同時に、外国の大学とも密に連絡をとり、コロナ禍で数年できていない留学が成功するように努めました。既存の大学と同時に、新たな留学提携大学を増やせるように努力しました。NIUに入学する留学生に対しても、スムーズにNIUに入学できるように、サポートをしました。
キャンパスコミュニティの一員として積極的に活動することを心がけ、他の先生方と密に協力して学生の体験を向上させました。観光学科GT委員会のメンバーとして、学生の留学や将来のキャリアのために全力でサポートしていきます。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 末永　貴久

1．教育理念

長崎国際大学の国際観光学科（特にスポーツツーリズムコース）の学生に対する教育理念を、大学が掲げるホスピタリティを念頭に置き、以下のように考える。

1.スポーツには様々な領域や考え方があることから、多角的な視点を身につけさせる

将来、スポーツ選手だけではなく、コーチ、マネージャー、トレーナー、スポーツ経営者、スポーツジャーナリスト、研究者など、何らかのスポーツに関連する仕事に就くことを考え、それぞれの職種に必要な知識や技術、視点が異なることを踏まえ、多角的な視点を身につけることで、自分が将来どのような仕事に就いても対応できるような、幅広い分野で活躍できる人材を育成する。

2.専門性に富んだ視点を身につけさせる

スポーツにおいては、上記の多角的な視点に加え、それぞれの要素に対する専門的な視点を持つことが求められる。スポーツ指導の種目的な専門性、トレーニング方法を提供することが必要であるように、多角的な視点に加え、深い専門性取り組む視点を身につけさせる。

3.組織運営能力を身につけさせる

スポーツには様々な組織が関わる。例えばクラブやチーム、リーグ、協会などの組織には、それぞれ役割があり、連携が求められる。組織運営能力を身につけることで、チームを成長させるために必要な戦略的な判断や、効果的なマネジメントが可能になる。

4.常に学び続ける姿勢を持たせる

スポーツは日進月歩で進化し、選手のトレーニング方法や戦術、技術も常に進化し続けている。また、スポーツ界に関わる環境も急激に進化していることから、常に新しいアイデアや情報を学び続けることが必要となる。

5.コミュニケーション能力を養う

人としてスポーツに関わる限り、コミュニケーション能力は必須であり、社会からもその能力は求められていると考えられる。常に自分に関わる人の気持ちを考え、行動できる人材に育成していく。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
マリンスポーツⅠ	15/15(前期)	1	4	①②⑪
マリンスポーツⅡ	15/15(前期)	1	2	①②⑪
地域連携活動ⅠA	15/15(前期)	1	40	②④⑥
地域連携活動ⅠB	15/15(後期)	1	41	②④⑥
卒業研究	15/15(通年)	4	6	④⑥⑦⑪⑫
エアロビクス（陸上・水中）	9/15(前期)	1	3	②④⑩⑪
地域スポーツ	15/15(後期)	2	126	④⑤⑩⑪
スポーツ実習B	15/15(後期)	1	38	④⑤⑪
レジスタンストレーニング（理論・実践）	6/15(前期)	2	43	④⑩⑪
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	7	⑤⑪⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	6	⑤⑪⑫
スポーツ社会学	15/15(前期)	2	136	②③④⑤⑥⑩
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	13	②③⑤⑧
スポーツ科学概論	4/15(後期)	2	131	②⑤⑥⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	13	①⑥

コンディショニング	10/15(後期)	1	38	⑩⑪
スポーツ医学	2/15(前期)	2	43	②⑨⑩⑪
教養セミナーA	15/15(前期)	1	12	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
スポーツマネジメント	15/15(前期)	2	79	④⑤⑥⑪
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	14	①⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	13	②③⑤⑧

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業への満足度や内容への興味は概ね良好であった。しかし、実技は4.9という数字であるのに対し、講義は4.4であり、大人数の講義にやや課題が残った。

全体としては、受講学生が教員の意図を理解し、ある程度満足しながら授業に取り組んだことが伺える。その要因としては、授業の前週に次回何をするかを明示し、その内容を調べておくよう指示した。授業当日は、改めて実施方法について資料で示し、学生に主体性を持たせつつ、運動能力やコミュニケーション能力も配慮しながら実施した。

実技と講義の違いや、人数や環境の要因によりシラバスの種目・内容で授業ができないときもあり、変更しながら取り組むこともあったが、事前に学生に伝え、準備をしながら取り組んだため、シラバスとの整合性はある程度あるとの評価を得たと考える。

上記に加え特に実技の授業では、まずは興味を持って楽しく参加できる雰囲気作りを重視した。さらに、熱中症対策や感染対策も取りつつ、スペースや人数を考慮して取り組んだが、注意喚起しながら行動の指示を出したことによって、学生が安心して参加できたのではないかと考える。これらのことにより、大きな問題もなくある程度の満足度を得ることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康と科学	30/30(通年)	2	80
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	地域・在宅看護論	1/15(後期)	1	40
西九州大学	トレーニング論	1/15(後期)	1	50

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
健康運動実践指導者試験対策講座	10	3	2024年10月～1月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者に対するフレイル対策

地域におけるスポーツ・部活動地域移行

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	200万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

長崎県の健康づくりについて―健康長寿日本一に向けた取り組み―／2025年10月／九州体育・スポーツ学会誌／71-72／共著／報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

長崎県の健康づくりについて／9月8日／九州体育・スポーツ学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
感動する大学スポーツ総合事業②大学生指導員の養成・確保に関する実証事業	スポーツ庁	2024年10月～2025年2月	200万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
スポーツサポートセンター会議	副委員長	副委員長として会議運営をサポートし、会議の活性化や決定事項の実現化に向けて活動した。特に後期は会長が替わり、スポーツ庁事業もあったため、中心的に活動した。
入試募集委員会	委員	委員会での発言の他に、委員として募集に関わる学科担当として模擬授業の講師選任や、パンフレットや諸資料作成のための学生や教員の連絡担当としても活動した。
キャリア委員会	委員	学科の就職セミナーやインターンシップなどにおいて、特にスポーツ系の新規開拓や担当をした。
募集委員会	委員	外部からの模擬授業依頼や高大連携活動における担当をし、実際に模擬授業などを開催した。
スポーツツーリズム委員会	委員	スポーツツーリズムコースのまとめ役として、また特に後期はコース長代理として、カリキュラム改編や予算などに対応した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

1) 駅伝部　顧問

2) コンディショニング・トレーナー同好会　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

○「スポーツフェスタ2024」を開催し、外部から500名を超える参加者を集め、スポーツによる地域連携・貢献を行った。

○学科コースにおけるコンディショニングセミナーを開催し、学生は200名以上が参加。学内の競技力向上や学外との連携を行った。

○佐世保市スポーツ振興課と協働し、スポーツマンスイベントの「キッズスポーツ体験会」の企画運営に関わった。当日はゼミ生と共に2ブースを担当し、200名を超える参加者の対応をした。

○高大連携事業の一環として、九州文化学園高等学校のオープンスクール、スポーツ総合の授業に講師として参加した。

○地域連携活動において「中学校部活動地域移行の支援」をカリキュラム化し、中学校の支援を行った。これに伴い、スポーツ庁の助成金を獲得し、また、新聞やインターネットニュースなどに取り上げられ、広報の一端を担った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席

2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
8	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保市東浜町地域支援事業	8/6	東浜第1公民館	佐世保市山澄地域包括支援センター
佐世保市西天神地域支援事業	7/29　11/11	西天神公民館	佐世保市山澄地域包括支援センター
佐世保市副校長・教頭会	7/17	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
長崎県消防学校	6/13	長崎県消防学校	長崎県
佐世保市運動普及推進員養成講座	9/2	佐世保市保健所	佐世保市
九州文化学園高等学校スポーツ総合	7/23	九州文化学園高等学校	九州文化学園高等学校
長崎県消防学校初級幹部	12/5	長崎県消防学校	長崎県
佐々町健康＆食育フェア	3/9	佐々町総合保健センター	佐々町

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県健康ながさき21推進協議会	委員	H26～現在に至る	長崎県
長崎県健康ながさき21身体活動運動専門部会	委員	H29～現在に至る	長崎県
佐世保市健康シップさせぼ21専門部会	委員	R4～現在に至る	佐世保市
長崎県健康長寿日本一推進会議	委員	H29～現在に至る	長崎県

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

日本健康運動指導士会長崎県支部支部長として諸活動に参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

①常勤２年目であり、学内のことに大方慣れたと思う。

②スポーツツーリズムコース（教員５名）において春から教員１名の入れ替わり、そして前期終了時点で２名が退職するという非常事態に見舞われた。後期から１名採用になったものの、「コース長代理」という立場でスポーツツーリズムコースをまとめ、多くの作業対応を行い、成し遂げたと思っている。

③その後期には、自らが担当する「スポーツフェスタ」や「コンディショニングセミナー」などのイベント、佐世保市との協働である「キッズスポーツ体験会」なども開催し、学生の実践的な学修の場を広げ、大学の広報にもつながっていると考える。

④さらに11月～1月にかけては、地域連携活動「中学校部活動地域移行の支援」とスポーツ庁採択事業「感動する大学スポーツ総合事業」においても活動し、特に12月は毎週末セミナーの講師を務めた。また、学長裁量経費による「NIUスポーツアワード」を初開催し、スポーツだけではなく文武両道で頑張っている学生を表彰し、今後のモチベーションアップにつながると考えている。

⑤今年度から駅伝部の顧問に就任した。監督が入れ替わったタイミングであったため、新監督と共に、大会や合宿に参加し選手のサポートを行ったり、スカウト活動も行い、成果を出した。コンディショニングトレーナー同好会としても選手のサポートに取り組んでいる。

⑥スポーツツーリズムコースの学生増加に伴い、ゼミ生も増えている（新２年14名、新３年16名、新４年13名）。スポーツについての講義だけでなく、スポーツイベントの企画や実践的な諸活動を経験させているが、やや手薄になることがあったと思う。次年度の改善点であると考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 張　美慶

1．教育理念

社会が国境を意識しないグローバル化、先進国を中心とする少子高齢化、すべての物がインターネットでつながるIoT（Internet of Things）化へ進んでいる現在、物（モノ）から事（コト）へと価値基準が変化してきている。経済活動も、製造･農林水産･建設（モノ）からサービス業･情報通信･運輸･不動産･金融保険といったサービス産業の時代（コト）に突入し、欧米では対GDP比で80%以上（日本は、71.6%）に達している。サービス産業の財産は人そのものであり、「人財」という漢字が生まれるほど人の能力が経営を左右する。優秀な「人財」を育てる教育の持つ意味は大きい。

一方、21世紀は「観光の時代」と称されるように、未来の高付加価値成長産業になる観光産業が要求する専門的思考と実践力を備えた観光人材養成に重点をおき学生自身が自ら行動する、行動力を教育基盤にしたい。具体的には学生たちが自ら地域社会問題解決、地域振興のためのアイデアを提案し、参加してその結果を発表するよう指導する。このような教育活動は、学生たちのフォロワーシップとリーダーシップを育てることができる。また、教育需要者である学生たちの満足につながるよう常に努力する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(通年)	4	1	⑥⑫
海外観光研修A（ｱｼﾞｱ）	30/30(後期)	2	4	⑦⑩
マーケティング論	15/15(前期)	2	138	①④⑥⑩
テーマパーク論	15/15(後期)	2	102	②③⑥⑩
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	2	②③④⑤⑥
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	2	⑤⑦⑩
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	3	⑤⑦⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	11	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
環境デザイン論	15/15(前期)	2	24	⑩⑪⑫
観光事業論	15/15(前期)	2	190	②④⑤⑥
地域振興論	15/15(後期)	2	76	①②③④⑩
地域の理解と連携	3/15(後期)	2	200	②④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「マーケティング論」

①5点満点で平均4点獲得

②自由記述の項目で発表よりは、もう少し詳しく教えてほしいという要請で、今後は、学生たちの目線に合わせる教育をします。

「観光事業論」

①5点満点で平均4点獲得

②自由記述の項目で韓国の事例を教える時、パワーポイントにハングル文字があって理解しにくかったと感じた学生がいたので、これからは学生の理解度に応じた授業内容にする。

「環境デザイン」

①5点満点で平均4点獲得

②自由記述項目で授業の熱意は感じたが、もう少し分かりやすく説明の必要性と、授業中に私語する学生についてもっと注意します。

「教養セミナーA」
①5点満点で平均4点獲得
②自由記述項目で毎回授業で積極的に話ができて良かったという感想があった。これからも学生たちがお互いに交流できるように授業雰囲気を作っていきたい。
「地域振興論」
①5点満点で平均4点獲得
②本講義は、地域の観光振興のために、地域住民、産業、自治体、学界の役割の重要性が浮き彫りになってきたところ。関係機関の担当者を招待し、現場の活動を伝え、地域振興に向けた観光活動に対する学生たちの理解度を高めようとした。 しかし、何人かの学生は本講義の意図についてよく把握していないようである。観光産業の特性は現場のことを通じて実務スキルを培養することが何より重要であるため、学生たちの理解度を高めるために本講義の意図についてもっと詳細な説明をして本講義を進めていきたい。
「テーマパーク論」
①5点満点で平均4点獲得
②テーマパーク論の授業では、テーマパークの基礎的知識概念と形態について学び、理論的授業のベースをもとにハウステンボスの実務者による講義の形で行われた。本授業を受講した学生たちの授業満足度は大部満足をした。学生たちの意見の中で収斂する内容は今までは要請した学生だけ授業資料を提供をしたが、今後は授業ごとに講義資料をプリントして提供します。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

観光は多様な産業と連携が可能な魅力的な学問であり産業でもある。観光客の需要は、マスツーリズム(Mass Tourism)からSIT(Special Interest Tour)観光までその範囲が拡大している。このような現象は、インターネットの発達でさらに拡大している。
現代社会は、人々の健康増進志向の需要が高まっている。2027年には世界ウェルネス観光市場の規模が8兆5000億ドルで、成長率が52%になるものと予想されている（Global Wellness Institute、2023）。
私が関心のある研究テーマは「ウェルネス観光」と「観光コンテンツ」、すなわちスペシャル観光(SIT)である。安全な衣食住の生活が人間本来の姿であるならば、現在の観光も多様な地域資源を活用した観光コンテンツを一層積極的に開発しなければならない。
　このような観光コンテンツの開発は地域経済の活性化につながるものと考え、研究テーマを特に東アジア地域に適用したい。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

『The Influence of Hallyu Cultural Contents on tourism attitudes and visit intentions: Focusing on Japanese university students 』／2024年10月／観光振興研究(韓国)／297頁~317頁／単著／論文

『About DMO Policy for Sustainable Tourism: Nagasaki, Japan case 』／2024年12月／海洋観光研究(韓国)／29頁~43頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

韓国観光公社の日本及び中国のインバウンド 取り組みについて／2024年10月／旅行ビジネス研究会

Possible Perspectives to Analyze Overtourism／ 2025年3月／SEAMA2025、Ritsumeikan Asia Pacific University (APU)

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
韓国	医療、ウェルネス観光に関する研究	2025年3月20日~2025年3月31日

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
安全衛生委員会	委員	業務連絡を担当し、円滑な委員活動のために貢献した。
人間社会学部事務局	委員	人間社会学部会議の資料作成や行事などの業務担当をして貢献した。
キャリア委員会	委員	学生の長期インターンシップを担当し、実際に学生たちが観光産業を体験し、就職活動に貢献した。
観光学会編集委員会	委員	学生たちの論文審査、修正と編集委員会の連絡業務を担当して貢献した。
海外研修	担当教員	学生の視野を広げるために海外研修を企画し、学生の観光体験に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学科共同研究セミナー	担当教員	留学生の日本文化体験を通じて世界に日本文化を発信し、地域活性化に寄与する。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①就活キックオフプログラム『NIU就活フェア』参加/7月13日/場所:長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
韓国 亀尾市都市再生委員会	委員	令和5年から現在に至る	韓国 亀尾市庁

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
韓国観光について	韓国観光に関する情報を共有	10月27日	旅行ビジネス研究会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
SEAMA 2025	［研究発表］	3月2日	Ritsumeikan Asia Pacific University	主催:Islands Tourism & Hospitality Management 学会研究

(3) その他特記すべき活動

韓国メディアに長崎県の観光振興活動について寄稿する。

①「ローカル観光と交流人口」京畿デイリー、韓国 2024年12月17日

②「小値賀島の地域づくりによる観光客誘致の戦略」 京畿デイリー、韓国 2025年1月27日

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

①講義:授業は授業計画書に従って進められている。

②研究:自分の専門分野である「医療ウェルネス観光」についての研究がまだ行われていないため次年度は自分の専門性を活かして地域発展のための「医療ウェルネス観光」について研究を進めたい。

③業務、行事参加:業務の効率性を高める。次年度も大学の行事は積極的に参加します。

④海外研修プログラム:参加学生が4名にもかかわらず、個人プレーが多く見られた。今回の研修経験をもとに、次年度には研修に参加する生徒たちの心構えと一貫性の取れた行動ができるよう事前、事後告知などをさらに徹底的に行います。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 東出　朋

1．教育理念

・批判的に物事を観察し、自ら課題を見つけて解決に取り組む姿勢を持つ人を育てる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(前期)	4	2	①
日本語教育実習	15/15(後期)	2	1	①
卒業研究	15/15(通年)	4	7	①
日本語入門ライティングA	15/45(前期)	2	13	①
日本語入門ライティングA	15/45(前期)	2	14	①
日本語入門ライティングA	15/45(前期)	2	8	①
日本語入門ライティングB	15/45(後期)	2	15	①
日本語入門ライティングB	15/45(後期)	2	11	①
日本語入門ライティングB	15/45(後期)	2	12	①
日本語コミュニケーションＡ	30/30(前期)	2	15	①
日本語コミュニケーションＡ	30/30(前期)	2	8	①
日本語コミュニケーションＡ	30/30(前期)	2	13	①
日本語コミュニケーションＢ	30/30(後期)	2	12	①
日本語コミュニケーションＢ	30/30(後期)	2	11	①
日本語コミュニケーションＢ	30/30(後期)	2	15	①
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	13	①
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	①
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	13	①
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	11	①
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	11	①
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	228	①
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	11	①
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	6	①
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	7	①
日本語基礎A	15/15(前期)	2	14	①
日本語基礎B	15/15(後期)	2	10	①

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

日々改善している。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

日本語、ロシア語、コミュニケーション

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	2	2	250万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

表現の「ゆれ」をレジスターから考える試論―「と思う」を例に―／2025年3月／長崎国際大学論叢／43頁～50頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
長崎・天草の世界文化遺産と酒蔵を巡るツーリズム	九州本格焼酎協議会	2024年4月～2025年3月	100万円
異文化理解を目指す、言説的アプローチによるロシア語（イン）ポライトネス研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究	2024年4月～2027年3月	150万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	国際観光学科の広報

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

男女バレーボール部顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

焼酎プロジェクトに関する取り組みで新聞・テレビに多数取り上げられた。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席

2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
前夜祭！研究成果をどうアピールするか	2024年11月28日	オンライン	日本語用論学会第27回大会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市し尿収集運搬に係る検討委員会	委員	2023年4月～現在	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

日々努力している。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 小泉　優莉菜

1．教育理念

私は大学教育を受けた人材は、「自ら成長していくこと」、「他者と協力しながら社会で生き生きと活躍できる人材となること」「自身の核となる考えを持つ人材となること」となるように、学生と接していきたいと考えている。
そのために、専門の分野だけでなく、教養の知識を幅広く持っていただくことや、現代だからこそ必要とされる体系的な知識と新しい発想を持つ機会を作っていただくことを目的に、授業の中では学際的な講義を行い、視野を広く持つことの重要性について気づきを持ってほしい。世界規模の視野、さらには宇宙規模の視野をもって考え、他社と事物について語り合い、協働し、真理を追求していこうとする人材を育てたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
博物館実習A	15/15(前期)	1	39	②⑪⑫
博物館実習C	15/15(通年)	1	27	⑦⑪⑫
博物館実習C	15/15(前期)	1	3	⑦⑪⑫
専門演習ⅡA	0/15(前期)	1	3	なし
専門演習ⅡB	0/15(後期)	1	4	なし
博物館実習B	15/15(通年)	1	9	⑦⑪⑫
日本史	15/15(後期)	2	121	②⑫
博物館経営論	15/15(後期)	2	100	②⑤⑥⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	12	⑦⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	⑦⑫
生涯学習概論	15/15(前期)	2	73	②⑫
博物館展示論	15/15(前期)	2	98	②⑫
博物館情報・メディア論	15/15(後期)	2	88	②⑤⑥⑫
文化財保護論	15/15(前期)	2	171	②⑫
民俗学	15/15(後期)	2	132	②⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

自身は、本学で講義している博物館学やその他の日本史、民俗学などの人文学の特徴を「人から人へ文化をつなぐ学問であること」と考えている。実際、文部科学省は、人文学を「人間研究の基礎学」と定義しており、文化の継承、英知の創生、社会への貢献、教育への貢献が求められる学問だとしている。そのため、この学問を学生に深化してもらうためには、単一の研究テーマや教育方法に固執するのではなく、広い視野を持ち、ジャンルを横断した学際的な物事の見方を伝える必要があると考えている。そのため、解答を与える教育ではなく、まずは疑問を持つ力、そしてその解決のために学びを広め深めていく力を養う教育を行った。
また、博物館での業務や文化財の取り扱いのために必要なこととして、常に学生に伝えたことは、知識や技術の他に「他者へ情報を伝達する能力」である。文化財を収集、保管そして調査する事だけではなく、人類の遺産である文化財について人々に伝え次の世代に継承していく能力も、これからの文化財関係者には求められる。現代社会の中では、活字媒体だけではなく、動画、SNSなどをはじめとした様々な情報伝達のメディアがある。学問に直接関連する知識や技術に関して、学生たちに伝えることはもちろんのこと、「いかに人に情報を伝えていくのか」という方法論についても伝えていきたいと考えている。
しかし、初年度であったこともあり、これら全ての考えを100%授業に反映できてはいない。
今後も上記が実行できるよう、自身の知識の進化も含め精進していきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
跡見学園女子大学	日本文化特別講義（オンライン）	15/15(オンライン)	2	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

自身の専門は、無形文化財である。前職では主任学芸員として実務経験を積みまた、学生時より、継続して被災文化財のレスキュー（2007年能登半島地震・2011年東日本大震災・2024年能登半島地震による被災文化財レスキュー）にも携わり、文化財を守り伝えていくことが、人間の社会的な営みを豊かにするということを肌で感じてきた。

文化財に関連し、進めたい研究は様々にあるが現在、特に進めている研究は、「ポスト・キリシタン」の信仰行事、生業の参与観察を継続し、現代の信仰生活の実像を民俗誌として描き出す、というものである。これまで申請者が、研究を遂行する中で常に問題となったのが、すでに伝承は有していないが、かくれキリシタンの末裔を名乗る若い人々が多く存在し、かつ彼らは自分たちのルーツについて独自に研究し、外部の研究者に積極的に協力していることである。彼らを「ポスト・キリシタン」として位置付け、研究を進めるが、彼らを従来の民俗学における「零落史観」によってネガティブにとらえるだけでは、生きた信仰を描き出すことができない。

括弧付きの「伝統的な」キリシタン信仰に、現代社会の倫理観や、社会背景、そして、信者らの文化的価値観を反映したこの新たなキリシタン信仰について、文化創生の一事例として考察を加え、深化させていきたいと考えている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ビジュアル博物館学 Art編／共著・編著／2024年8月／人言洞／168

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Reception of Christianity in Japan and its Influence on Various Arts／2025.2.25／Musical Practices as an Instrument for Spiritual Ascension, Praying and Practicing Faith

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書委員会	委員	学科図書費の執行のため、希望図書の取りまとめを行った。
ボランティア委員会	委員	年初に今年度の本学のボランティア活動の方向性について協議した。
研究倫理委員会	委員	国際観光学科の学生や教員の研究計画を確認し、研究倫理に反していないか確認を行った。
学生委員会	委員	下半期からの人気であったため、引き継ぎ内容の確認をまずは行った。必要事項について国際観光学科教員への周知を行った。

オープンキャンパス委員会	委員	年度内に4回行われるオープンキャンパスにおいて、準備の徹底や当日の運営などを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	欠席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
日本陶芸美術協会　審査員	11月6日	東京	日本陶芸美術協会
日本工芸会近畿支部　監査員	1月21日	京都	日本工芸会近畿支部
公開講座　「無形資料の展示」　講演	12月20日	東京	立正大学
公開講座　「無形の文化財の展示と保存」講演	11月19日	大阪	相愛大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市図書館協議会	評議委員	2024.9〜	佐世保市図書館
佐世保市文化財保存活用地域計画策定協議会	文化財委員	2024.10〜	佐世保市市役所　文化財課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

日本ミュージアム・マネージメント学会
第7回 ミュージアム・マネージメント推進賞
2024.6.1

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は授業準備や学務をこなすことで精一杯であり、あまり諸活動を活発にこなすことができなかった。来年度は研究発表、論文執筆、また社会への貢献活動を積極的に行いたいと考えている。
そのような中、2023年度から編集・執筆を行っていた『ビジュアル博物館学 Art編』が出版できたことは自身にとっても大きな実績であった。また、6月にはミュージアム・マネージメント学会から推進賞も授与され、学生への教育にさらに知識を活かしていきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 長津　恒輝

1．教育理念

私は2つのことを教育理念として掲げ、教育を実践している。

1つ目は「知識の活かし方を学ぶ」である。理論系の授業において、科学的根拠に基づいた最新の情報を教示し、それを学生は単に知識として蓄積するに留まらず、それが実社会でどのように生かされているのか、自身の生活にどうすれば落とし込めるかを考え、実践するところまでを重要視している。それにより学生自身の情報収集力や課題解決力の向上につながると考えているため、各授業の後半や授業後の復習時には、学んだことを実際に試すような課題を提示し、次回以降に振り返る時間を設けている。

2つ目は「できないことへの挑戦」である。これは実技・実習系の授業において特に当てはまる。学生の可能性を引き出すために重要なのは、様々な経験を積むことであり、それは成功・失敗を問わない。ただし、成功を目指してトライするべきであり、成功したら次のステップに挑戦することに意味があると考えている。そのため授業時には、現状や課題の確認、実行後の振り返りをするためにグループディスカッション等で発言する機会を提供するようにしている。また、私も様子を巡視しながら傾聴し、時にはポートフォリオ等を用いて情報を共有することで、ファシリテートできるように努めている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スポーツ実習Ｄ（スキースノーボード実習）	15/15(後期)	1	3	⑦⑪⑫
水泳	5/15(前期)	1	19	⑫
卒業研究	60/60(通年)	4	9	⑥⑫
スノースポーツ	15/15(後期)	1	2	④⑪⑫
教育実習Ａ	5/60(通年)	4	10	④
教育実習Ｂ	5/30(通年)	2	4	④
事前・事後指導	4/8(通年)	1	14	④⑧
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	37	⑥⑫
発育発達論	3/15(前期)	2	81	①②⑨⑩
保健体育科教育法Ⅳ	5/15(前期)	2	20	⑨⑩
スポーツ実習Ｂ	15/15(後期)	1	40	⑥⑫
エアロビクス（陸上・水中）	5/15(前期)	1	3	②④⑩⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	12	⑥⑦
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	⑥⑦
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	9	②③
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	9	②③④
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	9	②③④⑤
ホスピタリティとSDGs	3/15(前期)	2	228	⑨
スポーツ科学概論	3/15(後期)	2	131	⑤
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	14	⑤⑦⑩⑪
保健体育科教育法Ⅲ	5/15(後期)	2	20	⑨⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	4	①②③④⑤⑥
器械体操	15/15(前期)	1	18	⑪⑫
ジョギング・ウォーキング	15/15(前期)	1	39	⑩⑪
保健体育科教育法Ⅱ	5/15(前期)	2	19	⑨⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	8	③④
保健体育科教育法Ⅰ	15/15(後期)	2	26	⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

各授業アンケートの各項目を平均すると4.5点を上回っており、概ね高い評価を得られたと考えている。自身の専門性を生かした内容を展開することで、学生の学習意欲を掻き立てることができた。一方で、主体的な学びを促せた回とそうでない回の差が生じた。授業回によっては教員から学生への一方通行になってしまったため、改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康科学	30/30(通年)	2	68
武蔵野大学	スキー実習	15/15(集中)	2	5
佐世保市立看護学校	体育	15/15(後期)	1	57

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・呼吸筋トレーニングの効果
・高地トレーニングの効果
・カフェインの摂取が野球のパフォーマンスに及ぼす影響
・ノルディックウォーキングの生理応答

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	468万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

準高地における全力ペダリング時の負荷の違いが筋酸素動態に及ぼす影響／2024年9月／第78回日本体力医学会

準高地における速度漸増ウォーキングテスト中の呼吸循環応答／2024年10月／第28回日本ウォーキング学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
呼気量を調整可能なトレーニングマスクの開発と準高地トレーニングへの応用	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	468万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
スポーツサポートセンター委員会	委員	UNIVAS関連のイベントに関わる作業や強化指定部のポリシー作成等を行った。
国際観光学科事務局	委員	学科会議の書記やスケジュール報告、ゼミ決めの運営等を行った。
スポーツツーリズムコース委員会	委員	スポーツフェスタやキッズキャンパスのブース運営やコース関連科目や予算の見直しなどを行った。
オープンキャンパス委員会	委員	オープンキャンパスにおける掲示物の収集や貼り付け、当日の全般的な準備を行った。
共同研究予算委員会	委員	学科内共同研究予算の会計作業や資料作成等を行った。
長崎国際大学国際観光学会	委員	投稿論文の編集作業や投稿者と印刷会社の仲介等を行った。
教職課程委員会	委員	教育実習の視察や教職関連科目の見直し等を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
日本ウォーキング学会若手の会	委員	日本ウォーキング学会の今後の活動（学会大会、学会名称、社会的活動）についての議論

(3) 課外活動の指導等

ハンドボールサークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
クラブ化・指導者育成セミナー	12月14日	長崎国際大学	スポーツサポートセンター

ノルディックウォーキング講座	2月24日	川棚町大崎半島	川棚町観光協会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県観光事業川棚町観光コンテンツ開発協議会	アドバイザー	令和6年10月～現在に至る	川棚町観光協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・日本体力医学会大会実行委員
・日本ウォーキング学会大会運営委員
・日本スポーツ協会シニアリーダースクール講師

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育の面では、着任初年度から教養セミナーをはじめ専門演習Ⅲまで担当することができ、学生と近い距離で接する気が多かったことは本学の学生の質を知る意味でも有意義であった。一般の授業科目では、大学の学びとして相応しい高い専門性を担保した上で、学生の満足度も高められるように改善を図っていきたい。また、地域との繋がりを持つという点で川棚町の大崎半島をフィールドにした活動を始めることができた。観光と自身の専門領域の１つであるウォーキングを組み合わせたコンテンツを進めていく予定であり、スポーツツーリズム、ヘルスツーリズムとして展開できることを期待している。今年度は、着任初年度（はじめての専任）ということもあり、諸先輩方に頼ってばかりであった。来年度からは各業務において独り立ちできるように精一杯努めていきたい。研究面では、着任初年度ということで、実験環境が変わったことで順調には進めることができなかった。一度見直し、新たな計画に沿って遂行できるように努めたい。一方で、本学に着任したことにより発想できた研究アイディアも複数ある。それらを来年度は成果として形にできるように邁進していく所存である。社会貢献面では、日本スポーツ協会の仕事を引き受けたことをはじめ、公開講座等の講師も務めた。また、オープンキャンパスやキッズキャンパス、スポーツフェスタといった行事やイベントにも積極的に参加し、運営として携わることができたことには満足している。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 余　乾生

1．教育理念

AIの進歩が激しい今、単に正解を求めるだけでは不十分となっている。このような状況を踏まえて、私の教育理念は「①体系的に物事を把握できること」と「②専門的な判断力と問題解決力を身に着けること」である。

よって授業では、①の教育理念に基づき歴史的変遷という時間軸と国際比較などの多様性軸を重視している。こうした軸で物事を把握する練習を繰り返すことで、体系的・全面的に考える習慣を身に着ける。

したがって、講義系の授業においては、歴史的変遷を紹介する部分と他国の情報と比較する部分などを入れている。そして、こうした内容に対して練習問題やリアクションレポートを用意しており、授業中にフィードバックを行っている。ゼミ系の授業においては、学生が主体的に研究テーマを選び、時間軸と多様性軸で自ずから情報を調べて、整理して報告するように授業を進行している。

また、②の教育理念に基づき柔軟で論理的な思考を重視している。講義系の授業においては、一つの知識点の背後にあるロジックと異なる学説を紹介する部分を必ず用意している。そして、確認問題や授業内小レポートなどを通じて、こうした論理的な思考を確認している。ゼミ系の授業においては、グループワークやディスカッションなど異なる意見を交換することを通じて、柔軟で論理的な思考を訓練している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
社会保障Ⅱ	15/15(後期)	2	43	①②③⑨
社会保障Ⅰ	15/15(前期)	2	56	①②③⑨
貧困に対する支援	15/15(後期)	2	58	①②③⑨
教養セミナーA	15/15(前期)	1	13	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	12	①④⑤⑥⑦⑪⑫
観光倫理	4/15(前期)	2	203	①③
経済学	15/15(前期)	2	136	⑨
Japanese Economy	15/15(後期)	2	21	⑤⑥
専門演習ＩA	15/15(前期)	1	4	①④⑤⑫
刑事司法と福祉	15/15(前期)	2	54	①④⑨⑩
専門演習ＩB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートについては、①全学共通科目の経済学、②国際観光学科のJapanese Economy、観光倫理、教養セミナーAB、専門演習ⅠABと③社会福祉学科の社会保障ⅠⅡ、刑事司法と福祉、貧困に対する支援という三種類がある。

講義系の経済学、社会保障ⅠⅡ、刑事司法と福祉、貧困に対する支援の授業は理論性が高く、難しいと評価された（満足度は4.0前後）が、上記の教育理念「①体系的に物事を把握できること」と「②専門的な判断力と問題解決力を身に着けること」を授業内容と練習問題で実施した。改善策としては授業中に個別の質問などをして授業参加を促していきたい。

これに対して、講義系のJapanese Economy、ゼミ系の教養セミナーAなどは学生の参加度が高く、理解しやすいと評価された（満足度は4.7前後）。上記の教育理念を授業内容、グループワークやディスカッションなどで実施したし、今後もこうしたやり方を継続したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
横浜国立大学大学院	社会保障法研究Ⅱ	15/15(後期)	2	3

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
中国語会話の個人的補習（国際観光）	4	1	2024年6月19、26日、7月3、10日
上海大学社会学院短期研修（日本の介護保険について・社会福祉）	1	9	2024年7月29日
国家試験対策（夏・社会福祉）	3	30	2024年9月2日
国家試験対策（冬・社会福祉）	3	30	2024年12月6日
長崎県立猶興館高校の高大連携事業（来訪）（国際観光）	1	22	2024年7月24日
海外研修（韓国）（国際観光）	1	4	2025年2月10日～13日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（１）中国の高齢者をめぐる法制度

（２）中国の介護法制の体系化

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	2	0	5	2	2	78万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

『高齢者法の理論と実務』／共著・編著／2025年3月15日／中央経済社／220～239頁

『中国年鑑2024』／共著・編著／2024年5月25日／明石書店／342～346頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

「中国における『高齢者の介護法制』の体系化（上）」／2025年3月31日／長崎国際大学論叢第25巻／51～64頁／単著／研究ノート

「中国における『高齢者の介護法制』の体系化（下）」／2025年3月31日／長崎国際大学論叢第25巻／65～75頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Possible Perspectives to Analyze Overtourism／2025年3月2日／SEAMA2025　Ritsumeikan Asia Pacific University (APU)

「中国の介護法制の体系化」／2025年1月11日／第545回社会法研究会（九州大学）

「日本の介護保険制度の仕組み」／2024年10月28日／重慶市医療保障局と西南政法大学との戦略協同協議　締結式：『介護保険制度の構築』検討会（Online）

「上海訪問の整理」／2024年10月13日／ベトナム高齢者総合科研第6回研究会（東京外国語大学）

「Legal Challenges of Public LTC Insurance in Japan Focusing on From ‘Safeguard’ to ‘Contract’」／2024年9月8日／第十八回　社会保障国際論壇（中国広州市中山大学）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「ベトナムにおける高齢者ケア・レジームに関する総合的地域研究」（分担研究者）	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	48万円
「パンデミック下での高齢者の保護と年齢差別」（分担研究者）	日本学術振興会	2020年10月～2025年3月	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	委員	アドミッション・オフィサーなど
募集委員会	委員	出前授業の担当や手配など
学科事務局	幹事	会議資料作成、印刷など
国際観光学会	幹事	会場設営、論文査読、出版物の修正など

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「異文化交流（相違と寛容）」	2025年1月10日	佐世保東翔高校	佐世保東翔高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市成年後見制度利用促進協議会	委員	令和6年度～現在に至る	佐世保市保健福祉部長寿社会課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
海外研修（韓国）	韓国への海外研修の引率	2025年2月10日～13日	長崎国際大学
中国重慶市の西南政法大学への訪問調査・講演	介護保険パイロット都市の調査と西南政法大学での講演（日本の成年後見制度改正について）	2025年3月20日～25日	西南政法大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
第十八回　社会保障国際論壇	報告「Legal Challenges of Public LTC Insurance in Japan Focusing on From ‘Safeguard’ to ‘Contract’」	2024年9月7日～8日	中国広州市中山大学	中国社会保障学会
重慶市医療保障局と西南政法大学との戦略協同協議　締結式：『介護保険制度の構築』検討会	報告「日本の介護保険制度の仕組み」	2024年10月28日	Online（Zoom）	中国の西南政法大学

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

全体的には、ベテランの先生方に確認しつつ、新たな環境に馴染むことができ、新授業の担当・研究、大学運営などの業務の両立がスムーズに達成できた。

具体的には、❶教育については、観光と福祉両学科を跨る新しい環境に馴染んでいき、一から授業資料を作成しながら、専門外の経済学・Japanese Economy・観光倫理や、出前授業の異文化交流という今まで行ってこなかった授業に挑戦して、無事に授業が成立した。その際、知識の列挙のみならず、過去問をベースとする国家試験対策を行いつつ、ロジックやストーリーがはっきりした授業ができた。❷研究については、中国やベトナム訪問の結果の一部等を4つの論文として活字した。そして、研究基盤の構築として、九州大学の社会法研究会で報告し、中国での社会保障国際論壇などでも報告した。最初の科研の申請に挑戦できなったが、分担研究者として二つの科研の活動を行てきた。❸大学運営などについては、入試募集委員会、学科事務局や観光学会の仕事を勉強し、他の先生方と協働しつつ、問題なく担当してきた。

2024年4月3日に転倒し、左肩が骨折したが、いろいろ工夫して業務に支障が出なかった。反省点としては、もう少し理論的な授業をわかりやすくする必要があり、今後試行錯誤を行って行きたい。また、さらに教育と研究に精進し、研究分担者のみならず、自分自身主導の科研をこれから挑戦して行きたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和６(2024)年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 木村　勝彦

１．教育理念

私の教育理念は、哲学・倫理・宗教に関する専門的知識の教授を通して、ものごとを主体的に考え抜くという哲学的態度を培い、人間愛に満ちたヒューマニズムの精神及び異なる価値観に対する寛容の精神を涵養することである。

こうした教育理念に従い、まず全学共通教育においては以下に述べるような私独自の教育活動を通して、本学における人材育成に貢献したいと考えている。まず「哲学」においては、歴史上に展開されてきた哲学のさまざま知的挑戦の試みを教授することによって、原理的問題について徹底的に考察し、主体的に自己の思想を形成していく人材を育成する。また「倫理学」においては、善悪の価値判断に関する倫理的な問いを教授することによって、いかなる人の人間性に対しても尊敬の念を失うことのない人格を陶冶し、ヒューマニズムの精神に富んだ有為の社会的成員を育成する。さらに「宗教学」においては、古代から現代に至るまで連綿と存在してきた世界中の多様な宗教・信仰への理解を通して、異なる価値観や信仰に対して寛容の精神を有する情操豊かな人材を育成することである。これらの教育活動により、人間社会学部、健康管理学部、薬学部のそれぞれの学びに共通して必要とされるホスピタリティとヒューマニティの精神を身につけさせたいと考えている。

また国際観光学科の専門科目である「観光倫理」や、大学院地域マネジメント専攻及び観光学専攻における諸科目においては、現代社会の主要な社会活動の一つである観光をめぐる倫理学的或いは宗教学的な考察を通して、観光とそれを基盤とする地域マネジメントに貢献し得る高度専門職業人の育成に寄与することを目指している。

さらに教職課程科目である「道徳教育論」においては、教員を目指す学生たちに道徳教育の意義と必要性を教授することにより、子どもの人格形成に大きく関わっていく教員としての心構えと態度を培うことを目指している。また隔年で実施している「人権と平和」においては、具体的な人権課題に関する啓発と教育の重要性を教授すると同時に、原子爆弾被災県である長崎県に立地する大学で学ぶ者として平和探究の精神をもって教育活動に従事することの重要性を自覚させることを目指している。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
教育実習Ａ	2/60(通年)	4	10	②③⑥⑦⑪⑫
教育実習Ｂ	2/30(通年)	2	4	②③⑥⑦⑪⑫
事前・事後指導	2/8(通年)	1	14	②③⑥⑦⑪⑫
道徳教育論	15/15(後期)	2	29	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	228	②③⑥
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	39	②③⑥
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	67	②③⑥
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	89	②③⑥
教職実践演習(中・高)	2/15(後期)	2	14	②③⑦
宗教学	15/15(前期)	2	90	①②③⑨⑩
哲学	15/15(後期)	2	86	①②③⑨⑩
社会科公民科教育法	15/15(前期)	2	4	①②③⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光倫理特講	15/15(前期)	2	6
特別研究	20/20(前期)	8	1
特別研究指導Ⅱ	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度担当した授業のうち、単独ですべての回を担当した３つの科目について授業アンケートを実施した。前期は全学共通科目の「宗教学」で、受講者数107名のうち83.2%にあたる89名から回答を得て、授業に対する理解度の項目では平均評価値4.5、授業満足度の項目では4.6であった。学生自身の準備学習に関する項目のみが3.6で、他の項目はすべて4点台（1項目の実が4.2で他は4.5以上）の数値を示しており、高い評価を得られたものと考えている。

後期には２つの授業科目について実施したが、まず全学共通科目の「哲学」では、107名の受講者のうち73.8%にあたる79名から回答を得て、授業に対する理解度の項目では平均評価値4.3、授業満足度の項目では4.5であった。学生自身の準備学習に関する項目が3.7であったほかはすべての項目について4点台の評価を得ることができたが、「宗教学」に比べるとやや低い数値にとどまった。これは非常に抽象的且つ思弁的な学問である「哲学」の性格に由来する面もあったと思われるが、授業内容の精選および授業方法の工夫によって改善も可能であったと自戒しているところである。ただし「哲学」は今年度限りで廃止となるため、こうした気づきを授業改善に活かすことができないのは残念である。

授業アンケートを実施したもう一つの科目は教職課程の教職に関する科目の「道徳教育論」で、30名の受講生のうち86.7%にあたる26名から回答を得て、授業に対する理解度の項目で4.8、満足度の項目でも4.8という非常に高い数値を得ることができた。学生自身の準備学習に関する項目も4.4、授業中の受講態度に関する項目も4.7を示したほか、すべての項目において4.6以上の高い評価を得られたのは喜びとするところである。教職の必修科目であるため、学生自身の学修意欲が高かったことが第一の要因であると思われるが、小職の授業方法が高い評価を得ていることも実証されていうと言えよう。

以上のように、今年度の授業アンケートではいずれでも高い評価を得ることができたことから、小職の授業改善の努力が教育効果に結びついているものと考えている。なお、大学院の授業について今年度は、「観光倫理特講」1科目と主指導を担当する2人の「特別研究指導」を担当したが、どちらも高い評価を得ることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・宗教現象の哲学的意味に関する研究
・長崎のキリスト教聖地と世界遺産をめぐる宗教ツーリズムの研究
・観光倫理の新たな構築に関する研究
・人の死に関わる場所を対象とするダークツーリズムの倫理的問題性に関する研究
・道徳教育の研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

殉難の地の記憶と文学ー長崎・浦上をめぐってー／2024年12月27日／日本学術会議「日本文学の伝統と現代社会分科会」

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	副委員長	大学の自己点検・評価に関連する諸事項の審議において、委員長である学長の職務を補佐した。
全学共通教育委員会	委員長	全が雨共通教育の教育課程編成及び担当教員の選定に関する審議を統括した。
教員資格審査委員会	副委員長	教員（基幹教員及び非常勤講師）の新規採用、昇任に関する審議において、委員長である学長の職務を補佐した。
教職課程委員会	委員長	教職課程の運営及びそれに関連する諸事項の審議を統括した。
人事委員会	委員長	教員（基幹教員及び非常勤講師）の新規採用、昇任の計画とそれに関連する諸事項の審議を統括した。
輸出管理委員会	委員長	国際的な人事交流や在外研究に際しての物品・情報輸出の管理及びそれに関連する諸事項の審議を統括した。
教育基盤センター運営委員会	委員長	教育基盤センターの運営及びそれに関連する諸事項の審議を統括した。
IRセンター会議	委員長	大学IRセンターの運営及びそれに関連する諸事項の審議を統括した。
産学連携・研究支援センター会議	委員長	産学連携・研究支援センターの管理及びそれに関連する諸事項の審議を統括した。
情報セキュリティ委員会	委員長	大学における情報セキュリティに関連する諸事項の審議を統括した。
教育基盤センター	センター長	学生の初年次教育や高大連接を中心に、学生に対するさまざまな学修支援を計画・実施するセンターの業務を統括した。
IRセンター	センター長	大学IRに関連する情報やデータを収集・分析し、学部学科で共有・議論することにより自己点検・評価に資するセンターの業務を統括した。
産学連携・研究支援センター	センター長	大学の産学連携事業の推進及び研究支援に関する業務を統括した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業タイプ１WG	グループ長	私立大学等改革総合支援事業の４つのタイプのうち、タイプ1「教育改革」に関する検討を統括した。
メニュー1「キラリと光教育力」WG	グループ長	令和6年度少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援のメニュー1「キラリと光る教育力」の申請業務を統括した。協議結果をもとに申請したが、残念ながら不採択となった。
メニュー2「複数大学等連携」WG	グループ長	令和6年度少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援のｍニュー2「複数大学等連携」の申請業務を統括し、西九州大学、長崎外国語大学、鎮西学院大学との連携協議を計画・実施した。協議結果をもとに申請したが、残念ながら不採択となった。
学部再編等による特定成長分野への転換WG	グループ長	令和6年度大学・高専機能強化支援事業の「支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援」の申請業務を統括した。協議結果をもとに申請し、採択されて支援金が公布された。
「未来理工学部」設置構想WG	グループ長	上記の支援1に関連して、未来理工学部の設置構想に関する検討を統括した。
全学共通教育カリキュラム改革WG	グループ長	全学共通科目の整理統合あるいは科目背品切に関する協議を統括した。協議結果をもとに新カリキュラムを策定し、2025年度から実施されることとなった。

(3) 課外活動の指導等

・硬式野球部顧問
・男子アーチェリー部顧問
・女子アーチェリー部顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
大学「大衆化」時代における地方私立大学の役割	2024年5月14日	十八親和銀行本店別館ホール	佐世保市経済同友会
生活の中の宗教	2024年6月7日	佐世保市卸団地組合会館	法倫會館
生活の中の宗教	2024年7月14日	長崎市法倫會館別館マルシェ	法倫會館
ユダヤ教とパレスチナ問題	2024年11月26日	佐世保市セントラルホテル	佐世保西ロータリークラブ

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本学術会議第一部会哲学委員会	連携会員	2020年10月～現在	日本学術会議会長
評価システム改善検討委員会	副委員長	2018年4月～現在	日本高等教育評価機構
評価員会議	評価団長	2010年4月～現在	日本高等教育評価機構
佐世保市スポーツ協会評議員会	評議員	2020年5月～2024年7月	佐世保市スポーツ協会
佐世保徳育推進会議	会長	2012年4月～現在	佐世保徳育推進会議

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
中国・上海旅游職業学院訪問団	交流の促進に関する協議	2024年5月13日	国際交流・留学生支援センター
中国・中僑職業大学訪問団	交流の促進に関する協議	2024年6月26日	国際交流・留学生支援センター
中国・上海大学社会学院学生研修団	日本文化論の講義実施	2024年7月31日	社会福祉学科及び国際交流・留学生支援センター

韓国・東義大学校硬式野球部訪問団	交流試合の実施に関する協議	2024年9月20日	硬式野球部及びスポーツサポートセンター
中国・鞍山師範学院訪問団	交流の促進に関する協議	2024年9月25日	国際交流・留学生支援センター
中国・中僑職業大学学生研修団	受入れ挨拶	2024年11月26日	国際交流・留学生支援センター
中国・陝西工商職業学院訪問団	交流協定締結に関する協議	2024年12月6日	国際交流・留学生支援センター
在長崎中国総領事・張大興氏	総領事離任挨拶及び留学生との交流	2025年1月8日	国際交流・留学生支援センター
中国・青島旅游職業学院交流協定締結式	交流協定の締結と歓談	2025年1月9日	国際交流・留学生支援センター
イラク・考古遺産庁長官一行	本学との共同調査に関する協議	2025年1月28日	国際観光学科・川上直彦准教授

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

昨年度末で専任教員としては定年退職扱いとなり、今年度は特任教授としての再任用の上で引き続き副学長職を拝命することとなった。従来と職務内容に大きな変化はないものの、次世代への職務継承ということを意識しながらの一年間を過ごしたことは間違いない。2025年度からはこれまで引き受けてきた委員会委員長の一部を他の教員に引き継いでもらうことを念頭に置いて、さまざまな業務の整理・統合を心がけた。

まず学部の授業に関しては、全学共通教育科目の「宗教学」と「哲学」、教職課程科目の「道徳教育論」「教育実習」「事前・事後指導」「教職実践演習」のほかに、「ホスピタリティとSDGｓ」を1コマ分担当した。いずれも学生による授業評価の結果は良好であったが、これらの科目のうち「哲学」はカリキュラム改革により今年度限りで廃止となった。また「道徳教育論」その他の教職科目も他の教員に引き継いでもらうこととなった。これらの科目については教材研究にも時間を費やし、これまでの長年にわたる授業の集大成のつもりで臨んだ結果、良好な授業評価を得られたことは幸いであった。「ホスピタリティとSDGｓ」については次年度も担当するほか、この科目を再編した「ホスピタリティセミナー」でも引き続き同内容の授業を担当する。

大学院の授業については、修士課程の学生に主指導教員として関わることがなくなったため、今年度は修士課程では前期に「観光倫理特講」を担当したのみである。授業評価は例年並みで、この授業科目については次年度も実施する予定となっている。博士課程では主指導担当の学生が2名在学しているため、博士論文作成のための「特別研究指導」を担当し、次年度に博士論文の完成・提出を目指させる予定であるが、2名とも留学生であるため計画通りに進むかどうかは見通せない状況にある。

学内の諸委員会や各種WGでは昨年度と同様に多くの委員長・WG長を兼任し、定められた職務の内容をほぼ適切にこなすことができたと考えている。私立大学等改革総合支援事業やキラリと光る私立大学支援などの申請業務と他大学間との連絡調整に多くの時間を費やさざるを得なかったが、不採択に終わることが多かったため、なぜそのような結果に終わったのかの検討・修正が必要であることを実感している。国際交流の面では、国際交流・留学生支援センターと共に多くの海外大学の表敬訪問に対応し、連携協定の調印や継続に結びつけることができた。これらの委員か委員長やセンター長の職務も、次年度はその一部を他の教員に引き継いでもらうことになっており、業務内容の引き継ぎを可能な限りで実施した。

学外の委員としては、日本学術会議連携会員として哲学委員会に所属し、3つの分科会に参加して意見の表出の作成に向けた議論を継続しているところである。地方私立大学の教員として日本学術会議の事業に関わり、3つの分科会プロジェクトに参加していることは、本学の知名度向上に資するところ大であると自負している。このほか佐世保徳育推進会議において15年間にわたり会長を務めており、佐世保市長や副市長、教育長らと協議することも多かった。他の講演活動等も含めて学外活動を積極的に進めることができたと考えている。

ただしこのような教育活動や学内外の委員会活動に多くの時間を割かれ、研究の面で成果を上げることができなかったのは遺憾である。日本学術会議の分科会において研究発表を行い。質疑応答を実施したことは、自分のこれまでの業績の一端に対する学界の評価を確認する機会となったと評価している。コラムやエッセー等の執筆はあったものの、研究的な図書や学術論文の公表に至らなかったことは、大いなる反省点である。次年度は研究面での着実な成果発表に心がける所存である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 柳　智盛

1．教育理念

私は社会的な弱者といわれている人への支援をしていくためにその仲間を広げていきたい。特にさまざまな「障がい」をもって生きていく方々の心理的支援を目指している。また、長崎国際大学の理念の中には「人間尊重」を基本理念とし「ホスピタリティ」の獲得を目指すことが謳われていることから、人を支援する際の相手を尊重することは支援者として身に付けなければならない重要な課題である。このような観点からの教育あるいは授業において我々の教員に課せられた重要な課題であることといえよう。

大学教員としての私の役割は、学生が支援者の立場のみならず、人と関わる際に相手を尊重し、ホスピタリティ精神をもって関わることができるか、その際、専門的知識と高い技能及び社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を身に付けることができるかについて教育の場で常に考えながら学生に働きかけていきたい。このような役割を果たしていくための基本的な教育理念として次の2つをあげる。

一、私の専門領域である心理学（臨床心理・障がい児者心理、教育心理）の分野における知限を広く紹介し、学生の実践的な課題に役立てられるように手助けする。

二、「人間尊重」を身に付け、相手の立場に立って接することができる力を持てるような授業を目指すことを心掛けたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
海外ソーシャルワーク研修	12/15(通年)	2	6	④⑤⑥⑦
教育実習Ａ	60/60(通年)	4	10	④
教育実習Ｂ	30/30(通年)	2	4	④
事前・事後指導	5/8(通年)	1	14	④⑦
共通福祉演習	4/15(後期)	1	39	①②⑤⑥⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	5	⑤⑦⑩⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	5	⑤⑦⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	5	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
障害の理解Ⅱ	5/15(後期)	2	17	③⑤⑨⑩
障害の理解Ⅰ	5/15(前期)	2	32	③⑤⑨⑩
加齢と障害に関する理解	8/15(後期)	2	8	③⑤⑨⑩
教職実践演習(中・高)	4/15(後期)	2	14	⑤⑦⑩⑪
教育心理学	15/15(前期)	2	45	③⑤⑩
心理学	15/15(前期)	2	40	③⑤⑦⑩
福祉特論H	8/15(後期)	2	22	①④⑤⑫
国家試験演習（共通）Ⅰ	6/15(前期)	1	47	⑧⑨
国家試験演習（共通）Ⅱ	6/15(後期)	1	44	⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
発達心理特講	15/15(前期)	2	1
発達心理特講	15/15(前期)	2	4
事例研究（発達心理）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートにおいては、「心理学」「教育心理学」「専門演習B」「卒業研究（通年）」「福祉特論H」の授業科目についてアンケートを実施した。満足度の平均が4.0～4.8の結果であった。全学共通科目でありながら社会福祉士国家試験の指定科目の「心理学」は、大学の導入期でもあり、大学での学修と大学生活に慣れていくことも意識して指導を行った。また、

シャルワークに関するより専門的な内容で展開していたことで、少し難しい内容であったにも関わらず、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたことから授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に、福祉学科専門科目においては社会福祉士といて専門職を目指す学生に必要とする支援の基本的な技法についても自ら気づき自己覚知ができるようなワークを行うことで、学生個々の意見を述べさせることで授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学園	心理学	15/15(後期)	2	29
九州文化学園調理師専門学校	高齢者心理	3/15(後期)	2	15
九州文化学園高等学校看護専攻科	心理学	15/15(後期)	2	53
九州文化学園高等学校看護専攻科	対人関係論	2/15(後期)	2	53

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１．障がい児・者への臨床心理学的援助における援助者のセルフモニタリング

脳性まひや発達障害児・者への臨床心理学的アプローチとしての臨床動作法援助場面において援助者の認知的プロセスとしてセルフモニタリングを修正・展開していくことによって、より効果的で適切な援助に繋がることである。

２．発達障がいを伴う子どものためのグループセラピーとプログラムの改善

アスペルガー障がい・高機能自閉症・ADHDなどの発達障がい児のグループにおいて、集団プレイセラピーや心理劇を用いて、同年代他児への接近と自己主張の調整を促し、対人関係の経験を増やしていくことで、失敗体験の積極的回避・対人志向性の質的変化を促していくことである。そのため、グループセラピーのプログラムには①自身の感情をコントロールすることで周囲の状況や他児の気持ちに注目し、②その中で対人的な意識を引き出すことや、③お互いの気持ちや意見、行為を協調させながら一つの活動に協力して取り組むことを通して、④同年代集団における一体感、達成感、被受容体験といった肯定的な体験を促すことを目的としたプログラムの改善を試みた研究である。

３．高等教育における障がい学生への支援

障害者差別解消法の施行に伴い、高等教育機関においてさまざまな障がいを持つ学生の教育を受ける権利を保障するための体制及び支援について模索していくことが研究の目的である。特に、高等教育における合理的配慮の考え方やサポート体制の一つであるピア・サポートの活用方法を確立していくことである。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
教育的包摂を先導するコラボレイティブ・ラーニングによる知の創造	令和6年度長崎国際大学学長裁量経費	2024.6～2025.3	30万円
WEB回答システムを活用した要支援学生の早期支援体制の整備Ⅲ	令和6年度長崎国際大学学長裁量経費	2024.6～2025.3	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター	センター長兼運営委員会委員長	全学的な学生支援の体制づくりのため、FD・SDの企画、ピア・サポート運営に携わった。また、合理的配慮面談や検討会議への出席・審議を行った。
教務委員会	委員	教務委員として全学及び学科のカリキュラムの編成や調整などの検討を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程履修・実習などについて検討・改善を図った。
自己点検委員会	委員	本学の自己点検に関する検討・改善を図った。
学科運営委員会（社会福祉学科）	学科長	社会福祉学科の運営に係る事項に関する審議検討に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
障害学生就職支援ワーキングチーム	ワーキングチーム代表	「南高愛隣会」と「長崎国際大学」が協働で障がい学生の就職支援に関する支援及び体制に関する検討を行った。

(3) 課外活動の指導等

長崎国際大学のピア・サポート執行部（NPS執行部）の運営やピア・サポーター学生の研修などを行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

「夢ナビライブ2024福岡」のウェブ開催にて、高校生を対象に大学講義の体験を通して本学について紹介した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
外部専門家活用事業「自閉症のこどもについて指導・支援」	8月22日	長崎県立佐世保特別支援学校	長崎県立佐世保特別支援学校校長
外部専門家を活用した研修会「自己肯定感を育むための支援について」	8月28日	長崎県立川棚特別支援学校	長崎県立川棚特別支援学校校長

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学附属総合臨床心理センター	センター研究員	2024年4月～2025年3月	総合臨床心理センター長
長崎県国土利用計画審議会	委員	2024年4月～現在に至る	長崎県知事
平戸市成年後見制度利用促進審議会	委員	2024年4月～現在に至る	平戸市長
成年後見制度促進事業	委員長	2024年4月～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会会長
LOCAL STATION PLUS「運営推進会義」	委員	2024年4月～現在に至る	社会福祉法人南高愛隣会理事長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2015年4月～現在に至る／佐世保市学習支援会／学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役／佐世保市生活福祉課学習支援委員会

②2015年4月～現在に至る／九文事例検討会／アドバイザーとして参加／九州文化学園所属教職員

③2015年4月～現在に至る／自閉症児の余暇活動／活動企画者及び相談役として参加／長崎県自閉症親の会佐世保支部

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
2024年度 上海大学社会学院短期研修	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科による短期研修プログラム	7月26日～8月6日	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科
2024年度　海外ソーシャルワーク研修（上海大学）	社会福祉学科海外研修プログラム	9月9日～9月13日	長崎国際大学/上海大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度の学生指導においては、4年6名、3年5名の指導を行った。卒業論文では、各学生の興味がある専門領域に深く踏み込んだ内容で指導することができた。その内1名は、配慮が必要な学生に対し、ゼミ時間外での個別指導を通して卒論研究論文を提出することが出来た。また、4年生の内に5名が社会福祉士国家試験に挑戦し、3名が合格した。

全学的業務においては、CHサポートセンター運営委員会副委員長及び学生相談室長として、心理学の本来の専門領域を生かせて、学内の学生支援及び障害学生への支援体制の構築に携われたことは大きな収穫となった。特に今年度は、大学全学のピア・サポート体制がCHサポートセンターを中心に運営されるようになったことで、本学の障害学生の支援体制が充実されたことは大きな収穫となった。

社会活動としては、県庁及び県内の市町村の各委員会での委員として、各種の事案について検討を行った。なお、県内の特別支援学校での研修や事例検討の講師として児童生徒の支援や教員の研修会を担当した。

個人の研究活動として、今年度は学長裁量経費プロジェクトの一環として、本学の学生支援の現状や支援体制に向上の向けたF

Ｄ・ＳＤを企画実施し、障がい学生支援として取り組んでいる活動を通して、「教育的包摂を先導するコラボレイティブ・ラーニングによる知の創造」に関して取り組んだ。さらに、全在学生のこころの健康を支援するための「WEB回答システムを活用した要支援学生の早期支援体制の整備Ⅲ」は図るための取り組みを行った
社会福祉学科においては、学科長として学科の運営に携わることができたことは貴重な経験ではあったが、学科業務と研究をより効率的に遂行するため、研究活動をより計画的で積極的に取り組み大学教員としての教育・研究・社会活動のバランスを図っていきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 大畠　啓

1．教育理念

私の教育理念は、社会的存在として人間を理解する視点を身につけることである。具体的には、人間をその置かれた社会的な環境（経済的・政治的・文化的環境および社会関係の総体）から捉える視点を獲得することである。

複雑で不透明な現代社会を生きる学生にとって、自分と社会とのつながりは容易には見えてこない。我々の目の前に広がっているのは、〈私〉に閉じこもりがちな学生の経験の世界であり、そこに幽閉された学生は、「社会」をリアルに経験できない。この個人化された世界に相対し、馴染んだ「見えないもの」を見えるようにするなかで、自分が抱え込んでいる困難さを生み出す仕組みを明らかにするのが、私の教育理念である。よって授業では、国家試験を念頭に置いて学生の感想や質問に口頭で答えるフィードバックの他に、講義の中に意見表明の場やペアワークなどアクティブラーニングを組み込む授業方法を用いて、自己表現や主体性を育む方法論を重視している。それらを通じて学生には、考え方の違う他者と協働する困難と同時に喜びを、学んでほしいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ	15/15(通年)	4	11	④⑤⑥⑦⑩
共通福祉演習	2/15(後期)	1	39	①②⑤⑥⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	6	⑥
卒業研究	15/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑧
社会福祉の原理と政策Ⅰ	15/15(前期)	2	65	②
社会の理解	15/15(後期)	2	17	②
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	15/15(前期)	1	11	①④⑥
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥⑦
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	11	⑥
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	10	⑥
福祉特論C	7/15(前期)	2	24	①②③⑦
コミュニティづくりフィールドワーク	10/30(後期)	4	15	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪
社会福祉の原理と政策Ⅱ	15/15(後期)	2	66	②
障がい者スポーツ	1/15(前期)	2	17	⑪
コミュニティづくり総論	3/15(前期)	2	33	①②③④⑥⑧⑨⑩⑪
社会学概論	15/15(前期)	2	147	②⑤
専門演習A	15/15(前期)	1	6	⑥
社会学	15/15(後期)	2	215	②⑤
国家試験演習（共通）Ⅰ	4/15(前期)	1	47	⑧⑨
国家試験演習（共通）Ⅱ	4/15(後期)	1	44	⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
まちづくりマネジメント特講	8/15(前期)	2	9
人権思想・社会福祉史特講	15/15(後期)	2	1
人権思想・社会福祉史特講	15/15(後期)	2	3
事例研究(人権思想・社会福祉史)	15/15(前期)	2	1
地域マネジメント論特別演習	5/15(前期)	2	2
社会福祉思想特別演習	15/15(後期)	2	1
特別研究指導Ⅱ	15/15(前期)	4	1

特別研究	15/15(後期)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度学部・大学院では、昨年度とほぼ同様の授業を担当した。「社会学概論」では毎回感想をポートフォリオに提出させ、それを材料に次回のプリントを作成するというフィードバックの形式をとった。「障がい者スポーツ（オムニバス）」は、今年度も取りまとめを担当し、外部講師の日程調整を適切に行った。「社会福祉の政策と原理ⅠⅡ」でも、国試問題を用いた知識定着のための小テストを毎回実施した。「社会の理解」は配布資料と感想の紹介をフィードバックした。「卒業研究」と「専門演習AB」「専門基礎演習AB」では、できるかぎり意見交換の時間を取り、教員と学生、学生間の相互理解が深まるよう務めた。大学院の科目は院生に資料作成を義務づけ、その資料をもとに丁寧に指導することを心掛けた。今年度は、修士論文の提出を抱えた院生を主指導の形で担当したため、指導に多くの時間とエネルギーを費やした。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	社会学	15/15(後期)	1	55

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

・フランクフルト学派の社会理論研究
・福祉専門職の社会的承認に関する研究
・福祉の現場における多職種連携の研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

山本努・岡崎宏樹編著『現代社会の探求――理論と実践』書評／2025年4月／社会分析第 52 号／174頁～176頁／単著／書評

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	委員	委員会の議案や課題の解決のために、所属する学部・学科と円滑な連携を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会	運営委員	平成29年度～現在に至る	佐世保市
佐世保市地域福祉計画推進委員会	委員長	令和6年度～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

「させぼ障がい者スポーツ交流大会2024」企画・運営に大学代表者として参加、共催：佐世保地区障がい者就労支援協議会、長崎県フライングディスク協会、長崎県障がい者フライングディスク協会

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、社会福祉士のカリキュラム改正を受けての授業準備も順調に進み、授業の運営ともにスムーズに行えた。研究面では学会誌に書評を掲載することができた。昨年より運営委員長として担務している「コミュニティーコース」の運営は、軌道に乗っている。今年度も労力を最も要したのは、大学院の専攻長業務と研究倫理委員長業務である。専攻長業務には長年の懸案やイレギュラーな問題・課題の発生等が多くあり、時間とエネルギーを多く費やした。研究倫理委員長業務は決まった短い期間に仕事が集中し、倫理委員間の日程調整や資料作成に多くの労力と時間を費やした。しかしそれも何とかこなし、今年度で委員長職は無事終了することができた。緊縮財政の中、教員や新入生の数も減少し厳しい学科運営が続く。卒業生の社会福祉士合格率も伸び悩む状況のもと、来年度も正副学科長を適切にサポートし、学科に課せられた諸目標（定員充足、国家試験の受験者数と合格者数、合格率の増大など）の達成を目指したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 大町　いづみ

1．教育理念

きめ細かな指導により、理解度に応じた学習支援を実施。
学生の学習意欲の向上を第一に自ら学び、自律して考え、行動、実践できる人を育てる。
楽しい大学生活を送る。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
介護実習Ⅰ	30/30(通年)	4	9	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅱ	15/15(通年)	2	5	①⑫
介護実習Ⅲ	30/30(通年)	4	10	④⑤⑦⑪⑫
国家試験演習（介護）	15/5(通年)	1	10	⑩
介護過程ⅢB	15/15(通年)	1	10	④⑤⑦
介護総合演習Ⅱ	15/15(通年)	1	5	③⑤⑩⑫
介護総合演習Ⅲ	15/15(通年)	1	10	③⑤⑩⑫
介護概論ⅢB	15/15(後期)	2	10	④⑤⑦
介護過程ⅢA	15/15(前期)	1	10	①②③⑤⑥⑦⑧
生活支援技術ⅡB	15/15(後期)	1	9	①②③⑦⑨
介護総合演習Ⅰ	30/30(通年)	2	9	①②④⑤⑥⑦⑫
在宅医療概論	15/2(前期)	2	194	①②⑤⑩⑪
医学概論	15/3(前期)	2	55	①②③⑨
専門演習B	15/15(後期)	1	6	④⑦⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	5	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
介護における医療的ケアⅡ	15/15(後期)	2	6	②③⑦⑧
認知症の理解Ⅰ	15/5(前期)	2	21	①⑨⑩
障がい者スポーツ	15/1(前期)	2	17	⑩
コミュニティづくり総論	15/1(前期)	2	33	①②③④⑥⑧⑩⑪
専門演習A	15/15(前期)	1	6	④⑤⑦⑩⑪⑫
介護における医療的ケアⅠ	30/30(前期)	4	8	②③⑦⑧⑨⑫
介護過程Ⅰ	15/15(後期)	1	9	④⑤⑥⑦⑨
認知症の理解Ⅱ	15/15(後期)	2	17	①⑥⑨⑩
介護概論ⅢA	15/15(前期)	2	10	①
発達と老化の理解Ⅱ	15/10(後期)	2	17	①②③⑥⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域医療・保健特講	15/15(後期)	2	1
地域医療・保健特講	15/15(後期)	2	5
介護福祉特講	15/15(前期)	2	1
介護福祉特講	15/15(前期)	2	4
事例研究（地域医療・保健）	15/15(前期)	2	1
事例研究（地域医療・保健）	15/15(前期)	2	1
事例研究(介護福祉)	15/15(後期)	2	1

事例研究(介護福祉)	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生による授業評価においては、全教科ともに、平均よりも高い評価であった。今後さらに、受講生の学びを高められるように、教育方法の工夫に取り組んでいきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学薬学部	在宅医療実践学	15/1(前期)	2	60
長崎大学薬学部	在宅医療概論	15/1(後期)	2	60
放送大学	地域在宅看護論	15/15(後期)	2	12

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
長崎県看護協会訪問看護師養成講習会講師	8	35	9/15,12/7
厚生労働省委託事業E-FIELD（人生の最終段階における医療体制整備事業）相談員研修会講師	5	80	2/2
国家試験(介護)追加学修	5	10	12/3,12/10(2コマ),12/17,12/24
国家試験(社福)追加学修	4	33	9/3(2コマ),11/29,1/10

３．研究活動

(1) 研究テーマ

多職種連携、エンドオブライフケア、地域在宅看護､介護福祉

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	40万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

４年制大学で介護福祉士国家資格を取得した職員の就業実態ー介護実習における学びの成果及び就業実態ー／2024年2月15日／介護福祉士養成大学連絡協議会／1-47／共著／報告書

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

４年制大学で介護福祉士国家資格を取得した職員の就業実態－介護実習における学びの成果及び就業実態ー／2024年8月25日／第32回日本介護福祉学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
長崎県介護福祉士養成施設等入学者確保支援事業補助金	長崎県	2024年4月～2025年3月	40万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	委員	委員会にて、活動企画、運営、評価について活動した。自らも、キッズキャンパス活動など、企画運営に参画した。

学科運営委員会	委員	毎月開催される学科運営委員会会議に、ケアワークコース長として参加し、学科内運営に係る活動、企画、運営、評価への検討に積極的に参画した。
長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科研究棟倫理委員会	委員	健康学科より、研究審査の依頼時に、倫理的な側面から審査に積極的に携わった。
福祉学科研究倫理委員会	委員	学科内教員、学生の研究審査依頼時に、倫理的な側面から審査に積極的に携わった。
全学研究倫理委員会	委員	全学の研究倫理に関する事案と取りまとめについて、委員として参画した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

手話サークル顧問として、部の部長、部員を中心に毎月定期的に、活動を実施した。現在3先行の学生1年生4年生の部員17名で、手話の上達に向け、佐世保市市役所手話通訳専任講師に来ていただき、講座を開催している。また、がくないOC時やキッズキャンパス行事時、外部イベント（川棚町教育委員会子ども食堂イベント）へ、ボランティアとして参加した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

長崎県「佐世保県北圏域介護人材育成確保対策地域連絡協議会」からの依頼により、本学修士学生1年生と佐世保東翔高等学校1年生へ「福祉の仕事基礎講座」トークセッションへ参加した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
認知症サポーター養成講座	6/28,7/17,1/10	長崎国際大学	佐世保市福祉プラザ

BSL一時救命処置	7/25	九州文化学園小中学校	九州文化学園小中学校
キッズキャンパス"lets 手話！"	11/9	長崎国際大学	魔が最国際大学地域連携室

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
介護福祉士養成大学連絡協議会	理事	2022年6月～継続中	介護福祉士養成大学連絡協議会
佐世保市介護認定審査会	審査委員	2021年4月～継続中	佐世保市
長崎大学薬学部	非常勤講師	2021年4月～継続中	国立大学法人長崎大学長
放送大学客員教授	客員教授	2024年4月～継続中	放送大学学園理事長
佐世保市国民健康保険運営協議会	委員	2024年4月～継続中	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・学内キッズキャンパスへサークル員とともに、参加し、子供と保護者の方々へ手話講座を開催した。
・川棚町教育委員会主催「子ども食堂秋祭り」に、手話サークルとして、企画、運営に携わり、手話講座を開催した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

2024年度NIU Best Teacher 賞　学生アンケート部門を受賞した

８．活動全般についての自己点検・評価

学生とともに、活動を通し学び、成長することに努めながら努力できたことは、成果を含め充実した1年だった。
研究の成果公表や、取り組みにおいて、計画通りに進まなかったことが課題として挙げられる。次年度は、研究成果も集大成として、まとめていきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 梅野　潤子

1．教育理念

授業や研究指導等の知的活動を通して、社会福祉専門職として必要とされる能力を学生が自律的に開発することができるように促し、その環境を整えることを教育理念としている。より具体的には、以下の点を重視して教育に取り組んでいる。

・社会福祉専門職として必要とされる能力を、学生自身が身に付けるプロセスを重視する。
・一つひとつの学修の意味を学生自身が理解し、実践できるようにする。
・具体的な学修活動を通して、価値・知識・技術を体得する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スクール（学校）ソーシャルワーク実習	40/40(前期)	2	3	④⑦⑪⑫
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ	90/90(通年)	4	8	④⑦⑪⑫
国家試験基礎演習	3/15(後期)	1	37	④⑦⑪⑫
共通福祉演習	3/15(後期)	1	39	③④⑦
ソーシャルワークの理論と方法（社会）Ⅱ	15/15(後期)	2	36	④⑦⑪
国家試験演習（社会）Ⅰ	6/15(前期)	1	44	④⑦⑪⑫
国家試験演習（社会）Ⅱ	6/15(後期)	1	41	④⑦⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	15/15(前期)	1	8	④⑦⑪⑫
スクール（学校）ソーシャルワーク演習	15/15(後期)	1	4	④⑦⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	6	⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ	15/15(後期)	1	8	④⑦⑪⑫
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	9	④⑦
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	9	④⑦
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅲ	15/15(前期)	1	11	④⑦⑪⑫
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	14	④⑦⑪⑫
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	15	④⑦⑪⑫
スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導	15/15(前期)	1	3	④⑦⑪⑫
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ	15/15(後期)	1	11	④⑦⑪⑫
専門演習A	15/15(前期)	1	5	④⑦
専門演習B	15/15(後期)	1	5	④⑦
スクール（学校）ソーシャルワーク論	15/15(前期)	2	9	④⑦
児童・家庭福祉	15/15(前期)	2	57	④⑨
ソーシャルワークの理論と方法（社会）Ⅰ	15/15(前期)	2	52	④⑦⑪
学際連携研究	1/15(前期)	2	198	④⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
家族・児童福祉特講	15/15(後期)	2	2
家族・児童福祉特講	15/15(後期)	2	2
事例研究（家族・児童福祉）	15/15(前期)	2	2
地域福祉政策特別演習	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2024年度中に実施した授業アンケート5科目の受講者満足度の平均点は4.5点と概ね高評価を得た。学生の能動的な学修を促す

ため、グループワークやディスカッション、発表などを授業内に取り入れた。また、定期的な小テストや課題に取り組むことにより、継続的な学修習慣を身に付け、授業外での学修を促した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士追加学修プログラム	4	45	2024年11月22日、12月2日、12月13日
社会福祉士直前講座	1	15	2025年1月14日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・ソーシャルワークプロセスにおける子どもの参加促進に関する研究

・ソーシャルワークにおけるICT活用に関する研究

・てんかんを持つ人を対象とした医療ソーシャルワークに関する実践研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	4	2	2	884万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

電子記録システムの活用における社会福祉専門職のニーズ―児童養護施設職員に対するインタビュー調査から―／2024年2月／企業研究／33-48頁／単著／論文

児童福祉司の業務におけるICT活用の現状と課題―フォーカス・グループ・インタビューを通して―／2024年3月／九州社会福祉学／13-27頁／共著／論文

児童養護施設における情報化実践に対する評価―児童福祉記録の電子化活動を事例として―／2024年12月／長崎県立大学論集（経営学部・地位創造学部）／1-15頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

医療ソーシャルワークにおける生成AI活用の可能性／2024年8月31日／第17回ITヘルスケア学会年次学術集会

支援過程への子どもの参加を促進する記録様式開発の必要性／2024年12月22日／日本社会福祉学会九州部会第65回研究大会

医療ソーシャルワーカーの支援過程における生成AI活用の可能性―急性期病院における児童虐待の疑いのある事例をもとに―／2024年12月22日／日本社会福祉学会九州部会第65回研究大会

てんかん患者の頭部保護帽の利用実態に関するアンケート調査／2025年3月22日／第12回全国てんかんセンター協議会総会（JEPICA金沢大会）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
子どもの参加を促進する「子ども主体アセスメントシステム」構築に向けた実証的研究	日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究(C)	2020年4月 － 2025年3月	429万円
医業経営データ分析環境構築のためのデータモデリングに関する研究	日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究(C)	2023年4月 － 2027年3月	455万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	オープンキャンパスの運営担当、一般入試国語作問責任者、各入試の書類審査・面接担当などの業務を遂行した。
男女共同参画推進委員会	副委員長	本学を代表し、佐世保市女性プロジェクトチームのメンバーとして優良企業選定に参画した。
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)こども育成専門委員会	委員	リレー講座においてオンライン講義を担当した。
国家試験合格支援委員会	委員長	社会福祉学科における社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の3国家資格取得に向けた学修プログラム・模擬試験・受験申請・受験地移動宿泊支援等の統括責任者を務めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・国家試験合格支援、スクールソーシャルワーク教育課程に関する大学ホームページ記事を作成、掲載した。

・西日本新聞5月5日付18面に記事「子どもの権利を護るー声を聴き一緒に活動をー」を寄稿し掲載された。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
6	7

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
社会福祉法人 清風園 児童養護施設清風園 園内研修「社会的養護のもとで育つ子どもの権利擁護ー子どもの参加を促す支援ー」	2024年5月27日	児童養護施設清風園	社会福祉法人 清風園

令和6年度 児童福祉司任用研修・要保護児童対策地域協議会調整機関担当者研修 「子ども家庭支援のためのケースマネジメント」	2024年8月23日	佐世保こども・女性・障害者支援センター	長崎県こども家庭課
武雄市ヤングケアラー支援者講演会 「ケアを担う子どもが自分の人生を歩むために ～子どもの参加を促す支援～」	2024年9月9日	武雄市山内公民館	武雄市こども家庭課
令和6年度 QSP子ども育成リレー講座 「子どものLife」 スキルアップ講座 「児童福祉専門職が知っておきたい子どもの権利擁護」	2024年9月16日 － 2024年9月29日	動画配信	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP) こども育成専門委員会
令和6年度 川棚町要保護児童対策地域協議会代表者会議「子どもの育ちを地域で支える”チーム”を創る ―子どもを中心とした多機関協働実践のために―」	2024年10月24日	川棚町役場	川棚町
長崎県ケアラー支援シンポジウム 2024「ケアを経験している子ども達が自分らしく人生を歩むために～子どもの参加を促す支援～」	2024年11月16日	長崎県庁	長崎県こども家庭課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市子ども・子育て会議	委員	2020年4月～現在	佐世保市子ども政策課
佐世保市社会福祉協議会ふくし教育推進委員会	委員長	2020年4月～現在	佐世保市社会福祉協議会
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)こども育成専門委員会	委員	2020年7月～現在	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)
児童相談体制強化のためのスーパーバイザー・アドバイザー派遣事業	登録スーパーバイザー	2021年5月～現在	長崎県こども家庭課
全国てんかんセンター協議会教育推進委員会 てんかんソーシャルワーカー育成部会	部会員	2022年12月～現在	全国てんかんセンター協議会
長崎県子どもの意見表明支援事業	スーパーバイザー	2023年11月～現在	長崎県こども家庭課
社会福祉法人清風園スーパーバイザー	スーパーバイザー	2024年4月～現在	社会福祉法人清風園

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・2024年5月31日に佐世保市青少年教育センター職員を招聘し、メンタルフレンド勉強会を実施し、11名の学生が受講した。

・2024年12月に佐世保こども・女性・障害者支援センター所長に、一時保護所ボランティア1名（社会福祉学科2年生）を紹介した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
児童福祉特別講義	短期研修のため来日した上海大学学生に対し、日本の児童福祉に関する講義を行った。	2024年7月31日	長崎国際大学・上海大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

①第11回全国てんかんセンター協議会総会 徳島大会2024　優秀ポスター賞「てんかんのある人の自立支援医療（精神通院医療）の利用実態に関する調査－ソーシャルワーカーの視点から－」

②2023年度ベストティーチャー賞（ベストプラクティス部門）「社会福祉学科における国家試験合格支援の取り組み」

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も、研究・教育・大学運営・地域貢献それぞれバランスよく活動することができた。その中でも特に今年度は、これまでコロナ禍で進捗が遅れがちであった研究において、論文・学会発表ともに満足のいく業績を残すことができた。ポスター発表を行った学術集会において優秀賞を受賞することもでき、次年度も引き続き、研究活動を発展させていきたい。

また、本学5年目となる中で地域からの研修要請が高まっており、学内業務と並行しながら各種スーパービジョンや研修講師、各種委員としての業務を行った。このような活動は、専門職養成教育や研究活動、募集活動とも連動しているため、今後も継続していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 野田　健

1．教育理念

私の教育理念は、一緒にひたむきに何事にも取り組むことで培われる『福祉マインドの醸成』にある。そして、それをカタチにするために必要だと考えられる①他者のぬくもりや苦しみを「感じる力」、社会や他者の視点から「考える力」、自分の考えを「発信する力」の3つの力を高めていけるよう働きかけることが、私の教育者としての務めである。

こうした考えになったのは、私自身がカタチにしたい次の3つの言葉と出逢ったからである。まず1つ目は、大学時代に学んだ『共生』である。この言葉は、誰かの“ため”ではなく、“ともに”生きることの大切さをを教えている。2つ目は、介護職員時代に教わった『人間大好きになれ、笑顔を絶やすな、感謝の気持ちを忘れるな』である。これは、社会福祉事業を立ち上げ、地域の方々を救おうとした僧侶が、職員だけでなく出逢った方々がともに心掛けるべき言葉として挙げたものである。そして、3つ目は、専門学校教員時代に学生との歩みから生まれた『ハートのある人になる～手と手をつなごう～』である。将来、介護福祉士になることを志す若者とともに、地域とつながって、そこでのふれあいから成長していくこと過程をスローガンにしたものである。

これらの言葉を実際に行動・態度で表すならば、上記した3つの力を使い、他者と一緒に、ひたむきに、目の前にある事象に応えていくことが求められる。今現在、私自身がそれに努めているところであるが、それを「やって見せ、言って聞かせてさせてみて、誉めていく」ことで、『福祉マインドの醸成』を図れると考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
海外ソーシャルワーク研修	15/15(通年)	2	6	④⑤⑥⑦
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	30/30(通年)	2	7	⑦⑫
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ	90/90(通年)	4	5	⑦⑫
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	19	④⑤⑥⑦⑩
国家試験基礎演習	7/15(後期)	1	37	⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
相談援助の基盤と専門職Ａ	15/15(前期)	2	1	①⑥⑨
ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）	15/15(前期)	2	53	①⑥⑨
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	7	①⑤⑥⑦
ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）	15/15(後期)	2	52	①⑥⑨
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	15/15(前期)	1	5	①④⑤
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	7	①②④⑥⑦⑪
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	11	⑤⑥⑩
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	10	⑤⑥⑩
コミュニティづくりフィールドワーク	10/30(後期)	4	15	①②④⑥⑩⑪
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅲ	15/15(前期)	1	11	⑤⑥⑦
福祉特論G	8/15(後期)	2	17	①②⑤
福祉サービスの組織と経営	15/15(前期)	2	57	②⑫
コミュニティづくり総論	2/15(前期)	2	33	②④⑩
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ	15/15(後期)	1	12	⑤⑥⑦
専門演習A	15/15(前期)	1	7	⑥⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	7	⑥⑫
国家試験演習（共通）Ⅰ	15/15(前期)	1	47	⑧⑨
国家試験演習（共通）Ⅱ	15/15(後期)	1	44	⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
福祉政策経営特講	15/15(前期)	2	1
福祉政策経営特講	15/15(前期)	2	5
ソーシャルワーク特講	15/15(前期)	2	4
事例研究(福祉政策経営)	15/15(後期)	2	1
特別研究	15/15(前期)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前・後期科目の評価に関しては、学生アンケートのQ13「この授業に参加して満足できましたか」にて5点満点中、「ソーシャルワーク実習の理解」5.0、「福祉サービスの組織と経営」4.3、「ソーシャルワークの基盤と専門職」4.6、「専門基礎演習B」5.0であった。総じて大きな問題はなかったと判断する。

今年度は、学生と授業で接する中で、「体験」「主体性」に弱さを感じる場面がところどころあった。ボランティア経験が少ないことや、授業等での指示待ちが散見される中、これはいわゆる「コロナ世代」であり、貴重な時間を奪われた結果なのではないかと感じた。ついては、こうした部分を教育で改善していく必要があると考え、「体験」「主体性」を培うようなプログラムを今後提案していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援（追加学修時間、夏季集中講座）	22	46	5/17，24，31，6/7，14，21，28， 7/5，12，19，9/3×2，9/4×2， 9/4×4，11/8，22，12/23，27

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①社会福祉士養成における実習指導のあり方に関する研究

②ボランティア体験による学生の成長に関する研究

③離島在住の要支援（介護）に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	2	2	30万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

日本におけるソーシャルワークおよび本学科の専門職育成について／2024年9月10日／2024年長崎国際大学人間社会学部・上海大学社会学院交流会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
災害支援におけるソーシャルワークの意義の再考と推進	長崎国際大学	2024年8月～2025年3月	15万円
パラスポーツ活動による地域の共生社会化のための拠点構想	長崎国際大学	2024年8月～2025年3月	15万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務に関する全学的事項の運営・管理に関して理解し、それを踏まえて学科業務を担った。
自己点検・評価委員会	委員	自己点検・評価に関する全学的事項の運営・管理に関して理解し、それを踏まえて学科業務を担った。
スポーツサポートセンター	委員	主に強化指定部の競技力向上、地域スポーツ振興、スポーツ系学生支援を図るため、安全・安心部門の担当として、会議等に参加した。
学科運営委員会（学科内）	委員	学科の安定・発展的運営を図るために、委員で学科会議前に集まり議題を整理していき、適切な運営に貢献した。
ソーシャルワークコース運営委員会（学科内）	委員長	社会福祉士養成の適切な運営のために、業務の実施、会議の運営等を行い、学生が実習を無事に終えることに貢献した。
コミュニティコース運営委員会（学科内）	委員	コミュニティコースの科目の担当の他、運営・管理に携わった。
催事運営委員会（学科内）	委員	2025年度に向けて、広報や学内学会等の見直しを図った。
ボランティア研究センター（学科内）	委員	地域から届くボランティア要請や研修案内を学生に伝達する他、学生の活動のサポートを行い、地域貢献を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
災害ソーシャルワークLABO	担当教員	災害ソーシャルワークの意義を再考と推進を進めるため、地域と連携を図り、主体的に活動する組織体として、社会福祉学科の学生と教員の有志でLABOを結成し、催し、研修会等を実施した。

(3) 課外活動の指導等

硬式野球部　部長

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①第1～4回オープンキャンパス／7月21日、8月4日、8月25日、3月16日／長崎国際大学
②波佐見高校大学見学会／3月13日／長崎国際大学
③伊万里実業高校出張講座／3月17日／伊万里実業高校農林キャンパス
④社会福祉士養成課程での行事・実習、ボランティア活動に関する記事を大学HPへ掲載

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外

2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	6

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
社会福祉士実習指導者講習会	6月29日	長崎国際大学	長崎県社会福祉士会
虐待防止・身体拘束適正化研修	8月23日、9月4日、9月17日、10月11日	障害者支援施設にじいろ	社会福祉法人大空の会
自治体職員のための改正介護保険法への対応と介護保険事業計画策定の基礎	10月28日	Zoom（日本経営協会）	一般社団法人日本経営協会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
平戸市介護保険事業計画策定委員会	委員	2023年度～2025年度	平戸市
平戸市介護保険地域密着型サービス事業者選定委員会	委員長	2024年10月～2025年3月	平戸市
長崎県介護保険審査会	委員	2024年4月～2025年3月	長崎県
社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会役員	理事	2024年度	社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会
社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会地域福祉推進委員会	委員	2024年度6月～2025年6月	社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会
社会福祉法人大空の会役員	監事	2024年度	社会福祉法人大空の会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①4月20・21日「Earthday2024 in 川棚」に協力、ボッチャブースを出店
②5月1日「オレンジカフェよかとこ」の活動に参加
③7月1日「オレンジカフェよかとこ」の活動に参加
④7月11日「佐世保北中学校研究所訪問」にて福祉プログラムの提供
⑤8月24日「山祇神社夏祭りボランティア」の活動に参加
⑥10月18日「九文幼稚園YOSAKOIさせぼ祭り」にボランティアとして参加
⑦10月25日「九文幼稚園お楽しみ会」にボランティアとして参加
⑧11月30日「PLUSマルシェ」にボッチャ・防災啓発ブースを出店
⑨12月8日「第一生命＆長崎国際大学わくわくボッチャ大会」に共催、スタッフとして参加
⑩2月2日「ごちゃまぜ防災」に協力、スタッフとして参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院短期海外研修 IN 長崎国際大学	両大学間の交流活動、観光付添等	2024年7月26日～8月5日	上海大学社会学院、長崎国際大学
海外ソーシャルワーク研修 in 上海大学	学術交流活動、施設見学等	2024年9月9日～9月23日	長崎国際大学、上海大学社会学院

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

（1）学科教育　50％

現行の体制の課題の改善度については、すぐに修正できる規程等は改善したものの、2021年度からはじまった新カリキュラムのプログラムの確認・見直しまでは十分にできておらず、来年度に持ち越しており、50％程度の出来と考える。

（2）大学運営　60％

副学科長という立場に慣れておらず、各委員会もはじめてが多く不慣れであったため、期待される役割を十分に果たしておらず、60％程度の出来と考える。

（3）社会貢献　70％

今年度は、森尾先生とのパラスポーツ活動をはじめ、防災関連で学長裁量経費を取得し活動をした点は評価できるが、一方で通常業務と社会貢献活動で手がいっぱいとなり、研究活動がおろそかになったため、70％程度の出来と考える（ただし、他大との共同研究は行っているところである）。

今年度は、上記したとおり、学科のカリキュラムの確認・見直しが間に合っておらず、また副学科長としての役割・権限を見い出せずに十分に務めを果たしたとは言えない結果となったため、総評は60％（C評価）であったと考える。ただ、今年度の反省を来年度に活かすことを考慮すると、今年度は意味のある1年であったともいえる。

なお、副学科長を1年行った上で感じた所感は、学科内の教育・研究力の低下である。学科ビジョン（将来展望）、責任と権限、連携（一体感）を来年度の課題とし、活動していく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 韓　榮芝

1．教育理念

教育の理念は、以下のような３点を主にとしている。

１．学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。

２．コミュニケーション力を育成を基盤にして探求力を獲得させ、ディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成を行う。

３．学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。教育の理念は、以下のような3点を主にとしている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
海外ソーシャルワーク研修	15/15(通年)	2	6	④⑤⑥⑦
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	30/30(通年)	2	16	⑦⑫
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	17	④⑤⑥⑦⑩
ボランティア論	15/15(通年)	2	102	②⑦⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	9	①②③④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	7	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	15/15(後期)	2	53	①②③⑧⑨⑩
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	15	①⑤⑥⑦
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	15	①②④⑥⑦⑪
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥⑦⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	9	④⑤⑥⑦⑪⑫
福祉特論D	8/15(前期)	2	29	②③⑥⑪
コミュニティづくり総論	2/15(前期)	2	33	①②③④⑥⑧⑩⑪
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	15/15(後期)	2	53	①②③⑨⑩⑪
専門演習A	15/15(前期)	1	10	①②③④⑤⑥⑦⑪⑫
保健医療と福祉	15/15(後期)	2	61	①②⑥⑨
国家試験演習（共通）Ⅰ	6/15(前期)	1	47	⑧⑨
国家試験演習（共通）Ⅱ	6/15(後期)	1	44	⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域福祉計画特講	15/15(前期)	2	3
地域福祉計画特講	15/15(前期)	2	3
事例研究（地域福祉計画）	15/15(後期)	2	2
特別研究	30/30(通年)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

卒業研究項目では、受講者は7名で回答者数が5名（うち留学生3名）、回答率71.4%。満足度の平均評価は5.0(今年から始めてアンケートを実施したため過去のデータないが、前期は4.8)であった。５名の回答評価は全て5となった。向上策として、学生の要望や進み具合を把握し、メリハリのある授業を取り組めた。

改善策と教育効果について、コロナ感染が収縮する傾向にあるが、受講生に対する心のケアを継続していくことは依然として重要である。そのため、学生個々の実情に応じて相談を行い、新カリキュラム（実施とした最初の年度生）に関する対応を丁寧に行いながら講義を進めていた。ゼミ生の学習状況（卒業研究）や就職上の悩みに対しきめ細やかな相談をし、国試対策においては学内だけでなく学外の学修もグループで実施し互いに学び合い活動を通じて全員一致で合格できるような雰囲気をつくる。4年

のゼミ生に対し今回は前期続き今年度始めてアンケートを取った。少人数のゼミであるため、学生らとの距離が近くマンツーマンで学生の実情や要望をよく把握できた。また、ゼミ生と一緒に授業運営を進めていくことができた。今回の授業アンケートを踏まえて今後学生のご意見を授業運営に反映していき、学生らの関心・興味を持つように、学習意欲を高めるように学修環境を作ることが重要だと思う。

地域福祉と包括的支援体制ⅠとⅡの科目においては、まずⅠでは履修者70名、回答者53名（内留学生8名）回答率75.7%で、授業満足度は4.1（去年3.9、前年3.7）留学生は4.8（5.0）前年度年より0.2ポイントアップ。本科目は社会福祉士カリキュラムの改正に伴う新設された科目であり、今年度は4年目となる。今年はコロナ感染状況の緩和により、授業の形態は全て対面で行われた。そのためにグループワークや少人数の発表、互いに学び合うことができた。一年生を対象とした科目でもあるので、なるべく専門用語の定義を繰り返し復唱し、地域社会における諸生活問題を分かりやすく理解するように、動画を取り入れたり専門用語や人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎にレジュメ作成や資料を事前に配布したりして、多くの受講者が授業内容を理解しやすくなどコメントも寄せれている。しかし、今後さらに工夫し満足度をアップしていく必要があると感じた。

今回は全ての授業が対面で行った。大人数クラス（70名）の講義ということもあって、まず受講生に感染予防を促し座席を指定した。月曜1限目の授業があったため、遅刻や欠席のないように授業の最初に前回の授業内容を復習し、簡単な小テストを行ったりすること。本科目は前年度から卒業必須科目でありながら、新カリの国家試験（SW/PSW）の受験科目でもある。そのため、予習と復習ができるように、受講生に理論的知識を得るのみならず現場での理論を実践に結ぶつけるように、動画の視聴や参考資料を配布するなど理解しやすく実施した。授業毎に次の授業内容をレジュメ配布、図やグラフなどを取り入れながら丁寧に資料作成をし、復習を積極的に取り組むように授業レポートを課し、授業後の振り返りを徹底して行った。履修者54名、回答者52名（内留学生６名）回答率96.3%で、授業満足度は4.1（去年3.7）留学生の授業満足度は4.8（去年2名で5.0）。本科目は去年続き社会福祉士カリキュラムの改正に伴う新設された科目であり、今年度は2年目となる。今年度はコロナ感染状況の改善により授業の形態は全て対面で行われたため、グループワークや少人数の発表が多く、互いに学び合うことができ満足度は去年度より0.4アップ。Ⅱでは1年次の「1」と3年生の「Ⅱ」となっている。三年生にとって一年間のブランクがあったので、専門用語や定義などを振り返り復習することが重要だと考え、動画を取り入れたり事例や関係する人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎にレジュメ作成や資料を事前に配布したりして、国試に関する過去問を練習し多くの受講者が授業内容を理解するように行った。しかし、全体の満足度に比べ依然として高くない水準であり、今後さらに工夫していく学生個々の状況に応じ授業方法を改善していく。

保健医療と福祉の科目について、履修者65名、回答者49名（内留学生４名）回答率75.4%で、授業満足度は4.0（留学生は5.0）。本科目は今年度から担当となり、社会福祉士や精神保健福祉の受験科目でもある。今年度はコロナ感染状況の改善により授業の形態は全て対面で行われたため、グループワークや少人数の発表が多く、互いに学び合うことができた。受講生は二年生や上級生、留学生もいるので専門用語や定義などを振り返り復習することが重要だと考え、動画を取り入れ事例や関係する人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎に内容に合わせて設問とその解答を作り、授業レジュメ資料を事前に配布し、国試に関する過去問を練習し多くの受講者が授業内容を理解しやすいとのコメントもあった。しかし、全体の満足度に比べ依然として高くない水準で、今後さらに工夫していく学生個々の状況に応じ授業方法を改善していく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学　佐世保校	中国語ⅠA/B　文法と読解	30/30(前期・後期)	2	24
長崎県立大学　シーボルト	社会福祉論	15/15(集中)	2	56
長崎県立大学　佐世保校	中国語ⅡA/B　講読	30/30(前期・後期)	2	3

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
日本語能力試験補習　N2,N3	20	6	前期毎週金曜2コマ
日本語能力試験補習　N3	10	3	後期毎週火曜1コマ
社会福祉士国家試験　追加学修	12	30	夏季、冬季2科目担当

３．研究活動

(1) 研究テーマ

中国の地方都市部における要介護高齢者の医療と福祉サービスの現状と課題

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
人現社会学専攻科教務委員会	委員	大学院生の募集（特に海外留学生）
国際交流委員会	委員	上海大学社会学院　海外短期研修（17名）の招待、企画運営、通訳など
災害ボランティアセンター	委員	社会福祉学科の学生らと一緒に熊本城の地震現場の見学や、募金活動の呼びかけ等
ハラスメント委員会	相談員	学生の相談に応じながら専門部署とを連携を図る

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学科災害ボランティアセンター	メンバー	災害ボランティア活動の啓発と実践について、学長裁量経費の取得（研究メンバー）

(3) 課外活動の指導等
学生らにグループホーム指し方　ボランティア活動の募集と引率、海外ソーシャルワーク研修の企画、運営、通訳などの担当

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）
海外大学（中国福建省師範大学：ライブで本大学学科紹介、瀋陽市看護大学など）との連携を図り、留学生募集活動を行ったこと。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	-	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	-	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	-	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	-	コンプライアンス(研究費の不正について)	欠席

2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市役所　都市計画審議会	副会長	R1～6年12月迄　関連事項の審議	佐世保市長
佐世保市役所　保健医療福祉審議会	会長	Ｒ5年10月～　関連事項の審議、司会	佐世保市長
佐世保市役所　民生委員児童委員会	委員	Ｒ6年1月～　民生委員の評議など	佐世保市長
西海市社会福祉協議会評議委員会	評議員	ＲＩ年～　関連事項の評議など	西海市社会福祉協議会会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

海外の医療保健と福祉の現状と課題について早岐警察署の方に講話、南高愛隣会主催の障がい者と地域住民との交流イベントの参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院海外短期研修	プログラム作成、運営と引率、通訳等	R6年7月26日～8月5日迄	長崎国際大学社会福祉学科
海外ソーシャルワーク研修イン上海大学社会学院	プログラム作成、運営と引率、通訳など	Ｒ6年9月9日～13日迄	長崎国際大学社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

（教育）ゼミ生は4年生7名（内留学生2名）、3年生9名（内留学生7名）、2年生10名（留学生1名）計26名、大学院生修士課程（3名、うち留学生2）の指導をしており、学習状況や先行文献研究（日本語や論文の書き方など）を細目に指導及び確認する。欠席や遅刻にならないように面談を随時に実施し、学修を含め自律のある生活ができるように徹底した指導を行い離脱させないように努める。授業では学部前期と後期各11コマ、大学院は前・後期各3コマを担当し、授業の満足度は前年度より高くゼミ生の国試

合格率をアップさせることや受験の引率者として勤めた。学内外の学生に大学院への進学を促し、入学前の指導など進学率の増加に繋げる。課外教育として、週に2コマ（5名）日本語補習をし、留学生の語学力向上に努める。保育士合格率をアップできるよう講座に勤める。国試合格支援委員会のメンバーとして、高い合格率を達成するため、編入生や転学科生への個別指導も含め補習を行う。（研究）海外の提携大学と合同研究などを行い、長崎国際大学論叢や学内学会紀要への投稿や編集を務める。4年生卒業研究部会長として、学内学会委員として努め、（社会貢献）早岐警察署との連携を通じて在宅高齢者の地域生活支援を強化するように働きかける。佐世保市都市計画審議会副会長、保健医療福祉審議会会長などに努め、佐世保市と瀋陽市との提携プロジェクトに参加。長崎県中国語コンクールの審査員として務める。西海市社協の評議員に努める。ボランティアセンターの担当として外部の要請や連携を図り学生の活動参加がスムーズにできるように取り組む。（大学運営）全学国際交流委員として、上海大学との共同研究・海外短期研修の企画案や運営などに努める。大学院研究科教務委員として努める。学科委員会では、実習委員会、学生支援委員会、学内学会、ボランティアセンター、などに努める。書道サークルの顧問に努め、開国祭や佐世保市内の施設で書道展を出展し、地域との繋がりを図る。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 足立　孝子

1．教育理念

学生には、精神保健福祉士としてのアイデンティティをつかんでもらいたい。つまり、ソーシャルワーカーとして、主に精神障害やメンタルヘルス課題を抱える人々の権利擁護や生活支援を担い、心の健康の保持増進や症状・障害の軽減により、誰もが自分の意志で主体的に暮らすことができるよう、本人および周囲の環境や社会に働きかけができるということである。そのためには、本学科のディプロマポリシーにもあるように、深い専門知識と高い技術を習得し、様々な課題に適用して解決をはかることができるように指導をしていく。

そもそも精神医学ソーシャルワークは、精神障害者への差別や抑圧の歴史のうえに立脚しており、生活課題を有する人々が、つながりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現を目指すものである。そのためにも、社会の課題を情報収集し、分析する専門的能力を涵養していく。

さらに具体的には、患者・利用者を中心に事態を把握し、それぞれのニーズに注目した生活モデルによる理解、そして何よりも、本人の生活上の目標、人生における希望が決定的に重要になる。そのためには、グローバルな視点で、意見を傾聴するとともに、相互理解を図る必要がある。つまり、当事者とのかかわりの中で関係性を深めてもらい、当事者の生きる力に寄り添うためにはどうしたらいいのか、体感できる教育にしていきたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国家試験基礎演習	6/15(後期)	1	37	①②③④⑥⑧⑨⑫
国家試験演習（精神）Ⅰ	7/15(前期)	1	13	①②③④⑥⑧⑨⑫
専門演習A	15/15(前期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
精神保健福祉の原理Ⅱ	15/15(後期)	2	27	②③④⑤⑥⑦⑩⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ソーシャルワーク演習（精神）Ⅲ	15/15(後期)	1	9	①②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅱ	15/15(前期)	1	10	②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
福祉特論D	7/15(前期)	2	29	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	15/15(前期)	2	41	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	15/15(後期)	2	38	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
国家試験演習（精神）Ⅱ	9/15(後期)	1	10	①②③④⑥⑧⑨⑫
ソーシャルワーク演習（精神）Ⅱ	15/15(前期)	1	10	①②③①⑤⑥⑦⑧⑪⑫
ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅱ	15/15(後期)	2	17	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅰ	7/15(後期)	1	11	②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
精神保健福祉制度論	15/15(前期)	2	24	①②③④⑥⑧⑨⑫

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
精神保健特講	15/15(前期)	2	2
精神保健特講	15/15(前期)	2	4
事例研究（精神保健）	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

○ソーシャルワーク演習（精神）Ⅲ

本科目で行っている事例検討は、精神科病院で実際に行われているものを応用している。段階的に行う（教員の事例→学生の

事例→ファシリテーターも学生）ことによって、学生の積極性を高まることができた。今後は、精神科病院で実際に行われている事例検討にリモートで参加できるように調整していきたい。ただ見学するだけでなく、その場で意見を出すことができるように、学生のスキルを上げていきたい。実習を経験することによって、学生は各段に成長することができると実感できる科目である。

○現代の精神保健の課題と支援Ⅱ

全体的に数値が下がっており、もともと低い項目は、さらに低くなっている傾向にある。これらのことから、初年度の熱意を取り戻すこと、学生には適切な注意を促すこと、スマートフォンを活用した付箋などで意見を発表できるように工夫し、誰も取り残さないような授業を実践していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
日本福祉大学	精神保健学	30/30(4月～２月)	4	200
日本福祉大学	ソーシャルワーク実習（精神）	75/75(4月～12月)	4	1
島根大学大学院	精神保健学特別演習ⅡA	14/14(前期)	2	1
島根大学大学院	精神保健学特別演習ⅡB	14/14(後期)	2	1

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験演習（精神）追加学修	15	11	10月～12月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１．「狐憑き」について

明治以降、迷信的なものには禁止令が発せられた一方で、精神医学が国家的に制度化され、医療として優位な立場になる。こうして、狐憑きなどの憑依は、「迷信」として排除され、精神医学の疾病分類・病因論・治療法へと変わっていった。狐憑きとはいったい何だったのか―。精神医学の立場、民俗学・宗教学の視点から、狐憑きを中心とした憑依について研究する。

２．多職種連携教育

統合失調症をはじめとした精神病は、発症前後のかかわりによって予後が大きく変わってくる。チームの要となって患者を支えるためのケースマネジメントについて検討し、多職種連携の実践のために、多職種連携教育（ＩＰＥ）を実習を通して行う取り組みをさらに進める。ＩＰＥの実践と研究を行う。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

近代以前の「狐憑き」とは何か／2025年3月／長崎国際大学論叢第25号／77～84頁／単著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

「狐憑病」研究のあらまし―俗信が迷信にかわるとき―／2024年10月26日／第27回　日本精神医学史学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	副委員長	図書館委員として、図書館の円滑な運営に携わった。
IRセンター委員会	委員	IRセンター委員として、アンケートの結果などから、よりよい大学のあり方を検討した。
教育基盤センター委員会	委員	教育基盤センター紀要編集委員として、編集に携わった。
国家試験合格支援委員会	委員	３福祉士の合格率を上昇させるための取り組みを行った。
メンタルヘルスコース運営委員会	委員	精神保健福祉士の円滑な実習や国家試験合格率上昇のために取組んだ。
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員	地域マネジメント専攻担当として、倫理審査を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
全学共通科目カリキュラム改革WG	委員	全学共通カリキュラムの適正化のための改革を行った。

(3) 課外活動の指導等

吹奏楽部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
五島市ひきこもりサポート講座	2024年7月27日	五島市福江福祉保健センター	五島市
事例を通して地域包括ケアを考える	2025年3月22日	まちなかコミュニティセンター	心の健康フェスティバル

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉審議会	委員	４月～３月	佐世保市
長崎県ひきこもり支援連絡協議会	委員	４月～３月	長崎県
長崎保護司選考委員会	委員	４月～３月	長崎保護観察所
国家試験合格支援委員会	委員	４月～３月	日本ソーシャルワーク教育学校連盟

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

〇精神障害当事者のためのウォークラリーゲーム大会

佐世保市内の精神科医療機関および障害福祉サービス事業所、専門職養成機関が毎年主催している。精神科医や精神科看護師、精神保健福祉士らが立場を超えてイベントを盛り上げている。昨年に引き続き、学生を伴って運営に携わった。

〇就労支援事業所が出店するマルシェの企画

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、毎回、レジュメを作成し、図表を用いた板書などの工夫から、分かりやすい授業を心がけた。法改正や話題性のあるトピックを取り上げ、学生が興味をもてるように解説した。精神科病院で勤務していた際、現場で体験した事例についても積極的に紹介した。しかし、２年目になると少しずつ熱が薄れているのではないかと危惧をしている。再度、授業の組み立てを検討したい。

大学運営では、IRセンター委員として、気づいた点や気になった点について積極的にコメントすることができた。図書館委員会では、限りある予算の中で、効率的な図書館の利用について考えることができた。

地域貢献としては、ひきこもりサポーター養成講座の講師を五島市から依頼され、当日の様子は、長崎新聞にも取り上げられた。また、本活動の報告や反省点などは、長崎県ひきこもり支援連絡協議会において発言し、共有することができた。

研究面では、「狐憑き」について学会発表や原著論文として発表することができた。引き続き、「狐もち筋」の研究を進めていきたい。また、次年度は、多職種連携教育（IPE）の実習を自主実習として、学生に体験してもらい、その成果をまとめていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 浦　秀美

1．教育理念

私の教育理念は、想像と創造ができるような学生、常に自己研鑽できるような学生を育てることです。そのために理論と実践とを統合することを大切にしています。社会で必要とされている福祉人材、福祉そのものの向上に寄与出来るような人材を育てます。また、一人ひとりの福祉観（介護観）を培うために、自分自身で考え、相談し、判断できる人材を育成することも大切にしています。

よって、授業では原理・原則を学ぶことを主軸に置きつつも、最新の福祉現場の現状についての情報伝達、情報共有を重視しています。

学生には、国家試験合格のための知識に留まらず、専門職として必要な実践に役立つ福祉に関する知識を学んでほしいと考えています。また、自分自身の身近な存在に必要な福祉の知識や技術を学んでほしいとも考えています。そのために、国家試験の出題基準に則した知識や技術を網羅した講義や演習、そして、現在の福祉現場の実情に即した福祉に関する知識や技術を取り入れた授業方法を行います。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
介護実習Ⅰ	90/90(通年)	4	9	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅱ	45/45(通年)	2	5	①⑫
介護実習Ⅲ	90/90(通年)	4	10	④⑤⑦⑪⑫
国家試験演習（介護）	6/15(通年)	1	10	①④⑪
介護総合演習Ⅱ	8/15(通年)	1	5	①④⑤
介護総合演習Ⅲ	15/15(通年)	1	10	④⑥⑩⑪
生活支援技術ⅢA	15/15(前期)	1	9	②⑤⑥⑨⑩⑪
共通福祉演習	1/15(後期)	1	39	①②⑤⑥⑩
介護総合演習Ⅰ	10/30(通年)	2	9	①②④⑤⑥⑦⑫
生活支援技術ⅣB	15/15(後期)	1	9	①④⑧
専門演習A	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥
専門演習B	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥
卒業研究	30/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
介護基礎学Ⅱ	15/15(後期)	2	19	①③⑦⑨
介護福祉論	15/15(前期)	2	38	②⑤⑦⑨⑩
介護援助技術	15/15(前期)	1	11	②⑥⑦⑩
生活支援技術ⅢB	15/15(後期)	1	9	②⑤⑦⑨⑩⑪
生活支援技術ⅡA	15/15(前期)	1	9	②⑨⑪
介護概論ⅠA	15/15(後期)	2	36	④⑤⑨⑩
介護概論ⅠB	15/15(後期)	2	7	①④⑤⑧⑨⑩
生活支援技術ⅣA	15/15(前期)	1	9	①④⑧⑨
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
学際連携研究	1/15(前期)	2	198	⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

＜教養セミナーA＞

本科目の評価として、自由記述を確認した。

・授業では一人一人を見てくれていると思った。
・距離が近くて、教員とも同じゼミの仲間とも話し合えることができた。
・困った時や分からない所があったら迅速に対応してくてくれて嬉しかった。
・スライドで困っている人がいたらどのように改善した方が分かりやすいかアドバイスをなさっている所がとても良いなと思った。
・楽しく受けれたのでとても良かった。
・セミナーの科目以外で何かみんなとしてみたかった。
・浦先生最高

というコメントをしてくれていた。

入学してからの半年間で大学に慣れることや不明な点を解消することは重要であることから、適切な距離とはどのようなものか考えながら関わったが、概ね良好な評価をもらえたことは、自身の学生アセスメントが適切なものであったと考えている。ON/OFFの切り替えを意識した展開も好評であったのだと考える。

「授業外でも何かしらの取り組みを一緒に行いたい」という希望を持った学生もいたことから、たとえばボランティアやその他の活動をセミナーメンバーで行う等、今後工夫をしていきたい。また、学生との関わりを多く持ち、よりよい関係性を築いていきたいと考えている。

＜生活支援技術ⅢA＞

昨年度に続き、配付資料のみやすさ（文字の大きさ、色使い）等の工夫をしたが、まだまだ工夫が不足している部分があるのかもしれないと考えさせられた。さらなる工夫を継続していきたいと考える。話し方のゆっくりさの指摘についても、課題である。理解を促すために繰り返したり、強調したり、抑揚をつけることに留意していたが、話し方について「ゆっくり」であることの指摘は今回が初めてであったため、現状に慢心せず、伝え方についても工夫を重ねていきたいと考える。

今回の該当質問になかった項目として、学生による準備学修の数値が芳しくない。授業内での復習レポート（manabaへ直接入力・提出）、次回授業に向けての予習（調べ学修）も適宜行っていたが、高評価に結びついていない。予習・復習がある程度できているのに、取り組んでいる実感を得られていないと推察するから、予習・復習の取り組み状況の現状と評価をさらに明確に学生には伝えていきたいと考えている。

＜介護援助技術＞

今年度は昨年度より評価平均値を下回る結果となってしまったことは真摯に受け止め反省していこうと思う。

受講学生の中には、テキストを購入しない、筆記用具を持参しない、実習室での授業時の服装等の不備が一定数おり、都度指摘や注意をしたが改善が図れなかった。このことを改善するためにどのような方法を用いてよいか、現時点でよい案が浮かんでいない。根気よく関わり、声かけをし続けていこうと考えている。

本科目は演習科目であることから、なるべく福祉機器に触れさせながら取り扱い方法を学ばせたり、利用者を体験させ、支援のヒントを見つけることに重点を置いているが、次年度以降の実習指導によっては、座学を少し増やす等、授業構成や展開方法をさらに充実させていきたいと考える。

＜介護概論ⅠA＞

本科目が学科必修科目となって3年が経過する。一昨年度はオムニバス科目で展開し、昨年度・今年度は単独で開講した科目である。昨年度と今年度を比較したが、大きな評価の上昇、下降は認められなかった。授業への全般的な評価は概ね良好であると判断している。

自由記述にも、「丁寧な話し方である」、「わかりやすい説明で非常に理解しやすい」、「経験談が多く、話がわかりやすい」、「話すスピードがちょうど良い」、「質問への丁寧な答えでわかりやすい」、「レスポンで自分のコメントが当てられた時、ちょっと嬉しい」、「プリントも説明もわかりやすい」、「例を挙げた説明が具体的に想像したり考えたりできる」、「介護のイメージも変わった」、等、全てのコメントがポジティブなものばかりであった。介護のイメージは社会福祉学を学修する学生にとってもネガティブなイメージを持つため、それが払拭できたことは、自身の取り組みを評価できると考えている。

今回の授業についてのアンケートについて、学生自身が本科目を受講するにあたり準備学習することが最も低い値（4.0）であったことは、今後の課題である。ほとんど毎回リフレクションレポートの提出を課していたため、復習はしていたが、予習をいかに取り組ませるかについては、引き続き工夫をしていくように検討を重ねていきたい。

＜生活支援技術ⅣB＞

本演習は少人数であるため、ペアでのディスカッションやグループディスカッションもやりとりをした人とばかり実施することも多かった。ディスカッションについては今後工夫をしてく必要があると考える。

本科目においてもリアルタイムで受講学生のコメントをシェアすることを取り入れた。文章にて入力するよう指示をしても、文章を構成する力が不足している学生も多く、なかなか力の向上に至ることができなかった受講学生もいた。また、「わからないことはない」という学生に対しての関わり方も今後検討が必要であると考えている。授業時に口頭で伝える、授業資料に伝達内容を明記する、manabaのコースニュース等で知らせるといった、あらゆるツールを活用しても課題の提出忘れがあった学生もいた。本人にとってこの授業の必要性を認識するような関わりの工夫を引き続き考えていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食介護論	1/15(後期)	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
介護福祉士国家試験合格支援　追加学修	4	10	11/26, 12/17, 12/24, 1/7

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者介護
介護福祉
介護福祉教育
介護福祉士養成教育
福祉分野における現場実習と教育
福祉分野における人材養成（育成）
認知症ケアモデル
介護人材育成
介護福祉士に対するオンライン研修システム
介護実習における実習施設と養成校との連携
介護過程の現任者支援

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	・長崎国際大学論叢査読者を選出した ・長崎国際大学論叢査読者からのコメントへ対応した ・長崎国際大学学術研究報告会の事前準備及び当日運営を行った
ハラスメント委員会	委員	・大学院入学生オリエンテーション（秋季）にてハラスメント防止の説明を行った ・社会福祉学科2・3・4年生新年度オリエンテーションにてハラスメント防止の説明を行った ・2025年度のハラスメント防止のための対策とした、動画の選出（教職員用、学生用）を行った

教育基盤センター委員会	委員	・入学前教育に関する活動（実施後のアンケート作成と集計、実績や効果、改善点の抽出、2025年度入学生に向けた課題についての検討、課題の冊子データの作成）を行った ・入学前講座に関する活動（実施日程の調整、開催通知の作成、出欠管理、実施に伴う実績や効果、改善点の抽出）を行った
教養セミナー部会	部会長	・教養セミナーのクラス編成案を作成し、編成を確定させた ・入学生オリエンテーションに係る活動（関係各署への連絡・相談・調整、資料の作成、当日の運営、学科会議での審議・報告）を行った ・社会福祉学科会議での審議・報告事項の抽出、会議の資料を作成した ・外部講師の招聘に係る業務（グループ編成、担当教員へのアナウンス、届出様式の配信・集約・提出）を行った ・教養セミナーBの授業で行われる全体会の実施案の作成と運営を行った ・専門基礎演習の配属学生の編成に係る業務（ゼミ編成、教務課との連携）を行った
ケアワークコース運営委員会	委員	・ケアワークコースに関する新規の提案を行った ・介護実習に係る業務（実習指導者会議で欠席した施設への説明、実習生の状況を随時把握し、コース長や構成員へ報告、実習中断施設への対応と委員会への報告等）を行った ・ケアワークコース在籍学生への対応（相談援助、面談、状況の把握等）を行った
保育士講座委員会	委員長	・講座実施案の作成を行った ・講座実施に関する検討を学科長と行い、学科会議で審議するための資料を作成した

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①長崎県主催　介護人材確保オンラインセミナー/5月29日
②全国福祉高等学校校長会令和6年度長崎県高校生介護技術コンテスト（長崎県大会）/7月10日/シーハット大村
③全国福祉高等学校校長会令和6年度第11階九州地区高校生介護技術コンテスト/8月20日/シーハット大村
④福祉の職業体験！キッザケアナガサキ/2月24日/アルカス佐世保

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
15	13

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
介護人材確保オンラインセミナー	5月29日	オンライン	長崎県長寿社会課
令和6年度介護福祉士実習指導者講習会	9月7日、9月8日、10月5日、10月6日	諫早市福祉会館	長崎県介護福祉士会
虐待防止セミナー	9月14日	NPO法人チャレンジド人財センター（諫早市幸町）	長崎県社会福祉協議会
高齢者権利擁護推進員養成研修	9月17日、9月18日	長崎県庁	長崎県長寿社会課
高齢者虐待防止ネットワーク研修会	10月11日	佐世保市まちなかコミュニティセンター	佐世保市長寿社会課
虐待防止研修会	10月18日	オンライン	佐世保市社会福祉協議会
佐世保市グループホーム連絡協議会東部ブロック研修	10月23日	江上地区コミュニティセンター	佐世保市グループホーム連絡協議会東部ブロック
虐待防止セミナー	10月25日	社会福祉法人虹が丘学園（長崎市岩屋町）	長崎県社会福祉協議会
令和6年度介護福祉士基本研修	10月27日、11月2日、11月24日	諫早市福祉会館	長崎県介護福祉士会
高齢者虐待防止研修会	11月26日、1月28日	やまのたサンタパーク、天神ベイヒルズ	社会福祉法人葉港会
障害者施設におけるチームケア	11月28日	長崎慈光園	長崎慈光園
障害者施設におけるストレスケア	1月16日、2月13日	長崎慈光園	長崎慈光園
高齢者権利擁護推進員養成研修報告会	1月21日	長崎県庁	長崎県長寿社会課
虐待防止研修会	2月7日	大村市中地区公民館	長崎県社会福祉協議会
高齢者施設におけるストレスケア	2月21日	有限会社ナイスケアみなとまち	有限会社ナイスケアみなとまち

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
社会福祉法人宮共生会	評議員	2024年10月～	社会福祉法人宮共生会
長崎県介護現場デジタル改革推進事業補助金審査	審査委員	2024年10月～10月末日	長崎県長寿社会課
全国福祉高等学校校長会令和6年度第11階九州地区高校生介護技術コンテスト	審査委員長	2024年8月～8月末日	全国福祉高等学校校長会
長崎県福祉保健審議会民生委員審査専門分科会	委員	2024年8月～	長崎県
長崎県福祉保健審議会高齢者専門分科会	委員	2024年8月～	長崎県
長崎県長寿社会か令和6年度介護の仕事魅力発信事業実施業務委託にかかる企画コンペ	審査委員	2024年８月～8月末日	長崎県
全国福祉高等学校校長会令和6年度長崎県高校生介護技術コンテスト	審査委員長	2024年７月～7月末日	全国福祉高等学校校長会
社会福祉法人ふるさと	監事	2024年6月～	社会福祉法人ふるさと
長崎県高齢者虐待防止・身体拘束ゼロ作戦推進会議	委員	2021年7月～	長崎県長寿社会課
佐世保市高齢者虐待防止ネットワーク委員会	委員	2021年7月～	佐世保市長寿社会課
社会福祉法人あい里	理事	2020年4月～	社会福祉法人あい里
長崎県佐世保県北圏域介護人材育成・確保対策地域連絡協議会	委員	2018年4月～	長崎県介護福祉士会
特別養護老人ホームサンホーム江上入所検討委員会	第三者委員	2015年12月～	特別養護老人ホームサンホーム江上

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

＜達成目標＞

教育面：①例年通り学生が分かりやすく、取り組みやすい授業研究を行う。②授業アンケートを適宜行い、満足度を維持・向上させる。

研究面：①大学院博士後期課程で指導を受けながら研究課題を明らかにし、文献研究を進める②博士後期課程の進捗に応じ、可能であれば論文を投稿する。

社会貢献面：①長崎県の各種委員、②佐世保市の各種委員、③長崎県介護福祉士会主催の介護実習指導者講習会の講師、④長崎県権利擁護推進員講座セミナーの講師、⑤長崎県社会福祉協議会出張セミナーの講師、⑥介護労働安定センターからの依頼による講習会の講師、⑦各種自治体個別依頼によるセミナー講師、⑧高齢者施設・障がい者事業所の理事や評議員、アドバイザーや第三者委員、⑨県立高校や専門学校の非常勤講師・講習会の講師、⑩長崎県高等学校・特別支援学校教育研究会福祉部会主催の高校生介護技術コンテストの審査委員長等の活動を全うしながら、学生募集の活動も並行して行う。

大学運営面：①研究センター委員、②ハラスメント委員、③教養セミナー部会長、④保育士講座委員長、⑤学生サポート室室員、⑥ケアワークコース構成員として、関係各所と連携を図りながら任務を全うする。

＜実績・評価＞

教育面：①学生に適宜理解度や要望を確認し、受講しやすい授業を実践研究できた。②授業アンケートの結果も良好な結果を残すことができた。

研究面：①定期的に大学院にて指導を受け、研究課題を明らかにした研究計画書の完成に向けて日々取り組んでいる。②研究計画書の完成に向けた取り組みが中心であったため、論文の投稿には至らなかった。

社会貢献面：①～⑩までの委員や講師を昨年度以上に担当し、職務を全うできた。また、目標として設定していなかったが、長崎県介護福祉士会からの依頼で介護福祉士の基礎研修の講師も担当し、十分に社会へ貢献できた。

大学運営面：①～⑥までの委員、部会長、委員長の活動に取り組むことができた。

今年度の達成目標の設定から、実績評価を上記のように行った。教育面、社会貢献面、大学運営面については例年通り、滞りなく職務に取り組み、全うすることができた。教育面については、授業アンケートだけでなく自身の授業で満足度の確認等を適宜行い、学生が学びやすい授業構成、資料作成に取り組むことができた。また、社会貢献面についても、長崎県福祉保健審議会の役員をはじめ、高齢者や障害者の権利擁護や介護従事者への講座を受け持ち、わかりやすい講座であるという評価を受けている。社会福祉法人（高齢・障害）からの監事や評議員の依頼もあり、さらに社会貢献の面は充実していると言える。様々な役割を担うことで、今後の介護実習の配属先の開拓や、介護実習における教育（学生だけでなく、実習指導者）にも引き続き尽力していきたいと考えている。

研究面については、大学院博士後期課程へ進学ができ、指導教員や、大学院に在籍している先生方とのディスカッションを重ねながら研究計画書の完成に至ろうとしている。これまでの研究がいかに未熟であったかを痛感しているところである。介護福祉士資格養成の現状と、現場の実践の乖離、矛盾が如実に現れてきたため、その部分を研究で明らかにできればと考えている。また、博士論文のテーマは自身が所属する社会福祉学科介護福祉士養成の今後にも直結するテーマであることから、研究を進めながら授業にも反映させていきたいと考えている。

2025年度は研究活動を形にすることを目標としたい。自身でも十分理解しているが、研究面が最も未熟であることから、研究に取り組み形にする時間をなんとか捻出したいと考える。そのため、様々な業務も大切にしたいが、研究に取り組む時間の捻出を最大限に行い、研究の優先順位を上げていきたいとも考えている。例えば、長崎国際大学の論叢もしくは教育基盤センターの紀要、もしくは在籍している大学院の紀要への投稿、日本介護福祉学会または日本社会福祉学会での研究発表等、研究活動に尽

力したいと考えている。

さらに2025年度はケアワークコースのコース長、教務に関する主任者を担当することになる。コース運営にも尽力していきたいが、リーダーシップを発揮するというコース長像を描いてはいない。コースの運営が円滑にいくような調整役としてコース長を担っていきたいと考えている。そのため、コースの先生方や学科長、副学科長などにもご協力いただきながら取り組んでいきたいと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 中村　尚生

1．教育理念

高等教育における教育理念および目標、ならびにそれらを達成するための方法論について述べる。

第一に、大学生が修学生活において自主性や創造性を涵養できるような教育実践をおこないたいと考える。特に、私の専門である障がい児・者の心の有り様や、その奥深さについて履修生や指導学生に教授したいと考える。それにあたっては、旧来の受動型の授業ではなく、アクティブラーニングによる教育形態を積極的に実践する。そのなかで、教員としてさまざまな問題提起をおこない、履修生などには主体的・能動的に学びの場に参加することを奨励したい。

次に大学生の立場に立った教育を心掛けることである。具体的には、きめ細やかにコミュニケーションを図り、修学意欲を高めたいと考える。大学という高等教育機関における目標の最たるものが、学生の知的好奇心を刺激し、引き出すことであると考える。そのために、学生たちが“知的好奇心を持って学問を楽しく修める”きっかけを与えることは、大学教員の大きな役目だと認識している。また、よりよい修学環境を保障するために、障がい学生への合理的配慮を怠らぬように留意する。

次は、多様な価値観に開かれた人材育成をおこうことである。それにあたっては、障がいの有無や、国籍、世代の違いによらない幅広い交流の中で、多様な価値観に触れ、既存の価値体系を再構築する機会を提供できるように、教員としても障がいに対する理解啓発を積極的におこなうことや、留学生との国際交流、世代の異なる地域の人々との交流を学生たちに奨励したい。

ここからは、教員として大学生をどのように支援するか、について述べる。

まず何より、学生の心に寄り添った支援を心掛けたいと考える。具体的には、臨床心理学を専門とする教員として、専門性を活かした知識、技法を用いながら、心理的な危機状態にある学生や障がいのある学生に対して支援をきめ細やかにおこなっていきたいと考える。さらに、共生社会の実現やそれに伴う法整備が加速度的に推進される社会的状況と照らしながら、これまでの臨床実践の経験を活かし、合理的配慮の提供に伴う関係調整やコーディネートとしての機能・役割を果たしたい。また、セーフティーネットとしての居場所作り活動を実践し、心理的な危機を抱える学生のゲートキーパーとしての役割を果たしたいと考える。さらには、ネットワークや相談資源を活用し、教員間で日頃より情報交換をおこなったり、キャンパスライフヘルスサポートセンターなどの技術職員と多職種連携を図ったり、緊密な連携や協力体制を構築し、より効果的な支援を提供できるように尽力したい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	30/30(通年)	2	8	①⑤⑦⑪⑫
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ	90/90(通年)	4	4	①⑤⑦⑪⑫
心理学	15/15(後期)	2	96	①②⑤⑦⑧⑨⑩
児童心理学	15/15(後期)	2	33	①②⑤⑦⑨⑩⑪
健康・生きがいづくり総論	8/8(前期)	1	19	①②⑤⑦⑨⑩⑪
特別支援教育	8/8(後期)	1	31	①②⑤⑦⑨⑩⑪
国家試験演習（社会）Ⅰ	6/6(前期)	1	44	⑧⑨
国家試験演習（社会）Ⅱ	6/6(後期)	1	41	⑧⑨
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	8	①⑥⑩⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	15/15(前期)	1	4	①⑥⑩⑪⑫
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	7	①②④⑥⑦⑪
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ	15/15(後期)	1	4	①⑥⑩⑪⑫
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	10	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	10	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティとSDGs	2/15(前期)	2	39	①⑩
コミュニティづくりフィールドワーク	10/30(後期)	4	15	②④⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(中・高)	3/15(後期)	2	14	①⑥⑦⑩
障がい者スポーツ	2/15(前期)	2	17	①⑥⑨⑩
キャリア開発Ⅰ	5/15(後期)	2	288	①②⑥⑦⑩
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①②④⑤⑥⑩⑪

教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②④⑤⑥⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートは、前期が臨床心理学（薬）、後期がソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰの科目にて実施した。臨床心理学の科目は、薬剤師を志す学生に対してカウンセリングマインドをはじめとする臨床心理学的知識および技術を教授することであった。アンケート結果では、授業満足度に対して理解度が相対的に低かったことから、当該領域の関心や知的好奇心を高めたと捉えられるが、専門知識の定着は不十分だった可能性がある。特に、臨床心理学の理論は抽象的な内容が多いため、日常生活から具体例を引用し体験的理解を促す必要があると考えられた。また、復習テストなどを実施することにより学修内容の反復をおこない理解の促進を図るべきである。

また、ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰの科目は、実習前準備および実習後省察をおこなうことが主な目的であった。実習前準備では、より専門的・実践的なソーシャルワーク実習に備えて高度な学修を進める必要があった。アンケート結果では、おおむね高い水準で理解度および満足度の評価を得ることができたと考えられる。これは、本授業の展開や指導方法が受講生の知識・技術の深化を促すことができたと捉えられる。特に、実習準備に入る前に関連する基礎知識を振り返ったり、ソーシャルワークの意義を概説したりするような準備のための事前学修が効果的であったと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

昨年度に引き続き、身体内部感覚（内受容感覚）に着目した身体感覚への気づきと曖昧さへの態度との関連について、データ分析をおこなった。分析に基づき、研究仮説（① 曖昧さへの態度を有する者は、身体内部感覚（内受容感覚）に対して中立的な評価ができる、② 曖昧さへの態度を有する者は、自己の心理状態を多面的に覚知している、③ 曖昧さへの態度を有する者は、「身体感覚の増幅」現象が認められない）を検証中である。来年度以降、心理学関連諸学会において口頭発表および論文投稿をおこなう予定である。

また、自閉スペクトラム症のある子どもをもつ保護者のためのセルフヘルプ・グループ（親の会）における相互支援プロセスを検討した。親の会に継続して参加する保護者12名を対象に実施したインタビュー調査の結果を修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。その結果、相互支援プロセスには目的達成／ニーズ充足的相互交流、および価値の共有を伴う相互連帯があるとわかった。今後、各相互支援プロセスがどのような加算的・重層的グループ体験を経由して生起したのかを明らかにする必要があると考えられた。また専門職は、親の会において“固有の子育て”という体験の視点から情緒的サポートの機能を強化することや、専門的見地から多様な考え方を提供し、参加者が子どもの個別的理解を深められるように関与することができると考えられた。現在、特殊教育学会への投稿を済ませ、査読中である。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	482万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)（課題番号23K02302） 研究代表者	文部科学省	2023年4月～2027年3月	468万円
長崎国際大学学長裁量経費「教育的包摂を先導するコラボレイティブ・ラーニングによる知の創造」代表	長崎国際大学	2024年4月～2025年3月	14万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員	キャンパスライフ・ヘルスセンター運営委員および学科内のピア・サポート担当教員として、関係教員や関係各所と綿密な連携・協働を図りながら合理的配慮を申請する学生や身体的、心理的障がいのある学生に対し、適切な修学環境を整備することができた。特にピア・サポートのシステムが円滑に運用できるよう尽力し、サポーターの学生と利用学生の関係調整を細やかにおこなった。
教育基盤センター運営委員会	委員	人間社会学部における学修支援部門の担当者を務めた。今年度は、昨年度に策定した1・2年生の離学防止対策を推進し、円滑な実施に尽力した。また実績に基づき、対策実施の効果および課題を整理した。
ソーシャルワークコース運営委員会	委員	ソーシャルワーク実習ⅠおよびⅡを担当した。また実習支援システム導入のワーキンググループのメンバーを務めた。
コミュニティコース運営委員会	委員	コミュニティづくりフィールドワークにおいて、受講生は視覚障害をテーマにコミュニティワークに必要な連携・協働・協調性を身につけることができた。また、オープンキャンパスにおいて授業の取組を紹介し、社会福祉学科の特色や取組を情報発信することができた。
学生支援委員会	委員長	離学防止対策の一環として、国家試験基礎演習においてSA制度を再開させ、受講生の学修効果を高めることができた。
社会福祉士国家試験合格支援委員会	委員	ゼミ担当教員が国家試験受験予定者に対し、円滑な個別面談が実施できるよう出席情報などを随時報告し、受講生の学修に伴う困り感や不安感の解決・解消を手助けすることができた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム担当	委員	本学を代表して子ども育成専門委員会の委員を務めた。また、本事業のリレー講座の一部として、「思春期の発達障がいの理解と対応」をテーマに研修を担当した。
学部教授会担当	委員	学部教授会開催に際し、議題および関連資料をとりまとめ、円滑な会議の運営に尽力した
専門基礎演習部会	主任	各種オリエンテーションの運営や専門基礎演習や専門演習のクラス編成などにかかわる全般的な業務を中心となっておこなった。
オープンキャンパス・ワーキンググループ	委員	第2回オープンキャンパス（7月実施）において、各コースのカリキュラムや取組を紹介し、本学科の特色や魅力を高校生及び保護者に発信することができた。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①オープンキャンパスにて学科の活動や特色、魅力などを参加学生および保護者と交流するなかで積極的に発信し、本学の広報活動へ貢献した。／2024年7月～8月／場所：長崎国際大学

②長崎東高等学校の探究学習の一環として、高校生に対して心理学の知識（ストレス）を教授した。／2024年11月／場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
五島市ひきこもりサポート講座	7月27日	福江総合福祉保健センター	五島市社会福祉課
児童福祉司任用研修	8月23日	佐世保こども・女性・障害者支援センター	長崎県福祉保健部こども家庭課
平戸市民生委員児童委員協議会連合会研修会	2月27日	たびら活性化施設	平戸市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学大学院附属総合臨床心理センター	研究員	2024年4月～2025年3月	九州大学大学院人間環境学府
佐世保市いじめ防止対策推進員会	会長	2024年4月～2026年3月	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2024年4月～2025年3月「発達凸凹応援隊にじいろサロン」アドバイザーとして勉強会に参加したり、定期的に相談会を実施したりした。主催：発達凸凹応援隊にじいろサロン

②2024年4月～2025年2月「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」スーパーバイザーとして定期的に参加した。主催：長崎県肢体不自由児者父母の会連合会

③2024年4月～2025年3月「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」スーパーバイザーとして定期的に参加した。主催：佐賀県有田市

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

「NICEキャンパス長崎」における児童心理学の授業科目を担当した。

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、十分な教材研究を行った上で受講学生からのフィードバックをもとに授業内容及び方法の改善を図ることができたと考える。その結果、今年度の授業アンケートでは、4.0以上の満足度を回答結果として得ることができた。また、担当学生とは継続的な面談の中で綿密にコミュニケーションを図ることで、離学・怠学を予防できたと考える。

研究活動においては、科学研究費助成事業の基金（基盤研究C）をもとに、自分自身の専門分野に関する研究を進めることができた。今後は、研究データを分析し、心理学関連諸学会での発表および論文投稿を目標としたい。

大学運営活動においては、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員として、関係教員や関係各所と綿密な連携・協働を図りながら配慮学生に対し、適切な修学環境を整備することができたと考える。円滑なピア・サポートシステムの運用のために、配慮学生とサポート学生の関係調整を細やかに行えたと考える。

社会貢献活動においては発達障がいのある子どもを育てる親の会や、佐世保市特別支援学校の心理リハビリテイション活動に専門家として定期的に参画したり、長崎県こども家庭課をはじめとする様々な機関の依頼の応じて研修会を実施したりすることができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 久田　貴幸

1．教育理念

私の教育理念は、自ら考え行動できる能力と他者との関係を円滑に行うための能力を持った学生を育てることである。そのために、学生の能力や特性に合わせた問題提起や取り組みがしやすい環境を整え、学生同士の関係性を観察したうえで調整を図ることを大切にしている。また、社会に必要とされている福祉専門職像を満たしたうえで、さらなる専門性の向上に寄与できる人材を育てることにも力を注いでいる。そのために、専門的知識と技術を実践に活かすための思考について、常に意識させるよう促している。

学生には、今後の医療・福祉の中核的人材としてリーダーシップが取れる能力を身に付け、福祉のクリエイティブな側面を知ってもらうことで、社会福祉の専門職として社会における福祉の増進・進展に寄与できる人材になるための基礎を作り上げてほしいと考えている。そのために、学内における学習を基礎として、地域社会とのかかわりの中で自身の立ち位置をしっかりと認識できる人になってもらうための促しを常に心がけて学生と関わっている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
介護実習Ⅰ	90/90(通年)	4	9	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅱ	45/45(通年)	2	5	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅲ	90/90(通年)	4	10	①⑤⑦⑪⑫
国家試験演習（介護）	3/15(通年)	1	10	①④⑪
介護総合演習Ⅱ	15/15(通年)	1	5	①⑤⑥⑦⑫
介護総合演習Ⅲ	5/15(通年)	1	10	④⑥⑩⑫
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	10	④⑤⑥⑩
国家試験基礎演習	3/15(後期)	1	37	⑧⑨
介護総合演習Ⅰ	5/30(通年)	2	9	⑤⑥⑦
専門演習A	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑦
専門演習B	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
卒業研究	30/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨
介護基礎学Ⅰ	15/15(前期)	2	25	①③⑦⑨
生活支援技術ⅠA	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥
介護概論ⅡB	15/15(前期)	2	8	④⑤⑦
障がい者スポーツ	15/15(前期)	2	17	⑪
生活支援技術ⅠB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
コミュニティづくり総論	15/15(前期)	2	33	①②③④⑥⑧⑩⑪
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	①④⑧⑨
介護過程ⅡB	15/15(後期)	1	6	④⑤⑦
コミュニケーション技術	15/15(前期)	1	9	④⑤⑦
介護概論ⅡA	15/15(後期)	2	10	④⑤
地域の理解と連携	15/15(後期)	2	200	②④⑦
介護過程ⅡA	15/15(前期)	1	8	④⑤⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートにおいては、前年度と大きな変化は見られなかった。学生からは一定の満足度を引き出すことができたと考える。今後も学生に寄り添う姿勢を忘れることなく、学生の満足を得られる授業運営を心がけたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	隣接医学	3/3(前期)	2	30
長崎県立大学	社会福祉論	15/15(後期)	2	62

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

○介護福祉士養成における介護実習の教育的課題に関する
○介護現場におけるスーパービジョンに関する研究
○介護現場における教育プログラムの開発に関する研究
○高齢者の歩行姿勢に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学術アドバイザー	社会福祉法人長崎博愛会	2024年6月1日～2025年5月31日	60万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	開国際の小委員会に参加し、学生の支援を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

大村城南高校　模擬授業を実施　2025年3月6日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
介護実習指導者講習会	2024年9月7日	諫早市総合福祉会館	長崎県介護福祉士会
介護実習指導者講習会	2024年9月8日	諫早市総合福祉会館	長崎県介護福祉士会
介護実習指導者講習会	2024年10月5日	諫早市総合福祉会館	長崎県介護福祉士会
介護実習指導者講習会	2024年10月6日	諫早市総合福祉会館	長崎県介護福祉士会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉審議会	委員	2019～	佐世保市長
佐世保市地域包括支援センター運営協議会	委員	2019～	佐世保市長
長崎県介護事業所認証評価検討委員会	副委員長	2022～	長崎県知事

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度も教育・研究・社会貢献の各分野において、バランスの良い活動を目指して活動を行った。概ねバランスよく取り組めたと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 裵　孝承

1．教育理念

私の教育理念は、個々の個性を尊重しながら、他人と協力（連携）できるグローバル人材を目指し、ソーシャルワーカーとして、暖かい心を持ち、なおかつ科学的なアプローチも可能な人材を養うことである。
この理念を実現するために、①多様性を知る＆理解すること、②お互いが分かり合うこと（コミュニケーション力を高める）、③社会現状（課題など）を、的確に分析し、社会福祉を探求すること、④実習教育を徹底的に行うことを教育方針に入れている

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	18	④⑤⑥⑦⑩
キャリア開発Ⅱ	15/15(前期)	2	261	①②⑩
共通福祉演習	8/15(後期)	1	39	①⑤⑥⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	7	①②③⑥⑫
国家試験演習（社会）Ⅰ	6/15(前期)	1	44	⑧⑨
国家試験演習（社会）Ⅱ	6/15(後期)	1	41	⑧⑨
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑩⑫
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	13	①②④⑥⑦⑩
福祉特論C	8/15(前期)	2	24	①②③⑦
高齢者福祉	15/15(後期)	2	51	①②⑤⑥⑨
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	11	④⑤⑥⑩
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	14	④⑤⑥⑩
社会福祉調査の基礎	15/15(後期)	2	43	①④⑤⑧⑨
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①⑥⑦⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
社会福祉調査特講	15/15(前期)	2	5
高齢者福祉特講	15/15(後期)	2	2
高齢者福祉特講	15/15(後期)	2	4
事例研究（高齢者福祉）	15/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

おおむね授業に満足していた。授業には、参加型の授業ができるように構成し、受講者の名前や顔をできるだけ覚え、知識が定着しているかどうかについて頻繁に確認した。また、国家試験関連科目には過去問を中心に小テストを導入し、学生の理解度を高めた。その結果、実際国試試験で高い点数を取った学生も多かった

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援（追加学習時間）	15	30	通年

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・介護支援専門員に対するサポートに関する研究
・実習指導者の実習指導を通した自己成長に関する研究
・佐世保市における地域福祉推進に関する市民の意識調査研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	905万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
介護支援専門員に対するサポート体制のモデル構築に関する実証的研究	日本学術振興会科学研究費補助金	2018年4月～2025年3月	450万円
ソーシャルワーク実習指導者の実践共同体の確立に向けた実証的研究	日本学術振興会　科学研究費助成事業　若手研究	2024年4月～2028年3月	455万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
安全衛生委員会	委員	学内の安全衛生のために、会議に出席し、必要な情報などを学科に共有した。
就職委員会	委員	就職委員として、合同就職説明会、就職ガイダンスを企画・開催し、学生の就職に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第2回オープンキャンパス	主担当	入学を考えている学生が、オープンキャンパスを通して本大学、本学科のことを知って、魅力を感じるために全力を尽くして企画し、準備した。

(3) 課外活動の指導等

1年生のゼミ生を連れて、江上地区の高齢者スマホ教室にボランティアとして参加した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席

2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
西海市地域福祉推進委員会	会長	2024年～現在	西海市
佐世保市人権啓発審議会	委員	2020年～現在	佐世保市
西海市地域福祉活動計画策定評価委員会	委員	2024年～現在	西海市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

去年に続けて、「学生ファースト」、「面倒見のいい大学」が言葉だけに留まることのないように、教育・研究を行いました。特に、学生とは程よい距離感を持つように意識しました。ゼミ生には、一人一人の状況に合わせて指導を行うことを心かけました。その結果、ゼミ生のほとんどが、早い時期に自分が望む就職を確保しながら、卒業準備をしたと思います。このようなきめ細かな指導は、学生自身の向上心を高め、品格のある人として社会人になっていくと自負します。国試対策支援にも積極的に協力し、個別に声をかけ、研究室を開放するなど、学生の多様な面でを支援しています。授業は徹底的に準備して、アクティブ

ラーニングや国家試験準備ができるように行っています。研究面でも、努力しており、インタビュー実施や尺度開発の共同研究を行いました。科研にも新たに提出し、採択されました。新たな研究・調査を準備しておりますが、時間的な余裕がなく、採択されても研究が進むのか、不安が残っています。若手・女性研究者として、良い見本を出すために教育・研究もより頑張りたいと思っております。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 丸山　貴志

1．教育理念

本学の理念でもあるホスピタリティの探求・実現は社会福祉の人材育成において重要な内容である。
この教育理念のもと、ソーシャルワーカーには欠かせない多職種連携を積極的に進め、その中心的な立場でリーダーシップが取れ、そのうえで協調性があり協働できる人材育成を行う。
またいかなることにも積極的に自ら学び、解決策を導き出す力を身につけることができる人材の育成に取り組んでいく。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（精神）Ⅰ	30/30(通年)	2	3	⑫
ソーシャルワーク実習（精神）Ⅱ	75/75(通年)	4	9	⑫
ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅰ	15/15(前期)	2	16	①⑤⑥⑩
国家試験演習（精神）Ⅰ	9/15(前期)	1	13	①⑥
共通福祉演習	2/15(後期)	1	39	①②⑤⑥⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	9	④⑤⑥⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅱ	15/15(前期)	1	10	④⑥⑦⑩⑫
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅲ	15/15(後期)	1	9	⑫
障がい者スポーツ	1/15(前期)	2	17	⑪
福祉特論H	8/15(後期)	2	22	①④⑤⑫
精神医学と精神医療Ⅰ	15/15(前期)	2	28	①④⑤⑥⑨
精神保健福祉の原理Ⅰ	15/15(前期)	2	35	①④⑤⑥⑨⑩
国家試験演習（精神）Ⅱ	8/15(後期)	1	10	①⑥
ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ	15/15(後期)	1	11	①④⑥⑦
精神障害リハビリテーション論	15/15(前期)	2	14	①⑤⑥⑩
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅰ	15/15(後期)	1	11	①⑥⑦
学際連携研究	3/15(前期)	2	198	⑩
精神医学と精神医療Ⅱ	15/15(後期)	2	16	①④⑤⑥⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度後期に実施の授業アンケートは演習科目であること、少人数であること、が授業の特徴であるといえる。そのため「満足」もしくは「良い」と回答しなかった学生が1人でもいると平均値に大きく影響する。しかし、少人数だからこそ一人ひとりに対して個別の対応やレベルに合わせた授業内容を実施するといった工夫をすることが可能であり、またそのちょっとした工夫をすることで授業全体がより良くなると感じた。メンタルヘルスコースを担当しているため、他の授業でも少人数の授業が多く存在する。そのため来年度以降の授業では、特に少人数クラスの授業の充実を図りたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	社会福祉Ⅰ	7/7(前期)	1	75

佐世保市立看護専門学校	社会福祉Ⅱ	7/7(後期)	1	75
嬉野医療センター附属看護学校	社会福祉	15/15(後期)	1	70

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・若年性認知症の人々の福祉的就労のための医療福祉連携による新たな支援体制の構築

・一般病棟における認知症有症者に対する看護師の負担感の検証

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	副委員長	副委員長として委員会運営のため委員長をサポートし、また人間社会学部において学生委員会全体の実績の審議、報告等を行い委員会活動の運用に貢献した。学生に対する処分等の対応や卒業パーティーの準備運用など、特に学部学科に関連する内容については中心的に活動し貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

・佐世保市未来ふくしプロジェクトに学生とともに参加

・大村共立病院へ見学実習へ学生を引率

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外

2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市自立支援協議会	委員	令和2年度～現在に至る	佐世保市障がい福祉課
波佐見町自立支援型地域ケア会議	アドバイザー	令和4年度～現在に至る	波佐見町役場

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

令和6年10月26日佐世保市未来ふくしプロジェクトにボランティアとして参加　主催：佐世保地区障がい者就労支援協議会

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

・令和7年3月11日、3月18日、精神保健福祉士実習受け入れ施設へあいさつのための訪問
・令和7年3月3日～4日日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック精神保健福祉士養成教育研究部会

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

学科内ではメンタルヘルスコースのコース長としてコース運用に尽力した。精神保健福祉士を受験する学生がメンタルヘルスコース所属だけではないので、特に国家試験対策については苦慮することもあったが、しっかりまとめることができた。国家試験は11名中10人合格させることができ一定の結果は出すことができた。しかし昨年は合格率100%だったため合格者は増えたが、

1名の不合格者を出したことは来年度の課題として取り組みたい。また講義では、新カリキュラムが完成年を迎え、昨年より充実した内容の講義をすることができた。委員会活動は今年度から学生副委員長に就任し学生委員会を円滑に運用するなど学内での活動は積極的に行い、学科や大学全体の運営に貢献することができた。学外の活動としては、昨年に引き続き佐世保市自立支援委員会と波佐見町自立支援型ケア会議のアドバイザーなど積極的な活動をすることができた。非常勤として佐世保市立看護専門学校と嬉野医療センター附属看護学校の講師を務め、求められている活動をしっかり行うことができた。研究活動に関しては、昨年度から調査し、データをまとめる作業を行ってきたが、論文投稿まで至らなかった。来年度はしっかりまとめて1稿はアクセプトされることを目標とする。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 助教　　氏名 針塚　緑樹

1．教育理念

私は、授業をはじめとした大学生活を通して学生が以下に述べるような力を獲得できるような教育実践を行っている。

まず、教育を通して学生が獲得することを目指す力とは、各分野に特化した知識や技術などを身につけた専門性の高い人材を育成することに加えて、自分とは異なる背景を有する他者を理解し尊重する力、そして周囲の人々と関係性を構築し社会に貢献していく力、さらに自ら納得して選択・決定をする力と考える。そのため、学生一人ひとりが自ら納得のできる選択や決定ができ、周囲の人々との間に共同的な関係性を構築するためには、学生自らが主体的に学び他者と関わる機会が重要と考え、授業では学びの意欲を引き出すような学生の興味関心に即したテーマや話題を取り上げながら、学ぶ喜びや楽しさに気づけるような教育実践を行っている。

担当している講義科目の「心理学」とは、現代の多様かつ複雑な社会を生きて行く上で重要な知識となるだけでなく、自身や他者とが相互によりよく共生していくうえで重要な心身の健康に密接した学問と考える。特に、コロナ禍以降においてはメンタルヘルスの問題は非常に深刻な社会問題として認識されるようになり、病気の回復だけでなく予防も含めたメンタルヘルスケアやストレスマネジメントは誰にとっても重要な課題である。とりわけ、対人援助職を中心とした専門職や社会貢献として人々と密接にかかわる領域では喫緊の課題であり，そういった職種を志す大学生が大学生活を送る上で現実的な課題解決ができるよう支援したいと考えています。そのために，授業では大学生にとって身近な問題やストレスを中心に，心理教育だけでなくグループワークやボディワーク，ディスカッションといった実感の伴いやすい体験的な学びを提供するような授業を進めている。

また、教員として学生の学修面の成長に尽力するだけでなく、大学生活を通して社会に生きる人としての成長を支援する視点が重要と考えている。臨床心理学を専門とする教員であるだけでなく、学生相談室の常勤カウンセラーという立場からも、特にさまざまな心理的危機にある学生や障がい学生に対して学生の心理社会的背景を理解しながら、細やかな支援を心掛けている。そのためには、学生本人に対する支援

だけでなく学生に必要な支援を提供する部署や他機関、また関係者とも連携・協働をすることで、学生が包括的なサポートを受けながら、学生自らが本来持っている力を発揮し大学生活に適応し経験や学びを得ていけるような体制の構築に尽力したいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
心理学	15/15(前期)	2	88	①②③④⑤⑫
心理学	15/15(後期)	2	17	①②③④⑤⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートは、心理学の科目にて実施した。本科目は、薬学科・健康栄養学科の主に1年生を対象として、対人援助職として人の心理について学ぶことが主な目的であった。授業では、心理学のなかで発達心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学の分野について取り上げた。アンケート結果では、本授業全体の満足度は、概ねどの学生においても理解度とともに高い結果が得られた。これは、学生にとって身近なテーマや興味関心、トレンドに即したテーマを取り上げたことや、動画や体験的なワークを取り入れたことが影響していたと考えられる。しかしながら、一方で授業自体の学修時間が大幅に少なかったことから、学生が主体的に授業外で学修を行うような確認テストなどを授業内にて取り入れる必要があったと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

これまで大学生を中心に不安やうつの惹起・持続に関与する非機能的思考や心配に関する実証的研究を行ってきた。今年度は、コロナ禍とアフターコロナ2023年にオンラインにて、心配、本来感、セルフ・コンパッションという心理的特性に着目し、調査を実践したデータをもとに分析を進め、心理臨床学会に投稿を行った。現在、査読中である。今後は、研究結果をもとに具体的な心理臨床の支援について、支援を必要とする学生への支援や介入だけでなく、早期発見、またメンタルヘルス問題の予防についても寄与する研究実践を引き続き行っていく。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員/専任カウンセラー/学生相談室室長	委員、専任カウンセラー、学生相談室室長として、合理的配慮等の検討会議に参加し、年に2回の総括会議では学生相談室の統計データの資料作成・報告を行った。また、こころの健康調査やCCAPS等を実施し要支援学生の早期スクリーニングを行った。毎週火曜日には、学生の居場所活動としてランチアワーを開催した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学生の自殺に関するマニュアルおよびToDoリストの再検討ワーキンググループ	委員	学生の自殺に関する緊急対応のマニュアル等について、再度内容を精査し、留学生対応や医療機関等の対応について検討しマニュアル作成をおこなった。
障がい学生支援プラットフォーム事業	委員	障がい学生のための就職支援に関して、南高愛隣会と学内とで連携して事業運用について検討し協議を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスにて、障がい学生のための合理的配慮に関する案内や相談窓口を設け、キャンパスソーシャルワーカーと共に保護者や学生本人からの入学後のキャンパスライフ・ヘルスサポートセンターの取組や対応について発信し、本学の広報活動

へ貢献した。
時期：2024年7月～8月、2025年3月/場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	-	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	-	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	-	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	-	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	-	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	-	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	-	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	-	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和6年度佐世保市初任者教員研修・中堅教員研修「ストレスマネジメント～セルフコンパッション（自己慈愛）で心身のケアを～」	令和6年8月2日	佐世保市教育センター	佐世保市教育センター

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学大学院附属総合臨床心理センター	研究員	2024年4月～2025年3月	九州大学大学院人間環境学府

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）
①2024年4月～2025年2月：「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」にスーパーヴァイザー、もしくはトレーナーとして毎月参加した。主催：長崎県肢体不自由児者父母の会連合会
②2024年4月～2025年3月：「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」にスーパーヴァイザー、もしくはトレーナーとして定期的に参加した。主催：佐賀県有田市

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、教材研究を行った上で授業内容の構成やテーマを決めて行った。また、授業内で受講学生から寄せられたフィードバックを基に、授業内容や方法についても改善に努めることができた。さらに、前期に公開授業を担当したことで、学生だけでなく他教員からの指摘や意見を受けて後期については、さらに授業方法等を工夫することができた。結果として、今年度の授業アンケートでは、授業の理解度・満足度ともに4．5以上の結果を得ることができた。

研究活動においては、これまでの研究データの分析等をすすめ、学会誌へ投稿することができた。今後は、査読結果に応じてさらなる研究計画をすすめ、事例論文の執筆、および心理学関連諸学会への論文投稿を目標とする。

大学運営活動においては、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員としてはもちろんのこと、学生相談室常勤カウンセラー、及び相談室室長として多くの学生の面接を行い学生の大学生活への適応を支援した。学生本人だけでなく、教職員や外部機関との連携・協議も積極的に行い、相談室だけでの支援にとどまらず学生が必要な支援を他部署や他機関とも協力して行えたと考える。学外ではあるが、九州文化学園グループとしては、九文小・中学校、及び調理師専門学校、歯科衛生士学院において、毎週スクールカウンセラーとして従事した。小中学校では、生徒のカウンセリングだけでなく、保護者面接を実施し必要に応じて、子どもの心理検査の実施を行った。専門学校、学院においても、学生の心理面接だけでなく、専門家として教員との情報共有や対応に関して協議を行うことで、学生の離学防止に繋がったと考えられる。

社会貢献活動においては、佐世保市特別支援学校や有田市の心理リハビリテイション活動に専門家として定期的に参加し、肢体不自由児・者を中心に支援を行った。また、佐世保市教育委員会からの依頼に応じて、新任および中堅教員のための研修会も実施することができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 助教　　氏名 山下　彦

1．教育理念

教育者としての役割は、社会福祉実践者として公共性に寄与する人材を育成することである。具体的に私は次の教育理念を特に重視して教育実践を行っている。学生が主体的に学び、考え続ける習慣を身につけることができるよう、授業を通し問いかけながら、以下のような授業方法を行っている。

講義系の科目では、予習と復習を行うよう働きかけている。予習は、授業前日までに次コマの授業資料を教育支援システムにて配信している。そこでの疑問点等を授業中にフィードバックしている。復習は、授業内もしくは次コマ冒頭で確認テストを実施し、答えを導き出した理由を問い、学び続けるための習慣化に努めている。

各ゼミ、演習系の科目も同様に、しっかり予習・課題の提出をして授業に参加してもらう。また、少人数教育の特性を活かし、自己と他者の考えを整理したうえで、理論を基に自らの考えを導き出せるように働きかけている。学び続ける習慣が身に付くよう、授業後のレポート提出を行い、その提出を徹底する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会） Ⅰ	30/30(通年)	2	9	⑦⑫
ソーシャルワーク実習（社会） Ⅱ	90/90(通年)	4	6	⑦⑫
国家試験基礎演習	6/15(後期)	1	37	⑧⑨
ソーシャルワークの理論と方法（共通 ） Ⅱ	15/15(後期)	2	63	①④⑩
国家試験演習（社会） Ⅰ	8/15(前期)	1	44	⑧⑨
国家試験演習（社会） Ⅱ	7/15(後期)	1	41	⑧⑨
ソーシャルワーク実習指導（社会） Ⅰ	15/15(通年)	1	8	①⑤⑥⑦
ソーシャルワーク実習指導（社会） Ⅱ	15/15(前期)	1	5	①④⑥
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	12	①②④⑥⑦⑪
ソーシャルワーク実習指導（社会） Ⅲ	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
ホスピタリティとSDGs	2/15(前期)	2	39	④⑤⑥⑦⑫
ソーシャルワーク演習（社会） Ⅲ	15/15(前期)	1	11	⑤⑥⑦
福祉特論G	8/15(後期)	2	17	①②⑤
権利擁護を支える法制度	15/15(前期)	2	39	①④⑤⑥
ソーシャルワーク演習（社会） Ⅱ	15/15(後期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩
ソーシャルワーク演習（社会） Ⅰ	15/15(前期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩
コミュニティづくり総論	2/15(前期)	2	33	①②③④⑥⑧⑩⑪
ソーシャルワーク演習（社会） Ⅳ	15/15(後期)	1	11	⑤⑥⑦
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
障害者福祉	15/15(前期)	2	59	④⑩
ソーシャルワークの理論と方法（共通 ） Ⅰ	15/15(前期)	2	68	①④⑤⑦⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートにおいては、ソーシャルワーク実習指導（社会） Ⅱ、ソーシャルワーク演習（社会） Ⅳ等を実施した。満足度の平均が4.4前後の結果であった。実習につながる科目であるため、目的意識を持ち意欲的に取り組む様子が伺えた。改善点としては、実践場面を想定した働きかけである。今後は、実践場面の教材を取り上げ俯瞰的な捉え方を促すようにした

い。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	社会福祉	15/15(後期)	1	53
河原医療福祉専門学校	総合演習	2/27(通年)	12	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士受験対策　追加学習（夏季）	7	44	9月10日、9月12日
社会福祉士受験対策　追加学習（冬季）	6	44	11月～1月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①主体的なボランティア活動の継続に向けた個人・集団・地域社会における要因の解明

②公共施設を取り巻く環境の問題把握とその改善策に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	委員として定例会に参加し議事内容に応じて、学科会議等で審議報告事項等を取り上げ担務した。
広報委員会	委員	委員として定例会に参加し議事内容に応じて、学科会議等で審議報告事項等を取り上げた。
学部教授会事務担当	委員	委員として会議資料の取りまとめを行い円滑な議事進行に関わった。
就職委員会（学科内）	委員	学科内就職セミナーの運営を学内就職委員会の教員（学科内）と担務した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 名切SDGｓフェスティバル（学園の魅力を発信する企画に担当者として定例会に参加。次年度開催予定）

② オープンキャンパス（全4回に参加。うち1回、準備・運営として担務）

③ 学科合同企業説明会（１ブース担務）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市生活困窮者自立相談支援調整会委員	委員	2024年4月1日から2025年3月31日	佐世保市社会福祉協議会会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

8月31日、3月18日「利用しやすい図書館の実現を目指したイベント」場所：小倉南図書館、京都市岩倉図書館

9月28日「ネイチャーゲーム＆森の音楽隊」主催：NPO法人おおむら里山村づくり委員会

11月3日「利用しやすいスタジアムの環境整備について考えるイベント」場所：東平尾公園博多の森競技場

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、担当科目の教材研究を行うと同時に、受講生からのフィードバック及び小テストの結果等をもとに授業内容の改善を図った。その結果、今年度の授業アンケートでは、概ね良好な結果を得ることができた。1年ゼミ7名の学修・生活状況等を気がけ、必要に応じて個別面談を早期に実施した。また1年ゼミ生から次年度のコース選択変更に関する個別相談を受け、上長等に相談内容を詳細に報告し適切な対応をした。今後も情報を共有し、教育者・人として学生の意思を尊重した対応を行いたい。

研究・社会貢献では、査読がある国内雑誌へ投稿し結果はまだわかっていない。また共同研究者として公共施設の環境に関する調査・データ分析を担務した。

大学運営では、全学委員会及び学科内委員会において、概ね委員としての役割を務めた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　社会福祉　　職名 助手　　氏名 金子　麻美

1．教育理念

私の教育理念は、①「いつも、人から。そして、心から。」の本学のモットーに基づいた、人の心に寄り添える社会福祉人材の育成、文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究、②福祉の専門力・情報収集・分析力・コミュニケーション力・協同・課題解決力・多様性理解力を身に着けることができる教育・研究ということである。

学生には、自己覚知や1人ひとりの様々な価値観を理解し受容しながら支援に結び付けていくスキルを学んでほしいと考えており、そのために、自分理解と相手の多様な価値感を”ソーシャルワークの価値観”として理解できるような支援を行いたいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

なし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

障がい者福祉・地域福祉・バリアフリー・SSW等

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	360万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
社会性と共感性の涵養を視座とする親子関係発達支援プログラムの開発	※科研費　中村尚生先生と共同	2023年4月～2027年3月	360万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
社会福祉学科運営員会	委員	学科運営に関わる資料準備、学科会議・専攻会議資料準備、議事録管理、連絡調整等。
コース長会議	委員	各コース運営に関わる会議。
SWコース会議	委員	実習関連における連絡調整及び書類発送業務他実習関連事務業務。学内の催事の際の準備・運営。各種検査対応。
CWコース会議	委員	実習関連における連絡調整及び書類発送業務他実習関連事務業務。学内の催事の際の準備・運営。各種検査対応。
MHコース会議	委員	実習関連における連絡調整及び書類発送業務他実習関連事務業務。学内の催事の際の準備・運営。各種検査対応。
国家試験合格支援委員会	委員	国家試験に取り組む3年生・4年生に向けた模擬試験の資料準備等。書籍や物品購入他、学生相談対応。 問題の印刷業務及びその他事務業務。
学内学会委員会	委員	学内学会でのニュースレターのデータアップや紀要の発送。運営補助等。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外

2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市通学区域審議会	委員	令和4年11月～現在に至る	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

全資格における実習関連において、教員及び実習先と連携しながら、無事に業務を遂行することができた。実習支援システムの導入などまだ課題はあるものの次年度も引き続き円滑な運用を目指して努力したい。事務業務が複雑化してしているため、より効率的なシステムに移行できるよう引き続き取り組んでいきたい。

学科内は各コース会議に所属し、全体を把握することを努め、すべての実習関連が円滑にすすむように取り組み、サポートに努めることができたと感じている。国家試験関連でも学生と一緒に勉強する機会を通して交流することができよかった。今後も自身の役割をしっかりと理解し、本学科の実習及び教育活動が常に発展するよう行動していきたい。

学生募集（オープンキャンパス）については、高校生と保護者との交流を図ることができた。1人でも多くの高校生が入学につながるようなコミュニケーションを行い、別の角度から福祉の魅力を模索していけるよう努めていきたい。

研究面については、目標としていた紀要への提出についてはなかなか思うように進んでいない現状であり、より計画的な遂行を心掛けていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 野村　秀一

1．教育理念

私の教育理念は、主体的に学び、考え、行動できる人材（管理栄養士）の育成を教育の柱として、学生の専門力と課題解決力およびホスピタリティーの伸長を支援することである。

よって、管理栄養士の国家試験の合格と将来就くであろう職業の現場で使える知識と技能を修得できる内容を構成し、講義と実習において、意欲喚起を図る手段を組み込み、主体的な学びを誘引して高い専門力の育成を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	58	①②③⑧⑨
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	54	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	36	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/15(通年)	1	35	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	1/30(通年)	2	17	⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑪⑫
管理栄養士演習	1/30(前期)	2	26	①②③⑪⑫
管理栄養士演習	1/30(後期)	2	24	①②③⑪⑫
食品衛生学	15/15(後期)	2	59	①⑩
微生物学	15/15(前期)	2	62	①⑩
健康栄養入門	2/15(前期)	2	67	②③⑤⑥
微生物学実習	15/15(後期)	1	31	①⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
食品衛生学実習	15/15(前期)	1	21	①⑩
栄養学専門演習	1/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
食品衛生学実習	15/15(前期)	1	24	①⑩
微生物学実習	15/15(後期)	1	38	①⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの結果は、考えていた評価より高い批評であった。基礎学力の不足した新入生対象の基礎科目であるため、できるだけ講義内容のレベルをこれまでより若干下げた内容で行い、反復学習できるようにしたのが高い評価に繋がったものと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
聖マリア学院大学	感染と生体防御学Ⅰ・Ⅱ	16/16(通年)	4	69

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

細菌性食中毒菌に関する研究

たんぱく質合成に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

食品の取り扱いを行う学生の黄色ブドウ球菌の保菌状況／2024年11月／日本食生活学会

管理栄養士養成校の学生におけるスマートホンから分離された黄色ブドウ球菌の性状について／2024年10月／日本食品微生物学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育	委員	健康管理学部長として、学部の教育内容ついて説明等を行うと共に、全学共通科目の変更の審議等に参画した。
教員資格審査	委員	健康管理学部長として、全学・学部の教員の審査に参画した。
防火・防炎	委員	健康管理学部長とhして、全学の防火・防炎の対策に参画した。
危機管理	委員	健康管理学部長として、全学の危機管理の対策や審議に参画した。
人事	委員	健康管理学部長として、全学の教員人事に関する審議・決定に参画した。
輸出管理	委員	健康管理学部長とhして、全学の輸出管理に関する審議・決定に参画した。
グローバル推進	委員	健康管理学部長として、全学のグローバルが推進に関する審議・決定に参画した。
全学教育	委員	健康管理学部長として、全学の教育に関する審議・決定等に参画した。
情報セキュリティー	委員	健康管理学部長として、全学の情報管理システムにおける安全性確保のための審議等に参画した。
懲罰	委員	健康管理学部長として、全学において起こった懲罰に関わる事案の新語・決定に参画した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

沖縄県立八重山高等学校の学内進路ガイダンスに出席し、栄養系大学の案内と本学の案内等を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

研究活動においては、共同研究者の2名の先生方と研究テーマが異なるテーマで共同研究を実施した。それ1名の先生との共同研究の成果を日本食品微生物学会と日本食生活学会にて学術発表を行った。もう一値の共同研究においては、その研究成果を長崎国際大学論叢に投稿・受理された。

教育活動では、1年生の科目担当であることから、新入生の学力不足・基礎学力不足の学生が多く、講義・実習内容を理解させるのに苦労した。今後の課題ではあるが、講義内容の改善等は図ることが必要である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 熊井　まどか

1．教育理念

私の教育理念は、本学の建学の理念である「人間尊重」を軸に、管理栄養士として必要な知識・技能を身に付けそれを活かせる力、良好な人間関係を築くことができるコミュニケーション力や他者を受け入れる柔軟な姿勢を持ち合わせた人材の育成を支援することである。

そのため、次のような授業方法を行う。

・基礎科目担当として、栄養学的・医学的な専門科目を学ぶ土台作りを行うために、事前・事後の学習を課して反復学習を習慣付け、知識の定着を図る。

・レポートを課し、データをまとめ、適切な情報を収集して考察する能力を育成する。

・実習を通して、生体試料や実験器具の取り扱いを修得させる。

・グループで実習を行うことで、自分の役割を見つけ、協働して作業することの重要性を学ぶ。

・リフレクションカードを活用し、学生から発信する力を引き出すとともに、学生とコミュニケーションをとる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	54	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	36	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/15(通年)	1	35	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	1/15(通年)	2	17	⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
解剖生理学実習	30/30(前期)	1	20	①⑩⑪
解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	51	①②⑨
解剖生理学実習	30/30(前期)	1	23	①⑩⑪
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑪⑫
生活支援技術ＩＢ	1/15(後期)	1	10	④⑤⑦
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	56	①⑨
栄養生理学実習	14/30(後期)	1	24	①⑩⑪
栄養生理学実習	14/30(後期)	1	21	①⑩⑪
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・授業アンケート

〔前期〕

教養セミナーAの評価は、受講態度4.4、内容4.9、教員の取組み5.0、効果性4.8、満足度5.0であった。

また、解剖生理学Ⅰの評価においては、受講態度4.4、授業内容4.8、授業方法4.9、理解度4.4、満足度4.8であった。

〔後期〕

栄養生理学実習の評価（2クラス平均）は、受講態度4.3、授業内容4.9、授業方法4.9、理解度4.6、満足度4.9であった。

・授業改善と教育効果

「解剖生理学Ⅰ」では、授業動画や配布プリントに関して高い評価が得られている。配布プリントはブラッシュアップを図り、授業動画の配信は次年度も継続して行う予定である。

「栄養生理学実習」は、学生自身が被験者となることで、興味を持って実習を行うことができた様子である。実習科目では、学生と接する機会が増えるため、個別の指導について丁寧な対応を心掛けたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	35
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	34

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・妊娠期の栄養が胎児・子に及ぼす影響

・低糖質高たんぱく質に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

食物アレルギーモデルラット作成におけるアレルゲン感作条件の検討／2024年4月／長崎国際大学論叢 第24巻／129頁～134頁／共著／論文

長期的な鉄欠乏状態がもたらす母体および次世代への影響／2024年8月／Medical Science Digest 第50巻9号／55頁～57頁／共著／総説

周産期の健康を左右する鉄ーDOHaD説が示す鉄の重要性ー／2024年11月／周産期医学 54巻11号／1524頁～1528頁／共著／総説

DOHaD説からみた母体の鉄欠乏と次世代への影響／2024年12月／BIO Clinica 39巻13号／78頁～81頁／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

低糖質高たんぱく質食が肝臓・腎臓に及ぼす影響について／2024年12月／第12回栄養改善学会 九州・沖縄支部学術総会

骨粗鬆症の予防に資する穀物類の可能性ー骨芽細胞用細胞株および実験動物を用いた骨代謝マーカーへの影響評価ー／2025年2月／第23回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務事項の審議等

自己点検・評価委員会	委員	大学評価に係る事項の審議等
動物実験委員会	委員	動物実験関連事項の連絡、審議等
発明等審議委員会	委員	発明届等の審議等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に係る事項の審議等
産学連携・研究支援センター委員会	委員	産学連携・研究支援に係る事項の審議等
全学教育会議	構成員	大学・大学院の教育活動の総合的実施に係る事項の審議等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
(NPO) 日本栄養改善学会	評議員	2024年11月～2026年10月	(NPO) 日本栄養改善学会
(NPO) 日本栄養改善学会 九州・沖縄支部	幹事	2023年8月～2025年7月	(NPO) 日本栄養改善学会 九州・沖縄支部
健康ながさき21推進会議	栄養・食生活部会長	2024年4月	長崎県国保・健康増進課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面において、学生の学力の二極化が以前にも増して著しくなり、授業の難易度の調整が難しく感じた。新カリキュラムの検討が滞っているため、次年度は素案の作成を行いたい。

研究面では、十分な活動ができていない。次年度は、最終年度を迎える大学院生の論文指導及び社会人大学院生の指導に注力したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 古賀　貴子

1．教育理念

私の教育理念は、学生との対話を重視し、主体的に諸能力を伸ばすことが出来る教育を展開するものであ る。また、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力の向上を図り、管理栄養士の国家試験に合格できる力を育て、課題解決力を育成することと考えている。

本学科では、卒業生のほとんどが管理栄養士の国家資格取得を目指しており、栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与する管理栄養士として、「健康管理」および「栄養の指導」ができるための専門的知識・技能を身につけること、また、ホスピタリティ能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につけてほしいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	58	①②④⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	15/15(後期)	1	23	①③⑩
調理科学（食品加工学を含む）	15/15(前期)	2	50	⑨⑩
調理学実習Ⅲ	15/15(後期)	1	20	①③⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	4	①②④⑥⑩⑫
調理学	15/15(前期)	2	58	⑨⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅰ	15/15(前期)	1	31	②⑩⑪
調理学実習Ⅱ	15/15(後期)	1	33	②⑩⑪⑫
調理学実習Ⅰ	15/15(前期)	1	34	②⑩⑪
調理学実習Ⅱ	15/15(後期)	1	31	②⑩⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義科目については、パワポの資料をさらに見直して、特に最新のデータ（法改正に伴う部分など）を入れるなどより良いものとするように努めた。学生からのコメントでも、最新の数値などをしっかりと訂正していたので、今後の勉強で訂正していないものを覚えるよりも効率が良いと思った。プリントは教科書の重要なところがきちんとまとめられていて分かりやすかった。との意見があった。国家試験の「食べ物と健康」の箇所に関わる科目であり、覚えることも多い科目であると思うが、重要な所をしっかりと伝えながら授業を進めていきたいと思う。これまで通り、学生には多く質問をしながら質疑応答形式を取り入れた授業進行にし、一方通行の授業にならないように努めたい。

実習科目については、実践に対応する論理的知識を結びつけながら、常にブラッシュアップして分かりやすい授業展開に努めたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策講座（前期）	3	55	2024年5月から7月までの間
国家試験対策講座（後期）	12	55	2024年9月から2025年2月までの間

３．研究活動

(1) 研究テーマ

摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究

大量調理における食品の調理特性（調理科学的変化）に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	1	1	1	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

食品開発における「匠の技」再現技術と工業化／共著・編著／2025年6月／株式会社エヌ・ティー・エス／43頁～53頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大量炊飯に用いた調理機器の違いが米飯の品質に与える影響／2025年3月／長崎国際大学論叢／85頁～94頁／共著／論文

植物プロテアーゼ含有食品を用いた牛もも肉の軟化に関する包括的検討／2025年4月／日本調理科学会誌／1頁～7頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

嚥下調整食における保存および再加熱がテクスチャー・栄養価に及ぼす影響～第2報～／2024年11月30日／第19回日本給食経営管理学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
フレイル予防として餡MMuの介護福祉領域への展開可能性の調査	菓心まるいち本店	2024年9月30日～2024年10月30日	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	特になし
入試・募集委員会	委員	特になし
IRセンター	副センター長	特になし
教育基盤センター	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター委員会　初年次教育（教養セミナーA）のワーキング・グループ	ワーキング・グループ長	初年次教育（教養セミナーA）のシラバス作成・見直し、テキスト作成・見直し、全学部・学科担当教員への実施内容のマナバでの連絡等、教養セミナーAの授業が円滑に進むように活動した。また、教育基盤センター紀要へ、活動内容の報告を執筆した。

教育基盤センター委員会　紀要編集委員会	副委員長	長崎国際大学教育基盤センター紀要の副編集委員長として紀要 の発行に従事した。
教育基盤センター委員会　評価IR・研修部門	部門長	新着任教員研修会の開催と教育基盤センター紀要への報告 4回実施（4月、7月、12月、12月QSPとの共催）、大学IRコンソーシアム会員校共通「一年生調査」および「上級生調査」の2019～2023年度の5か年の推移結果より、学生の学修実態に関する本学の状況に関して、各学科の学修時間調査結果に関する課題、各学科で挙げられた解決方策とその進捗を教育基盤センター紀要へ報告

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
22	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和6年度佐世保市「乳幼児食育アドバイザーフォローアップ講座」	5月9日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	5月27日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和6年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	8月26日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和6年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	11月18日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和6年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	令和7年2月17日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課

令和6年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	6月17日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和6年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	9月2日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和6年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	12月9日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和6年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	令和7年3月10日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	5月23日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	5月30日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	7月9日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	7月18日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	9月26日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	10月3日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	11月28日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	12月5日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	令和7年2月13日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	令和7年2月20日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和6年度長崎県私立幼稚園・認定こども園連合会　教育研究大会	7月26日	長崎新聞社	長崎県私立幼稚園・認定こども園連合会
令和6年度全日本私立幼稚園連合会九州地区会 第40回教師研修大会佐賀大会	7月30日、31日	ニューオータニ佐賀	全日本私立幼稚園連合会
令和6年度食事サービス講習会「旬の野菜をつかったレシピ」の講師として栄養に関する講話と調理実習	8月23日	波佐見町社会福祉協議会	波佐見町社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本調理科学会九州支部	幹事	平成30年7月～現在	日本調理科学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

「女子中高生のための！リケフェス in SASEBO」において、「食べ物DEサイエンス」のブースを担当し、比重や泡の科学をテーマに講話と実験を行った。/令和6年6月29日/長崎国際大学

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、令和6年度より、担当科目が一つ増えたが、その科目も含めて学生による授業評価の結果から、学生の理解度と満足度は良好であったことがうかがえた。研究面においては、著書、論文、学会発表に取り組んだ。社会貢献については、学外の委員を務め、また講演会や講習会の講師を年間合計20回以上行った。大学運営面においては、複数の委員会で円滑に業務を行うように務め、また教育基盤センターの活動にも参画した。当初の目標はほぼ達成されたと考えている。学外の講師依頼も令和7年度分についてすでにあっており、社会貢献の一つになると考えるため、参加者からの高い満足度が得られるように務める。また、令和7年度より児童発達支援センター佐世保市立すぎのこ園の非常勤管理栄養士も務める予定である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 林　俊介

1．教育理念

私の教育理念は、将来、様々な現場において活躍することのできる管理栄養士になるための実践的教育を通して、学修者が自ら学ぶ姿勢を高めて行く積極性と主体的な学修活動へつながる一歩を踏み出す活力を育むことである。

学生には、管理栄養士として将来活動するために求められる知識と技能を十分に修得し、確実に国家試験合格を目指すという目的意識を高めることを期待している。よって、学生指導や授業の展開としては、種々のアクティブラーニングの手法を用いて、学修者がこれまでの学修を土台に、それを実践的に活用していくための知識と技能の向上が図れるようなスタイルで進めて行くことを目指している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	3/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	3/15(通年)	1	54	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	3/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	3/15(通年)	1	36	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	3/15(通年)	1	35	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	3/15(通年)	2	17	⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
在宅医療概論	1/15(前期)	2	194	①②⑤⑩⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
治療食実習	15/15(前期)	1	27	①②③④⑧⑩⑪
治療食実習	15/15(前期)	1	26	①②③④⑧⑩⑪
健康栄養入門	1/15(前期)	2	67	②③⑤⑥
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
栄養教育論Ⅲ	15/15(前期)	2	60	①②③④⑤⑦⑩⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	1	①②④⑥⑨⑩⑫
生活支援技術ＩＢ	1/15(後期)	1	10	④⑤⑦
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
臨床栄養管理学Ⅱ	15/15(後期)	2	45	②③⑦⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15/15(前期)	2	61	②③⑦⑩⑪
総合演習Ⅱ	1/17(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度は、コロナ禍が過ぎ、全て対面授業での実施ができ、定期試験も含め通常通り学修活動に取り組むことが出来た。これまで2クラスで分かれて、それぞれ授業をしていたが、本年度は、講義科目は全て1クラス実施となった。本年度の同科目の授業アンケートでも評価は、1回の授業に参加する学生数が増えても授業の満足度は担当するいずれの科目でも高いレベルで維持されている。

学生が授業に集中し、飽きがこないようにアクティブラーニングの手法を用いた学修展開を行っている。授業の始めに出席カード(リフレクションカード)を使用し、本時の授業内容に関する基礎科目での学修、前時の復習、事前の予習の確認をするように

している。学生の授業への参加度を高めるため、発問と考察と学生同士での短いディスカッションを取り入れるような授業展開を意識して行っている。また授業で紹介した栄養剤や減塩食品、アレルギー対応食品などの様々な製品を手に取らせ、実物を体感できるようにしている。出席カードに記載された質問等には、マナバを利用して、回答、解説を丁寧に行っている。
学生数減少のため、本年度は、2年生、3年生ともに講義は、1クラスでの実施となった。1クラス50～60名程度と1回の授業の受講者数は増える形となったが、履修者の臨床栄養系科目への興味関心を高め、実践的授業になるように様々な工夫をした授業展開を行っている。授業教材(プリント、映像など)は、毎年出来るだけ新しいトピックス(話題、ニュース)と入れ替え、改善している。自分の知っている有名人、実際の患者の様子、コメントなどを見ることで、より身近な問題として認識され、興味が高まったと授業アンケートでは多数コメントをもらっている。
本年度は、定期試験(筆記試験)を実施し、課題レポートも「調べ学修」に繋がるように、授業で学修した疾患について、身近な対象者にインタビューをしてみることや自身の出身地での疾病状況や生活習慣や食習慣などを調べることが必要な内容を設定し、より学生の学修が深まり、興味関心が高まるようにした。授業時間内では時間を掛けて出来なかった内容などを後から自分で調べ、考えることが出来、更にこの科目の学修を深めることに繋がったと考えている。授業アンケートや課題レポートの中でも、実際に管理栄養士が社会や患者から求められていることが具体的に分かったなどのコメントも多数あった。
来年度以降、更により良い授業・実習が出来るように取り組みたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学院	栄誉指導Ⅱ	8/8(後期)	2	37
歯科衛生士学院	国家試験対策	2/15(後期)	2	29

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. フェニルケトン尿症患者(患児)と家族を対象とした栄養教育と食事療養の実践に関する研究
2. 腎移植患者の移植前後での食事摂取とQOLの変化及び腎移植医療における栄養管理と栄養士の関わりについて
3. 血液透析患者の生活の質(QOL) と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
4. 血液透析患者における口腔環境と生活の質(QOL) と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
5. 血液透析患者における食事療法と栄養教育に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員長	教務に関わる様々な事項の全学的な取りまとめを委員長として各学科の委員及び事務局と取り組み、各学部、その他の委員会等との調整を行った。
全学共通教育委員会	副委員長	教務委員長として、全学共通教育の改善に取り組んだ。
健康栄養学科教務委員会	委員長	学科における教務に関わる業務。学科教員への連絡、調整等。
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎	運営委員	「在宅医療概論」の科目担当。※NICEキャンパス長崎の登録科目

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」	委員(QSP科目群創出WG)	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)の中で、QSP科目群創出WG(本学が責任校)の担当者として、本事業の事業推進に務める。 ・QSP参画校での共通授業の創設に関する取組 ・QSP参画校での教学(IR)に関する共同IRデータ収集と公開 ・共同SD・FDの企画と実施 ・QSP人材バンクの構築と運用 ・委員会・WGの合同会議の開催 ・申請書類の作成
私立大学等改革総合支援事業タイプ1(特色ある教育の展開)	副WG長	教務委員長としてタイプ1の内容に関する情報の取りまとめの作業に従事。
大学コンソーシアム長崎	ワーキンググループメンバー	NICEキャンパス長崎の活性化のために本年度新設された県内大学・短期大学での共同実施科目「長崎学Ⅰ・Ⅱ」について、学内外の担当者と連携して授業プログラム構築と実施。
全学共通科目カリキュラム改革WG	ワーキンググループメンバー	全学共通科目におけるカリキュラム改革のための検討。教務委員会副委員長として参加。

(3) 課外活動の指導等

令和2年度(2020)より、ボランティアサークル「絆」の顧問を務めている。

担当者ではないが、きのこ倶楽部で活動している学生が本学科にもいる関係で、きのこ栽培の会社への訪問の引率や開国祭での模擬店出店の指導等、サークル活動の支援を行っている。その活動等は、本学科のInstagramで話題を投稿し広報に繋げている。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 長崎県立大村城南高等学校(大村市)／3月6日(木)／進路ガイダンス

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外

2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県栄養士会で県内、栄養士養成校5校の有資格者の教員(約60名)からなる研究教育協議会の運営委員(代表)を令和4年度、5年度と務め、本年度は監事として活動をしている。

監事として研究教育協議会のスキルアップ研修会・総会の実施など運営面でのサポートをしている。

栄養士会の活動などを通して、また大学としての社会貢献、地域貢献に大きく寄与している。これらについて、大学の公式サイト、SNS等を通じて情報発信を行い、大学広報、認知度アップにも尽力している。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

地域の栄養士の先生方や卒業生からの求人依頼に対し、キャリアセンターや学生、卒業生などへの紹介を行い、就職に繋がるよう支援を行った。

学生の就職活動のための模擬面接を行い、就職活動の支援を行い、それらについてInstagram等で情報発信に取り組んだ。

地域の栄養士の先生方や卒業生へ臨地実習受け入れについて依頼を行い、実習施設の確保に努めた。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

担当学生について

本年度、教養セミナーは1年生5名を担当。5名とも1年間学修を継続させることができた。充実した指導を行い、後期のプレゼンテーションでは、林セミナーが優秀プレゼンテーション賞を取ることができた。

2年生は、5名担当している。1名は、原級留置きが決定したため、今後も離学しないようフォローしていく。

3年生は、7名のゼミ生を担当し、卒業研究の活動を行っている。1名は、体調不良により昨年度後期休学となり、4月より3年生として復学してきたが、出席不良が続き、次年度は休学する予定である。継続してサポートを行っていく。他のメンバーは、卒業研究の活動として腎移植患者の訪問調査やフェニルケトン尿症のレシピ集製作に取り組んでいる。充実したゼミ活動に取り組むことができている。

4年生1名は、腎移植のテーマで卒業研究の活動に取り組んだ。卒業研究の活動も無事終わり、卒論発表及び論文の提出をする事が出来た。卒業試験には不合格となり卒業延期となった。次年度は、卒業できるよう引き続きサポートを行っていく。

教務委員会

本年度より全学の教務委員会の委員長を務めている。授業や定期試験の実施など教務に関わる様々な事項の全学的な検討、取りまとめを各学部・学科及び事務局と取り組んだ。また次年度の認証評価に向けた資料作りなどに従事した。

NICEキャンパス長崎で開講される「長崎学Ⅰ・Ⅱ」のワーキンググループメンバーとして、運営に携わっている。
また、学科の教務委員長として、学科での教務に関わる業務を適切に遂行した。

私立大学等改革総合支援事業　タイプ3

私立大学等改革総合支援事業タイプ3「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)」の学内の担当者として、QSP科目群創出WGの事業推進の実務を担っている。本WGは、本学が責任校である。
このプラットフォーム事業に参画する長崎県・佐賀県の私立大学・短期大学の参画校9校の連絡調整の窓口となり、事業推進協議会、事務責任者会議等の全体会議の資料作成や会議での報告を行っている。タイプ5の応募案作成時から担当し9年目である。事業推進に取り組み、タイプ3は文部科学省から継続して選定をされている。

本年度は、QSP科目群創出WGの責任校担当者として、これまで取り組んできた大学間連携での単位認定互換制度の構築のための協議を進め、「西九州探求」について科目の創設を行うことで、参画校間での合意形成を図り、事業推進の道筋を整えた。また、人材バンク(人材派遣事業・データベースの構築)、その他に連携校との共同SD・FD(オンライン形式)を実施した。さらに大学の質保証の取組として、教学(IR)に関する連携校の情報収集を行い、情報公開を行った。運営会議を開催し、今後のWGの取組の方向性について、検討を行った。様々な取組はQSP公式サイトでも情報発信を積極的に行った。かなりの事務作業等に追われる形になった。授業や研究活動と上手くメリハリを付けて取り組んでいきたい。

研究活動

現在は、フェニルケトン尿症(PKU)に関する研究活動をメインの研究テーマとして取り組んでいる。移植医療と同様に、PKUの様な稀少疾患と関われる機会は大変貴重なので、自身だけでなく、学生の学びとなるものと考えている。
また腎移植患者を対象とする調査活動を行っている。ご了承を得て、腎移植前後での食事と栄養、QOLについて長期的な調査を継続させて頂いている。本年度も訪問調査をゼミ学生と実施させて頂いた。
これまでPKUの食事療法のためのレシピ集製作に取り組んでおり、本年度は、日本先天代謝異常学会にて、PKU家族の会の展示ブースにて、関係者へのレシピ集の配付を行い、この分野の研究者や医療従事者、他の疾患の患者団体との交流を深めた。また、PKU治療薬を開発する製薬メーカーのアドバイザリーボード会議に有識者として参加した。この分野での活動の幅を着実に広げている。
次年度、改訂版のレシピ集を全国のご家族へ配布すること、合わせてアンケート調査を実施することを予定している。次の3年生には、これを発展させた内容で研究活動に取り組んでいく。これらのテーマで論文作成、学会発表へとつなげ、今後、研究の質を高めていきたい。我々の研究活動及びアンケート結果について、PKU親の会連絡協議会の機関紙に寄稿し、全国の患者・家族への情報提供を行った。この分野で、本学の知名度は高まったと考えている。Instagramを用いた情報発信も積極的に行い、PKU家族からのフォローも多くある。
卒業研究での研究・学修活動を通して、学んだことが自身の進路決定へ強く影響しているものと考えられる。多くの卒業生が病院や施設など現場に就職し、様々な業務に従事している。
今後も将来臨床の分野を目指す学生が研究活動を通して、学内での講義・実習、臨地実習に対して、さらに学習意欲と効果が向上するように、また希望する就職に繋がるように支援していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 廣田　昌彦

1．教育理念

毎回の授業の中で、「ひとつでも二つでも、頭か心に残る内容があればよいな」ということを心がけて授業の準備をしています。また、わかりやすい、かみくだいた表現を心がけています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
管理栄養士演習	4/15(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	3/15(後期)	2	24	①②③⑧⑨
栄養と薬	15/15(後期)	2	50	①②③
解剖生理学Ⅱ	2/15(後期)	2	51	①②③
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
臨床医学入門Ⅱ	15/15(後期)	2	49	①②③⑨
卒業研究	15/15(通年)	4	3	①②④⑥⑨⑩⑫
臨床医学入門Ⅰ	15/15(前期)	2	51	①②③⑨
栄養学応用演習Ⅱ	15/15(後期)	1	8	①②③⑨
スポーツ医学	7/15(前期)	2	43	②⑩⑪⑫
解剖生理学Ⅰ	2/15(前期)	2	56	①②③
学際連携研究	1/15(前期)	2	198	⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度の授業内容よりは、より分かりやすくなっているはずだと思います。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学地域共生学科食物栄養コース	解剖生理学	2/15(前期)	不明	不明
長崎短期大学地域共生学科食物栄養コース	解剖生理学	2/15(後期)	不明	不明
九州文化学園高校衛生看護専攻科	病理学	7/7(後期)	不明	不明

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

細胞社会学

膵臓病態学

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

救急・集中治療最新ガイドライン／共著・編著／2024年3月／総合医学社／共著　pp. 311-313

救急画像診断のキホンⅠ－point of careの視点も含めて－／共著・編著／2025年3月／総合医学社／pp122-132

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員	特になし
合理的配慮の提供内容検討会議	委員	特になし
安全衛生委員会	委員	産業医としての活動を行った。
研究センター委員会	委員	長崎国際大学論叢への投稿論文の査読を行った。
長崎短期大学安全衛生委員会	委員	２回の産業医講話を行った。
九州文化学園高校安全衛生委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

サッカー部顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外

2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
続・老後のためにコツコツ貯筋を！	2024年9月12日	長崎短期大学講堂	長崎短期大学
スティーブジョブズと膵臓の話	2025年2月25日	長崎短期大学講堂	長崎短期大学
病棟業務の効率化へのヒント	2025年3月16日	熊本医療センター	熊本県滅菌業務研究会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立急病診療所運営委員会	委員長	令和6年度	佐世保市長
佐世保市立急病診療所安定運営検討専門部会	部会長	令和6年度	佐世保市長
佐世保市総合医療センター地域医療支援病院運営委員会	委員	令和6年度	佐世保市総合医療センター院長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

NHK-BSプレミアム-4K ヒューマニエンス#99「すい臓」に出演し、膵臓がなぜ五臓六腑に含まれていないのかについての説明とそれに関する実験を供覧した(2024年9月7日放送、2025年2月17日再放送）。

佐世保市立急病診療所の「安定的な運営体制の維持」及び「既存施設における課題の解決」に係る諮問に対する答申書を佐世保市長あてに提出した。2024年12月17日に手交式が佐世保市役所市長室において行われ、それに関しては長崎新聞に取り上げられた（2024年12月18日朝刊）。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

授業の内容も、昨年までよりは、改善したと思っています。
NHKの全国放送では、長崎国際大学の名前や建物も紹介され、大学のよい宣伝になったと思います。

佐世保市に対しては、救急医療のための意見を提出して、改善に取り組んでいます。
来年度は、長崎国際大学での授業の内容を本にまとめ、出版したいと思っています。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 准教授　　氏名 松尾　嘉代子

1．教育理念

私の教育理念は、「食べることを通して人を幸せにできる管理栄養士」を育てることです。
人が「食べること」を楽むことは、QOLを高めるために重要な要素です。食を楽しみながら生涯を通じて健全な心身を作り上げていくには、全ライフステージにおける食育体制の整備、その中でも特に乳幼児期からの食育の必要性を強く感じております。その体制整備のため、発育・発達に応じた栄養教育を実施できる管理栄養士の育成は必要不可欠です。

本学科ディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関連する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」ができ実践的に活動できる人材育成を目指しております。そのために、私自身が現場の管理栄養士として働く中で特に必要性を感じた、他者とのコミュニケーション能力や自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につけられるような授業展開を意識しております。

講義では、授業の内容を理解しながら自分の考えをまとめていけるような工夫、実習では、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れて、実際の場面を想定し活用できる知識や技術を学んでほしいと考えています。

いずれの教育場面でも学生の考えを尊重し、私自身も常に学ぶ姿勢を持ちながら、学生と共に成長していけるような教育を行っていきます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	8/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	54	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	36	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	15/15(通年)	1	35	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	15/15(通年)	2	17	⑪⑫
応用栄養学Ⅲ	15/15(前期)	2	32	①②③⑨⑩
応用栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	48	①②③⑨⑩
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
応用栄養学Ⅲ	15/15(前期)	2	28	①②③⑨⑩
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
応用栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	42	①②③⑨⑩
健康栄養入門	5/15(前期)	2	67	②③⑤⑥
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
応用栄養学実習	15/15(後期)	1	25	①④⑥⑦⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
応用栄養学実習	15/15(後期)	1	26	①④⑥⑦⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

例年、授業アンケートでは高評価を得ており、今回も平均点を超える満足度を得ることができた。また、定期試験の結果でも

座学、実習共にGPAがS判定となる学生も数名いることから、学生の理解も得ることができていると考えられるため、学生にとってはおおむね満足の得られる授業運営ができていると考える。

今年は、授業公開も実施し、他教員からも授業の運営方法について高評価を得ている。

来年度以降も、全体の平均点よりも高い結果を得られるよう、学生から評価の高い授業運営を心掛けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
臨地実習ⅢⅣⅤの自己課題・施設課題指導（前期毎週水曜日2限）	15	52	2024年4月11日～7月17日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期の栄養教育に関する研究

食物アレルギー児の支援に関する研究

スポーツ栄養に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	2	1	1	68万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

これからの応用栄養学演習・実習（第2版）／共著・編著／2025年3月／朝倉書店／48頁～55頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

幼児期における尿中Na/K比と栄養素及び食品群等摂取状況との関連／2024年9月／第71回日本栄養改善学会学術総会

小学生の子をもつ家庭の食の備えに関する一考察／2025年2月／第23回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和６年度長崎県健康・栄養調査集計・分析業務委	長崎県	令和７年２月21日～3月25日	68万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	副委員長	本学の研究倫理に関する業務について、委員長をサポートしながら副委員長の職務を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程の業務に関する事や教育実習の実習先の確保、学生の諸問題について解決に向けた検討を行った。
学科内臨地実習委員会	委員長	臨地実習に関する必要事項について検討し、実習先との調整などを行い、学生の臨地実習が円滑に進むよう、尽力した。また、個別対応が必要な学生については、学生の能力に合わせた実習ができるよう、実習先へ協力を依頼し、調整を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①学科広報催事（公開講座）実施／令和6年9月14日／場所：本学科調理実習室／「家族で考える災害食～食物アレルギー編～」／参加者：親子10組21名

②九州文化学園高等学校内部進学/令和7年3月10日/場所：長崎短期大学／参加者：1年生268名

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
株式会社　山口組ホールディングスグループ安全大会栄養講話	7月6日	佐世保市労働福祉センター	(公社)長崎県栄養士会
令和6年度保育所等栄養・給食管理研修会	8月21日	伊万里総合庁舎2階大会議室	佐賀県伊万里保健福祉事務所長
令和6年度　慢性腎臓病(CKD)講演会	11月17日	佐世保市まちなかコミュニティーセンター講堂	佐世保市長
令和6年度保育所等栄養・給食管理研修会	12月17日	メートプラザ佐賀2階大会議室	佐賀県佐賀中部保健福祉事務所長

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
(公社)佐世保市学校給食会	評議員	2014年6月1日～現在	(公社)佐世保市学校給食会長
佐世保市食育推進会議	会長	2019年7月1日～現在	佐世保市長
大村市食育推進市民会議	委員	2019年7月1日～現在	大村市長

けんこうながさき21栄養・食生活部会	アドバイザー	2020年3月1日～現在	長崎県福祉保健部国保・健康増進課長
けんこうシップさせぼ21推進会議	会長	2020年7月15日～現在	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍が落ち着き通常業務が実施できるようになり、学科広報催事の通常開催や、3，4年生の臨地実習を無事に終了することができ安堵した。

学生の授業評価では、例年同様に高評価を得ることができ、また、授業公開で他教員からも高評価を得ることができたため、授業の質を維持向上できるよう、今後も教育活動の充実を図りたい。

全学委員会活動では、研究倫理委員会の副委員長を拝命し、委員長をサポートしながら研究倫理に関わる業務を遂行できたと考える。

学科内委員会活動では、臨地実習委員会委員長として、実習の円滑な運営や、学生の特性に合わせ必要な個別対応などを行うために定期的に会議を開催し、全員が円滑に実施できるよう担当教員と協力して運営した。

自身の研究活動としては、博士課程取得のための研究活動を順調に進めることができており、そのことが学生指導にも役立てられていると実感している。今後も、自分自身の資質を高めることに尽力したい。

また、外部資金として、長崎県からの受託事業を獲得できたので、今後も外部資金の獲得に尽力したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 准教授　　氏名 山口　留美

1．教育理念

私の教育理念は、管理栄養士として必要な知識および技能を修得し、医療や福祉等の現場において、相手の立場を尊重し思いやり、そして貢献できる人材の育成を支援することと考えている。

臨床栄養学の基礎知識を学んだ後に、アクティブラーニングを用いて様々な角度から物事を観察・提案ができるよう授業を構成している。その時点で自らの不足した知識や技能を振り返り、主体的に学び知識獲得を目指すものとする。また、アクティブラーニングを通し、自ら発言するだけではなく、相手の立場を十分に理解し尊重し合うコミュニケーション力を身に着けさせ、食の専門家として「チーム医療」の中での管理栄養士の役割を学ぶこととする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	2/23(通年)	1	54	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	2/23(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	2/23(通年)	1	36	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	2/23(通年)	1	35	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	2/45(通年)	2	17	⑪⑫
給食栄養管理実習（学内）	15/23(後期)	1	19	④⑥⑦⑧⑩⑪
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
臨床栄養管理学Ⅰ	15/15(後期)	2	44	②③⑩
健康栄養入門	1/15(前期)	2	67	②③⑤⑥
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	3	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	5/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
臨床栄養管理実習	15/15(後期)	1	35	②③④⑥⑦
臨床栄養管理学Ⅳ	15/15(前期)	2	59	②③⑤⑩
臨床栄養管理実習	15/15(後期)	1	22	②③④⑥⑦
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

アクティブラーニングを積極的に取り入れること、復習をきちんと行い新たなテーマを学修することを心掛けた。その結果、授業アンケートのポイントはおおむね良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策	8	55	2024/10/31，11/28，12/5，12/19， 2025/1/16，1/23，1/29，2/18

３．研究活動

(1) 研究テーマ

在宅高齢者における食生活実態の研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

新臨床栄養学　栄養ケアマネジメント　第5版／共著・編著／2025年1月／医歯薬出版株式会社／405～418ページ

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学生生活の安全、また奨学金関係などの検討や議論を行った。また、保護者会資料の準備等を行った。
キャンパスヘルスサポート委員会	委員	配慮申請学生に対する面談や、サポートを行い、安心して学生生活が行えるよう活動を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国家試験対策委員会	委員	卒業年次の学生に対する、国家試験対策の対応や、3年時においては栄養士実力認定試験の受験に対する事務手続き等を行った。

(3) 課外活動の指導等

水泳同好会　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席

2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
経腸栄養における汚染予防	11月16日	オンライン	公益社団法人日本栄養士会
高齢者が食べやすいアイデアレシピ	3月10日	早岐地区コミュニティーセンター	佐世保市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

佐世保市社会福祉協議会の方と連携し、地域の高齢者に対するボランティア活動に参加。そこで現状や問題点の把握を行い、今後の若い世代がどのように取り組むべきなのかを学生と共に考えた。データ数を増やし、発表につなげていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 小田　和人

1．教育理念

私の教育理念は、専門的知識と技術に加えて、知性や感性の備わった人間力のある人材の育成を教育の柱とし、国家試験に合格できる力を育むとともに、社会人として考え、行動できる力の育成を行う。そのためにも自ら課題を見つけ、自主的・積極的に勉学する態度や習慣、考える力を身に付けてもらいたいと考えている。また感動を覚える素直で広い心、人を思いやり、人に尽くすためにもその立場に立って物事を考え、行動することを学んでほしい。そのために講義では意欲喚起を図る手段を取り入れ、主体的な学びから専門力を高め、実習ではグループ活動を中心にコミュニケーション力や課題解決力の向上を図る。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	9/15(通年)	1	58	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
健康栄養入門	2/15(前期)	2	67	②③⑤⑥
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティとSDGs	5/15(前期)	2	67	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	6	①②⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	7	①②④⑥⑨⑩⑫
スポーツ栄養学実習	30/30(前期)	1	11	⑥⑩⑪
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	69	①②⑨
運動生理学	15/15(前期)	2	24	①②⑩
地域の理解と連携	6/15(後期)	2	200	②④⑥
学際連携研究	3/15(前期)	2	198	⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・前期　運動生理学

質問12：4.5、質問13：4.7と過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。昨年度と同等の評価であったが、今後より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・前期　スポーツ栄養学実習

学外実習や就職活動による欠席者が多いグループの進捗度を考慮し、授業の進行の調整を行った。また、グループ毎に作業することが多いため、グループによって理解に差が生じないよう、班構成にも考慮した。質問12：5.0、質問13：5.0と昨年度と同等の評価であった。今後、学生からの質問や意見に応える時間をさらに増やしていきたい。

・後期　スポーツ栄養学

昨年よりポイントが増加した（質問12：5.0、質問13：5.0）。今年度は理解度が増すよう、よりかみ砕いて説明した。今後も準備学習の内容に関しては改善を行い、より理解しやすく興味の持てる授業を実施する。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州看護福祉大学	スポーツ栄養学Ⅱ	15/15(前期)	2	4
長崎短期大学	スポーツ栄養学	15/15(集中)	2	14
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習	30/30(集中)	1	6
長崎短期大学	運動生理学	15/15(後期)	2	28
こころ医療福祉専門学校	スポーツ健康学Ⅲ（栄養学）	15/15(前期)	2	16

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 競技選手の身体組成、栄養素等摂取量および血液性状における貧血、血中脂質、糖代謝、骨代謝マーカーとの関係
2. 学生アスリート寮における食環境整備

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

The effects of wearing face masks on the perception and mood of male healthy male adults during treadmill running: A pilot study／2024年4月／Physiological Reports／10.14814/phy2.16036／共著／原著

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

女子大学生アスリートの骨強度、骨代謝と栄養素摂取量の関連／2024年9月／日本スポーツ栄養学会第10回大会（埼玉）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告 進路ガイダンス・出前講座主担当 オープンキャンパス主担当 大学パンフレット作製に従事
広報委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告 大学HPトピックス掲載担当 学科SNS管理者
ボランティアセンター運営委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告
教育基盤センター委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告 学科入学前教育主担当 学科入学前オリエンテーション主担当
安全衛生委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告
入試募集委員（学科）	委員	オープンキャンパス学科責任者

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター委員会 ホスピタリティとSDGs	係	次年度に向けて、授業の運営について協議し、シラバスの修正、授業担当者の選出、SAの募集・選出、講師の依頼を行っている。
卒業研究担当	係	説明会及び発表会の運営、希望調査の集計、論文集の作成
学科デジタルコンテンツ班	係	学科共有サーバーの管理

(3) 課外活動の指導等

① 長崎国際大学空手道部　男女空手道部顧問およびコーチ（栄養部門）
顧問として学生指導および大会時の申し込み、引率、会計管理等を行った。
令和5年度の成績は、第72回全九州大学空手道選手権大会において、女子団体形　優勝であった。

②　NIUスポーツ栄養サポートチーム：
本学強化クラブに対してスポーツ栄養学的サポートを行う。主な業務は栄養調査や体力測定の結果に基づいた栄養指導や調理実習等を行う。今年度は主に本学空手道部、テニス部、バレーボール部、アーチェリー部、九州文化学園高校空手道部に対して栄養調査、定期的な身体測定から指導を行った。来年度は現調査の継続的な状況分析に努めていきたい。

③ 長崎国際大学女子バスケットボール部顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①スポーツ栄養サポートチームの活動記事を定期的に公式HP上およびSNSに掲載。
②本学空手道部の活動記事を定期的に公式HP上およびSNSに掲載。
③各種空手道大会での次年度入学生の募集活動を実施（2025年度4名が入部予定）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
9	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
ジュニアアスリートの食育講座 ＜バスケットボール選手の食事＞	令和6年4月6日	国立諫早青少年自然の家	株式会社GLOBAL-B（ダイバーキャッツ長崎）
ジュニアアスリートの食育講座 ＜ラグビー選手の食事＞	令和6年6月29日	長崎市民会館	長崎ラグビーフットボール協会

競技選手のウエイトコントロール とヘルスリスク	令和6年9月3日	佐賀メディカルセンター	佐賀県医師会
中学野球選手のためのスポーツ栄養学 ～「アスリートの食事の基本型」から食事のバランスについて考える～	令和6年11月3日	長崎国際大学5101教室	株式会社ハスポ（佐世保ボンズ）
データに基づいたスポーツ栄養学	令和6年11月15日	大村高校	大村高校家政科
ジュニアアスリートの食育講座 〈中学生ソフトテニス選手の食事〉	令和6年11月24日	雲仙市立国見中学校	長崎県中学校体育連盟・長崎県教育委員会・長崎県ソフトテニス連盟
２年生対象進路ガイダンス「栄養学」	令和7年1月22日	島原商業高校	島原商業高校
成長期の栄養問題とスポーツ障害予防のための食事	令和7年1月24日	武雄市立御船が丘小学校	佐賀県武雄市立御船が丘小学校育友会
大学見学会での学科説明	令和7年3月13日	長崎国際大学1101教室	波佐見高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県空手道連盟理事会	学連理事	2019年～現在に至る	長崎県空手道連盟
武雄食スポプロジェクト	メンバー	2022年～現在に至る	SAGA武雄温泉スポーツコミッション

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

武雄食スポプロジェクトのメンバーとして講演会やイベントに従事した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

前期授業の「スポーツ栄養学実習」では、グループによって進行状況が異なることもあることから、アクティブラーニングに沿った授業を展開するとともに配布資料の改善、グループ学修の時間の十分な確保を行った。卒業研究担当学生に対して、選手への具体的な栄養サポート方法等を指導し、地域での活動を通して知識や経験を増やすことが出来た。また、学生生活や学修状況を把握し、定期的に支援を行った。

入試・募集委員として、入学生増加に向けて従事し、『オープンキャンパス』の主担当として学科での取り纏めを行った。教育基盤センター委員会初年次・共通教育部門担当として共通教育や初年次教育等の企画及び運営に携わった。今年度開催された学科入学前オリエンテーションでは、入学予定者同士の交流を行い、高評価を得た。広報委員として大学HPトピックスや学科SNSへ定期的な掲載を行った。今年度の反省を活かした次年度も積極的な投稿に励みたい。

『スポーツ栄養学的サポート』をテーマに研究を行っており、1件学術誌へ掲載された。現在執筆中のものは、次年度掲載に向けて解析を進めていく。

社会貢献として競技選手および保護者への講演を7件、高校生進路ガイダンスおよび大学見学会での説明2件を実施した。次年度以降も外部依頼があれば貢献していきたい。

NIUスポーツ栄養サポートチームとして本学クラブや高校ジュニア選手への栄養サポートを実施し、また空手道部顧問および栄養サポートコーチとして大会引率等を含め、選手の学生生活やコンディションのサポートを行い、高校生への募集活動も行った。九州大会では女子団体形が優勝、九州インカレでは男子団体組手で創部後初優勝を飾ることができたが、学業面との両立を図れるよう指導を続けていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 川内　美樹

1．教育理念

本学科は管理栄養士国家試験全員合格という教育目標のもと教員が一丸になって頑張っている。その中において私の教育理念は、４年間で管理栄養士になるための基礎力を身につけさせることである。
私は基礎科目である化学系の科目を担当しており、本学に入学してくる学生のほとんどが高校時代に化学を苦手としているのが現状である。高校までの化学や生物につまずくと、４年間で管理栄養士になれるどころか、進級さえも危ぶまれる。そこで、中学高校までさかのぼり化学を基礎からしっかりと勉強してもらいたいと考える。そのために、化学のリメディアルも実施しており、少人数制で一人一人がしっかり理解できるまでサポートすることを心がけている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
生化学	15/15(後期)	2	31	①③⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
生化学実習	30/30(後期)	1	25	①⑪
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	60/60(通年)	4	3	①②④⑥⑨⑩⑫
生化学	15/15(後期)	2	28	①③⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
生化学実習	30/30(後期)	1	24	①⑪
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	42	①⑧⑨
栄養代謝学	15/15(前期)	2	47	①③⑨
基礎化学実習	15/30(後期)	1	25	⑨⑪
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度は昨年と異なり2クラスでの開講であったため、少人数クラスで授業をすることができた。こちらのクラスは再履修の学生も多く、単位が取れるよう頑張ってほしい。また今まで学生に評判のよかった予習プリントの配布やノート作成を 引き続き導入した方法で実施できた。しかし、質問1の予習の項目が 相変わらず低いままで、予習をする学生としない学生の学力差は顕著に出ているように感じる。生化学の授業内容は高校生物の延長のような科目で、また食品学や解剖生理学といった科目でも何度も耳にしている内容にも関わらず、コメント欄を見るとやはりまだ理解できていない学生が一定数いて、難しいと感じていることがわかる。来年度の栄養代謝学は、さらに内容が難しくなり理解する内容も増えるので、より良い予習のあり方を検討して確実に勉強できるように指導していきたい。小テストを実施しても学力差が大きく、下位の学生をどのように指導していくべきなのか学科全体で検討が必要である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	栄養学	14/14(前期)	2	61

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

酒粕が食餌性肥満モデルマウスのメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす影響

酒粕が糖尿病モデルマウスに及ぼす影響

佐世保産オリーブの有効活用への挑戦～有効なオリーブ葉エキスの抽出法の確立とエキス活用方法の検討～

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

第39回国試対策 管理栄養士国家試験全国統一模擬試験かんもし第3回解説集／共著・編著／2025/01／株式会社インターメディカル／共著：22頁～28頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	副委員長	学内におけるハラスメント事案に対する対応、ハラスメントFDの実施、ハラスメント防止パンフレット作成等
図書館委員会	委員	学科選書の選別等
IRセンター委員会	委員	IRコンソーシアム学生アンケートの集計結果の考察 卒業アンケート集計結果の考察
教育基盤センター運営委員会	委員	評価IR・研修部門
学科国家試験対策委員会	委員長	模擬試験の実施、成績のまとめ 国試対策演習の実施計画 朝テストの実施 実力認定試験の実施

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
卒業研究	グループメンバー	発表会、説明会、希望調査、論文集のまとめ
入試問題作問（化学基礎）	責任者	入試問題の作問
入試問題作問（総合問題、化学基礎分野）	メンバー	入試問題の作問

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①オープンキャンパス／7月21日、8月4日、8月25日、3月16日／長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
女子中高生のための！リケフェス in SASEBO	6月29日	長崎国際大学	長崎国際大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本栄養・食糧学会九州沖縄支部参与	会員	平成23年～現在に至る	日本栄養・食糧学会九州沖縄支部会
日本栄養改善学会評議委員	委員	令和6年～	特定非営利活動法人日本栄養改善学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、担当の講義実習を滞りなく実施することができた。前期の授業評価は高い評価であり安心した。後期も最後まで単位修得に向けてサポートしていきたいと思う。今年度の卒業研究も井上先生に協力してもらい、卒論提出まで指導することができた。国試対策では、国家試験対策委員として、担当の分担を行い、模擬試験の成績管理をはじめ、保護者への成績送付など滞りなく進めることが出来ている。研究面では、井上先生の修士論文をベースにした次の論文投稿に向けて、成果が出せるよう研究を続けていきたい。来年度は学会発表等にも積極的に参加していきたい。また科研費は共同研究者として２件申請した。大学運営に関しては、所属する委員会（図書館委員、ハラスメント委員、IRセンター委員会、教育基盤センター運営委員会）の仕事において与えられた任務を精一杯頑張ることができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 川野　香織

1．教育理念

人々の健康維持・増進に向けた取り組みを「食」の視点からアプローチし、保健、医療、福祉といった多様な現場において、尊厳と責任を持ちながら、科学的根拠に基づく行動と技術を用いて「栄養指導」を実践できる人材を育成する。

そのためには、人間や食に関する基本的な知識を深めるとともに、地域の居住形態や環境、さらには生態系全体を視野に入れて対応できる能力を養い、これにより、専門的なスキルと課題解決能力を併せ持つ人材の育成を目指す。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	54	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	36	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	15/15(通年)	1	35	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	30/30(通年)	2	17	⑪⑫
公衆栄養学実習	15/15(前期)	1	26	②③④⑥⑩⑪⑫
公衆栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②⑧⑨
公衆栄養学実習	15/15(前期)	1	31	②③④⑥⑩⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
公衆栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	42	①②④⑨⑪
健康栄養入門	3/15(前期)	2	67	②③⑤⑥
卒業研究	30/30(通年)	4	4	①②④⑥⑨⑩⑫
公衆栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	22	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

全体的によい評価を受けたと考えるが、満足度に比べて授業内容の理解度が低かったため、次年度以降、次に改善策を実施したいと考える。難易度の見直しとして、学生の理解度に応じて内容の調整を行ったり、補足資料の強化として、学生からの質問などを受け付け、授業中にカバーできなかった部分を補うため、スライド資料や補足教材を充実させる。これらの取り組みを通じて、授業内容の理解度を高められるよう努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

集団の健康・栄養状況に関する研究
災害時における食生活支援に関する研究
乳幼児期における効果的な栄養教育に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

幼児期における尿中Na/K比と栄養素及び食品群等摂取状況との関連／2024年9月／第71回日本栄養改善学会学術総会
小学生の子をもつ家庭の食の備えに関する一考察／2025年2月／第23回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職に関する事項の協議および学科の就職ガイダンス等の実施を担当した。
地域連携センター会議	委員	地域連携に関する事項の協議を行った。
ハラスメント対策委員会	委員	ハラスメントに関する事項の協議を行った。
臨地実習委員会（学部内）	副委員長	臨地実習に関する事項の協議を行った。
入試募集委員会（学部内）	委員長	入試募集およびオープンキャンパスに関する事項の協議を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

②食育向上委員会学内推進員（学生10名）の活動のサポート

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①学科広報催事（公開講座）「家族で楽しむ子どもの食事～食物アレルギー編～」/2024年8月
②キッズキャンパス「災害時の食事」/2024年11

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外

2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
食育講演会「災害時の食事」	2025.3.11	諫早市	諫早市食生活改善推進員
佐世保市保育会 給食部研修会	2024.9.10	長崎国際大学	佐世保市保育会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県食育向上委員会	アドバイザー	2021年4月1日～現在に至る	長崎県食品安全・消費生活課
長崎県食育推進県民会議	委員	2022年4月1日～現在に至る	長崎県食品安全・食費生活課
佐世保市食育推進会議	委員	2017年4月1日～	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞（ベストアウトリーチ部門）/2024.6

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動：今年度担当した公衆栄養学Ⅰ・Ⅱでは、全体平均を上回る高い満足度評価を得ることができましたが、学生の理解度

向上が今後の課題として挙げられます。そのため、次年度は学生がより興味を持ち、主体的に学修に取り組めるよう、授業内容や学習支援の工夫を行っていきたいと考えています。
研究活動: 学会発表を行う成果は得られたものの、論文執筆には至りませんでした。次年度は計画的かつ主体的に取り組み、学術的な成果の発信を目指していきます。
大学運営活動:学科広報催事や食育研修会、キッズキャンパスでは、参加者から大変好評を得ることができました。次年度も、これらの活動を通じた地域貢献や学科の広報活動をさらに積極的に進めていく予定です。

これらを踏まえ、次年度も本学の一員として責任を持ち、教育、研究、地域貢献の各活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 髙江洲　有沙

1．教育理念

私の教育理念として、対象者の個性や特性を尊重した行動を実践し、主体的に考えて行動する力ならびに社会で柔軟に生きぬく力を身につけ、地域・国際社会に貢献できる人材の育成を支援することである。相手を尊重し行動することは社会生活において人間関係をよりよくするための基本的なことで、そのうえに管理栄養士の専門的な知識と技能を生かして人々の健康の維持増進に貢献することができると考えている。

また、管理栄養士は様々な社会的背景を持った対象者の「食」に関わる職業であることを自覚し、「誰ひとり取り残さない世界」の実現に向けて、個々に寄り添った支援をしていくためには、基礎・基幹科目がどのように実践で生きるのか、各科目を関連付けて講義を進め、グループディスカッションなどのアクティブラーニングの手法を用い、専門力だけでなく、多様性理解力や課題解決力を育成したいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
栄養教育論Ⅰ	15/15(後期)	2	41	①②③⑩
食教育論	15/15(前期)	2	12	①②③⑤⑥
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	4/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
栄養教育論実習Ⅰ	30/30(前期)	1	26	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅱ	30/30(後期)	1	27	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅰ	30/30(前期)	1	27	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅱ	30/30(後期)	1	29	②③④⑥⑪
健康栄養入門	1/15(前期)	2	67	②③⑤⑥
栄養教育論Ⅱ	15/15(前期)	2	55	①②③⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	1	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	0/30(後期)	2	45	①②③⑨⑩
学校栄養教育論	15/15(後期)	2	1	①②③⑤⑥⑦
国際栄養論	15/15(後期)	2	9	②③④⑤⑦⑩
総合演習Ⅱ	1/17(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前年度から継続している科目に関しては、概ね良好な評価をいただけたと思う。学生の進捗状況に合わせた授業展開を行い、思考力を高めるためのグループワークや問いかけを多く取り入れたことが改善につながったと考えられる。そして、今年度からの担当科目評価では、使用する教材と評価（小テスト）に対するコメントが複数あったため、積極的な授業参加と予習復習につながるように工夫して作成していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
学際連携研究（ゲストスピーカー）	1	172	2024/7/23
管理栄養士国家試験対策	12	44	2024/10/9,16,30、11/6,13,27、12/11,18、2025/1/8,15,29、2/14

３．研究活動

(1) 研究テーマ

教育機関における栄養教育に関する研究

栄養教諭に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	なし
男女共同参画推進委員会	委員	教養セミナーB（1年次履修）において、キャリア形成のために、長崎県男女参画・女性活躍推進室の「大学生向けキャリア形成セミナー」事業を活用して県担当者と連絡・調整し、実施した。
教職課程委員会	委員	なし
国家試験対策委員会（学科内）	委員	管理栄養士国家試験対策のため、追加演習の朝テストに関する業務を委員と協力して実施した。 また、4年演習の定期試験の問題編集・印刷・採点を教務委員と連携して実施した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

きのこ倶楽部(サークル)の活動にオブザーバーとして参加。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①大学見学会にて、大村高校家政科（30名）にも模擬授業を実施/2024年9月5日：本学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県栄養士会　災害支援対策委員会	委員	令和4年～現在に至る	長崎県栄養士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

9月28日、11月9日「JDA-DATスタッフ養成講座」の運営、県栄の災害支援対策委員として参加、主催：長崎県栄養士会

6．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度の教育活動に関して、新しく担当となった科目では時間をかけて教材を作成し、学生の主体性を育むことができる授業展

開を意識して取り組んだが、理解度が高まっていない学生も少数みられたため、次年度は学生が興味をもって学び続けることができる教材づくりをしていきたいと考えている。また、多様性を理解した栄養教育ができる人材を育てたいとの思いから、今年度は、国際栄養論にて、海外で管理栄養士として活動している方とオンラインで交流することができたのは学生にとってよい経験となったと思う。次年度も継続して異文化理解を促すような授業を行い、学生の積極的な授業参加につながる講義をしていきたい。

大学運営活動においては、学内活動は教職員の方々から助言をいただきながら貢献できたと感じている。次年度も教職員と協力しながら様々な活動に取り組んでいきたい。そして、地域活動では県栄養士会の委員会にて研修の運営に携わることができたため、継続して活動していく。今後は、教育と両立しながら研究も中心に活動していきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 藤井　俊輔

1．教育理念

【教育理念】

私の第一の教育理念は、学生自身の「知識欲を高めること」である。私が主に担当する食品学Ⅰ・Ⅱという科目は、専門基礎科目に該当し、これらの科目の多くは暗記科目であると捉えられることも多い。確かに単純に覚えなければならない内容も多いが、学修のスタートは何よりも覚える事から始まるのではないかと考えている。しかし、食品という身近なものが引き起こす様々な現象に対して興味を持てば、単純な暗記作業であったものが理解へと繋がるのではないかと考えている。また、学修した多くの知識と共に、それらの背景への学修を深めることで記憶の定着はより強固なものになり、そしてこの学びが他分野の知識と有機的に結びつくことによって、より実践的でエビデンスに基づく思考力を持った管理栄養士として活躍してくれると信じている。

第二の教育理念は、学生自身の「疑問を持ち続ける感覚を養うこと」である。すなわち、様々な化学現象に対して興味を抱き、「なぜ？」、「どのように？」その現象が生じているのかに目を向け、学生自ら能動的に調べ、学修する姿勢を培って欲しいと考えている。種々の現象に対して「なぜ？」と疑問を持ち続ける探求力の獲得は、大学を卒業し「栄養と食のプロフェッショナル」である管理栄養士として社会で実践的に活躍する上で極めて重要な能力となる。

これら2つの教育理念のもと、講義、実習を展開することで、本学科が掲げるディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成に繋がると考えている。

【授業方針】

授業の基本的な方針としては、管理栄養士国家試験の合格および、管理栄養士として必要な専門的知識の基盤構築を念頭に置き授業内容を構成しているが、上記の教育理念を達成するために、授業の際には知識の説明だけに留まらず、それらの背景を併せて解説するよう心がけている。また、授業の中だけの知識に留まることがないよう、他分野と関連する内容に関しては、スライド等の視覚的な資料を示し具体的に解説を行うことで、一つひとつの知識が有機的に繋がるよう授業を展開する。講義中心の授業となるが、学生の学修意欲喚起を図る手段として、難解な化学現象をできるだけ身近な現象へ置き換えて解説を加えたり、社会的なトピックスを織り交ぜるなどして授業を構成し、他分野への関心と専門力を育成する。さらに、ある化学現象に対して、「なぜか？」と問いかけを行い、学生との対話の中で学生自身に考えさせ、正解を導き出すようなやり取りも実施している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
食品学Ⅰ	15/15(前期)	2	54	①⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
食品学実習	30/30(前期)	1	23	①⑩
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
基礎化学実習	14/30(後期)	1	27	⑨⑩
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	57	①⑨
健康栄養入門	1/15(前期)	2	67	②③⑤⑥
教養セミナーB	15/15(後期)	1	3	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	3	①②③⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	19	①⑧⑨
食品学実習	30/30(前期)	1	19	①⑩
総合演習Ⅱ	1/30(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

担当する講義の満足度では、平均値よりも高いポイントを得られている。また、自由記述においてもほぼすべてが、ポジティブな意見で占められていた。

一方で、学生の学力や理解力が著しく低下していることも事実であるため、どのように説明すれば伝わり、理解を促すことができるのかを、今後はより模索する必要があると感じている。

総じて高い評価を得ることができているため、これ以上の改善点については自己分析では改善することが難しいと感じるため、先述したように3以下の評価に関しては具体的にどのような点に改善点があるのかを具体的に記入してもらうことで、私のみならず、全体として講義に対する需要と供給のミスマッチが無くなるのではないかと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品学Ⅰ	15/15(前期)	2	36
長崎短期大学	食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	36
長崎短期大学	食品学実習	30/30(後期)	1	38
唐津看護専門学校	代謝栄養学	10/10(前期)	2	37
唐津看護専門学校	地域・在宅多職種連携	2/30(前期)	2	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製および抗体を研究ツールとした免疫k学的分析手法の確立

2. 未病ケアを志向した薬膳素材のオートファジー制御機能の解明

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	1	1	320万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Application of Monoclonal Antibodies against Naturally Occurring Bioactive Ingredients／2024年7月／Antibodies／10.3390/antib13030060／共著／総説

植物プロテアーゼ含有食品を用いた牛もも肉の軟化に関する包括的検討／2025年／日本調理科学会誌　第58巻　2号／P77～83／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

オートファジー制御を介した抗炎症作用を有する生薬成分の探索／2024年9月／日本生薬学会第70回年会

骨粗鬆症の予防に資する雑穀類の可能性 -骨芽細胞様細胞株および実験動物を用いた骨代謝マーカーへの影響評価-／2025年2月／第23回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金（基盤C）	日本学術振興会	2022-2025年度	320万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	委員として全学および学科内の教務関連業務の遂行と調整を行った。
キャンパスライフヘルスサポートセンター運営委員会	委員	委員として、CHサポートセンターの運営に携わった。また、学生サポート室室員、学科ピアサポーターの担当を務めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2024年8月10日　「科学体験教室（主催）」後援：佐世保市教育委員会

②学術論文の査読：学術誌（欧文）の査読10件を務めた。

6．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

①長崎県立猶興館高等学校の探求活動において、アドバイザーを務めた。

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、論文の採択2件（総説（欧文）1編、原著論文（邦文、コレスポンディングオーサー）1編）、学会発表2編がアウトプット活動の成果として挙げられた。また、学外グラント2件（研究代表者1件、研究分担者1件）に申請し、結果待ちの状態であった。研究の成果としては、及第点といった成果であったため、次年度はより活発に研究活動を推進していきたい。

学内の業務に関しては、年々やるべきことが増えているような肌感覚であるが、問題なく遂行することができた。今後は時間の使い方を含めて、より効率的な業務遂行に取り組んでいきたい。

教育活動においても、例年と変わらず高水準の満足度を得ることができた。一方で、講義の理解度の向上を目標として挙げていたが、講義の中身を減らすことなく理解度を向上させることが難しく、満足いく結果を得ることができなかった。講義の質を担保しつつも、学力の低下傾向がみられる学生に対して、十分な理解を促すことができるような講義展開を模索していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 宮原　恵子

1．教育理念

私の教育理念は、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、管理栄養士の国家試験に合格する学力、さらに社会で管理栄養士として働く際の基礎力を育成することです。

私が担当する講義は生活に関する内容であり、学生には、自身の現在や過去、将来の生活に結び付けながら知識を深めてほしいと考え、そのために、一つの項目をいくつもの視点から説明する授業方法ですすめます。

また、実習系の授業では、講義で得た知識を実践に結びつける展開を重視しています。学生には、応用する意識や力を身に付けてほしいと考えており、そのために、講義の内容も振り返りながら、実習に取り組む、レポートやプレゼンテーションなどでまとめる・発表することを取り入れた授業方法ですすめます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	4/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	54	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	36	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/15(通年)	1	35	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	2/30(通年)	2	17	⑪⑫
公衆衛生学Ⅰ	15/15(後期)	2	37	①②⑨
公衆衛生学Ⅱ	15/15(前期)	2	46	①②⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
健康管理論	15/15(前期)	2	57	①②④⑩
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	60/60(通年)	4	7	①②④⑥⑨⑩⑫
健康科学実習	30/30(後期)	1	28	①④⑥⑩
健康科学実習	30/30(後期)	1	22	①④⑥⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は講義科目のアンケートを実施した結果、理解度や満足度は例年同様、全体平均よりやや低かった。講義内容の難易度もやや高いため、より丁寧な説明を意識したが、アンケート結果からは効果はみられなかった。

後期も講義科目のアンケートを実施した結果、全体的に前年度より評価が高かった。一部の項目を除いて、全体平均とほぼ同様であった。これまで以上に、講義内容をかみ砕いて話すことや、堅苦しさを感じさせないような話し方などを意識した結果、授業中の反応もよかったと感じていたので、アンケートでもこのような結果につながったと考える。

しかし、前後期ともに、試験後の最終評価では再試験該当者や再履修となった学生も多く、主観的な理解度との乖離があると考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・食生活と環境問題に関する環境：水道水の摂取状況と官能評価の関連の研究を行った。また、食品ロスと野菜の再生栽培の関連の研究を行った。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	特になし
教育基盤センター委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外

2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
けんこうシップさせぼ21推進会議計画策定専門部会	委員	令和4年11月21日～令和6年11月20日	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

授業では主観的にはおおむね良いと考えるが、授業評価や試験結果等にて客観的にみると、やや問題がある思う。学生自身の学修意欲の低下を感じることも多く、学生のモチベーションをどうすれば維持、向上できるのかと、日々の授業の構成等を検討した。日々の授業の中ではうまくいくことも多く、達成感を感じることもできた。一方、卒業研究の指導では、論文としてまとめさせることに苦労した。学生はこれまでに各実習でレポートを書いてきたはずであるが、本質を理解していないように感じた。

低学年から学術的なまとめ方にふれさせる必要がある。
また、研究に関しては卒業研究にとどまった。大学教員として自己の研究に時間を割かなければならなかった。
その他、学科で担当している業務についてはスケジュールを意識しながら適切に実施することができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 特任講師(甲)　　氏名 吉村　亮二

1．教育理念

【教育理念】

私は、本学健康管理学部健康栄養学科において管理栄養士を目指す学生には、食と健康に関する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」を科学的根拠に基づいて行え、実践的に活動できる人材になってほしいと思っています。そのために、学生との対話を重視し、学生が疑問に思うことを科学的根拠に基づいて理解できるように日々の教育に努めています。

【授業方針】

本学健康管理学部健康栄養学科では、ディプロマ・ポリシーとして「栄養士・管理栄養士として必要な基礎と専門的知識・技能のみならず、ホスピタリティを構成する次の諸能力（専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力、協働・課題解決力、多様性理解力）を身につけ活用することができる人物」を挙げています。そのため、ディプロマ・ポリシーと上記の教育理念から講義科目、実習・演習科目では次のような点を重要視しています。

（講義科目）

講義科目では科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」を行うための専門的知識を修得することを重要視しています。そのために修得すべき専門的知識は何かを明確に伝え、さらに教科書に沿って講義を進めることにより教科書等に記載されている情報を収集・分析できる能力を養えるよう心掛けています。また、学生との対話を通して理解度を把握し、不十分な項目に関しては基本的な事項から説明するように努めています。

（実習・演習科目）

実習科目においては、学生が講義科目で学修した専門的知識を活用し、実験により得られた結果を分析・考察することで科学的根拠に基づいて考える能力を会得できるように心がけています。そのため、実習レポートとともに実習項目の理解の促進となるような課題を課すようにしています。また、目的から結果考察までをレポートとして報告できることも重要視しています。そして、講義・実習科目で身につけた専門的知識・技能を大いに活用し、その集大成として、与えられたテーマの卒業研究・卒業論文執筆を行えるよう日々の教育に取り組んでいます。

上記の教育理念と授業方針により本学健康管理学部健康栄養学科の大きな目標となっている管理栄養士国家試験合格はもとより本学を卒業し、科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」が行える管理栄養士を育成できると考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
生物有機化学	15/15(後期)	2	6	①②③⑩
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
基礎栄養学実習	30/30(前期)	1	17	①⑩⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	67	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
基礎栄養学	15/15(後期)	2	39	①⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
栄養生理学実習	16/30(後期)	1	24	①⑩⑪
基礎栄養学実習	30/30(前期)	1	23	①⑩⑪
栄養生理学実習	16/30(後期)	1	21	①⑩⑪
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度後期は健康栄養学科専門科目である基礎栄養学で授業アンケートを実施した。不満を感じている学生はほとんどおらず、満足度は4.4であった。図解に力を入れた授業展開としているが、それが分かりやすいと感じる学生が多かったことがこの結果に繋がっていると思われる。話し方が眠くなったり、何か作業するようなことの要望があったため、その点を今後は改善、取り入れていきたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	栄養学I	15/15(前期)	2	29

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

分岐鎖アミノ酸の生理作用に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Comparative Analysis of Leucine, Arginine, and Lysine Effects on Protein Synthesis in Mouse Skeletal Muscle and Liver after 60 Minutes of Oral Intake／2024年12月／日本食生活学会誌／147-154／共著／論文

Comparative analysis of the effect of leucine, arginine, and lysine on regulation of protein degradation pathways in mouse skeletal muscle and liver／2025年3月／長崎国際大学論叢／95-104／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	なし
研究費不正使用防止委員会	委員	なし
長崎国際大学健康管理学部研究等倫理委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
健康栄養学科内教養セミナー係	委員	学科内で中心となり、教養セミナーBの実施に貢献した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

全学、学科内の委員も務め、論文も学内外の学術誌に発表することができたため、次年度も引き続き、教育、研究、大学運営に尽力したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 助教　　氏名 射場　仁美

1．教育理念

学生に学ぶことの楽しさを教え、学生が自ら考え、学び、行動できる力を育てる

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	1/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	1/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
栄養の生物学	15/15(前期)	2	28	①②⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
微生物学実習	23/23(後期)	1	31	①⑩
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
食品衛生学実習	23/23(前期)	1	21	①⑩
栄養学専門演習	1/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
食品衛生学実習	23/23(前期)	1	24	①⑩
微生物学実習	23/23(後期)	1	38	①⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートでの満足度評価はおおむね高かった。

ピンマイクで作業しながら説明しているが、聞こえにくいという意見もあるので、マイクの使い方を見直す必要がある。予習をしていない学生が多く、実習作業もよく理解しないまま、実習に参加している学生が多い。実習当日までに予習をするよう指導する必要があると感じた。また、学生の自己評価は高いが、実際は遅刻や積極性が低いと感じることが多いので、実習中に指導していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品衛生学	15/15(前期)	2	28
長崎短期大学	食品衛生学実習	30/30(後期)	1	28
九州文化学園調理師専門学校	食品の安全と衛生	15/15(前期)	なし	12
九州文化学園調理師専門学校	食品の安全と衛生	15/15(後期)	なし	17
九州文化学園調理師専門学校	介護食士（食品衛生）	1/1(後期)	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策	20	58	通年

３．研究活動

(1) 研究テーマ

腸炎ビブリオの病原因子に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Reduction of Campylobacter jejuni contamination by using UVA-LED and sodium hypochlorite on the surface of chicken meat／2024年6月／Journal of Microorganism Control／DOI ： 10.4265/jmc.29.2_91／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

菌体外NaCl濃度変化によって生じる腸炎ビブリオの病原性解析／2024年9月／第46回日本食品微生物学会学術総会

管理栄養士養成課程学生の黄色ブドウ球菌保菌状況とそのスマートフォン汚染状況について／2024年9月／第46回日本食品微生物学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
健康栄養学科入試募集委員会	委員	オープンキャンパスの実験体験コーナー担当、学生ボランティア募集

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外

2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
けんこうシップさせぼ21推進会議	委員	令和５年～現在に至る	長崎県佐世保市
長崎県栄養士会佐世保支部	運営委員	令和５年～現在に至る	長崎県栄養士会佐世保支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

大学での講義・実習において授業アンケートの満足度は高かった。実習ではレポートの返却時にコメントと評価を公表することが、意欲・満足度の向上につながった。来年度も高い評価を得られるよう努めたい。短大での講義・実習、調理師専門学校での講義を担当し、大学だけでなく九州文化学園全体の利益につながるよう努めた。

研究では学会発表を行ったが、今後は論文投稿できるよう研究結果をまとめたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 助教　　氏名 菊地　優子

1．教育理念

探究心をもち、自ら学ぶことのできる学生を育成する。

私は生物や化学といった専門科目の土台となる科目を担当しているが、これらは高校までの学習状況が大きく反映され、スタート時から理解度の差が大きく、苦手意識をもっている学生が多い。1年次のこれらの科目を通して、不足する能力に対して避けることなく前向きに、積極的に学ぶことのできる学生を育成したい。そのためには、なぜ生物や化学の知識が必要なのかを説明し、管理栄養士の専門科目と結び付けた授業展開を行う。また、実習では一人ひとりの理解度や意欲を把握しながら学生と接するよう心がける。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	58	①②④⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	1/30(前期)	2	26	①②⑧⑨
基礎化学実習	30/30(後期)	1	27	①⑨⑩
管理栄養士演習	1/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
栄養の生物学	15/15(前期)	2	36	①②⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑩⑪⑫
生活支援技術ⅠB	1/15(後期)	1	10	④⑤⑦
栄養学専門演習	1/30(後期)	2	45	①②⑤⑥⑨
栄養学応用演習Ⅰ	15/15(前期)	1	51	①②⑤⑥⑨
基礎化学実習	30/30(後期)	1	25	①⑨⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期の栄養の生物学は満足度4.7、後期の基礎化学実習は4.5と4.9と前年度と大きな変化はなく、概ね良好であった。しかし、特に基礎化学実習では理解度の差が大きく、単位を取得できない学生も複数みられたため、基礎学力の底上げが必要だと感じた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園　歯科衛生士学院	生化学	15/15(後期)	2	29
九州文化学園　歯科衛生士学院	国家試験対策（生化学）	2/74(後期)	ー	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

食物アレルギーや炎症性腸疾患における腸管透過性の変動に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	1	1	200万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

ロイシン，アルギニン，あるいはリジンの経口摂取60分後におけるマウス骨格筋，肝臓のタンパク質合成に対する影響／2025年2月／日本食生活学会誌35巻3号／p.147-154／共著／資料

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

低糖質高たんぱく質食が肝臓・腎臓に及ぼす影響について／2024年12月／第12回　日本栄養改善学会　九州・沖縄支部学術総会

骨粗鬆症の予防に資する雑穀類の可能性ー骨芽細胞様細胞株および実験動物を用いた骨代謝マーカーへの影響評価ー／2025年2月／第23回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費（若手研究）	日本学術振興会	2022年4月～2025年3月	200万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
実験動物委員会	委員	なし
健康栄養学科　国家試験対策委員	委員	国家試験対策の時間割作成や模擬試験の成績取りまとめを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

科学体験教室／8月10日／長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席

2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
特定非営利活動法人　日本栄養改善学会	評議員	2022年11月～現在に至る	日本栄養改善学会
長崎県栄養士会研究教育協議会	運営委員	2024年4月～現在に至る	長崎県栄養士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動では担当5年目となり、ブラッシュアップさせながら比較的余裕をもって授業を行うことができた。授業アンケート結果も良好であったが、満足度が成績につながらない部分もあるため、個別に対応できる時間を増やすなどして理解度をあげることが今後必要である。

研究活動では実験結果が出ず、筆頭著者として学会発表や論文投稿ができなかったため、来年度は学会発表ができるようデータを集めていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 助教　　氏名 吉永　奈津希

1．教育理念

自ら学ぶことで十分な知識・技能を修得し、問題に対して自ら課題策を模索し、柔軟に対応できる学生を育成する。そのために、学生の「知りたい」「やってみたい」を引き出し、能動的に学ぶことに対して支援する。また、様々な意見を傾聴することができ、自分の考えを明確にした上で意見交換し、相互理解を図るといったコミュニケーション力を培うため、学生同士での意見交換の場をつくる等の支援を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	58	①②④⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/23(通年)	1	54	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/23(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/23(通年)	1	36	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/23(通年)	1	35	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	1/45(通年)	2	17	⑪⑫
給食経営管理論Ⅰ	15/15(前期)	2	45	①③⑨⑩
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	44	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	26	①②③⑧⑨
給食経営管理論Ⅱ	15/15(後期)	2	45	①③⑨⑩
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	24	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	23/23(後期)	1	23	①③⑩
調理学実習Ⅲ	23/23(後期)	1	20	①③⑩
給食経営管理実習（学内）	23/23(前期)	1	28	①②④⑥
給食経営管理実習（学内）	23/23(前期)	1	26	①②④⑥
栄養学専門演習	1/30(後期)	2	45	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/17(前期)	1	2	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度は、給食経営管理論Ⅰ・Ⅱおよび給食経営管理実習において授業アンケートを実施した。給食経営管理論Ⅰ・Ⅱは、今年度より担当した科目である。前期の評価と比較し、後期の評価では若干ではあるが向上がみられる結果となった。今年度の授業アンケートの結果を踏まえ、次年度以降も講義に臨みたい。給食経営管理実習では、満足度等の結果は昨年同様であり、自由記述欄への意見等については、改善可能な内容は改善し、次年度の評価の維持・向上に努めたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策（前期）	4	52	5/11、6/1・10、7/12

国家試験対策（後期）	13	52	10/11・18・26、11/1・15・22、12/4・20・25、1/10・22・31、2/13
4年臨地実習事前事後指導	12	52	前期水曜2限

３．研究活動

(1) 研究テーマ

摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究

大量調理機器を用いた食品の調理科学的変化

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	1	1	1	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

「匠の技」再現技術と工業化／共著・編著／2025年6月／株式会社エヌ・ティー・エス／43頁～53頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

異なる調理機器による大量炊飯が米飯の品質に与える影響／2025年3月／長崎国際大学論叢 第25巻／85頁～94頁／共著／原著論文

植物プロテアーゼ含有食品を用いた牛もも肉の軟化に関する包括的検討／2025年4月／日本調理科学会誌Vol.58No.2／1頁～7頁／共著／報文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

嚥下調整食における保存および再加熱がテクスチャー・栄養価に及ぼす影響～第2報～／2024年11月／第19回日本給食経営管理学会学術総会（京都）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
フレイル予防として餡MMuの介護福祉領域への展開可能性の調査	菓心まるいち本店	2024年9月30日～2024年10月30日	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会（学科内）	委員	オリエンテーション、国家試験対策時間割作成
臨地実習委員会（学科内）	委員	事前指導、臨地実習に関する業務

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学生生活サポート室	室員	後期金曜12：20～13：00 計4回の相談を受けた。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	-	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外

2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立学校給食検討委員会	委員	令和6年12月17日～令和8年12月16日	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

リケフェスin SASEBO『食べ物 de サイエンス』／６月２９日／長崎国際大学

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

給食経営管理論Ⅰ・Ⅱの授業アンケートの結果、いずれも理解度、満足度の平均は3.0以上であったが、前期に話し方について明瞭でないとのコメントがあった。後期は話し方や視線に気を付けて実施した。後期の授業アンケートの結果、「話し方は明瞭であったか」の項目で、平均値の向上はみられたが、良くないと評価した学生が1名いたため、次年度以降も注意していきたい。

調理学実習Ⅲでは、昨年までは最初に実演していたが、実習時間確保のため、動画やスライド資料を使用して説明を行った。しかし、実習時間の短縮にはつながらなかった印象であり、次年度以降も見直していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 井上　朋奈

1．教育理念

学生が自ら楽しみながら学び、管理栄養士として必要な専門的知識・技能だけでなく、ホスピタリティ精神も身につける支援をする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手の為なし。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品と栄養の特性（栄養学）	7/15(前期)	2	17
九州文化学園調理師専門学校	食品と栄養の特性（栄養学）	8/15(後期)	2	17

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
健康栄養学科　化学リメディアル	5	2	2024年11月6日、2024年11月13日、2024年12月4日、2025年1月8日、2025年1月15日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

酒粕が食餌性肥満モデルマウスのメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス開催補助/7月21日、8月4日、8月25日、3月16日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

健康栄養学科広報催事「科学体験教室～食べ物の科学に触れてみよう！」開催補助/2024年8月10日/長崎国際大学

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

1年生の対象者に実施した化学リメディアルでは、少人数で行ったため学生が学びたい内容・苦手意識がある内容を重点的に行った。初回や2回目のリメディアルでは、全く解けない状態であったが、最後の講義の確認テストでは解ける問題が増えていたため、一定の効果はあったのではないかと考える。今後も対象学生が学びたい内容に関して時間を割き指導を行い、分かりやすい資料の作成に努めていきたい。各実習の補助では、実習が円滑に進むように必要な予習・準備を行い、実習後は次に繋がるよう復習を行うことを心掛けた。

学科広報催事の開催補助やオープンキャンパスの準備など積極的に行った。また、研究面では高脂肪食に熱乾燥させた酒粕を混ぜた餌をマウスに与え飼育を行った。現在酒粕摂取により白色脂肪組織が褐色脂肪組織のような性質をもつブラウン化が起きているか研究中である。また、新しく細胞実験を始め、骨芽細胞を培養し、ALPやRunx2等の発現が骨芽細胞の分化において経時的にどのように変化するかを調べる予定である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 嘉数　圭祐

1．教育理念

私の教育理念は思いやりのある人、社会で活躍できる人を育てることであり、そのために出来る範囲で学生のサポートをしていきたいと考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

なし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
調理師専門学校	食品と栄養の特性（食品学）	15/15(後期)	2	11

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	5	1	2024年11月6日、13日、12月4日、1月8日、15日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

クメストロールが生体内に及ぼす影響に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

HASPIN天然阻害剤を含むモヤシの経口摂取によるアルツハイマー抑制効果／2024年3月／Precision Medicine／72～75ページ／共著／総説

Comparison of Serum Testosterone Levels in Male Wild Boars and Domestic Pigs in Japan／2024年10月／wild／https://doi.org/10.3390/wild1010005／共著／論文

The Natural HASPIN Inhibitor Coumestrol Suppresses Intestinal Polyp Development, Cachexia, and Hypogonadism in a Mouse Model of Familial Adenomatous Polyposis (Apc Min/+)／2024年9月／Biology／10.3390/biology13090736／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Inhibitor of HASPIN, which is exclusively expressed in male germ cells, suppresses cancer cell proliferation／2024年5月／27th North American Testis Workshop

アルツハイマー病モデルマウス5XFADの認知症発症はHASPIN阻害剤クメストロールを多く含むモヤシの経口摂取により抑制される。／2024年6月／日本アンドロロジー学会　第43回学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は研究発表を三度することができた。来年度も継続して発表ができるように研究を進めていく。今年度は非常勤講義が少なく済んだため、この状況であれば維持できると考えられる。

今後は外部資金を取り、更に研究に使える金額を増やしていきたい。現在いくつかの研究費応募のものを申請中である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 久保　玲奈

1．教育理念

私は、卒業時に「管理栄養士を目指すために長崎国際大学に進学して良かった」と感じてもらえるようにすることを教育理念としている。
同じ管理栄養士養成施設で同じ科目を学んでいても、環境や人間関係などの外的要因の影響で、習得できる内容に差が生じたり、卒業後の進路等にも影響を及ぼすと考えている。
学生の頃、私自身も多くの先生方や友人に相談などをしながら勉学等に励むことができたおかげで、自身の希望としていた進路へ進むことができ、「長崎国際大学で学べてよかった」と実感した。
教育理念実現のためには、学生の1回1回の実習が有意義なものになるよう実習の準備・片付けをしっかり行うだけでなく、勉強のことや学生自身のことなどをいつでも相談に来れるように日々学生を支援していくことが重要であると考える。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	5	2	2024年11月6日、2024年11月13日、2024年12月4日、2025年1月8日、2025年1月15日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

低糖質高たんぱく質が及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

低糖質高たんぱく質が肝臓・腎臓に及ぼす影響について／2024年12月21日、12月22日／第12回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス開催補助/2024年7月21日、2024年8月4日、2024年8月25日、2025年3月16日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

健康栄養学科広報催事「食べ物の科学に触れてみよう」開催補助/2024年8月10日/長崎国際大学

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

1年生の対象者への化学リメディアルでは少人数で行ったため、苦手分野を聞き取りその内容を重点的に行った。教えた際には理解したと言っていたが、最後の回で理解度チェックのために行ったテストでは問題に解きなれておらず点数が伸び悩んでいた。少ない回数で理解度を深めるためには、より理解しやすい内容での資料を作成するだけでなく、練習問題などを増やし問題に解きなれてもらうことが必要であった。

各実習の補助は、事前準備はもちろんのこと、必要に応じて予習復習を行い、実習が円滑に進められるよう心掛けた。

学会広報催事やオープンキャンパスの補助では、参加者が有意義な時間を過ごせるように準備等に取り組んだ。

研究では、低糖質高たんぱく質食が肝臓・腎臓に及ぼす影響について、学会発表を行った。発表を通じて学びや今後の研究で検討すべきことを考えることができたので、来年度はその内容に取り組んでいこうと考える。また、大学院3年と最後の年になるため、自身を持って修了できるよう、研究活動に励んでいきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 野田　智章

1．教育理念

自身で学び、疑問や課題・問題に対して熟慮する学生の育成、及びそのサポートをする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

自身が補助で入っていた授業では概ね満足いくアンケート結果だった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品の栄養と特性	16/16(前期)	1	17
九州文化学園調理師専門学校	食品の安全と衛生	15/15(後期)	1	12

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

生体における黒米抽出物の骨代謝

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

骨粗鬆症の予防に資する雑穀類の可能性　-骨芽細胞様細胞株および実験動物を用いた骨代謝マーカーの影響評価-／2025／第23回　長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては先生方との打ち合わせや準備を行うことで学生の学びのサポートができており、授業アンケート等でも学生から概ね満足いく回答が得られたと考えます。

研究では学会発表ができ、最低限の目標は達成できたと考えます。今後、いろんな場で研究成果をアウトプットできるように、より計画的に進めていければと思います。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 古田　美咲

1．教育理念

自ら積極的に学び、問題に対して自力で解決策を模索でき、社会に貢献できる学生を育成する。そのために、学生が主体的に取り組める環境づくりを心掛ける。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
佐世保市立看護専門学校	生化学	30/30(前期)	1	62

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	5	1	11月6日、23日、12月4日、1月8日、15日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

母体の鉄制限が次世代に及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	2	1	1	442万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

食物アレルギーモデルラット作製におけるアレルゲン感作条件の検討／2024年4月／長崎国際大学論叢第24巻／129頁～134頁／共著／論文

長期的な鉄欠乏状態がもたらす母体および次世代への影響／2024年8月／Medical Science Digest Vol.50 No.9／55頁～57頁／共著／総説

周産期の健康を左右する鉄－DOHaD説が示す鉄の重要性－／2024年11月／周産期医学54巻11号／1524頁～1528頁／共著／総説

DOHaD説からみた母体の鉄欠乏と次世代への影響／2024年12月／BIO Clinica Vol.39（13）／78頁～81頁／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

低糖質高たんぱく質食が肝臓・腎臓に及ぼす影響について／2024年12月／第12回栄養改善学会　九州・沖縄支部学術総会

骨粗鬆症の予防に資する穀物類の可能性 - 骨芽細胞用細胞株および実験動物を用いた骨代謝マーカーへの影響評価 - ／2025年2月／第23回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金基盤（C）	日本学術振興会	2023年4月～2025年3月	442万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会（学科）	委員	保護者会、栄養士実力認定試験の事前準備および当日の運営を行った。
国家試験対策委員会（学科）	委員	朝テストの準備等を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	-	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	-	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	-	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	-	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	-	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	-	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	-	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	-	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

8月10日「科学体験教室」企画・運営

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、担当している学生実習については昨年度よりも効率よく実習が進むよう準備段階で改善することができ、実習も問題なく円滑に進めることが出来た。1年生対象の化学リメディアルにおいては、授業で理解できなかった箇所の補習を重点的に行うことで、学生の理解度と授業の進度に差が生じないよう対処することができた。

研究面では、学会発表（共同）、論文投稿、科研費の獲得（継続）があった。今後も教育面・研究面での両立が図れるよう、より一層計画性をもって精進したい。

教育面・研究面以外においても、催事の開催や外部への非常勤講師など、大学運営・社会貢献へ積極的に関与できた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 山下　千尋

1．教育理念

学生の学びのサポートだけでなく、学生からの相談に対して真摯に受け止め、より良い学生生活を送ってもらえるように、業務を行うことを理念としている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
リメディアル化学	5	1	2024/11/6, 13, 12/4, 2025/1/8, 15

3．研究活動

(1) 研究テーマ

保育所給食における食物アレルギーのリスクマネジメントに関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国家試験対策委員会	委員	模擬試験や朝テストの運営準備

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

化学リメディアル教育を行ったが、効果があまり見られなかったため、講義の仕方や学生の苦手を重点的に復習できる課題等が必要があると考える。今年度は研究活動があまり活発ではなかったため、来年度は論文投稿や学会発表ができるようまとめているところである。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和６(2024)年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 中村　誠司

１．教育理念

本学の建学の精神「高い知性と豊かな教養、優れた徳性と品格、たくましい意志と健康な身体の備わった人間の育成」ならびに建学の理念である「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する」に則り、知性、感性、人間性の備え、地域社会ならびに国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	228	②③⑩⑪
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	39	②③⑩⑪
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	67	②③⑩⑪
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	89	②③⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

留学生を含む１年生が対象であるため、特に日本語が未熟な留学生でも理解できるような内容とし、解りやすい口頭での説明や資料作成に努める必要があると考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州大学歯学部	口腔微生物学（口腔免疫学）	2/15(後期)	2	53
福岡医健・スポーツ専門学校	口腔外科学	15/15(前期)	2	40

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

口腔粘膜疾患や唾液腺疾患の発症・病態形成機序の解明と口腔癌に対する生体防御機構の解析を行い、それらの結果を踏まえた新規治療法の開発を目指す

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	9	0	4	4	6373万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

標準口腔外科学（第5版）／共著・編著／2024年4月／医学書院／362-373頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

The 2023 revised diagnostic criteria for IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis／2024年10月／Mod Rheumatol／10.1093/mr/roae096／共著／論文

Clinical profile of IgG4-related disease in Japan based on the rare disease data registry／2024年11月／Immunol Med／10.1080/25785826.2024.2430812／共著／論文

Possible involvement of Toll-like receptor 8-positive monocytes/macrophages in the pathogenesis of Sjögren's disease／2024年10月／Front Immunol／10.3389/fimmu.2024.1480675／共著／論文

The utility of oral moisture measurement for the diagnosis of Sjögren's syndrome: Its potential application as a diagnostic criterion／2024年5月／J Oral Maxillofac Surg Med Pathol／10.1016/j.ajoms.2024.02.007／共著／論文

The clinical effectiveness of conservative surgical management in medication-related osteonecrosis of the jaw／2024年4月／J Oral Maxillofac Surg Med Pathol／10.1016/j.ajoms.2023.11.001／共著／論文

Granzyme K- and amphiregulin-expressing cytotoxic T cells and activated extrafollicular B cells are potential drivers of IgG4-related disease／2024年4月／J Allergy Clin Immunol／10.1016/j.jaci.2023.11.916／共著／論文

Single-cell transcriptomics reveals granzyme K-expressing cytotoxic Tfh cells in tertiary lymphoid structures in IgG4-RD／2004年2月／J Allergy Clin Immunol／10.1016/j.jaci.2023.08.019／共著／論文

Maintenance steroid therapy is associated with decreased risk of malignancy and better prognosis of patients with autoimmune pancreatitis: A multicenter cohort study in Japan／2024年1月／Pancreatol／10.1016/j.pan.2024.01.008／共著／論文

Extracellular vesicles of iPS cells highly capable of producing HGF and TGF-β1 can attenuate Sjögren's syndrome via innate immunity regulation／2024年1月／Cell Signal／10.1016/j.cellsig.2023.110980／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
口腔扁平苔癬の創薬ターゲットの探索～病因T細胞と関連エンハンサーRNAの同定～	科学研究費挑戦的研究(開拓)：研究代表者	2022年6月 - 2025年3月	2574万円
ICTを活用した歯学生の評価手法確立のための研究	厚生労働省科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）：研究分担者	2022年6月 - 2024年3月	208万円
シームレスな歯科医師養成を加速する歯科医師国家試験出題基準の改定に向けた研究	厚生労働省科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）：研究分担者	2024年6月 - 2026年3月	146万円
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診察基準並びに診療指針の確率を目指す研究	厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）：研究協力者	2023年6月 - 2026年3月	3445万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価	委員長	統括
研究費不正使用防止	委員長	総括
教員資格審査	委員長	総括
防火・防災	委員会	総括
危機管理	委員長	総括
グローバル推進協議会	委員長	総括
全学教育会議	委員会	総括

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

地域に貢献する人材育成.　聞きたい 言いたい.　長崎新聞　2024年4月27日.

新学長に聞く「長崎国際大学 グローカルに活躍する、次世代の人材を。」. 読売新聞 2024年6月28日.
私学の立場で考える地方新興政策. アルカディアの灯④ ―地方私大からの緊急提言―. 教育学術新聞 2024年7月3日.
長崎国際大学学長に歯科医師の中村誠司氏. 変化に対応してきた歯科の経験を生かす. 日本歯科新聞 2024年7月23日.
「あの人この歌あぁ人生」（ラジオ番組）. NBC長崎放送 2025年2月24日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
7	15

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬剤関連顎骨壊死に関する最新情報について	2024年10月31日	京都医師会館	京都三師会
歯科医師が知っておくべき最新情報 ～口腔粘膜疾患から薬剤関連顎骨壊死まで～	2024年10月12日	山口市歯科医師会館	九州大学歯学部同窓会山口支部
歯科医師が知っておくべき最新情報 ～口腔粘膜疾患から薬剤関連顎骨壊死まで～	2024年9月25日	福岡県歯科医師会館	九州大学歯学部同窓会
歯科医師が知っておくべき最新情報～口腔粘膜疾患から薬剤関連顎骨壊死まで～	2024年7月27日	長崎市歯科医師会館	九州大学歯学部同窓会長崎支部
薬剤関連顎骨壊死に関する最新情報について	2024年7月26日	長崎県対馬病院 2F会議室	対馬市医師会、対馬市薬剤師会、対馬市歯科医師会、第一三共株式会社
IgG4関連疾患の病態解明を目指した免疫学的アプローチ	2024年3月26日	松本歯科大学	松本歯科大学
歯科医師が知っておくべき最新情報～口腔粘膜疾患から薬剤関連顎骨壊死まで～	2024年2月10日	熊本大学病院	熊本県歯科口腔外科研修会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
公益財団法人隈科学技術・文化振興会科学技術振興活動部門	主審査委員	2024年10月～	公益財団法人隈科学技術・文化振興会
英進館奨学金財団	選考委員	2024年9月～	英進館奨学金財団

国際歯科研究学会日本部会（IADR-JADR）	前会長	2024年1月～2024年12月	国際歯科研究学会日本部会（IADR-JADR）
NPO法人日本口腔科学会	監事	2022年5月～	NPO法人日本口腔科学会
一般社団法人日本口腔内科学会	常任理事	2023年10月～	一般社団法人日本口腔内科学会
一般社団法人日本口腔腫瘍学会	監事	2023年2月～2025年1月	一般社団法人日本口腔腫瘍学会
一般社団法人日本口腔診断学会	理事	2019年9月～	一般社団法人日本口腔診断学会
一般社団法人日本頭頸部癌学会	理事	2014年6月2024年6月	一般社団法人日本頭頸部癌学会
一般社団法人日本シェーグレン症候群学会	顧問	2023年10月～	一般社団法人日本シェーグレン症候群学会
一般社団法人日本IgG4関連疾患学会	理事	2019年12月～	一般社団法人日本IgG4関連疾患学会
一般社団法人日本口腔ケア学会	理事	2008年4月～	一般社団法人日本口腔ケア学会
一般社団法人日本歯学系学会協議会	理事	2018年6月～	一般社団法人日本歯学系学会協議会
国際歯科医療安全機構	理事	2016年2月～	国際歯科医療安全機構
口腔がん撲滅委員会	理事	2016年2月～	口腔がん撲滅委員会
日本学術会議	連携会員（歯学委員会・病態系歯学分科会副委員長）	2014年4月～	内閣総理大臣

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition	IADR˜JADR前会長として出席し、複数の演題の共同演者を務めた	2024年3月13日～16日	NEW ORLEANS, LA, USA	2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition
The Fifth International Symposium on IgG4-RD	複数の演題の共同演者として出席	2024年4月4日～6日	MILAN, Italy	The Fifth International Symposium on IgG4-RD

(3) その他特記すべき活動

日本学術会議の連携会員としての提言作成や市民公開講座の企画・運営を行っている。また、地方の医師会、歯科医師会、薬剤師会に依頼された講演は多数行っている。

７．受賞等

日本口腔腫瘍学会名誉会員（2024年1月25日）
日本口蓋裂学会名誉会員（2024年5月31日）
日本頭頸部癌学会名誉会員（2024年6月21日）
日本口腔外科学会名誉会員（2024年11月22日）

８．活動全般についての自己点検・評価

2024年4月以降は学長職に専念している状況なので、教育業務が現状より増えることは望めず、徳に研究業績などは従前に指導あるいは共同研究を行った業績しか出てこなくなるであろう。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 藤田　英明

1．教育理念

私の教育理念は、「自ら学ぶことができる人材を育成する」である。
そのため、担当する授業では、専門性が高い内容であっても興味が持てるような導入を工夫している。
国家試験の合格を念頭に置いて、必要な基礎知識を提供しつつ、学生が主体的に学ぶことの重要性を強調して、専門力を高める教育を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	10	①⑨
機能形態学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	1	①②⑨
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	4	①②④⑨
専門演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	101	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
機能形態・生化学演習	3/12(後期)	0.5	2	①②⑨⑪
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
機能形態学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	89	①
機能形態・生化学演習	3/8(後期)	0.5	84	①②⑨
基礎の数学	15/15(前期)	2	21	②③⑨
専門基礎学習Ⅰ	7/10(通年)	0.5	97	②④⑨⑩
ホスピタリティ演習Ⅰ	8/8(後期)	0.5	95	②⑦
薬学入門	15/15(前期)	1.5	89	②③⑩⑪
機能形態学実習	21/21(前期)	1	99	①②⑥⑦⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

現状維持を目指す。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
機能形態学Ⅰ　補習	10	40	2024年前期
機能形態学Ⅱ　補習	10	30	2024年後期
基礎の物理学　補習	10	40	2024年前期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

細胞や細胞内小器官の機能と形態は密接に関連しています。光学顕微鏡や電子顕微鏡を用いるとそれらの内部微細構造が明らかにできます。機能形態学研究室では形態学・生化学・分子細胞生物学的な手法を駆使して、下記の研究テーマに取り組んでいます。

細胞内の多くの膜タンパク質はリソソームにおいて分解されます。細胞がどのようにしてこれら膜タンパク質をリソソームへ選別輸送するのか、その制御分子機構の解明を目指します。

メラノサイトにおける主要なメラニン合成酵素チロシナーゼを選択的に分解へと導く美白剤の作用機構を明らかにすることで、これまでに無い新しい美白剤開発を目指します。

膜結合型ユビキチンリガーゼMARCH8がHIVなどのウイルスに対する感染防御に関与することを明らかにしました。MARCH8をはじめとする様々な膜結合型ユビキチンリガーゼが関与する生命現象の解明を目指します。

鉄・亜鉛・銅などの生体微量金属の過剰症・欠乏症の治療薬・治療法開発に役立つように、各微量金属輸送体の発現・細胞内局在・分解の分子制御機構の解明を目指します。

海洋生物由来糖鎖結合性タンパク質（レクチン）は細胞表面糖鎖を介して癌細胞へのアポトーシスなど様々なグライコシグナルを惹起することが知られています。日本近海などに生息する海洋生物から精製したレクチンの中から抗腫瘍活性・細胞分化制御活性などを有するものを見つけ出し、その作用分子機構の解明を目指します。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Novel Galectins Purified from the Sponge Chondrilla australiensis: Unique Structural Features and Cytotoxic Effects on Colorectal Cancer Cells Mediated by TF-Antigen Binding／2024／Mar. Drugs／https://doi.org/10.3390/md22090400／共著／論文

Multifunctional Cell Regulation Activities of the Mussel Lectin SeviL: Induction of Macrophage Polarization toward the M1 Functional Phenotype／2024／Mar. Drugs／https://doi.org/10.3390/md22060269／共著／論文

Further Characterization of the Antiviral Transmembrane Protein MARCH8／2024／Cells／https://doi.org/10.3390/cells13080698／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

オレアノール酸による色素細胞黒色化促進の分子機構解明／2024年11月／日本色素細胞学会大会

シグナル配列を有さないアシアロGM1結合レクチンSeviLの細胞外分泌機構の解明／2024年11月／日本生化学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
利益相反 マネジメント	委員長	利益相反申告内容について精査した。
グローバル推進協議会	構成員	協議会に参加して意見を述べた。
人事	構成員	人事について審議に参加した。
全学教育会議	構成員	会議に参加して意見を述べた。
情報セキュリティ	構成員	メール会議に参加して意見を述べた。
発明等審査	委員長	特許の維持・廃止について精査した。

教員資格 審査	構成員	教員資格について審査した。
全学共通 教育	構成員	会議に参加して意見を述べた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部バスケットボールサークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

進学説明／12月11日／場所：諫早高校

進学説明／12月12日／場所：鎮西学院高校、大村高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本生化学会各種授賞等選考委員会	委員	2021年-2024年	日本生化学会
日本色素細胞学会評議委員会	評議委員	2019年-2024年	日本色素細胞学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

概ね問題なく活動した。

次年度以降は研究活動に注力したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 佐々木　茂貴

1．教育理念

1．身近で、親しみやすい、街の中の科学者・化学者として、地域の健康と福祉に貢献する薬剤師を育成する。
1）科学的思考力を養うため、物事を分析的に解釈し、総合して理解する知識と能力を習得させる。
2）物質の変化を説明するために化学的な思考力を育成する。
3）話す相手に適切な態度と言葉で安心感を与えつつ科学・化学を伝える技術を習得させる。
4）医療従事者としての自覚と責任感を育成する。
2．病気の治療薬開発に向けた新進気鋭の気概をもつ研究者を育成する。
1）既存薬の記憶にとどまらず、その創成過程に関心をもつ気風を育てる。
2）確立した概念に満足せず、さらなる真理への探求心を奨励する。
3）治療現場の課題や疑問点を基礎科学にフィードバックする能力を育てる。
4）自発性・積極性を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	③⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	③⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	③⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	③⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	③
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	③⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	1	⑥⑪
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	③⑨
構造解析学	2/15(前期)	1.5	82	③⑨
創薬化学	1/15(前期)	1.5	97	③⑨
有機薬化学実習	18/18(後期)	1	96	③
有機薬化学Ⅱ	2/15(前期)	1.5	99	③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

創薬化学、有機薬化学IIと生物有機化学について授業アンケートを行った結果、それぞれ回収率91.7%, 88.7%、78.2%で、満足度の評価が、それぞれ4.4, 4.5と4.5と概ね高評価であった。講義の中で演習問題を加えたことに対して、理解を助けたとのコメントがあった。また、反応の説明のためのカーブした矢印のアニメーションに高評価のコメントがあった。次年度もさらに理解を深めるための工夫を加える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州大学大学院薬学研究院	大学院有機化学	2/15(前期)	2	6
久留米大学医学部	薬理学	1/15(後期)	0	80

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

がん、糖尿病などの生活習慣病、遺伝病など、多くの病気はゲノムの異常によって発生する。当研究室では、病気の原因となるDNAやRNAを標的にする創薬研究を行い、難病の治療法開発にチャレンジする。

①　配列・塩基選択的なRNA化学修飾法の研究と化学的RNA編集への展開

遺伝子の中の、わずか一個の核酸塩基が正常なものと違うだけで重篤な症状を引き起こす。本研究では、mRNAに作用して選択的に化学反応する人工核酸を展開し、遺伝コードを編集するインテリジェント人工核酸の創製を目指す。

②　リピートDNAを標的とする低分子化合物の探索

リピート病では、リピートDNAが原因となって遺伝子発現が異常となることで発症する。本研究では、2本鎖DNAのリピート配列に協奏的に結合し、分子集積体を形成する低分子化合物を基盤として、リピート病治療薬リード化合物の開発を目的とする。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	4	5	1	1	2600万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

核酸医薬／共著・編著／2024年4月／株式会社エヌ・ティー・エス／123-133

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Novel strategy for activating gene expression through triplex DNA formation targeting epigenetically suppressed genes／2024年7月／RSC Chemical Biology／10.1039/D4CB00134F／共著／論文

The Development of Non-natural Type Nucleoside to Stabilize Triplex DNA Formation against CG and TA Inversion Site／2024年5月／Current Medicinal Chemistry／10.2174/0929867330666230512114130／共著／論文

The selective chemical modification of the 6-amino group of adenosine of the premature termination codon induces readthrough to produce full-length peptide in the reconstituted E. Coli translation system／2024年9月／Bioorganic & Medicinal Chemistry／10.1016/j.bmc.2024.117868／共著／論文

Site-specific acetyl modification of 2'-OH of RNA by an oligonucleotide acetylating reagent／2024年11月／Chemical Communication／10.1039/d4cc04672b／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

CGGリピート配列への低分子集積によるFMR1遺伝子の転写活性化／2024年3月／日本薬学会第144年会

CGGリピート関連疾患に対する低分子創薬／2024年3月／日本薬学会第144年会

The site-selective tritium labeling of antisense nucleic acids using functionality transfer reaction／2024年7月／日本核酸医薬学会第9回年会

核酸医薬の変遷と未来希望／2024年7月／第40回日本DDS学会学術集会

New chemical approaches to nucleic acid therapeutics (NA Drug)／2024年6月／CSPS - CC-CRS Symposium 2024

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
未熟終止コドンのアデノシン化学修飾によりリードスルーを誘起する核酸医薬の基盤構築	日本学術振興会・挑戦的研究（開拓）	令和６年度～ 令和８年度	2600万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
危機管理委員会	委員	委員として会議に参加した。
グローバル推進協議会	委員	委員として会議に参加した。

全学教育会議	委員	委員として会議に参加した。
情報セキュリティー委員会	委員	委員として会議に参加した。
学務協議会	委員	委員として会議に参加した。
運営会議	委員	委員として会議に参加した。
奨学金変換免除にかかる候補者選考委員会	委員	委員として会議に参加した。
教員資格審査委員会	委員	委員として会議に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
令和5年度私立大学等改革総合支援事業対策会議ワーキンググループ	委員	活動内容のとりまとめに参加した

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬学の未来構想　基礎面　デジタルツインによる創薬と医療のパラダイムシフト	2024年5月	東京都渋谷区長井記念館	日本薬系学会連合

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会	顧問	2024/3/28-2025/3/26	日本薬学会
薬系学会連合	理事	2024/7/1-2025/6/30	日本薬系学会連合
薬学教育評価機構	理事	2024/4/1-2025/3/31	薬学教育評価機構

新薬剤師養成問題懇談会	構成員	2024/4/1-2025/3/31	厚生労働省

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

１．教育活動については、講義や演習を分担し、各種試験問題の作成を行った。授業評価では、5点中4.4-4.5の評であり、おおむね目的を達成した。

２．研究活動については英語論文発表や学会発表を行った。様々な実験と共同研究を展開し、当初の予想通りに実施できている。

３．大学運営には、全学委員として各種委員会活動に参加した。

４．社会活動では、日本薬学会顧問として活動した。さらに新しく薬系学会連合の設立に関わり、設立時理事として運営に携わった。その他種々の委員会活動を行った。

５．国際活動としては、日本薬学会とカナダ薬学会の協定締結のためカナダ薬学会で講演を行い、また交流を活発化した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 椛島　力

1．教育理念

「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」という長崎国際大学の建学の理念のもと、強い倫理観と薬学関連分野で幅広い知識を持ち、国民の健康・福祉に貢献する優秀な薬剤師を養成することを教育理念としています。

薬学部の重大な社会的責務の一つとして、優秀な薬剤師を養成し、国民の健康・福祉に貢献することだと考えています。また、薬学部に6年制課程が導入されて以降、高度な知識・技能を有する薬剤師が求められています。そのためにも、薬学部の学生にとって第一に薬剤師国家試験への合格が必須となってきます。

薬剤師国家試験に合格させるためには、低学年の基礎科目や専門科目からの薬剤師国家試験に対する意識付けが重要と考え、講義内容について国家試験との関連性や薬剤師業務における重要性を示し、自発的な学習を促進させるよう心がけています。また、薬剤師として活躍するイメージを常に意識させるようにしています。

薬学は化学・物理・生物・臨床と幅広い分野にわたる学問であり、薬学に対して興味を持たせることは、学生の能動的な学習を促し、知識を得られるだけでなく、その知識を活かせる人材を育成できると考えています。したがって、講義内容に興味を持たせるには、どのような工夫や準備をすべきか、何に気をつけるべきかを常に検討しています。

薬学教育で大切なことは、基礎知識や観察力に加え、科学的根拠に基づいた思考能力を修得させることだと考えています。これにより、論理的思考能力を有する、いわゆる質の高い薬剤師が養成できると考えています。現在の薬剤師は、チーム医療の一員として、医師、看護師、栄養士などとともに、医療現場で活躍することが求められています。このような他分野の医療従事者と治療方針などを協議するためには、この論理的思考能力が必要不可欠です。また同時に、コミュニケーション能力も必要とされます。コミュニケーション能力は、チーム医療だけでなく、患者対応時にも必要とされます。そのため、話す相手や状況によってコミュニケーションの取り方を変えなければなりません。このような論理的思考能力やコミュニケーション能力は、座学だけでは修得できないため、基礎実習や卒業論文の指導を通して教育しています。

現在の学生は様々な不安や悩みを持っていることが多いので、学生ひとりひとりの性格や考え方、個性に応じた適切な教育指導ができるように心がけています。また、学習だけでなく、就職活動の相談や、大学院への進路相談など話を聞く姿勢を大切にし、学生の不安を少しでも軽減するためにも、積極的に声をかけています。近年、様々な場面で倫理が問われていますので、医療人としての倫理を持つことの重要性も身につけさせるように努めています

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	8/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	①④
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	4	①④
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑫
薬剤学	15/15(後期)	1.5	2	②④⑨
総合演習ⅢＢ	10/30(後期)	2	88	①⑨
基礎の数学	15/15(前期)	2	40	②③⑨
臨床薬物代謝学	8/15(後期)	1.5	80	①⑧⑨
薬剤学	15/15(後期)	1.5	90	②④⑨
物理・生物薬剤学演習	8/15(前期)	1	11	①②④⑨
薬剤学実習	18/18(後期)	1	83	④⑩⑪
地域の理解と連携	1/15(後期)	2	200	②⑩⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

受講者数30名以上で7コマ以上担当した3科目の授業満足度は4.4～4.8、理解度は4.1～4.8であり、一定の評価を受けたと考える。遠隔対応科目については、授業動画をアップし、いつでも復習できるようにした。また、毎回、小テストを課し、理解度の確認に努めた。次年度も、授業アンケートのコメントなどを参考に授業内容の改善を行い、学生が成績向上できるように努める。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の物理学の補習	11	36	2024/4/15-2024/7/20

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・新規機能性分子の開発
・エピジェネティクスに関する新規解析法の開発
・生体内高分子の新規解析法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	320万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費 基盤研究C	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	320万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	学部教授会で教務関係の報告や説明を行った。薬剤系の講義の取り纏めを行った。卒業研究に関する取り纏めを行った。
自己点検・評価委員会	委員	大学および薬学部の自己点検を行った。授業アンケートをもとにした個別面談を担当し、改善策等を提案した。
発明等審査委員会	委員	本学の知的財産について、特許申請・特許維持・特許放棄について審議した。

薬学部国試・CBT対策委員会	委員	薬剤師国家試験やCBT試験対策の演習などについて協議した。
薬学部入試募集委員会	委員	入試関連業務、高校訪問、中高生を対象とした体験実験、オープンキャンパスの運営に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎薬学コンソーシアム	メンバー	長崎大学および県内の病院・薬局・薬剤師会関係者と実務実習や共用試験に関する情報交換を行った

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

九州文化学園高等学校内部進学説明会/3月10日

佐世保西高、佐世保南校への高校訪問/12月6日

オープンキャンパスにおける保護者対象の説明会

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本分析化学会九州支部	幹事	平成24年度～現在に至る	日本分析化学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、担当科目の授業アンケートの満足度は4.4以上、理解度は4.1以上であり、一定の評価を得られたと考える。今後も、授業アンケート等を参考に、授業内容などを検討し、満足度や理解度を向上できるように努める。

研究に関しては、今年度より新たに科研費が獲得できたので、引き続き研究を進める。今年度は、発表論文がなかったので、現在の研究成果をまとめて論文投稿する。

大学運営に関しては、学部長をはじめ教職員の協力もあり、学科長として最低限の仕事はできたのではないかと考える。昨年度から引き続き、入学定員が確保できなかった点を反省しており、次年度に向けて定員確保の取り組みを強化したい。新カリキュラム編成、入学定員の確保、国試合格率や進級率の向上など、さらに貢献できるように努める。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 市川　和洋

1．教育理念

担当している物理化学分野は、薬の天然物からの抽出、全合成、あるいは製剤の特性や安定性など、薬学に必須の基礎的概念や原理を理解する学問領域です。従って、化学系薬学あるいは生物系薬学など幅広い薬学領域の基礎をなしており、それを理解する能力を育てる役割を果たしています。

物理化学的な見方ができるようになることで、体系的な薬学学習が可能になると考えています。そのため、初年次教育から専門教育の段階まで、物理化学的視点で薬学分野を見る習慣を身に着け、理解が深まること、またその楽しさを伝えることを教育方針としています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/23(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	2	①⑨
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	95	①⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	97	①⑨
専門演習Ⅰ	0/45(通年)	3	4	①⑨
専門演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	101	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑫
物理学演習	12/12(後期)	0.5	2	①④⑧⑩
薬品物理化学演習	12/12(後期)	0.5	1	①⑧⑩
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	88	①
薬品物理化学Ⅰ	8/15(前期)	1.5	97	①④⑧⑩
薬品物理化学演習	12/12(後期)	0.5	90	①⑧⑩
基礎の物理学	15/15(前期)	2	20	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	8/15(後期)	1.5	100	①④⑧⑩
物理学演習	12/12(後期)	0.5	25	①④⑧⑩
物理化学実習	7/7(前期)	1	83	①④⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本学部での高校時の物理未履修者割合は20～30%程度です。したがって、受講前の学力水準が大きく異なる相に分かれます。担当科目の授業アンケートの評価は、初期の成績分布とほぼ一致し、授業アンケートで、非常に良いとのコメントの一方で、全く分からないとのコメントもあるなど2分化していることと一致します。

高学力層を満足させつつ、低学力層の底上げも必要で、引き続き改善していきたいと考えています。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の物理学　補習	10	30	前期不定期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

疾患で変化する代謝機能を対象とし、物理化学的な手法に基づいてin vivoおよびin vitroで計測可能な計測法を新たに開発することで、疾患メカニズム解明や医薬品の薬効評価の新しいアプローチを実現することを目的として研究を行っています。主な研究内容は次の通りです。

（１）生体酸素代謝動態の画像診断装置開発、反応選択的化合物（分子プローブ）の開発
（２）生体の様々な酵素代謝をリアルタイム計測する分子プローブ開発
（３）抗酸化活性とストレス・疾患動態の簡易計測法開発と薬効評価
（４）がんモデルにおける酸素代謝動態、TCAサイクル変動と薬効評価

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	1859万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Line-Shifting Triarylmethyl Radicals for Imaging of Enzyme Activity Using Overhauser-Enhanced Magnetic Resonance Imaging: Application to Alkaline Phosphatase／2025年1月／Chem. Biom. Imaging／10.1021/cbmi.4c00059／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

生体加熱低減を目的とした低電力 OMRI 法の開発／2024年11月／第63回電子スピンサイエンス学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金　基盤研究（B）	日本学術振興会	2024-2026	1859万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学教育会議	構成員	各種議題検討

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	対象外

2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

ウエストバージニア大学 In Vivo Multifunctional Magnetic Resonance centerとの研究交流活動

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、アンケート結果も踏まえ、物理化学複数科目全体のコマ運用で理解度アップをはかりました。主に担当する１、2年次の学生について、フォローアップに努めました。

研究面では、論文掲載、外部資金取得は、ほぼ計画通り進捗しました。また、学会評議員、学会誌編集委員など、社会・学会貢献に努めました。

薬学部では近隣大学薬学部との競争が激化しており、人口減少とも相まって受験者数の維持・増加と定員充足へ向けた改善実施が喫緊の課題です。薬学部入試・募集委員長として高校生へのアウトリーチに努め、受験者数確保を目指しました。また、薬

学部入試募集委員として、広報活動の一環として薬学リーフレットを引き続き作成し、九州圏の薬局等に配布しました

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 宇都　拓洋

1．教育理念

薬の専門家としての専門的知識、特に生薬や漢方薬の科学的エビデンスおよび研究・情報収集する技能の備わった人材を育成する。
薬の専門家もしくは研究者としてのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を備わった人材を育成する。
地域貢献を目標とし、習得した知識や技能を地域社会に還元できる人材を育成する。
異文化を理解し、国際社会に貢献できる人材の育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	2/30(前期)	2	10	①⑫
和漢薬概論	15/15(前期)	1.5	1	①②⑩
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
生薬学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	2	①②⑩
総合演習ⅢＢ	2/30(後期)	2	88	①⑫
和漢薬概論	15/15(前期)	1.5	85	①②⑩
生薬学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	89	①②⑩
生薬学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	93	①②⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①⑤⑥⑦⑪⑫
生薬学実習	21/21(後期)	1	95	①②⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	5/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

担当科目で用いている補助教材をさらに充実させ、学生が自発的に予習・復習ができるようにした。講義後はマナバでの講義スライドの公開し、学習効果を高める工夫を行った。5・6年の演習は、過去の国家試験を分析し、得点力アップに直結するような講義内容にした。
生薬学Ⅰの学生アンケートの満足度のスコアは過去最高値（4.9）であったが、定期試験を採点してみると点数を取れていない学生が多い。満足度と習熟度が一致していない原因を考察し、来年度は講義内容に更なる改善が必要である。具体的な改善策として、現在途中１回確認試験（最終評価の20%分）を実施しているが、これを2回に増やして暗記する量を分散させるなどの方法を検討している。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州大学大学院	天然資源学	1/7(夏学期)	1	25

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅲ（再）	1	10	2024年4月18日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①　アトピー性皮膚炎治療薬を志向した皮膚バリア機能を改善する天然物探索と作用機序解明

アトピー性皮膚炎（AD）は、国民の約45万人が罹患している国民病である。治療はステロイド外用薬や抗炎症外用薬と、保湿剤によるスキンケアが中心であるが、治療満足度は十分とは言えず、新たな治療薬開発が期待されている。近年、ADにおいて皮膚バリア機能の低下が重要な要因であることが注目され、皮膚バリア機能の調節機構解明と改善に関する研究が活発に行われている。本研究は、生薬エキスライブラリーのスクリーニングにより皮膚バリア機能を改善する天然物の探索を行い、ヒト表皮三次元モデルを用いた確実な効果の立証、さらに活性成分の作用機序解明や標的分子の同定を行うことで、アトピー性皮膚炎の治療薬創出および治療標的分子発見に貢献することを目指す。

②　天然由来白斑治療薬開発を目指したメラニン合成促進物質の探索と作用機序解析

尋常性白斑は、治療抵抗性かつ再発頻度も高い難治療性の色素異常症で、特に露出部位に生じた場合、患者のQOLを著しく低下させる。本研究は我々が見出したメラニン合成促進化合物およびエキスをパイロットサンプルとして、薬用植物エキスおよび天然化合物ライブラリーのスクリーニングにより白斑改善効果が期待できる活性成分を同定し、皮膚モデル・モデル動物を用いた確実な効果の立証、さらに活性成分の作用機序解析や標的分子同定を行い、白斑治療薬創出および治療標的分子発見に貢献すること目指す。2024年8月より、公益財団法人高知県牧野記念財団から高知・四国産植物ライブラリーを提供していただき、大規模なスクリーニングを開始している。

③　オートファジー制御能を有する天然化合物の探索とその作用機序解明

我々は、国内外で用いられている伝統医薬からオートファジー制御能を持つ天然物を同定し、その作用機序解析を目的として研究を行っている。これまで数種の生薬エキスががん細胞においてオートファジーを制御することを見出し、活性本体の単離同定および作用機序解析を行ってきた。現在、メラノサイトやケラチノサイトなどの皮膚細胞において、生薬エキスライブラリーのスクリーニングからオートファジー制御能を持つ天然物の探索研究を行っている。

④　薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究

薬用植物は、漢方薬や医薬品の原料として用いられているが、近年の世界的な健康志向の高まりから、その需要が増大している。限られた薬用植物資源の有効活用が強く求められているが、これを解決するための１つの取り組みとして、これまで薬用として利用されなかった部位（非薬用部位）の有効利用が注目されている。本研究は、薬用植物の非薬用部位の網羅的な成分解析と活性評価により有用な非薬用部位の更なる発掘を行い、非薬用部位の有効利用を活性化および推進するための科学的エビデンス提供を目指す。

⑤　生薬成分に対するモノクローナル抗体を機軸とした分析法の開発と応用

我々はこれまで生薬成分に特異的に結合するモノクローナル抗体を数多く作製し、これらのモノクローナル抗体をツールとしたユニークな分析法や応用・活用法を開発し世界に発信してきた。これらのモノクローナル抗体を用いた応用研究として、生薬成分の相互作用の解析、生薬成分の細胞および生体内での挙動や標的分子の同定を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	5	13	3	3	688万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

医歯薬学系博物館事典（増補改訂版）／共著・編著／2024年11月／株式会社雄山閣／978-4-639-03012-6

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Fisetin is a selective adenosine triphosphate - competitive inhibitor for mitogen - activated protein kinase kinase 4 to inhibit lipopolysaccharide - stimulated inflammation.／2025年1月／BioFactors／10.1002/biof.2108／共著／原著論文

The yeast-fermented garlic and a balance of spermine/spermidine activates autophagy via EGR1 transcriptional factor／2025年3月／Molecular Nutrition and Food Research／10.1002/mnfr.202400606／共著／原著論文

Antihypertensive and angiotensin I-converting enzyme-inhibitory effects of the leaves of Sesamum indicum L. and bioactive compounds.／2024年12月／Chemical and Pharmaceutical Bulletin／10.1248/cpb.c24-00565／共著／原著論文

Anti-neurodegenerative activity of Panax ginseng, a review.／2024年7月／Medical Research Archives／10.18103/mra.v12i7.5385／共著／総説

Application of monoclonal antibodies against naturally occurring bioactive ingredients.／2024年7月／Antibodies／10.3390/antib13030060／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

オートファジー制御を介した抗炎症作用を有する生薬成分の探索／2024年9月15日／日本生薬学会第70回年会

青嚢（せいじょう）の降圧作用および活性成分の解析／2024年9月15日／日本生薬学会第70回年会

クローブに含まれるメラニン合成促進物質／2024年9月27日／第6回食薬ヘルスイノベーション研究会

ゴマ葉の血圧降下作用と活性成分の解析／2024年9月27日／第6回食薬ヘルスイノベーション研究会

アトピー性皮膚炎治療薬開発を目指した抗炎症能を有する生薬および活性成分の探索／2024年9月27日／第6回食薬ヘルスイノベーション研究会

オートファジーを介して抗炎症作用を示す生薬エキスのスクリーニングと評価／2024年9月27日／第6回食薬ヘルスイノベーション研究会

Identification of Melanogeneisis Inducers/Inhibitors from Natural Products／2024年9月27日／5th Food for Health International Conference

青嚢の降圧作用および活性成分の解析／2024年10月13日／第10回食品薬学シンポジウム

Discovery of natural products for the treatment of vitiligo and elucidation of effective substances and mechanisms.／2024年10月23日／2024 Fall International Convention of Pharmaceutical Society of Korea（韓国薬学会年会）

ヒト角化細胞において抗炎症およびフィラグリン増加作用を有する生薬エキスの探索 ～ サンショウの活性成分解析 ～／2025年3月28日／日本薬学会第145年会

ヒト角化細胞におけるカシエキスの抗炎症能と作用機序解析／2025年3月28日／日本薬学会第145年会

ゴマ葉（青嚢）の抗糖化作用／2025年3月28日／日本薬学会第145年会

ゴマ葉（青嚢）の降圧作用と栽培時における活性成分の変動／2025年3月28日／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
アトピー性皮膚炎治療薬を志向した皮膚バリア機能を改善する天然物探索と作用機序解明	科学研究費助成事業・文部科学省	2023年4月1日～202年3月31日	468万円
共同研究	一丸ファルコス株式会社	2019年4月1日～2025年3月31日	170万円
共同研究	坂本薬草園	2024年5月1日～2025年3月31日	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学ハラスメント委員会	委員長	委員長として関係部署と連携して14回の委員会会議および7件の案件対応を行った。
薬学部国試・CBT対策委員会	副委員長	副委員長として国家試験およびCBTの合格率向上のために活動を行った。
薬学部薬用植物園運営委員会	委員長	附属薬用植物園の管理運営を行った。
共同機器管理委員会	委員長	委員長として共同機器および消耗品の維持管理を総括した。
CBT実施委員会	委員	CBTの実施に向けた運営を他の委員と連携して行った。
図書選定委員会	委員	図書の選定を実施した。
入試作問（化学基礎・化学）	委員（責任者）	入試問題作問を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ラグビーサークル／顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

江上小学校子ども会（ハウステンボス地区）夏休みイベント「薬学部見学・実験教室」／2024年8月9日／長崎国際大学薬学部

聖カピタニオ女子高等学校学園祭でのクラス企画／2024年8月2日／オンライン（Zoom）

倉敷青陵高等学校の探究活動／2024年10月16日／オンライン（Zoom）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	8

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州山口支部	幹事	2022年2月～現在	日本薬学会九州山口支部
日本薬学会	代議員	2021年4月～現在	日本薬学会
日本生薬学会関西支部	委員	2018年4月～現在	日本生薬学会関西支部
日本フードファクター学会（JSoFF）	評議員	2016年12月～現在	日本フードファクター学会（JSoFF）
日本生薬学会	代議員	2016年4月～現在	日本生薬学会
Journal of Natural Medicines（JONM）	Editorial Board Member	2021年4月～現在	日本生薬学会
生薬学雑誌	編集委員	2021年4月～現在	日本生薬学会
第145日本薬学会年会プログラム委員会	委員	2024年12月～2025年3月	第145日本薬学会年会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

江上小学校子ども会（ハウステンボス地区）夏休みイベント「薬学部見学・実験教室」／2024年8月9日／長崎国際大学薬学部
聖カピタニオ女子高等学校学園祭でのクラス企画／2024年8月2日／オンライン（Zoom）
倉敷青陵高等学校の探究活動／2024年10月16日／オンライン（Zoom）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
シンポジウム講演	韓国薬学会年会での招待講演	2024年10月23日	韓国・ソウル	韓国薬学会

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

学長特別表彰／2024年4月24日

8．活動全般についての自己点検・評価

【教育】生薬学Ⅰの学生アンケートの満足度のスコアは過去最高値（4.9）であったが、定期試験を採点してみると点数を取れていない学生が多い。満足度と習熟度が一致していない原因を考察し、来年度は講義内容に更なる改善が必要である。具体的な改善策として、現在途中１回確認試験（最終評価の20%分）を実施しているが、これを2回に増やして暗記する量を分散させるなどの方法を検討している。【研究】原著論文4報であったが、ファーストもしくはコレスポンディングオーサーは1報のみで、目標に全く届かなかったことを深く反省している。【大学運営等】全学ハラスメント対策委員会（委員長）をはじめ委員会活動も責任をもって遂行した。高校生の探究活動への対応や小学生への夏休み体験学習は好評なので今後も積極的に引き受けたい。【全体】教育面は例年と同等の質を維持できたと思う。研究面は研究室の体制の変更もあるが、目標を大きく下回った。今年度より本格的に薬用植物園の再整備を進めているが、予想以上の労力や費用がかかっており、来年度も継続して薬用植物園の整備を進めたい。入試問題（化学）の作問は、今年度から責任者となったことや、学習指導要領の変更に伴い7セット作問する必要があったこともあり、かなりの時間と労力を費やした。来年度は、今年度不振であった研究活動に力を入れたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 大磯　茂

1．教育理念

医療における種々の課題に適切に取り組むことのできる医療人を輩出するために、自ら学び、自ら考える能力を有し、さらに薬剤師としての実践能力を有する学生を育成する。
よって、授業では授業外の予習・復習を重視し、また自らの実務経験に基づいた授業展開を行う。
学生には、自己研鑽する習慣をつけて欲しいと考えており、そのために、予習または復習課題を課した授業を多く取り入れる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	7/30(前期)	2	10	⑧⑪
医薬品安全性学	8/15(前期)	1.5	1	①②④
総合演習ⅢＡ	5/23(前期)	1.5	2	⑧⑪
総合演習ⅢＡ	5/23(前期)	1.5	95	⑧⑪
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	4	①②④⑨
実務実習（病院・薬局）	1/1(通年)	20	102	①②⑥⑦⑪⑫
専門演習Ⅱ	5/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	7	⑥⑩⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	⑥⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	7/30(後期)	2	88	⑧⑪
在宅医療概論	1/15(前期)	2	194	②⑪
医薬品情報論	9/15(後期)	1.5	75	①⑥⑧⑨
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	97	⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	97	⑪
処方解析	21/33(後期)	2	97	⑪
処方解析	21/33(後期)	2	97	⑪
総合実習	18/21(後期)	1	102	①⑪
物理・生物薬剤学演習	7/15(前期)	1	11	①②④⑨
ホスピタリティ演習Ⅲ	1/8(後期)	0.5	97	②⑥
医薬品安全性学	8/15(前期)	1.5	7	①②④
薬学入門	1/15(前期)	1.5	89	②④⑥
調剤Ⅰ	33/51(前期)	2	98	①⑤⑥⑨⑪
調剤Ⅰ	33/51(前期)	2	98	①⑤⑥⑨⑪
調剤Ⅱ	30/66(前期)	2	98	①⑤⑥⑨⑪
調剤Ⅱ	30/66(前期)	2	98	①⑤⑥⑨⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	4/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度も前年度と同様のスタイルで授業を展開した。授業内容は昨年度の資料を見直し、必要と思われる個所はブラシュアップした。今年度は初めて調剤Ⅱの授業評価を受けたが履修生の満足度は4.6と比較的高めの評価をいただいた。医薬品情報論は昨年度より少し低めではあったものの改善点に関する意見はあまりなく、特に問題のある評価ではないものと考えている。一部履修

者から寄せられた改善要望に対しては次年度において改善に努めたい。実務実習事前学習も、前年度と同様な内容で講義・実習を行った。事前学習で学んだ技能等を確認される薬学共用試験OSCEでは受験者全員が最終的に合格できた。卒業研究においては、実験手技から論文の書き方など全般的な指導を行い、研究成果をまとめさせ、卒業研究論文を提出させることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	2	7	2024年4月17日、2024年6月5日
総合演習ⅢA	1	3	2024年4月25日
総合演習ⅢB	1	11	2024年4月25日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

モノクローナル抗体を活用した薬物濃度測定法の開発

がん細胞の抗がん剤に対する感受性増強に関する研究

脳由来神経栄養因子産生促進作用を有する抗うつ薬の探索研究

医薬品副作用データベースを用いた副作用のリスク解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	6	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Preventive Effects of Hochuekkito on Decline in Brain-Derived Neurotrophic Factor Serum Levels in Senescence-Accelerated Mouse Prone 10.／in press／Journal of Oleo Science／10.5650/jos.ess24328.／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ラコサミドの副作用発現に影響する因子の解析／2024年11月4日／第34回日本医療薬学会年会（於千葉市）

血中BDNF濃度低下を示すモデル動物としての老化促進モデルマウスの有用性評価／2024年11月23日／第41回日本薬学会九州山口支部大会（於熊本市）

牛蒡子の主要成分アルクチゲニンの細胞増殖抑制効果／2025年3月28日／日本薬学会第145年会（於福岡市）

新規抗うつ薬および抗認知症薬シーズの発見を目指したユズ区カンキツのBDNF産生促進効果の検討／2025年3月27日／日本薬学会第145年会（於福岡市）

ダビガトランの出血性有害事象に影響する因子の解析ならびに新規ダビガトラン血中濃度測定法の開発／2025年3月28日／日本薬学会第145年会（於福岡市）

抗がん作用を有するarctigeninの安全で効果的な処理方法／2025年3月28日／日本薬学会第145年会（於福岡市）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
OSCE実施委員会	委員長	OSCE実施統括

実務実習運営委員会	委員長	実務実習運営管理
事前学習運営委員会	委員長	事前学習実施体制管理
長崎薬学コンソーシアム	委員	長崎薬学コンソーシアムにおける実務実習およびOSCE関連事項の説明

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー内容検討ワーキンググループ（薬学部）	担当者	教養セミナーBにおける薬局および病院の早期体験学習の統括など

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス／2024年7月、8月　2024年3月

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	-	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	-	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	-	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	-	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	-	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	-	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	-	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	-	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
実務実習に向けた長崎国際大学薬学部における 事前学習について	2024年11月11日	長崎ブリックホール	第5回長崎県薬剤師学術大会・長崎県薬剤師会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州山口地区調整機構	副支部長・大学委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日	九州山口地区調整機構
長崎県薬剤師会実務実習委員会	委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日	長崎県薬剤師会
九州山口薬学会	委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日	長崎県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

授業スタイルはこれまでの同様の方法を踏襲して行っているが、授業内容は前年度のものを確認して、必要な箇所はブラシュアップした。授業アンケートで指摘された要望については次年度対応できるように努めたい。また、令和4年度の改訂コアカリキュラムが適用される学生の授業が開始されることに対応できるよう、授業構成等を検討したい。研究においては、6演題の学会発表に関わり、原著論文1報を出すことができた。今後も継続して研究活動進め、より多くの成果を出せるよう努めたい。外部資金による研究費の取得がここ数年できていないため、研究費取得に向けた研究内容も考えていきたい。大学運営活動や社会活動では、大学内の4の委員会等および大学外の3つの委員会等で活動を行った。今年度も実務実習運営委員長およびOSCE実施委員長として実務実習およびOSCEの運営に深く関わった。特に大きな問題等なく運営できたが、次年度も自分に割り当てられた委員活動をしっかりと行い、引き続き大学運営等に貢献したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 大庭　義史

1．教育理念

薬学における分析化学分野の専門的知識と技能を教育および研究を通じて教授し、高い倫理観と豊かな人間性を持つ薬剤師を育成する。これにより、医療薬学分野で実践的に活躍できる人材を育てることを目的としする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	①②④⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
機器分析学	3/15(後期)	1.5	1	①②③④⑨
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
機器分析学	3/15(後期)	1.5	90	①②③④⑨
分析化学Ⅱ	12/15(前期)	1.5	103	①②③④⑨
日本薬局方概論	6/15(後期)	1.5	102	①②③④⑨
構造解析学	4/15(前期)	1.5	82	①②③④⑨
分析化学演習	4/8(前期)	0.5	101	①②③④⑨
分析化学Ⅰ	12/15(後期)	1.5	94	①②③④⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	89	②③⑩⑪
分析化学・放射線化学実習	11/27(前期)	1	100	①②③④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

分析化学II（2年生前期）は、理解度4.5（前年度4.3）、満足度4.7（前年度4.6）であった。また、分析化学I（1年生後期）は、理解度4.6（前年度4.5）、満足度4.8（前年度4.7）であった。

講義開始時に学ぶ必要性や該当するSDGを説明し、実例や関連ニュースを紹介した上で、薬剤師国家試験の出題形式を演習し解説し、講義動画を期限を設けず公開して何度も復習できるようにした。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	一般化学	4/16(前期)	2	8

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
分析化学Iの補習	8	23	10/15,10/22,11/5,11/12,11/26,12/3,12/24

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ASAP-MS法による紫外線吸収剤、防カビ剤の分析
重粒子線照射マウス脳中のキラルアミノ酸分析
サンゴに含まれるタンパク質の特性調査に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

4-Iodobenzonitrile as a fluorogenic derivatization reagent for chromatographic analysis of L-p-boronophenylalanine in whole blood samples using Suzuki coupling reaction／2024年7月／Analytica Chimica Acta／https://doi.org/10.1016/j.aca.2024.342700／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Akane 赤色蛍光蛋白質のアレルギー特性／2024年5月／第84回分析化学討論会

アレルギーを発症する各種サンゴ由来赤色蛍光タンパク質の共通配列／2024年11月／第97回日本生化学大会

各種サンゴ由来の赤色蛍光タンパク質が保有するアレルゲンの解析／2024年11月／生物発光化学発光研究会　第39回学術講演会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学　男女共同参画推進委員会	委員長	2回の会議開催
薬学部　図書選定委員会	委員	関連分野の図書の選定
ハラスメント相談員	委員	今年度は相談無し
自己点検・評価委員会	委員	会議出席
実習（学内）委員会	委員	実習費の使用に関する会議など
薬学研究センター運営委員会	委員	訪問研究員の承認など

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

美術部顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスへの参加（7月21日、8月4日、8月25日、3月16日（予定））

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外

2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市男女共同参画審議会委員	委員	2024/8/31～現在に至る	佐世保市長
佐世保市少年科学館運営委員会	委員長	2023/7/1～現在に至る	佐世保市教育委員会
下村脩ジュニア科学賞審査委員	委員長	2012年～現在に至る	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

日本分析化学会九州支部　常任幹事

令和６年度日本薬学会九州支部学術奨励賞　選考委員長

日本薬学会第145年会（福岡）　プログラム委員

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、授業アンケートの結果（分析化学IおよびII）において、理解度・満足度が共に前年度を上回る成果を得た。また、

対外模試での担当領域の正答率は概ね全国平均以上の結果となった。さらに、佐世保高専にて非常勤講師として一般化学（オムニバス形式）の講義を担当した。
研究面では、研究費の獲得には至らなかったが、論文執筆と学会発表を行い、目標は達成した。ただし、自身での発表はできなかった。
その他の活動としては、全学の男女共同参画委員会の委員を務めるとともに、佐世保市男女共同参画審議会にも出席した。また、佐世保市少年科学館において、下村賞審査委員長および運営委員会委員長を継続して務め、活動に携わった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 小川　由起子

1．教育理念

建学の精神、基本理念に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療･創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。AI化が進む中、薬剤師として何ができるか、何を求められているかを瞬時に判断し、地域社会の中で求められる薬剤師になるための人材育成をする。

薬剤師国家試験に合格させるためには低学年の基礎科目の理解、それに紐づけられた専門科目を通じて薬剤師国家試験に対する意識づけが常に必要であると考える。そのため、低学年から薬剤師国家試験問題に触れることも重要であると考え、担当科目では小テストや課題で問題を解答させるようにしている。また、受動的な学習ではなく、能動的、自発的な学習ができるように指導を心がけている。5年生の配属学生には、勉強だけではなく研究の面白さを伝え、研究を通して薬をはじめとした医療を見る目を養わせるように指導している。

チーム医療の中で、薬剤師の立場として発言するためには化学に裏打ちされた知識が必要になってくるが、同時にコミュニケーション能力も不可欠である。傾聴、承認をし、自分の意見を簡潔に述べることができるような人材を育てていくように心がけている。

今般、社会の中で不安や悩みをもっている学生が多いので、それぞれにあった指導を心がけ、相談しやすい環境を整えるように心がける。学生生活6年の中で経験することは、社会に出てからも大きな影響力を与えるので、自己研鑽しながら社会に貢献できる人材育成に心がけていく。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	4/30(前期)	2	10	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①④⑨⑩⑪
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	①④⑨⑩⑪
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	101	①④⑨⑩⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	4/30(後期)	2	88	①②
微生物薬品学	15/15(前期)	1.5	99	②③⑩
薬物治療学Ⅲ	6/15(後期)	1.5	98	①②③⑩
病原微生物学	7/15(後期)	1.5	76	②③⑩
微生物学・免疫学実習	15/18(前期)	1	82	①④⑤⑪
臨床生理学実習	21/24(後期)	1	83	①②③⑦⑩
感染防御学	4/15(前期)	1.5	89	②③⑩
感染防御学	4/15(前期)	1.5	89	②③⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

1．授業改善

授業アンケートは概ね良好であった。授業アンケートの結果を参考に、改善した点は次の点である。

イ）国家試験が科目の垣根を越えての出題が多くなったこと、連問の出題が増えたことから、広い視野を持って問題が解けるよ

うに、関連科目についても講義内容に追加し、さらに分野をまたいでの講義も実施した。
ロ）対面での双方向型授業（responを取り入れての双方向授業）をすることで、学生の考える力、理解力を高めるようにした。
ハ）理解を定着させるために講義後に課題を出し、自主学習することで記憶力の定着を試みた。

2. 教育効果
2025年2月の国家試験では新薬が多く出題された。年々新薬が増え、副作用の問題も大きいこと、さらに科目の垣根を越えて広い視野をもって患者への服薬指導ができるように、社会に出てから役立つように、できるだけ臨床でよく使用される医薬品を例に挙げて講義をした。また、実習で実施した内容も国家試験に出題されていたために、実習内容の吟味は重要であると考える。今年度はできるだけ手を動かして理解させる実習を多く取入れることで理解を深めるようにした。また、responを活用し、双方向授業をすることで、受け身の授業にとどまらず、自分で考え理解するようにした。ゲーム感覚で問題演習ができ、リアルタイムで解答の正誤がわかるため、学生の評判も良く学生にとってはかなり効果的な教材であったと考えられる。以前使用していた「スグキク」の方が使い勝手はよく感じられるが予算の都合上今年度は使用していない。また、視聴覚教材の活用やトピックを取り入れることにより、より学生が興味を持ち、理解度の向上がはかれるものと考えられた。またその日の講義内容の課題をmanabaで出題し、提出してもらうことで理解力を深めるようにした。さらに授業終了後、毎回独自でアンケートを取ることで学生の意見を吸い上げ改善を試みた結果、アンケート総合評価4.8の教科も多くなり、内心嬉しく思った。プリント、プロジェクターを適宜使用することにより、単元ごとに重要ポイントを示した。また、CBT、国家試験の過去問題もmanabaにて課題として出題し、単元での重要問題を理解させることができ、共用試験、国家試験に対する意識が高まったものと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡ビューティ―アート専門学校	衛生管理	30/30(通年)	2	80
福岡ビューティ―アート専門学校	美容知識Ⅰ（衛生管理）	15/15(後期)	2	35
第一薬科大学	感染症治療学	15/15(後期)	1.5	110

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅲ（再）	1	2	4/12
専門演習Ⅰ（再）	2	4	4/23, 5/30

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 日本冬虫夏草由来新規生理活性物質の探索
2. 日本冬虫夏草の認知症改善に関する研究
3. ウシガエル卵由来シアル酸結合レクチン（SBL）のリコンビナントタンパク質の作製とその生理活性
4. 凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療法

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	5	4	4	457万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

New approach to diabetes treatment-Recovery technology of diabetic insulin receptor using sialic acid binding lectin from Cordyceps／2024年5月／Preci.Med., 7(6)／482／単著／論文

Multifunctional Cell Regulation Activities of the Mussel Lectin SeviL: Induction of Macrophage Polarization toward the M1 Functional Phenotype／2024年6月／Mar Drugs., 22(6)／269／共著／論文

Arginine: A potential prophylactic supplement for transthyretin amyloidosis／2024年12月／Biochem Biophys Res Commun., 737／150770／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト膵癌細胞に対する Ophiocordyceps nutans の抗腫瘍効果／2025年3月／日本薬学会第145年会

薬剤耐性ヒト癌細胞に対する Cordyceps ophioglossoides の抗腫瘍効果／2025年3月／日本薬学会第145年会

腫瘍糖鎖Tn抗原に結合する九十九島産新種ナマコCladolabes kirara由来 レクチンの一次構造解析と糖鎖結合性のプロファイリング／2025年3月／日本薬学会第145年会

ピラノキノリチンを基盤する凝集誘起発光型分子の開発とがん治療用光増感剤への検討／2025年3月／日本薬学会第145年会

眼ATTRアミロイドーシス治療を目指したアルギニンのTTRに対する影響の検討／2024年10月／第11 回日本アミロイドーシス学会学術集会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金　基盤研究(C)	文部科学省	2023年4月～2026年3月	429万円
学長裁量経費	長崎国際大学	2024年5月～2025年3月	3万円
科学研究費補助金　基盤研究(C)（分担）	文部科学省	2024年4月～2027年3月	5万円
女子中高生の理系進路支援プログラム（分担）	科学技術振興機構	2024年4月～2026年3月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学入試募集委員会	委員長	入試募集全般 オープンキャンパス 入試募集委員会議長
薬学部入試募集委員会	委員	薬学部オープンキャンパス運営、出張講義
薬学部学生委員会	委員	特待関連、開国祭、卒業式準備
薬学部国家試験・CBT対策委員会	委員、渉外担当	予備校とのパイプ役、学生相談、国家試験、CBT対策講習会の企画
薬学部図書選定委員	委員	図書選定
薬学部地域連携委員会	委員	QSP活動、地域とのコラボ企画補助

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム	分担	女子中高生理系進路支援プログラム 女子中高生理系進路支援のために、先端企業訪問企画、離島中学校での実験体験会、佐世保市中高生向け実験体験会、オープンキャンパスでの展示、リケフェス企画

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

1. オープンキャンパスにて「継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム」のリケジョプログラムの紹介
2. 「継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム」の一環_リケフェス in SASEBO 開催（長崎国際大学）
3. オープンキャンパスでの学部企画_7月オープンキャンパスで体験学習担当
4. リケフェス in SAGA にて学校相談会開催（佐賀大学）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外

2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
夏休み子ども科学教室	8/10	佐世保市少年科学館	佐世保市少年科学館
リケフェス in SASEBO	6/29	長崎国際大学	継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム
リケフェス2024	10/27	佐賀大学	継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム
チャレンジ科学教室	11/16	佐世保市少年科学館	佐世保市少年科学館

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
独立行政法人国立病院機構長崎川棚医療センター地域医療支援病院運営委員会	委員	令和4年4月1日現在に至る	独立行政法人国立病院機構長崎川棚医療センター
一般社団法人日本女性科学者の会	監事	2023年5月～現在に至る	一般社団法人 日本女性科学者の会
日本女性科学者の会学術誌編集委員会	委員	2015年～現在に至る	一般社団法人 日本女性科学者の会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

1. 10月13日　地域の期待に応える実践活動　運営、SGD時の学生サポート

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム　企画

1.リケフェスin SASEBO　佐世保地区中学生、高校生／佐賀大学、長崎国際大学合同フェス／6月29日

2.リケフェス2024　佐賀・佐世保地区高校生／佐賀大学、西九州大学、長崎国際大学、久留米大学、佐世保高専　5校合同フェス／11月19日

７．受賞等

1.ベストティ―チャー賞ベストアウトリーチ部門　受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、

1.「継続・育成型STEAMガールズin SAGA・SASEBO」に続き、「継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム」が採択され、引き続き分担校となったため、リケジョプログラム2企画を実施、その中でも長崎国際大学で初リケフェス in NIU を開催した。保護者向けプログラムも入れ、保護者からも大絶賛であった。さらに今年度久留米大学を加えた5校合同でのリケフェス2024で体験学習を担当し、多くの学生が体験学習に参加した。現役大学生に登壇していただき、高校生とのシンポジウムを企画し大盛況であった。また体験学習では、「薬屋さんのカラートリック」をテーマに打錠機での錠剤（ラムネ錠）作成、ハーブティを使ったカラートリックを実施し、大盛況であった。

2. 研究面では、学生に学会で発表させるべく研究指導をし、日本薬学会第145年会にて5年生2名の発表を実現させた。今年度は科研費2年目、かつ横浜市立大との共同研究での科研費も取得できた（分担）のであるが、少し遅れがあるため、引き続き研究に邁進したいと考えている。

3. 広報、社会活動面では、小中生向けに夏休み子ども科学教室、チャレンジ科学教室を開催し、近隣の小中学生へ理科への興味を抱かせるような取り組みを実施した。またリケフェス2024で進学ガイダンス等を実施し、大学の魅力を伝達した。今年度は昨年に比べてこのガイダンスへの参加者が多く、次年度も大学の魅力、理系の魅力をどんどん次世代に伝えていきたいと思う。

4. 教育面では、授業アンケートも昨年度に引き続き、よい結果を得ることができた。授業はほとんど対面に戻ったので学生から授業後の質問も増えてきた。今後も学生の意見を傾聴し、よりよい授業を組み立てていこうと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 岸原　健二

1．教育理念

私の教育理念は、「患者さんに正しい情報を提供し説明できる薬剤師を育てる」ことである。本学の卒業生の多くは、調剤薬局や病院で地域医療を担う薬剤師となる。私の専門である免疫学は、近年大きく発展してきた分野であり、感染症、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症など多くの疾患の理解に免疫学の基礎知識は必須である。また、抗腫瘍免疫療法の発展と抗体医薬品の開発は、医療においてますます重要になっている。したがって、本学薬学部の卒業生は、薬剤師として病態、治療法、医薬品を説明する上で必要な免疫学の専門知識を修得する必要がある。とくに病院におけるチーム医療や在宅医療では、多職種協働により医療を進めて行くことが重要になっている。したがって、薬剤師は単に薬の知識だけでなく、薬学に関連する周辺領域を広く学ぶことやコミュニケーション能力を高めることも重要である。

免疫学は日進月歩であり、最新の知識を維持するには、生涯学び続ける努力は不可欠である。学生の時期に学修習慣を身につけることは、将来の薬剤師としてのさらなる成長に礎となるであろう。また、高度な知識や技能を有する薬剤師を必要とする専門・認定薬剤師の中には、免疫学の最新の知識を必要とするものもある。将来、そのような臨床薬剤師を目指してほしいと考えている。また、常に学ぶ姿勢を持続し、リサーチ・マインドをもつ薬剤師の育成にも尽力したい。

本学のモットーは、「いつも、人から。そして、心から。」であり、建学の理念として「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」が謳われている。したがって、本学薬学部の卒業生は、患者さんの立場で考え、患者さんに正しい情報を提供し、患者さんに安心感を与え、信頼される薬剤師として地域医療に貢献してほしいと考えている。また、持続可能な社会の実現にSDGsが国際社会共通の目標として国連のサミットで採択されている。この精神を理解し、どのように社会貢献ができるのかを考え、実践できる能力を兼ね備えた薬剤師の育成にも努めていきたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①⑨
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	97	①⑨
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	4	①⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
免疫学	15/15(後期)	1.5	95	⑨
薬学英語	2/15(前期)	0.5	89	①⑤⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑨
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	89	②③⑩⑪
微生物学・免疫学実習	6/18(前期)	1	82	①④⑤⑩
感染防御学	4/15(前期)	1.5	89	①⑨
感染防御学	4/15(前期)	1.5	89	①⑨
感染防御学	4/15(前期)	1.5	89	①⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	3/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【前期】

・「教養セミナーA」　評価（満足度）：4.8

司会は教員主導で、用意されたテキスト・資料に沿った授業となった。テキストはよく編集してあり、問題なく授業を進行できた。

・「感染防御学」　評価(満足度)：4.4　　評価(理解度)：4.2

ほぼ平均的な評価であり、とくに大きな問題はなかった。授業後に動画を公開したことが、学生の復習に役に立ったと推察される。免疫学の基礎知識だけでなく、他の科目（薬理学や疾病学など）と関連する知識も加えた演習を実施していることが、学習意欲を向上したのではないかと推察される。また、今後も課題を毎回出すことで、復習を促していきたい。

【後期】

・「免疫学」　評価(満足度)：4.5　　評価(理解度)：4.4

復習用の講義動画の配信やポートフォリオ(manaba)の小テストでの課題出題を毎授業後に実施したが、学生のコメントから概ね好評であると推察される。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①加齢に伴う免疫老化の分子メカニズムの解明および細胞老化関連遺伝子に関する研究

加齢に伴う免疫力の低下は様々なストレスの蓄積による免疫細胞の老化によると考えられ、その詳細なメカニズムについて免疫細胞におけるテロメラーゼ制御の分子基盤をはじめ若年者と高齢者における解析により得られた細胞老化関連遺伝子群における網羅的機能解析および細胞老化マーカーを用いた免疫細胞老化評価系の構築を行っている。

最近の成果として、若年者及び高齢者由来のEBウイルスによる不死化ヒトB細胞株を用いて、B細胞における老化に伴う機能低下を調べた結果、高齢者由来のB細胞株において細胞老化が進行し、Ｂ細胞機能や抗原感作能力の低下が認められた。つまり、細胞老化が老化に伴う獲得免疫系の機能低下につながる可能性が示唆された。（九州大学農学研究院との共同研究）

②ヒト正常線維芽細胞TIG-1における細胞老化特異的転写制御機構の解明に関する研究

細胞分裂に伴って細胞老化（cellular senescence）表現型を呈するヒト正常線維芽細胞株であるTIG-1を用いて、細胞分裂回数が異なる細胞間における分裂老化（replicative senescence）および過酸化水素処理による酸化ストレスから惹起される早期老化（premature senescence）での遺伝子発現の変化を転写産物RNA 5’キャップ構造を認識して網羅的シークエンスによる精度の高い遺伝子発現解析が可能となるCAGE（Cap Analysis of Gene Expression）法によって、新しい細胞老化の指標となる発現遺伝子、特異的転写産物やプロモーターの同定を試みている。さらに、IPA（Ingenuity Pathway Analysis）シグナルネットワーク解析より抽出した老化関連候補因子について、分裂老化に伴う遺伝子発現量および細胞老化特異的マーカー発現および活性変化について解析を試みている。特に、重要な役割を担う可能性のあるキナーゼおよびシグナル因子（Akt、p38、NF-kB、ERK1/2など）の機能変化と細胞老化との関わりについて検討を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト正常線維芽細胞TIG-1におけるCAGE法による細胞老化関連遺伝子の探索／2024年11月／日本分子生物学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員長	図書館長・図書館委員会長として、ライブラリーサポーター（ＬＳ）制の継続・発展に尽力した。また、ビブリオバトル2025 in SASBOを佐世保市立図書館と共催した。
自己点検・評価委員会	委員	際学機関別認証評価に関する自己点検・評価に関わった。また、授業アンケート等の実施・集計・評価を行った。
危機管理委員会	委員	図書館長として、危機管理に関わる案件に対応した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市教科用図書選択審議委員会	委員	令和6年4月～9月	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】

・授業アンケートの結果：「感染防御学」（学生満足度 4.4／理解度 4.2），「教養セミナーA」（学生満足度 4.8），「免疫学」（学生満足度 4.5／理解度 4.4）でとくに問題はなかった。授業アンケートのコメントから、講義動画の配信や講義後の課題（小テスト）が学生に好評であったと推察される。

今年度の教育面では、学生の評価は改善したが、より改善する努力を続けていきたい。

【研究】

・今年度は学会発表が1回のみで、論文発表はなかった。今後は、最近の研究結果をまとめて投稿をすることを目標とする。また、学会発表の機会を増やしていきたい。

【大学運営】

(1) 図書館長として、ライブラリーサポーター（ＬＳ）制の継続・発展に尽力した。開国祭でのビブリオバトルは、台風の影響で中止となったが、ビブリオバトル in 九州文化学園を本学にて12/21に開催した。また、ビブリオバトル 2025 in SASBOを佐世保市立図書館と12/22に共催した。

(2) 自己点検・評価委員として、授業アンケートやその結果に基づく面談を実施し、教育研究の向上に努めた。

(3) 薬学部入試募集委員として、オープン・キャンパス、留学生対応、SKY語学院関連の説明会、出張講義等をサポートした。

(4)薬学部教務委員会の委員として、薬学研究発表会の開催や4年生の研究室配属に関して尽力した。

全学・薬学部の委員会等での役割を、今年度も問題なく務めるっことができた。

【社会活動】佐世保市より佐世保市教科用図書選択審議委員会を委嘱され、その任を遂行した。

今後も要請があれば、社会貢献を行いたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 隈　博幸

1．教育理念

「知恵と知識」をモットーに、「知識を持つ薬剤師」ではなく、「知識に裏打ちされた知恵の出せる医療人」の養成を目指す。そのための基礎となる薬学専門知識の習得はもちろんのこと、常に研究心を持ち、論理性に優れたサイエンティストとしての薬剤師を育成するとともに、本学の建学理念「人間尊重」「ホスピタリティの追求」に基づき、病気と向き合う薬剤師ではなく、患者と向き合う人間力豊富な医療人の育成に貢献する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	8/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	0/45(通年)	3	4	①②④⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	10/30(後期)	2	88	①⑨
医学概論	4/15(前期)	2	55	①②③⑨
医療生命倫理	2/15(後期)	1.5	86	⑤⑥⑩
臨床生理学演習	15/15(前期)	1	6	①③④⑤⑪
疾病学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	89	①②③
臨床生理学実習	18/18(後期)	1	83	①②③⑦⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
プライマリ・ケア演習	3/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度の主要2科目の授業アンケート結果は、主要担当2科目共に4.8（疾病学Ⅰ，臨床生理学演習）であった。例年同様、平均以上の評価で安堵している。基本的には復習を重視し、学生の興味を引く時事的内容を中心に講義を行っており、それが一定の範囲で受け入れられたものと捉えている。

今年度は、配布プリントとスライドの中身を少し違うものとした。その理由はプリント入手で安心せず、授業への出席と聴講を確実にするためであった。多くの学生はこちらの意図を受け入れてくれたが、数名の学生からは同じにしてほしいとの要望があった。この点を含め、来年度の講義改善を考えていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	臨床検査学	15/15(前期)	2	26

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA（補習・特別補習）	2	19	4/22，5/27

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 磁気マーカーを用いた超高感度免疫検査システムの開発
2. 赤血球膜蛋白質バンド３の構造と機能相関の解明
3. プロテインS凝固制御系の異常による血栓性素因の解明と治療対策の構築
4. 凝固制御因子プロテインCの定量的活性測定法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	4	2	2	568万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

The effects of dienogest and combined oral contraceptives on protein S-specific activity in endometriosis patients／2024年4月／Euro J Obst Gyn Repro Biol／10.1016/j.ejogrb.2024.01.028／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

術前・術後のプロテインS比活性測定による静脈血栓塞栓症発症のリスク解析／2025年3月／日本薬学会 第145年会

血液凝固制御因子プロテインCの新しい活性測定法の開発／2025年3月／日本薬学会 第145年会

ペプチド基質を用いた血中ダビガトランの定量的濃度測定法／2025年3月／日本薬学会 第145年会

プロテインC蛋白質変異体の作成と活性に関する検討／2025年3月／日本薬学会 第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費（基盤研究C）	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	468万円
受託共同研究費	株式会社シノテスト	2024年4月～2025年3月	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員長	ボランティアセンター長としてセンター及び委員会の円滑な運営に尽力した。 ボランティア志望学生のリストを取り纏め、優先的なボランティア案内に努めた。
国家試験・CBT対策委員会（学部）	委員長	薬学部4年～6年次生に対する国家試験とCBT対策、その他に尽力し た。
研究等倫理委員会（学部）	委員	研究倫理審査、規定・申合せ作成等を実施した。
自己点検評価委員会（学部）	委員	自己点検評価書の作成を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（2024年7月・8月、2025年3月）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本臨床化学会	評議員	2019年4月～現在に至る	日本臨床化学会
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協 議会	委員	2019年4月～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会
創発的研究支援事業審査委員会	委員	2020年4月～現在に至る	科学技術振興機構（JST）

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・長崎国際大学薬学研究センター血栓性素因部門による医療臨床検査
（検査委託元：佐世保共済病院、株式会社シノテスト、杉ウイメンズクリニック、村上病院他）
・ボランティア訓練への参加、募金活動の実施（ボランティアセンター）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

新型コロナが5型となって久しいが、インフルエンザやマイコプラズマが流行した一年となった。引き続き大学の感染症対策には専門家の一員として協力していく。

その他、大学や学部の運営に適切に携わり、国家試験対策にも一定の成果・評価を得ることができた。また、今年度は科研費の採択もされ、研究活動も充実した年となった。来年度も引き続きこれらの活動に取り組み、より一層充実した成果を上げるよう努力する所存である

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 黒川　健児

1．教育理念

大学や大学院での教育の魅力は、薬学科としての薬剤師等の資格取得に向けて必要な知識や技能を習得するという範囲を超えて、あるいは社会で独り立ちし、あるいは困難な課題に立ち向かい解決できたりするような、プラスアルファの力を身に付けるチャンスがあることだと思います。大学院生の場合には、難しい研究開発に挑戦し成し遂げる基礎力かもしれません。但し、それらは講義室に座って講義を聴いているだけで身に付くとは限りません。学生さんが、それらの力を身に付け、大学教育の奥深さを享受し、そしてその力を社会で発揮できるよう、サポートしてきます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	10	①⑨
生化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	2	①②⑨
専門基礎学習Ⅱ	5/10(通年)	0.5	1	②④⑨⑩
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	0/45(通年)	3	4	①②④⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
機能形態・生化学演習	3/12(後期)	0.5	2	①②⑨⑪
細胞生物学	8/15(後期)	1.5	2	①②⑨
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
機能形態・生化学演習	3/12(後期)	0.5	84	①②⑨⑪
細胞生物学	8/15(後期)	1.5	91	①②⑨
分子細胞生化学演習	3/12(後期)	0.5	47	②④⑨
薬学英語	2/12(前期)	0.5	89	①⑤⑩
ホスピタリティ演習Ⅱ	5/10(前期)	0.5	83	①④⑥⑪⑫
専門基礎学習Ⅱ	5/10(通年)	0.5	78	②④⑨⑩
生化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	88	①②⑨
生化学実習	9/21(後期)	1	97	①②④⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

生化学Ⅱでは毎回の確認試験をmanaba上で行い、また隔週で計6回の小テスト、そして中間試験を実施した。細胞生物学についても担当回について毎回の確認試験をmanaba上で行い、隔週で計3回の小テストを実施後、中間試験を実施するなどして学生による復習と反復学習を誘導した。授業アンケートでも勉強になったと概ね好評であった。授業の満足度は両科目とも4.5を超えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
生化学Ⅰ補習	4	21	11/18, 11/25, 12/2, 12/9
分子細胞生化学演習	1	56	2024年12月10日
機能形態･生化学演習	1	110	2024年12月2日
専門基礎学習Ⅱプラス（CAI補習）	15	91	2024年5月1日から12月25日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（1）細菌感染症の予防と治療に関する研究
（2）細菌感染に対する生体防御機構に関する研究
（3）微生物の細胞表層と細胞膜の生理に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Deuterium-reinforced polyunsaturated fatty acids protect against muscle atrophy by STZ-induced diabetic mice／2025年2月／Free Radic Biol Med／10.1016/j.freeradbiomed.2025.02.015／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

黄色ブドウ球菌のバイオフィルム形成を阻害する膜酵素の同定／2024年9月13日／九州微生物研究フォーラム2024

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員長	研究倫理委員会委員長としての職責を果たした。
教務委員会	委員	教務委員会の薬学部選出の委員としての職責を果たした。
薬学部･教務委員会	委員長	薬学部･教務委員会の委員長として、所轄事項を遂行した。
薬学部･教育支援センター運営委員会	委員	薬学部･教育支援センター運営委員会に薬学部･教務委員会委員長として参加した。
薬学部･事前学習運営委員会	委員	薬学部･事前学習運営委員会に薬学部･教務委員会委員長として参加した。
薬学部･実務実習運営委員会	委員	薬学部･実務実習運営委員会に薬学部･教務委員会委員長として参加した。
薬学部･長崎薬学コンソーシアム	委員	薬学部･長崎薬学コンソーシアムに薬学部･教務委員会委員長として参加した。

薬学部･自己点検・評価委員会	委員	薬学部･自己点検・評価委員会に薬学部･教務委員会委員長として参加した。
入試・作問委員会	委員	入試問題の作問を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
全学共通科目カリキュラム改革WG	委員	全学共通科目カリキュラム改革WGに薬学部から委員として選出され、全学共通科目の科目改訂に意見を述べた。

(3) 課外活動の指導等

剣道サークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

4回のオープンキャンパスに参加し、参加者と交流し情報提供に努めた。福岡県の高校教員と交流し、進学情報を交換した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
生化学分野教科担当教員会	委員	平成29年度～現在に至る	薬学教育協議会
薬剤師国家試験問題検討委員会	「物理・化学・生物」部会委員	平成26年度～現在に至る	日本私立薬科大学協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学部運営に関する各種の提言を、学部長、入試・募集委員長等に適宜行った。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

薬学部教務委員長としての初年度であったが、定期試験の成績管理・スケジュール管理、履修の手引の作成、シラバスのチェック、総合演習科目の科目担当者会議など通常業務を大過なく行った。学部講義においては、生化学Ⅱや細胞生物学の授業アンケートでの満足度評価で目標以上の得点を得るなど一定の評価を得た。科研費に応募したが代表者としては採択されなかったものの、共同研究者としては採択された。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 小島　直人

1．教育理念

本学の建学の理念を踏まえ、私は自ら学び、地域社会から求められる医療人の育成を使命としています。化学は医療の礎であり、特に薬剤師にとってはその重要性が顕著です。医師や看護師とは異なり、薬剤師は医薬品の専門家として、化学の知識を体系的に学ぶことが求められます。医療現場では、患者の健康と安全を確保するために正確で効果的な治療法を提供することが求められます。この点で、化学の知識は欠かせません。例えば、特定の薬物と患者の生体内での相互作用や、薬物の安定性や有効性に関する理解は、薬剤師が適切な医薬品を選択し、適切な投与量を計算する際に極めて重要です。

私の教育活動は、学生が化学の基礎を理解し、その知識を実践的な場面で活かすことを促進することを目指しています。講義や実習を通じて、学生が化学的な思考や問題解決能力を身につけ、現場での実践に活かせるようサポートします。また、教育支援センターの専任教員として、学生の学習をサポートし、個々のニーズに合わせた教育プログラムの開発に努めます。

このような取り組みを通じて、全ての学生が化学の視点を持ち、地域社会において高度な薬剤師として貢献できるよう、教育・研究に努めます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
医薬品化学Ⅰ	5/15(前期)	1.5	1	①②③⑨
総合演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅱ	6/23(通年)	1.5	101	①②③
総合演習ⅢB	3/30(後期)	2	88	①⑨
医薬品化学Ⅱ	5/15(後期)	1.5	59	①②③⑨
医薬品化学Ⅰ	5/15(前期)	1.5	79	①②③⑨
基礎の化学	15/15(前期)	2	44	①②③⑥⑨
有機薬化学実習	33/33(後期)	1	96	①②④⑩
化学演習	12/12(前期)	0.5	44	①②③④⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・基礎の化学（理解度4.9/満足度4.9）

リメディアル科目であるが、成績上位学生のクラスの担当であったため、高校化学の復習に留まらず、それらが薬学での学びにどのように繋がっているかを説明することに重点をおいて展開した。授業アンケートの結果からは、理解度、満足度共に良好であったことから、基本的な講義方法は次年度も踏襲した上で、次年度はより参加型の講義となるような工夫を増やす予定である。

・化学演習（理解度4.8/満足度4.9）

基礎の化学で学習した内容を演習形式で学習する授業であるが、解答に思考力を必要とする問題を出題するように心がけ、参加者の解答内容に沿った解説を行った。その結果、理解度、満足度ともに良好な結果であったことから、次年度も同様の形式にて実施する予定である。

・医薬品化学I（理解度4.3/満足度4.5）

医薬品が生体内でどのように機能するかを、できる限り暗記ではなく、これまでに学修してきた有機化学をベースに説明することを心がけた。アンケートの満足度および自由記述欄のコメントからは、この方針について一定の評価を得たと考えている。一方、担当初年度ということもあり、講義内容の絞り込みが不十分で、説明が速くなってしまう箇所があった。次年度はこの点を改善し、重要な項目についてより十分な時間を取り、理解を深めるための配慮を行いたいと考えている。

・医薬品化学II（理解度4.2/満足度4.4）

基本的な方針は医薬品化学Iと同じである。今年度は、予習用に毎回20題の正誤問題を出題するようにした。その結果、予習をしたかどうかを問うアンケート項目の得点が、3.6から3.9に向上したことから、一定の効果があったと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	一般化学	4/15(前期)	2	8

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の化学 補習	10	44	2024年4月16日，4月23日，5月7日、5月14日，5月28日，6月4日，6月11日、6月18日，6月25日，7月9日
薬化学総論　補習	9	51	2024年5月9日，5月16日，5月23日，5月30日，6月13日，6月27日，7月4日，7月11日，7月18日
有機薬化学Ⅰ 補習	13	54	2024年10月15日，10月22日，10月29日，11月5日，11月12日，11月19日，11月26日，12月3日，12月10日，12月17日，12月24日，2025年1月7日，1月14日
総合演習ⅢA 補習	1	30	2024年5月27日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. ICTを活用した薬学教育手法の開発
2. 有機合成化学を基盤とする抗がんリード化合物の創製

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	3	1	1	360万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Targeting Oxidative Phosphorylation with a Novel Thiophene Carboxamide Increases the Efficacy of Imatinib against Leukemic Stem Cells in Chronic Myeloid Leukemia／2024年10月／Int. J. Mol. Sci／https://doi.org/10.3390/ijms252011093／共著／論文

Structure-activity relationships study of N-ethylene glycol-comprising alkyl heterocyclic carboxamides against A549 lung cancer cells／2024年11月／Future Med. Chem.／https://www.tandfonline.com/doi/pdf/10.1080/17568919.2024.2394016／共著／論文

Chemical structures of polyketides and alkaloids isolated from a culture of fungus Curvularia moringae／2024年12月／Fitoterapia／https://doi.org/10.1016/j.fitote.2024.106263／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

エチレングリコール単位を含むアルキル鎖をもつチオフェンカルボキサミド誘導体の合成とヒト肺がん細胞A549に対する活性評価／2024年6月20日／第28回日本がん分子標的治療学会学術集会

N-エチレングリコール含有アルキル-3-チオフェンカルボキサミド誘導体のヒト非小細胞肺がんA549細胞に対する抗腫瘍効果／2024年11月21日／第41回メディシナルケミストリーシンポジウム

POMS 2を用いた実務実習による薬学生の気分状態推移の検討／2025年3月27日／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
膠芽腫幹細胞の増殖を阻害する新規チオフェンカルボキサミド誘導体の合成研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2024年4月～2028年3月	360万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	委員	委員会が所轄する通常業務に従事した。
教務委員会（薬学部）	副委員長	編入学試験の受験希望者の単位読替の精査を行った。
自己点検・評価委員会（薬学部）	副委員長	「卒業ポートフォリオ」を用いた、卒業生の質の担保、教育課程の自己点検・評価を行った。
教育支援センター運営委員会（薬学部）	委員	オンライン・スクーリングの企画、運営を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学教育評価　報告書作成	構成員	薬学教育評価を受審するにあたり、報告書の作成に携わった。

(3) 課外活動の指導等

・事務実習（５年生）における事前訪問・中間訪問を実施し、受入施設情報の収集および面談を行った。（訪問先：正和薬局（2024年6月10日）、長崎原爆病院（2024年6月10日）、友愛薬局（2024年6月12日）、長崎労災病院（2024年9月20日、10月31日））

・共用試験OSCEで評価者を担当した（2024年12月15日）。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

第1回オープンキャンパス参加（2024年7月21日、本学）

第3回オープンキャンパス参加（2023年8月25日、本学）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和6年度　薬学研究発表会	2024年11月13日	長崎国際大学　薬学部	長崎国際大学　薬学部

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本がん分子標的治療学会	評議員	2024年6月～現在に至る	日本がん分子標的治療学会 会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2025年3月10日 九州文化学園高等学校　薬学部訪問　企画・運営

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学　令和5(2023)年度ベストティーチャー賞 授業アンケート部門 受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】授業アンケートの結果から、一定の評価を得られたと考えている。更に内容を精査し、生じた時間を使って、より学生参加型の講義を展開していきたい。

【研究】新規抗腫瘍活性化合物の創製に関する研究成果を纏めた論文が英文学術雑誌に受理された。また、科研費が採択された。引き続き、研究活動を進め、学会発表や論文発表に繋げたい。また、薬学教育に関する研究も実施し、成果発表できるように努める。

【大学運営】割り当てられた委員会にて活動し、大学および薬学部の円滑な運営に貢献できるよう努めた。次年度は、本学の魅力をアピールするイベントの企画・運営に取り組みたいと思う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 小林　秀光

1．教育理念

薬学科の教育目的は、薬学領域の確かな知識・技能と共に、生命の尊さを理解する豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた薬剤師を養成することにより、人々の健康と福祉の向上についての社会貢献をすることである。この目的を達するためには、より早い時期（低学年次）から薬学専門領域に対する真の覚醒を促すことと考えている。

小生が主に担当している科目は「微生物学」、「病原微生物学」、「感染防御学」及び「衛生化学」である。2年次科目の「微生物学」は生物学や生化学を踏まえた薬学専門基礎科目に位置づけられる。この科目をしっかり修得することは、「病原微生物学」や「衛生化学」のみならず、上位学年に配当されている多くの応用科目を真に理解するために極めて重要なことである。従って、「微生物学」の教授内容は薬剤師国家試験における直接の出題数としては決して多くはないが、小生が担当する科目のうちでは、この授業が本丸となるものと捉えている。

より多くの学生に薬学専門領域の基礎科目「微生物学」をしっかりと修得させるためには、何といってもその内容に興味を持たせることが重要となる。これを可能にするためには、最新のトピックス（特に、微生物学分野における最近の研究等）を分かり易く解説することが、臨場感を与え最大限の効果をもたらす。話し方等の講義テクニックも大切と思うが、視覚に訴える分かり易い資料の投影または配布により提供することに力を入れている。そして、これらを題材として学生に深く考えさせる機会、すなわち、意見や感想の提出や討論を実施すること（アクティブラーンイング）で双方向の授業を展開することを心がけている。

薬学専門領域の応用科目「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」の内容は、薬剤師業務と大きく関わる内容が大部分を占める。従って、国家試験合格という目標を持つ学生にとって、これらの科目に対する興味は益々大きいものとなっている筈である。「微生物学」で培った基礎力を持ってすれば、これらの科目を理解することは容易であろうと考えるが、敢えて「微生物学」や関連科目の内容のふり返りを口頭試問等で行っている。双方向アクティブラーンイングは、研究の最新トピックス等でなく薬剤師の業務に係わる課題を与えている。

以上のように、小生が担当する全ての科目（学内実習を含む）では、幅広く知識と技術を伝授することに加えて、専門領域における「考える力」の醸成にも力を入れている。これらの科目の単位修得には試験（随時、定期）を課しているが、考える要素を取り入れた複数の論述問題を必ず出題することとしている。これにより、思考・判断力及び文章構成力も評価できる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	4/30(前期)	2	10	①②
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①②
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①②
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①②
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	①②
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	101	①②
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	4/30(後期)	2	88	①
医療生命倫理	2/15(後期)	1.5	86	①
地球環境と倫理	3/15(前期)	1.5	93	②③⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
ホスピタリティ演習Ⅲ	2/8(後期)	0.5	97	①
衛生化学Ⅱ	8/15(前期)	1.5	77	①⑩
病原微生物学	7/15(後期)	1.5	76	①⑨⑪
微生物学・免疫学実習	6/18(前期)	1	82	①④⑤⑩
感染防御学	4/15(前期)	1.5	89	①⑧⑨
感染防御学	4/15(前期)	1.5	89	①⑧⑨

感染防御学	4/15(前期)	1.5	89	①⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
プライマリ・ケア演習	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

いずれも科目も、受講生の総合満足度は「4.5」前後であった。

教養セミナー：4.6

微生物学：総合満足度：4.4

病原微生物学：総合満足度：4.4

衛生化学Ⅱ：総合満足度：4.5

したがって、ほぼ良好な状態が継続しているものと評価する。

自由記述にはポジティブなコメントが多く、一定以上の学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講したことが伺える。今後もこの状態をキープできるように努力する。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
博多メディカル専門学校	生化学	16/16(前期)	2	60
博多メディカル専門学校	国試対策演習（生化学）	3/3(後期)	0.5	55

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習Ⅱ（留）	2	9	1/1, 1/2

3．研究活動

(1) 研究テーマ

① 画分を様々なクロマトグラフィーにより分画し、生理活性物質の特定と作用機序について解明を試みている。また、研究材料の確保・安定供給の観点から、カイコを用いた新たな冬虫夏草人工培養法の確立を目指して研究を進めている。

② 病原性Candida酵母の細胞壁多糖抗原の免疫化学および構造化学的研究

これまでCandida属酵母の免疫化学的性状の解明を研究テーマとして、多くの菌種の細胞壁マンナンの化学構造を多糖限定加水分解法やNMR分析を用いて明らかにしてきた。現在、薬剤耐性のみられる病原性Candida酵母のうち、数種の菌種由来の細胞壁マンナンの構造解析を進めている。

＜代表論文＞ Anomeric Proton and Carbon (H1-C1) NMR Chemical Shifts of Antigenic Mannans Obtained from Pathogenic Yeast Candida tropicalis., Adv. Microbiol., 11, 296-301 (2021).

③ 抗生物質を利用した新しい研究試薬の開発

微生物が産生する二次代謝物は様々な生理的機能を持つことが知られている。放線菌の産生する抗菌活性を有する抗生物質群のうち、ある糖鎖に特異的に結合し複合体を形成、沈殿させる物質を見出した。このあたかもレクチンの様な性質を利用して、新しい研究試薬への応用を試みている。現在はカンジダ細胞壁マンナンの研究を通して、その有用性を検討している。

④出芽酵母の細胞壁にみられる糸状菌型細胞壁多糖構造について

Aspergillus属糸状菌の細胞壁に広く共通する直鎖型マンナンと同様の構造を、出芽酵母に見出したので詳細な構造解析を進めている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	6	1	1	360万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

出芽酵母細胞壁に見出された糸状菌型マンナン構造／2025年3月／日本農芸化学会2025年大会（札幌）

薬剤耐性の新興カンジダ症原因酵母 Candida norvegensis N-結合型マンナンの化学構造／2025年3月／日本農芸化学会2025年大会（札幌）

異なる温度で培養したCandida auris細胞壁マンナンの構造変化について／2025年3月／日本農芸化学会2025年大会（札幌）

薬剤耐性ヒト癌細胞に対する Cordyceps ophioglossoides の抗腫瘍効果／2025年3月／日本薬学会第145年会（福岡）

ヒト膵癌細胞に対する Ophiocordyceps nutans の抗腫瘍効果／2025年3月／日本薬学会第145年会（福岡）

病原性酵母 Candida orthopsilosis 細胞壁から精製したN結合型マンナン の構造解析／2025年3月／日本薬学会第145年会（福岡）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日本産冬虫夏草の性質と機能性に関する研究	株式会社モノリス	2024年6月1日～2026年3月	360万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
産学連携委員会	委員	委員会規程の改訂に寄与した
薬学部入試募集委員会	委員	春のオープンキャンパス担当（研究室紹介）
薬学部図書選定委員会	委員	年度内図書選定（微生物学、衛生薬学関連）
薬学部共通機器管理委員会	委員	大型機器の管理に関する事務一般

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①「NIUきのこ倶楽部」サークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外

2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「寄生虫はすごか！ーがん発見のスペシャリストー」	12月18日	九州文化学園高等学校	九州文化学園高等学校
「だまされる脳　ー進化と味覚ー」	12月18日	九州文化学園高等学校	九州文化学園高等学校
「あなたは大丈夫？　ーネット依存の恐ろしさー」：	12月18日	九州文化学園高等学校	九州文化学園高等学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①「㈱ 雲仙きのこ本舗」栽培工場における生育アドバイス

② レストラン「山か雲か」（雲仙市）のメニュー創作（NIUきのこ倶楽部）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
さくら短期留学プログラム申請開始	2025年2月、先方とメール交換	次年度内	本学薬学部・モンゴル薬科大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

(1) モンゴル薬科大学（セレンゲ博士）との国際交流の試み

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】前期科目「衛生化学Ⅱ（3年次）」及び後期科目「微生物学（2年次）」のフィードバックアンケートでの学生満足度は双方とも4.5であり良好であった。

【研究】今年度の論文業績は学会発表5件に止まったが、一昨年度より大学院生2名（社会人1人を含む）を受け入れ、アグレッシブに研究を継続している。

【社会貢献】2～3年後を見据え、佐世保地域の理系大学への進学率と医療産業への就職率アップを目標として、同地域の初等・中等教育における「理科啓蒙」と「高大接続」をテーマに活動を継続した（R5年度：学長裁量経費）。

【大学運営】全学委員会では、産学連携委員会の委員として職責を果たした。サークル「NIUきのこ倶楽部」の顧問として活動

【学部運営】教務委員会の活動（地域の期待に応える実践活動など）の運営を積極的に行った

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 高井　伸彦

1．教育理念

目まぐるしく変化する社会環境に対応し、地域の医療に貢献できる学生を育成することを目標とする。その基盤となる科学力を、放射線化学、放射線医療学、分析化学、機器分析学を通して熟成させ、専門力、情報収集分析力、コミュニケーション能力、協働課題を解決する力を持った学生を育てることを、教育理念とする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①④⑥⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	2	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
機器分析学	4/15(後期)	1.5	1	①②③④
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①②⑥⑨
放射線化学	15/15(後期)	1.5	87	①②③④⑨
機器分析学	4/15(後期)	1.5	90	①②③④
放射線医療学	15/15(前期)	1.5	100	①②③④
分析化学Ⅱ	2/15(前期)	1.5	103	①②③④
日本薬局方概論	3/15(後期)	1.5	102	①②③④
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①②③④
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	6	①②③④
専門基礎学習Ⅰ	7/10(通年)	0.5	97	①④⑥⑨
ホスピタリティ演習Ⅰ	3/8(後期)	0.5	95	④⑤⑥⑦⑫
分析化学演習	2/8(前期)	0.5	101	①②③④⑩
分析化学Ⅰ	2/15(後期)	1.5	94	①②③④
分析化学・放射線化学実習	18/18(前期)	1	100	①②③④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義評価における満足度および理解度は、学内平均よりも高く、評価も高い。今後も学生が興味をもてるように情報を更新しながら改善を実施したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

物理学的画像分析法を利用した重粒子線脳腫瘍治療モデルの解析

粒子線治療による脳腫瘍治療の効果的利用を目的とし、脳のRBE（生物学的効果比）指標を早期に見いだすことのできる新たな物理的画像分析法（新規RBE指標）を創出する。それらの結果にもとづき、中枢組織障害ならびに脳機能（認知・記憶・注意力）障害を軽減するQOLの向上に向けた研究を実施し、重粒子線がん治療装置等共同利用研究課題として「重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析」が採択され実施している。これらの研究を発展させ、基盤研究(C)「脳腫瘍の集学的治療時に生じる認知機能障害と脳内毛細血管密度の解析」の獲得に至る。

重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析

放射線照射後に生じる腸管障害と末梢性NMDA受容体の関連性を明らかにし、組織障害の早期診断技術および有効な放射線防護剤の開発を行う。これまでの研究成果から、グルタミン酸受容体阻害剤の１つであるNMDA受容体阻害剤が、腸管障害を軽減することを明らかにしてきた。また脳局所照射実験では、記憶に重要な海馬の特定部位の毛細血管密度が早期から影響を受けることを明らかにしてきた。本研究計画を通して、数種類のグルタミン酸受容体阻害剤を用い、その防護効果をマウス腹部・頭部照射モデルを応用して解析を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	468万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

核酸誘導体を利用した放射線治療における等効果作用の解析／2024年8月24日／第61回放射線影響懇話会

核酸誘導体による重粒子線治療等効果作用の解析の問題点／2024年10月4-5日／第5回標的アイソトープ治療線量評価研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
悪性脳腫瘍の集学的治療に伴う脳壊死ならびに高次脳機能障害機序の解析	基盤研究(C) 科研費	2024-2026	468万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学研究センター	委員長	長崎国際大学論叢の編集および長崎国際大学研究報告会の運営を実施した。
薬学CBT実施委員会	委員長	委員長として、CBT体験受験、本試験を滞りなく実施し、長崎大学の外部モニターを、体験受験、本試験を担当した。
放射線障害予防委員会	委員	RI実験室を利用する方々に、放射線取扱の教育講演を実施した。
長崎薬学コンソーシアム	委員	CBTの実施状況などの説明や今後について協議を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

入試募集が企画した冊子への情報提供および、オープンキャンパスでの体験講義を担当した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
一般社団法人日本量子医科学会	評議員(役員)	2021/12～	一般社団法人日本量子医科学会
放射線影響懇話会	世話人(理事)	2017/10～	放射線影響懇話会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

全学・薬学委員会の2つの委員長業務、4つの委員としての業務を滞りなく実施し、科研費の獲得、学生の指導をおこなっているが、研究推進においては、研究所のころの1/100程度にしかなっておらず、教員1名の研究室では限界に感じる。教員の業務を増やすばかりの委員会のあり方や、同じ内容の書類の提出や入力など多くの疑問があり、良い大学として活動するためにも、無駄のない委員会業務の削減や効率化を望む。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 長岡　寛明

1．教育理念

私の教育の理念は，学生が国家試験に合格するために必要な衛生薬学分野等の知識の教育のみではなく，公衆衛生学・衛生化学，環境科学，毒性・代謝学，レギュラトリーサイエンス等の視点をもって現代社会の問題点，目指すべき方向などについて考えることができる広い視野をもった良い医療人を育てるというものである．良い医療人とは，医学，薬学，社会学の知識及び技術並びに実践能力を有し，更に，協調性に富み，幅広い視野と豊かな教養を持ち，高い人間性及び倫理観を持ち合わせ，自ら学び続けることができる人材であると考える．

本学の卒業生のほとんどは，病院又は調剤薬局の薬剤師として活躍し，一般社会に接した医療現場で働き，多忙な業務をこなすことになる．学生には，将来，疾病を見るだけでなく，疾病に罹っている患者本人及びその家族，患者が生活する地域，属する組織や社会に対し，目を向けて考えること，自ら行う医療行為について評価することができるようになること，加えて，疾病異常をどのようにしたら防げるかという予防薬学の発想を持ち合わせてほしいと考えている．

以上のことより，患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり，生涯にわたって，やりがいと誇りをもって薬剤師としての仕事ができる医療人なれると考えている．

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①⑨
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	101	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	①④⑤⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	①④⑤⑪⑫
総合演習ⅢＢ	4/30(後期)	2	88	①⑨
環境科学	15/15(前期)	1.5	81	①⑨
健康薬学	15/15(前期)	1.5	5	①⑨
ホスピタリティ演習Ⅲ	1/8(後期)	0.5	97	①④⑥⑪⑫
薬学入門	1/15(前期)	1.5	89	①②④⑤⑦⑪⑫
衛生薬学実習	15/21(前期)	1	83	①②⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・授業アンケート

授業アンケートはおおむね良い結果であった．

・授業改善と教育効果

授業方法の改善として，

昨年度資料を冊子体の状態で配布したが，情報量が多くなったため，冊子体による配布を諦め，A4用紙をステープラで留めたものを配布したところ，学生からは好評だった．

Zoomによる講義の映像をYouTubeで配信したため，学生から好評であった．

教育効果として

manabaを用いて，小テストを実施し，学生の理解を深めることに努めた．今年度は，穴埋め式の問題にしたところ，成績の向上がみられた．

manabaにおいて質問やコメントを求めたところ，多くの質問やコメントが寄せられた．これらに対しては，真摯に回答した．

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護学校	公衆衛生学	15/15(前期集中)	2	63

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習Ⅰ（補習）	1	4	2024/5/21
専門演習Ⅰ（補習）	1	4	2024/7/9
専門演習Ⅲ（補習）	1	10	2024/4/19

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・医療用医薬品の承認審査に関する研究
・カテキン類の高速液体クロマトグラフィー蛍光検出法を用いた微量測定法の開発
・茶抽出液中のテアニンの溶出挙動に関する研究
・食品中の腐敗アミンの分布及び挙動に関する研究
・大村湾の海洋調査に関する研究
・環境汚染物質の分析およびそれらの生体への影響評価に関する研究
・COVID-19に関する疫学研究
・長崎県の人口動態統計に関する研究
・佐世保市の水道に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

玄米の精米，炊飯に伴うエンドトキシンの低減について／2024/09／フォーラム2024：衛生薬・環境トキシコロジー

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部図書館委員会	委員	書館の充実に関する業務を行った.
薬学部共同機器管理委員会	委員	薬学部にある共同機器に関して管理運営を行った.
薬学部生涯教育委員会	委員長	薬学部生涯教育委員会として，第13回の卒後教育セミナーの開催（11月3日）した．その他に同委員会の運営に関する業務を行った.

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

令和6年7月21日　オープンキャンパス参加
令和6年7月4日　オープンキャンパス参加
令和6年8月25日　オープンキャンパス参加
令和6年11月3日　第13回長崎国際大学薬学部生涯教育セミナー　開催

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	10

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
ながさきまなびネット	講師	平成17年2月～現在に至る	長崎県教育庁生涯学習課
独立行政法人医薬品医療機器総合機構	専門員	平成18年5月～現在に至る	独立行政法人医薬品医療機器総合機構
日本食品化学学会	評議員	平成23年1月～現在に至る	日本食品化学学会
佐世保市開発審査会	委員	令和3年4月～現在に至る	佐世保市
佐世保市建築審査会	委員	令和5年5月～現在に至る	佐世保市
佐世保市水道局運営検討委員会	委員（副委員長）	令和6年7月～現在に至る	佐世保市
長崎県環境審議会	委員	令和6年11月～現在に至る	長崎県
長崎県環境審議会　環境計画部会	委員	令和6年12月～現在に至る	長崎県

長崎県環境審議会　環境計画部会	委員	令和6年12月～現在に至る	長崎県
長崎県環境審議会　環境計画部会	委員	令和6年12月～現在に至る	長崎県

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は，講義，実習及び演習の準備等で瞬く間にすぎてしまった1年であった．このため，活動全般では，他の教職員の方々の理解と協力を得て，果たすことができたと考えている．

教育活動においては，自分なりに精一杯努めたつもりではあるが，まだまだ反省し，改善すべき点があると考えている．

研究活動においては、今年度は論文0報，学会発表1回であった．来年度は更なる研究に情熱を燃やしたい．

委員会活動においては薬学部図書館委員として，図書館の蔵書の充実に寄与した．また，薬学部生涯教育委員会委員長をとして，委員の先生方に助けられて年間に1回の講演会を開催できた．来年度も講演会を開催し，本学が知の拠点となる一助としたいと考えている．

佐世保市開発委員会委員，佐世保市建築審査会委員，佐世保市水道運営検討委員会委員（副委員長），長崎県環境審議会委員，長崎県環境審議会環境計画部会委員，長崎県環境審議会環境監視部会委員，長崎県環境審議会環境計画策定部会委員として，長崎県や佐世保市の行政に一役買えたことと思っている．

．

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 西奥　剛

1．教育理念

私の教育理念は、学生を国家試験に合格するための知識の教育だけでなく、多角的な視点を有し、人間性のある良い医療人を育てたいというものである。良い医療人とは、薬学の知識・技術を有するのみでなく、倫理観を持ち、幅広い視野と豊かな教養と人間性、協調性に富み、自ら学び続けることができる人材であると考えている。 本学では、卒業生のほとんどが薬剤師となり、患者を疾患の側面でしかとらえない場合や、独りよがりの医療に陥る恐れがある。学生には、疾患だけを診るのではなく、病気を患っている人、その家族や、患者が暮らす地域に対し、目を向けて考えることや、自身が行う医療について評価することができるようになること期待している。 それにより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、誇りとやりがいをもって仕事ができるような医療人になれると考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	10/30(前期)	2	10	①⑨
薬理学Ⅰ（総論）	15/15(前期)	1.5	3	①②③
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	2	①②⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	95	①②⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	10/30(後期)	2	88	①⑨
薬理学Ⅰ（総論）	15/15(前期)	1.5	92	①②③
ホスピタリティとSDGs	2/15(前期)	2	89	④⑤⑥⑦⑫
薬学入門	1/15(前期)	1.5	89	②③⑩⑪
薬理学実習	21/24(後期)	1	83	①②③④⑥⑩⑪
薬理学Ⅱ（末梢-1・前臨床）	15/15(後期)	1.5	104	①②③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	4/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは概ね高評価であった。薬理学Ⅰの評価は、中間試験50%、定期試験50%とし、薬理学IIの評価は、小テストを導入し、中間試験48%、定期試験48%、小テスト4%とした。また、中間試験で出題した範囲は定期試験では出題しないようにした。試験範囲が狭くなり、学生の負担は軽減したものと思われ、80%以上の学生が単位を修得した。また、講義開始直後に小テストを取り入れたことにより遅刻する学生が激減した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	治療論Ⅰ	15/15(通年)	1	56

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習Ⅰ	2	4	2024年5月9日

総合演習Ⅲ	1	10	2024年4月16日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・破骨細胞における骨吸収機構と好気的解糖

・カテプシンEによるCD147のプロセッシングを介した関節リウマチの骨破壊機構

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	2	2	518万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

63. カンナビノイドCB1受容体の機能不全はオキシトシンおよびコルチコステロン分泌制御を介した自閉スペクトラム症様行動の発現に関与する／2024年11月／第77回日本薬理学会西南部会

ギャンブル行動症の新規モデル動物の確立を指向した行動薬理学的検討／2025年3月／第145回日本薬学会年会

分子動力学計算を用いた翻訳終結複合体の分子間相互作用エネルギーの解析／2025年3月／第145回日本薬学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費　基盤研究（C）	西奥剛	2025年～2028年	468万円
科学研究費　挑戦的研究（開拓）（分担）	佐々木茂貴	2025年～2027年	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学広報委員会	委員長	広報委員会の開催ならびに取りまとめ、学生募集の広報に関する立案、ホームページの改正案、広報催事の企画等に携わった。
CBT実施委員会	副委員長	CBTが円滑に行われるよう計画を立て、不正行為が起こらないよう厳密に実行した。
薬学部教務委員会	1年生学年主任	オリエンテーションでの履修指導、新入生歓迎会の開催、「ホスピタリティとSDGs」講義担当およびレポート採点、保護者懇談会用冊子の原稿執筆、離学防止対策の提出、定期試験に向けての注意喚起、中間試験の成績不良者との面談、ビブリオバトルでの司会、CAI補習を実施、早期体験学習（長崎県環境保健研究センター）の引率、学長カフェ参加者の選出等に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

全学広報委員会の活動として、学生募集の広報に関する立案、ホームページの改正案、広報催事の企画等に携わった。

また、オープンキャンパスに参加して、高校生やその保護者と交流をはかった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度の研究成果は、学会発表が3件、論文1報投稿中である。学会発表は、自分の研究テーマで発表できなかったことは反省点である。研究費では、科研費が採択され新規の研究に取り組むことが可能になった。来年度は科研費以外の外部資金にも申請する。

薬理学Ⅰ・薬理学Ⅱの講義に関しては、授業アンケート結果が概ね高評価であり、単位取得学生も80％を超えた。来年度も引き続き学生の理解度が向上するよう鋭意努力する。

今年度から、全学の広報委員長を拝命した為、学生募集、ブランディング等について効率よく配信していく手段を考慮していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 深澤　昌史

1．教育理念

長崎国際大学の建学の理念は、「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究。」である。薬学部薬学科では、本学建学の基本理念「人間尊重」を理解し、薬学に関する専門的知識・技能を備え、医療薬学の分野で実践的に活躍できる医療人（薬剤師）を養成するため、学生の「ホスピタリティ」獲得を目的とした教育の実践を目指している。このホスピタリティを構成する５つの能力のうち、私の担当教科で最も重視されるのは「専門力」である。特に生命科学の主流である遺伝子関連の講義では、日々進歩する研究内容から薬剤師として必要な情報を読み取り、また生涯に亘って生命に関心を抱き、学び続ける態度を養うように導きたいと考えている。また、教育支援センターの専任教員として、学生を如何に進級・卒業に向かってモチベーションを保たせるかという命題に対峙し、学修効果を得るためにホスピタリティに根ざしたきめ細やかな指導を行いたいと考えており、実際に低学年に対する補習や積極的な面談などを実施している。加えて入学前教育にも積極的に関わることで、スムーズに大学での学修に取り組めるよう努めている。さらに近年は教育基盤センター学修支援部門長として、自習場所の管理や離学防止策の取り纏めなど全学的な学修支援に取り組んでいる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/27(前期)	2	10	①⑨
生化学Ⅲ	8/15(前期)	1.5	2	①⑨⑩⑪
総合演習ⅢＡ	0/27(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	0/40(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
機能形態・生化学演習	3/12(後期)	0.5	2	①②⑨⑪
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
機能形態・生化学演習	3/8(後期)	0.5	84	①②⑨⑪
生化学Ⅲ	8/15(前期)	1.5	92	①⑨⑩⑪
分子細胞生化学演習	3/8(後期)	0.5	47	②④⑨
生化学実習	18/18(後期)	1	97	①②④⑪⑫
ゲノム創薬学	7/15(前期)	1.5	98	②④⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
プライマリ・ケア演習	3/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期：生化学Ⅲ　満足度4.5

昨年度はやや評価を下げ、その原因が学力低下による理解度不足と分析したので、今年度はなるべく基礎的な部分に時間をかけて教える事で、理解度の向上と満足度の回復に繋がったと思われる。

後期：機能形態・生化学演習　満足度4.7

前年度から大きくポイントを上げた。やはり基礎力の確認に力を入れてわかりやすい説明を試みたのと、復習用の動画配信が評価されたと考えている。

なお、分子細胞生化学演習も初めてアンケートを実施したが、これも満足度は4.7であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生物学	15/15(前期)	2	67

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
生化学Ⅰ補習	4	16	12月16日、23日、1月6日、20日
九文歯科衛生士学院微生物学国試対策	3	24	2025年1月16日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①学修支援におけるICTの活用

②乳酸菌代謝生産物質の肝細胞保護作用および抗腫瘍作用を有する物質の精製と同定

③天然物由来物質の抗ウイルス作用の評価

④野生イノシシを効果的に誘引する餌の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Comparison of Serum Testosterone Levels in Male Wild Boars and Domestic Pigs in Japan.／2024年10月／Wild 第1巻／57頁～62頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

POMS2を用いた実務実習による薬学生の気分状態推移の検討／2025年3月27日／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
（全学）教育基盤センター運営委員会	学修支援部門長	食堂2階ラーニングコモンズの運営責任者としてSAの選出、管理等を行った。また、離学防止対策に関して各学科の対策をまとめた。
（全学）教育基盤センター運営委員会	薬学分室長	薬学部教育支援センターの長として薬学部生の学修支援策の立案、実施。留年生保護者会の開催など。
（学部）教育支援センター運営委員会	副委員長、議長	委員会会議の開催。その他活動は薬学分室長の活動と同じ。
（学部）入学前・初年次教育委員会	委員長	入学前教育において添削課題の準備と実施、生物の採点、及び入学前オリエンテーション（オンラインスクーリングの実施。
（学部）国試・CBT対策委員会	幹部委員	幹部会議へ参加し、対策に参画。その他課題のノートチェック、監督管理、冬の6年勉強合宿引率等を行った。
（学部）図書選考委員会	委員	図書館経費で購入する図書の選定を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①NIU天文サークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①第1回オープンキャンパス参加/2024年7月21日/本学
②第2回オープンキャンパス参加/2024年8月4日/本学
③第3回オープンキャンパス参加/2024年8月25日/本学
④九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献/2024年12月18日/九文高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、近年は入学時の学力が低い学生も目立ち、入学直後からのリメディアル教育の重要性をより感じられる。そのため低学年の学年主任と連携して補習や個別指導にかなり時間を割いた。留年生数はコロナ以後やや減少しているが、2年生を中心に決して少ないとはいえない。しかしながら外部講師も活用して初年時オリエンテーションや留年生向けのモチベーションアップ講座とそれに続くフォローアップを開催したりと、様々な工夫を試みた成果は徐々に成果として表われたと感じている。

研究に関しては、生化学研究室との共同研究により、肝臓の脂質代謝改善を目的とした乳酸菌代謝産物中の活性物質の同定、さらにマウスの恐怖記憶解消への効果と腸内フローラとの関係についての研究を継続した。

佐世保市との共同事業であるイノシシ対策プロジェクトは2023年をもって一旦終了となり、報告書を作成、また一部データを用いた論文が公開された。

定年を迎えるにあたり、研究面ではやり残した事が多いのが悔やまれるが、教育活動にはかなり時間を割いて取り組めた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 室　高広

1．教育理念

薬学部での教育は、6年制カリキュラム導入を機に「臨床」上必要な知識と技能態度を習得させるためのカリキュラムのウエイトが増した。私は、病院薬剤師として長年臨床現場で勤務してきた経験を活かし、本学の教育理念である①専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成②地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成③異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成を行い、これらを基盤とした「臨床現場で必要とされる薬剤師」になるための教育を実践する。実習や講義のみならず、研究においても、臨床現場で研究を行うために必要な研究マインドの育成と、研究手法の指導を行い、「臨床現場で研究できる薬剤師」を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	7/15(前期)	2	10	①②⑧⑨
総合演習ⅢＡ	5/15(前期)	1.5	2	①②⑧⑨
総合演習ⅢＡ	5/15(前期)	1.5	95	①②⑧⑨
専門演習Ⅰ	2/15(通年)	3	97	①②⑧⑨
専門演習Ⅰ	2/16(通年)	3	4	①②⑧⑨
実務実習（病院・薬局）	1/274(通年)	20	102	①④⑥⑪⑫
専門演習Ⅱ	2/15(通年)	1.5	101	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	7/15(後期)	2	88	①②⑧⑨
病院薬学	5/15(後期)	1.5	83	①②③⑧⑨
薬事関係法規	8/15(前期)	1.5	102	①②③⑨
医薬品情報論	7/15(後期)	1.5	75	①②④⑨⑪
医療コミュニケーション	34/36(後期)	2	97	①⑪
医療コミュニケーション	34/36(後期)	2	97	①⑪
医療コミュニケーション	34/36(後期)	2	97	①⑪
処方解析	33/33(後期)	2	97	①②③⑤⑥⑨⑩⑪
処方解析	33/33(後期)	2	97	①②③⑤⑥⑨⑩⑪
処方解析	33/33(後期)	2	97	①②③⑤⑥⑨⑩⑪
総合実習	21/21(後期)	1	102	①②③⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティ演習Ⅲ	2/8(後期)	0.5	97	①②③④⑩
薬学入門	1/15(前期)	1.5	89	①②③④⑥⑩
調剤Ⅰ	29/39(前期)	2	98	①②⑪
調剤Ⅰ	29/39(前期)	2	98	①②⑪
調剤Ⅰ	29/39(前期)	2	98	①②⑪
調剤Ⅱ	20/36(前期)	2	98	①②⑪
調剤Ⅱ	20/36(前期)	2	98	①②⑪
調剤Ⅱ	20/36(前期)	2	98	①②⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期薬事関係法規は前年度よりもアンケート回答の平均値がわずかだが上昇した（Q1-13の平均：4.4→4.5）。
薬事関係法規は記憶中心の科目であり、授業内容の抜本的な改善は困難であるが、引き続き学生にとってわかりやすい表現で臨床での必要性を交えて講義することを心がける。
医薬品情報論では特に学生の授業態度に関する点数（Q1,2）の平均値が前年度より大きく低下した（4.5→4.1）。
学生の授業態度を向上させられるような工夫が必要である。
Q1-13全体での平均値も昨年より低下した（4.5→4.4）。これまで毎年評価は上昇していたが初めて前年度より低下した。この結果を真摯に受け止め、より学生に興味を持ってもらい、自主的に学修してもらえるような授業内容とすべ改善を試みる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅲ（再）	1	3	2024年9月30日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ナショナルデータベースを用いた処方箋の一元管理の有益性に関する全国実態調査
セルフメディケーションにおける医薬品等の使用実態に関する疫学研究
若年者への薬の適正使用に関する薬教育の効果に関する研究
新型コロナワクチンの有害事象と抗体価に関する研究
お薬手帳カバーの有無によるお薬手帳持参率への影響に関する調査研究
処方箋の一元管理の有益性に関する全国実態調査
包装される錠剤・カプセル剤の1枚あたりの個数と使用者側の使い勝手に関する調査
一包化された分包紙に付す色線の多様な色覚型に配慮した配色の検討

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	5	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

医薬品のPTPシート等の包装個数に関する病院薬剤師を対象とした意識調査／2024年9月／第57回日本薬剤師学術大会

医薬品のPTPシート等の包装個数に関する薬科機器製造販売会社を対象とした意識調査／2024年10月／第83回九州山口薬学大会発表

新型コロナワクチン5回接種後有害事象とインフルエンザワクチン同時接種の影響／2025年3月／日本薬学会第145年会

保険薬局応需処方箋の一元化に関する横断研究／2025年3月／日本薬学会第145年会

全国保険調剤データから見た処方薬一元管理に対する施設背景の影響／2025年3月／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学学生委員会	委員長	委員長として学生生活支援に関する企画立案及び実務として学籍移動、各種奨励制度、離学防止対策検討等、審議検討した。
薬学部OSCE実施委員会	副委員長	副委員長としてOSCE実施に関する準備検討及び実務を行った。
薬学部事前学習運営委員会	副委員長	副委員長として事前学習に関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部実務実習運営委員会	副委員長	副委員長として、実務実習支援として学生と実習施設のマッチング作業の確認、実習における問題対策の検討、実習時の交通手段の審議等行った。 また、地域薬剤師会に対するの実習説明会に参加した。
薬学部学生委員会	委員	学生生活支援に関する企画立案として、特待生制度等に係る審査、クリーンキャンパス運動、各種奨励賞該当者の選定、薬学部卒業式の主催等に関与した。
薬学部図書選定委員会	委員	特になし。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（4回）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	出席
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	9

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県薬事審議会	委員	令和3年6月から現在	長崎県知事
日本医療薬学会代議員	代議員	令和4年3月から現在	日本医療薬学会
日本医療薬学会医療薬学教育委員会	委員	令和6年4月から現在	日本医療薬学会
日本医療薬学会会員委員会	委員	令和6年4月から現在	日本医療薬学会
日本医療薬学会第8回フレッシャーズ・カンファランス実行委員会	委員	令和6年8月から現在	日本医療薬学会
長崎県薬剤師会代議員	代議員	令和5年4月から現在	長崎県薬剤師会
長崎県薬剤師会生涯学習委員会	委員	令和5年4月から現在	長崎県薬剤師会
日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会法規・制度・倫理部会	委員	令和2年4月から現在	日本私立薬科大学協会
認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin九州	タスクフォース	第91回、第92回	薬学教育協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

日本薬剤師会、長崎県薬剤師会、有限会社あい調剤薬局と共同研究を行い、地域薬剤師に対する研究指導を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は前期の授業アンケートで昨年度同等の高評価を得ることが出来た。引き続き質の高い講義を行っていく。しかし、後期の授業アンケートでは全体的に昨年度よりも評価が低かった。この結果を踏まえて授業方法等の改善を図る。

研究分野では、地域薬局薬剤師の先生との共同研究において、論文執筆指導を行い、投稿まで行う事が出来た。現時点で修正意見の対応中である。また、日本薬剤師会との共同研究である厚生労働省からの提供データを利用した研究は、やっとデータが届いたため研究を開始し、中間解析結果を薬学会で発表する。この研究の発展系として計画した研究が科研費基盤ｃに採択されたため、次年度以降さらに詳細な解析を行っていく。このような地域薬局の薬剤師との共同研究は引き続き実施していく。

また、これまで行ってきた病院での教員の実務研修に加え、保険薬局でも研修が実施できるよう長崎県薬剤師会と協議・調整を行い契約締結段階に入った。その他、学生の学修意欲向上を目的とした低学年からのインターンシップ実施体制を構築し試行を始めたところである。次年度以降、これら新しい試みに対する拡充を図る。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 山口　拓

1．教育理念

・最新の薬理学・薬物治療学に関する情報を提供する。また、自身の専門分野である薬理学・薬物治療学のみならず疾患に対する知識（疾病学、病態生理学、病理学）、薬物に関する知識(製剤学、薬物動態学)に関する知識、基礎的な生物学的知識（生化学、生理学、解剖学など）を総合的に理解すること常に意識した講義を構築する。

・卒後の実臨床を念頭において、薬剤師国家試験に対応できる薬学的情報のみならず、病院および薬局での実務実習においても適正な医薬品使用のために十分に対応できる臨床的な基本的知識を修得することができる。

以上の教育理念に基づいて、教育および研究指導を実施する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
専門基礎学習Ⅱ	5/10(通年)	0.5	1	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	②③⑨
専門演習Ⅰ	3/40(通年)	3	4	②③⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	②③⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	②③④⑤⑥⑦⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
薬物治療学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	100	②③⑨
薬物治療学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	77	②③⑨
ホスピタリティ演習Ⅱ	5/8(前期)	0.5	83	①②③④
専門基礎学習Ⅱ	5/10(通年)	0.5	78	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
薬物治療学Ⅲ	9/15(後期)	1.5	98	②③⑨
薬学入門	2/15(前期)	1.5	89	②③⑨
薬理学実習	15/15(後期)	1	83	①②③④⑥⑦⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	4/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義は薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを担当し、薬物治療学Ⅲは小川由起子教授とのオムニバスとなっている。演習は薬物治療学のみならず薬理学も担当し、昨今の薬学教育新コアカリキュラムに準じた薬理学と薬物治療学の融合領域も視野に入れて講義を実施している。薬理学実習では薬剤師を題材にした漫画「アンサングシンデレラ　病院薬剤師 葵みどり（荒井ママレ著）」を題材に、実際に一部のストーリーを読ませて、その中に登場する疾患（高血圧症、アナフィラキシー）や救急医療と薬剤（アドレナリン、βブロッカーおよびグルカゴン）に関わる内容について学生によるアクティブラーニングを実施した。

前年度までの経験ならびに授業アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントなど、さらなる向上に努めたいと思う。また、例年のように可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作製し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaを活用した解答情報の提供を行い、事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらにこの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、そのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目･分野の事前学習（予習）を促したことから、学習理解や学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、講義内にて取り扱う各種疾患における「診断･治療ガイドライン」や重要と考えられる医薬品や新薬の添付文書についてManabaを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。また、今年度も成績評価の10％に相当する課題として10回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。さらに、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供して、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるの

で、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。この講義動画をオンデマンド配信している現状を活用して、定期試験前に15回全ての講義動画を限定配信したことは、復習を兼ねた学修内容の学び直しと学習理解の向上にかなり寄与したと考えられ、今後も継続したい。
一方で、毎年の課題であるが、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量（新薬情報や診断･治療ガイドライン改訂に伴う新規の薬物療法など）が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習で必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。これが一部の学生における不満要因となって理解度や満足度にも若干反映されていると思われる。本件はカリキュラムの改訂を含めて対応する必要がある喫緊の課題であると考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校看護専攻科	薬理学	4/15(後期)	不明	51

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・新規作用機序を有する向精神薬、特に抗不安薬および抗うつ薬の候補薬探索に関する神経行動薬理学研究
・発達期に摂取された大麻活性成分による成長後の精神行動異常に関する神経行動薬理学的研究
・脳内カンナビノイドの病態生理学的役割に関する神経行動薬理学的および神経化学的研究
・幼若期ストレスによる成長後の抑うつ様行動に関する神経行動薬理学的研
・注意欠如･多動性障害の発症機序およびADHD治療薬の新規作用機序の解明
・覚醒剤依存症における退薬症状の発症機序に関する神経薬理学研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	4	0	12	3	3	7293万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大麻および類縁化合物入り食品「エディブル」の危険性、Editor's Eye／2024年4月／ファルマシア／https://doi.org/10.14894/faruawpsj.60.4_271／単著／コラム

低用量アスピリンが肝脂肪を減少させる：第3の臨床応用の可能性、Editor's Eye／2024年10月／ファルマシア／https://doi.org/10.14894/faruawpsj.60.10_913／単著／コラム

コラム「談話室」の思い出、談話室／2024年11月／ファルマシア／https://doi.org/10.14894/faruawpsj.60.11_1057_1／単著／コラム

薬物×SEXがもたらす甚大な健康被害とは？／2025年1月／週刊SPA!!（扶桑社）／p.41／単著／コラム（識者見解）

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Effects of atomoxetine on the mPFC of SHRSP/Ezo as an ADHD., animal model／2025/5/23-26／The 35th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology

Autistic-like behaviors mediated by the dysregulation of endocrine systems via oxytocin and corticosterone in cannabinoid CB1 receptor knockout mice.／2025/5/23-26／The 35th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology

Anxiolytic and antidepressant effects of inhibitors of endocannabinoid degrading enzyme in chronic restraint stressed mice.／2025/5/23-26／The 35th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology

慢性拘束ストレス負荷マウスにおける情動行動異常に対する内因性カンナビノイド分解酵素阻害薬の効果／2024/7/24-27／NEURO2024（第47回日本神経科学大会、第67回日本神経化学会大会、第46回日本生物学的精神医学会年会、第8回アジアオセアニア神経科学連合コングレス）

エンドカンナビノイド分解酵素阻害薬は慢性拘束ストレス負荷による不安様および抑うつ様行動の発現を改善する／2024/8/29-30／生体機能と創薬シンポジウム2024

ホスホジエステラーゼ4阻害薬は慢性拘束ストレス負荷マウスに発現する情動行動異常を改善する／2024/8/31／世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2024

カンナビノイドCB1受容体の機能低下はオキシトシン及びコルチコステロン分泌制御を介して自閉スペクトラム症様行動を引き起こす／2024/10/16／第76回 日本薬理学会西南部会

慢性拘束ストレスにより発現する不安様および抑うつ様行動における脳内エンドカンナビノイドの関与／2025/3/17-19／APPW2025第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会　合同大会

慢性拘束ストレスによる抑うつ様行動に対する5-アミノレブリン酸の効果／2025*3/26-29／日本薬学会第145回年会

エンドカンナビノイド分解酵素阻害薬は慢性拘束ストレス負荷による情動行動異常を改善する／2025*3/26-29／日本薬学会第145回年会

ギャンブル行動症の新規モデル動物の確立を指向した行動薬理学的検討／2025*3/26-29／日本薬学会第145回年会

幼若期ストレスによる遅発性抑うつ様行動とその発現機序（シンポジウム）／2024/11/2-3／第40回日本ストレス学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金基盤研究(C)，（代表）若年者を対象とした大麻乱用予防啓発のための科学的エビデンスの構築	日本学術振興会	2024年度～2027年度	442万円
科学研究費補助金基盤研究(A)，（分担）ゲーム依存の社会浸透を防げるか？統合的科学評価と早期依存対策に向けた基盤研究	日本学術振興会	2021年度～2024年度	4251万円
科学研究費補助金挑戦的研究(開拓)，（分担）精神疾患との共生型社会実現に向けた「病気の視える化」への挑戦	日本学術振興会	2023年度～2025年度	2600万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	委員長	本学の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。 2024年度は日本実験動物学会による「動物実験の外部検証」を受審した。
動物室管理担当者（薬学科）	管理担当責任者	本学・薬学部の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。
学生委員会（薬学科）	委員長	薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
学生委員会（全学）	委員	本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
研究等倫理委員会（薬学科）	委員	薬学部における研究申請業務等の円滑な遂行に貢献した。
図書選定委員会（薬学科）	委員	本学の薬学系における有用な図書を選定し、最新の医療系情報提供に貢献した。
学生実習委員会（薬学科）	委員	薬学部における学生実習の運用および実習関連事項に関わる円滑な遂行に貢献した。
共同機器管理委員会（薬学科）	委員	薬学部における共同実験機器の運用および機器購入に関わる円滑な遂行に貢献した。
教務委員会（薬学科）	委員	2024年度薬禹学部薬学科3年生の学年主任に関わる業務に貢献した。
2024年度薬禹学部薬学科3年生・学年主任	学年主任（代表）	2024年度薬禹学部薬学科3年生の学力向上を中心とした教務に関わる業務に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・オープンキャンパス参加、特に学生との交流

・令和6年度保護者懇談会（本学）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	12

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
違法薬物乱用防止講話	2024年4月4日	長崎国際大学・新入生オリエンテーション	長崎国際大学
違法薬物乱用防止講話	2025年1月15日	長崎国際大学薬学部・教養セミナー	長崎国際大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等	外部評価委員	2021年～現在	長崎川棚神医療センター
薬剤師国家試験委員会	委員	2022年～現在	厚生労働省
日本薬理学会学術評議員会	学術評議員	2004年～現在	日本薬理学会
日本薬理学会代議員会	代議員	2022年～現在	日本薬理学会
神経行動薬理若手研究者の集い世話人会	世話人・顧問	2012年～現在	神経行動薬理若手研究者の集い
日本アルコール・アディクション医学会評議員会	評議員	2012年～現在	日本アルコール・アディクション医学会
日本神経精神薬理学会評議員会	評議員	2012年～現在	日本神経精神薬理学会
日本薬学会ファルマシア委員会	ファルマシア委員	2021年～現在	日本薬学会
薬理学関連教科担当教員会議	委員	2017年～現在	薬学教育協議会
病態・薬物治教科担当教員会議	委員	2022年～現在	薬学教育協議会
日本薬学会薬理系薬学部会・常任世話人会	常任世話人	2022年～現在	日本薬学会薬理系薬学部会
日本薬理学会企画教育委員会	常任委員	2022年～現在	日本薬理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等において 外部委員として治験薬などの治験審査、倫理審査を担当した。

・厚生労働省（医薬局）から委嘱された薬剤師国家試験委員会 の委員として薬剤師国家試験問題を作問した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
The 35th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology	学術発表（3件）	2024/5/23-26	東京国際フォーラム	国際神経精神薬理学会

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究面においては、科研費採択継続中の研究課題を遂行し、参加した全ての学会で現地開催の対面による学術発表を実施することができた。これまで継続している研究課題および科研費採択継続中の研究課題を勢力的に遂行し、現在、査読付国際論文を2報投稿中である。今後も研究成果の論文作成にも注力したいと考えている。また、長崎大学病院精神科、長崎大学大学 院歯学研究科歯科薬理学および長崎大学病院薬剤部（分担研究者として採択継続中の科研費研究課題２件）との共同研究は現在も継続中である。しかし、学内運営業務および講義・演習の準備に費やす時間が大半を占め、さらに講義等の準備やフォローアップに非常に時間を要さねばならないため、研究面に費やす時間を適切にとれていないことが課題として残っている。分担協力者として参画している厚生科研課題の「大麻をはじめとする薬物の効果的な予防啓発活動の実施及び効果検証に向けた調査研究」では、年次報告書ならびに課題総括 報告書を作成した。この厚生科研課題は、次年度以降も継続される予定である。学会活動として、評議員、代議員ならびに常任 委員に就任している学術学会での学術発表、学会優秀賞の審査、およびそれぞれの学会運営の評議員会・代議員会、常設委員会に参画した。今後も学会活動および研究活動は、それぞれ連動して精力的に進めていきたいと思う。

大学運営面においては、特に全学動物実験委員会委員長および薬学部動物室管理担当責任者として、本学の研究活動申請業務等における円滑な審査体制と動物実験施設運営の改善に貢献した。なお、2024年度は日本実験動物学会による「動物実験の外部検証」を受審し、学内規定などに改善する必要がある指摘を受けたが、本学の動物実験施設においては概ね良好な管理運営がなされている旨の評価を受け、受審完了した。また、全学学生委員会委員、薬学部学生委員会委員長として、本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。

さらに、2024年度3年生の学年主任（代表）として薬学部教務委員会において活動し、薬学部3年生の学力向上のために期末定期試験前の学習準備や学生生活に対する注意喚起（ホームルーム）、 成績不振者への面談等を実施した。

教育面においては、担当専門科目の授業方法として講義プリントを事前に必ず配布して予習を促し、Manabaによる追加情報を提供したことは、講義中の学生の反応も良く、学生の理解度を向上させることができたと考えている。今年度も成績評価の10%に 相当する課題として5回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えら れる。また、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供し、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。この講義動画をオンデマンド配信している現状を活用して、定期試験前に15回全ての講義動画を限定配信したことは、復習を兼ねた学修内容の学び直しと学習理解の向上にかなり寄与したと考えられ、今後も継続したい。さらに、本年度での講義の単元毎のボリュームや進行度、学生アンケートでの結果を真摯に受け止め、次年度では講義の質的向上に向けて研鑽したいと思う。一昨年から取得している(公社)日本薬理学会が認定する「薬理学エデュケーター」の資格継続のためのポイント取得及び資格更新も完了した。この「薬理学エデュケーター」の資格は、研究面および教育面に活かしていきたいと考えている。

社会貢献では、本年度は第110回薬剤師国家試験委員として薬剤師国家試験の作問に参画した。今年度も継続中の日本薬学会学術誌編集委員（ファルマシア委員）として日本薬学会機関誌「ファルマ シア」の編纂に貢献した。また、国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等においても外部評価委員として治験薬な どの治験審査、倫理審査を担当した。これらの件においては地域貢献の一環として積極的に参画したいと考えている。さらに、今年度は昨年に引き続き、本学の主に1年生を対象に違法薬物乱用防止講習の講師を担当した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 山口　泰史

1．教育理念

本学の学生に以下の問いかけを行う。「医療の現場で、医師、看護師、その他のスタッフと差別化できる薬剤師の知識・能力はなんですか？」

私が期待する答えは、「化学に裏打ちされた知識とそれを使いこなす能力」である。流行りの医療コミュニケーションや医療系の科目も大事だろうが、それらは医師や看護師の専門領域である。しかし、化学は違う。薬剤師の主たる領域である。自らの専門を理解することなく、薬剤師として活躍できるだろうか。化学の知識なくして、医療の現場でほかの職種の方から尊敬（respect）は得られるだろうか。したがって、有機化学は、今も昔も薬学の根幹をなす学問である。

英語には、薬剤師を意味する言葉が二つある。ひとつはPharmacist、もうひとつは「Chemist」である。学生を医療の現場に薬剤師として送り出すために、有機化学教育は必要不可欠である。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	①⑨
薬化学総論	15/15(前期)	1.5	1	②⑨
有機薬化学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	1	②⑨
有機薬化学演習	12/12(前期)	0.5	1	②⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
有機薬化学演習	12/12(後期)	0.5	3	②⑨
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
有機薬化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	85	②⑨
有機薬化学演習	12/12(後期)	0.5	84	②⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
創薬化学	7/15(前期)	1.5	97	②
薬化学総論	15/15(前期)	1.5	89	②⑨
有機薬化学実習	33/36(後期)	1	96	①②④

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【総評】

- 前期2科目（薬化学総論）と後期1科目（有機薬化学Ⅰ）のアンケートを実施した。
- 授業に対する満足度の評価結果は、5点満点中、4.7点と4.5点であった。
- 上記結果は、平均点以上であり、学生からは、それなりの評と価を得られた、と理解している。
- その他の項目も、4.5-4.7位であり、おおむね良好であった。

【具体的な事例】
・　授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。
・　学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら（低学年の学生に有効と判明している）板書のみで授業を行った。
・　90分授業の途中に、1ー2分の休憩を挟んだ。（授業後半に対する集中力が増した）
・　厳格に出席をとることで、欠席者を若干減らした。
・　MIT化学科で推奨されている勉強方法を昨年に引き続き推奨した。
・　有機化学に対するMotivationを考慮し、医薬品との関連事例を各章で示した。
・　科学史上重要な発見が行われた欧米の有名大学の話をした。

【問題点】
・　アンケートの点だけを見ると、問題ないように思うが、成績とアンケートの評点に乖離があるように思う。
・　薬学部に課せられたSBOを考慮すると、有機化学の内容・範囲と授業のスピードをこれ以上遅くすることはできない。
・　前期後期合わせて20コマ以上の補習授業を行った。学習支援としては、ある程度役に立ったようだが、学生の自立を促していない。2年次以降、学生の自発的な学習態度に期待している。
・　1年次を終わった段階で、6割以上の学生がA以上の成績である。基礎を理解している学生は、応用分野にも対応できるようになっている。
・　しかし、一方で、有機化学の基礎を全く理解していない学生もいる。
・　1年次の学習態度・習慣が、有機化学のみならず、全ての科目の理解度を決定する、と言われている。この問題に対して、学部で取り組んでいるが、万能の解決策は見つからない。一人でも多くの学生を薬剤師へと、育てていくのみである。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校　専攻科	一般化学	3/15(前期)	2	8
長崎大学大学院　医歯薬総合研究科	創薬プロセス特論Ⅱ	1/8(後期)	1	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
薬化学総論　前期補習　１年生対象	10	60	木曜日４時間目
有機薬化学Ⅰ　後期補習　１年生対象	13	60	火曜日４時間目
総合演習Ⅲ　6年留年生対象	1	11	2024年4月25日3時間目

３．研究活動

(1) 研究テーマ
・　アデノシン三リン酸（ATP）をキーワード とする医薬品化学および生物有機化学
・　抗感染症薬を目指す創薬研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	1	1	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
芳香族化合物の化学の基礎／2024年12月／化学と教育　72巻／507頁～510頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
次なるパンデミックに備える新しい作用機序をもつ抗ウイルス薬の創製	日本学術振興会	令和7年（2025）年度	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関する申請を審議した。
薬学部図書選定委員会	委員	購入図書の推薦。
実習（学内）委員会	委員	学内の学生実習における予算等のコーディネート等
薬学研究科・大講座医療基盤薬学	講座責任者	出講科目の日程と担当者の管理

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第109回薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会	委員	・　本学の物理・化学・生物の分野のアンケート結果を集計した。 ・　遠隔（Zoom）で行われた会議に本学代表として参加した。（2024年5月11日）
第19回有機化学系教科検討委員会	委員	・　アンケートの集計を行い、今年度の委員長へ提出した。 ・　神戸学院大学で行われた会議に本学代表として参加した。（2023年10月26日）

(3) 課外活動の指導等

・　実務実習（5年生）における事前訪問・中期訪問を行い、と実習を円滑に行うため、受け入れ施設情報交換および個人面談を行った。（虹の薬局多久店、新武雄病院、ひまわり薬局、社会福祉法人恩賜財団済生会支部済生会長崎病院）

・　共用試験OSCEで評価を担当した。薬剤監査（12月15日）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

募集活動：

7月、8月に実施された3回のオープンキャンパスにおいて、高校生とその保護者と会話を行った。

薬学部受験案内のリーフレットの配布先への依頼および連絡業務を担当した。（長崎県歯科医師会会員800名、長崎県及び佐賀県の予備校等）

智翔館（佐世保市）における講演会とワークショップの企画と司会を担当した。（2024年11月11日）

就職活動：

6年生の学生に対し、企業・病院における医薬品開発業務等について、説明を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外

2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
CBT問題管理委員会	委員	2024年度	特定非営利活動法人　薬学共用試験センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育と研究が本職における最重要項目である。教育の量と質どちらも、一定以上の成果を出せた、と思う。量については単位数に単位取得者数をかけて求めた数字の和が示す。また質については、学生アンケート等の数字である。量と質のどちらの視点からも一定以上の貢献ができた。1年生の有機化学関連科目3科目、および6年次の創薬化学等を担当した。全学生の学力をある一定レベルまで引き上げることを目標に、小テスト実施を含め努力した。1年生の学力不足の学生のため、前期10回と後期13回の補習授業を行った。後期の補習授業では、成績下位者だけでなく、質問があり、復習をしたい学生すべてに門戸を開いた。そのため参加者が60名を超えることもあった。また、今年度も正規授業科目である総合演習とその補習で、4年生、5年生および6年生の化学「演習」を担当した。本学大学院の講義を15回中1回担当した。学外の教育活動として、長崎大学大学院　医歯薬研究科において、「創薬プロセス特論」を1回担当した。（継続の依頼を受けて、講義を行った。）また、今回初めて佐世保高専において専修科1年生の科目を担当した。
研究活動も継続中である。成果発表できるよう、結果をまとめる。

第109回薬剤師国家試験問題検討委員会（物理・化学・生物分野）のアンケート結果と最終文章をまとめた。5月11日に遠隔で会議が行われ、本学代表として参加した。また、薬学教育協議会主催・第19回有機化学系教科担当教員会議のアンケート回答をまとめた。また、その会議（神戸学院大学、10月26日）に、本学代表として、参加した。その他、6年制薬学における実務実習担当教員（2名）として、毎週実習記録に目を通し、コメントを書いた。また、実習先訪問および電話での事情聴取を行った。更に、5年生および6年生に対して、卒業研究の指導を行った。

利益相反マネジメント委員会委員として、利益相反に関する申請を審議した。薬学部では、実務実習（学内）委員と図書選定委員を務めた。大学院教育では、大講座医療基盤薬学の責任者として、貢献した。オープンキャンパスへの貢献、薬学部リーフレットの新規配布先の開拓等、広報募集活動にも参加した。さらに、佐世保市の大手学習塾とタイアップし、講演会とワーク

ショップを企画した（11月11日）。
　学会および社会活動では、昨年度に引き続き「薬学共用試験センター　2023年度CBT問題管理委員会」の委員を拝命した。問題の精査、編集等の業務で貢献した。（このため、4年生への後期演習授業を減らした）
　引き続き薬学分野の研究教育に貢献していく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 淀　光昭

1．教育理念

物理系・化学系・生物系の基礎的専門知識を土台にして、衛生系・医療系・臨床系の薬学専門知識の確実な修得を図り、薬剤師国家試験に合格できる力を養成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	①⑨
医薬品化学Ⅰ	5/15(前期)	1.5	1	①②③⑨
総合演習ⅢＡ	4/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	4/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	①②④⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①②③
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
放射線化学	6/15(後期)	1.5	87	①②③④⑨
医薬品化学Ⅱ	5/15(後期)	1.5	59	①②③⑨
医薬品化学Ⅰ	5/15(前期)	1.5	79	①②③⑨
構造解析学	8/15(前期)	1.5	82	①②③④⑨
ホスピタリティ演習Ⅲ	2/8(後期)	0.5	97	①④⑥⑪⑫
創薬化学	7/15(前期)	1.5	97	②
有機薬化学実習	18/18(後期)	1	96	①②④
分析化学・放射線化学実習	13/18(前期)	1	100	①②③④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

医薬品化学Ⅰ（前期）：授業アンケートの評価結果（Q1～Q13の平均評価）はR03年度4.27、R04年度4.35、R05年度4.38、R06年度4.35と、前年度より僅かに低下したが、ここ2,3年は全体的に評価ポイントは向上している。各授業の前半・後半の最後にmanaba小テストを実施し、一昨年度から配布資料を1ページ2スライドに変更し、大きく見やすい資料になったことが評価向上に寄与したと考える。

医薬品化学Ⅱ（後期）：授業アンケートの評価結果（Q1～Q13の平均評価）はR05年度4.40からR06年度4.48と全体的に評価ポイントは向上した。医薬品化学Ⅰの授業と同様、小テストの実施、配布資料の改善を行ったが、今年度は、授業内容に関連する国試過去問をより多く取り入れ、学んだ事項が国試でどのように出題されるかを意識させたことが評価向上に寄与したと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅲ（再）	2	98	4月11日、4月22日

放射線化学補習	5	34	10/10, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7

3．研究活動

(1) 研究テーマ

病気の早期診断や創薬研究に役立つ放射性分子プローブの開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
放射線障害予防委員会	委員長	関係教職員と協力しながら原子力規制庁による立入検査（10/22）への事前準備と検査当日の対応ならびに指摘事項等への改善策検討を実施した。
地域連携センター	アドバイザー	地域連携センター会議に出席し、アドバイザーとして同センターの運営と活動に助言を行った。
薬学部教務委員会	委員	前委員長として、新委員長に対して定期試験成績取り纏め、科目担当者会議開催など各種業務の引継ぎと支援を適切に行った。時間割編成の手順書を作成し、新担当者へ編成手順・注意事項等を説明した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席

2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動：担当した全ての講義科目の各授業において、途中と最後にmanaba小テストを2回実施し、確認問題を提供したことは、履修者に復習を促すうえで効果的であったと考える。

委員会活動：放射線障害予防委員会委員長として、関係教職員と協力しながら原子力規制庁による立入検査への事前準備と検査当日の対応ならびに指摘事項等への改善策検討を実施した。薬学部教務委員会の前委員長として、新委員長に対して定期試験成績取り纏め、科目担当者会議開催など各種業務の引継ぎと支援を適切に行い、薬学部の教務活動に貢献した。

その他：薬学教育評価受審に備え、2024年度開講科目のコアカリSBO対応状況を閲覧・検索するWebシステムを作成して学外に公開し、薬学科の教員・学生に科目対応状況を確認する手段を提供した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 太田　一寿

1．教育理念

本学の建学の理念である「人間尊重」を念頭に教育活動を行うが、特に以下の4点を重視する。

・コミュニケーション能力、特にネットワーク形成・維持能力を備えた人材の育成
・社会に通用する能力、ありていに言えば「資格」、「稼ぐ力」を身に付けた人材の育成
・自尊心、愛校心に富んだ卒業生の輩出
・地域が本当に必要とする人材、地域行政に関わる人材の輩出

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	10	⑪
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	⑪
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	95	⑪
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	⑪
専門演習Ⅰ	0/45(通年)	3	4	⑪
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	⑥
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	⑥
総合演習ⅢＢ	10/30(後期)	2	88	⑪
在宅医療概論	1/15(前期)	2	194	⑩
医学概論	3/15(前期)	2	55	⑥
疾病学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	87	⑥
医療生命倫理	8/15(後期)	1.5	86	⑤⑦⑩
臨床生理学実習	21/24(後期)	1	83	②④⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

担当専門科目「疾病学Ⅱ」に関しては平均的な評価をいただいた。「医療生命倫理」においては携帯電話を用いた双方向講義を展開し、生徒の反応は良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢAの補講	1	97	2023年4月27日
総合演習Ⅱの補講	1	111	2023年12月14日
専門演習Ⅰの補講	3	103	2023年5月19日他

３．研究活動

(1) 研究テーマ

出芽酵母などのモデル微生物を用いた病態モデルシステム、新規生命現象観測システムの構築

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

出芽酵母を用いたヒトGla化分泌タンパク質発現の効率化／20250328／第145回　日本薬学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員	副委員長	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席

2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	欠席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

無駄を省いて、研究・教育に力を注ぎたい

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 神谷　誠太郎

1．教育理念

社会に貢献する薬剤師を指導し育て、輩出することこと。
研究をすることで思考力を磨き研究マインドを持つ薬剤師の輩出に心がける。
自信の研究を通して、社会の発展に貢献する。
教科書を教えるだけでなく、教科書の内容の発展にも貢献できる成果をあげる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	10/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
製剤学	15/15(後期)	1.5	4	③⑨
総合演習ⅢＢ	10/30(後期)	2	88	①⑨
統計学	15/15(前期)	2	11	④⑨⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
製剤学	15/15(後期)	1.5	79	③⑨
薬剤学実習	21/21(後期)	1	83	③⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

統計学の昨年度の授業満足度は4.3、本年度も4.3であった。本年度は、２０人以下の少人数となったにもかかわらず、ポイントは上がらなかった。一人一人に張り付いて教えたのだが、思ったより満足度は上げられなかった。ただ明らかに理解度は上がっているので、この方式は来年度も行っていきたい。

製剤学の授業満足度は4.5と昨年と同じ評価を得た。２年連続で同じポイントであった。自分としてはそれなりに満足している。各章の章末問題をここで習ったなどと解説および振り返りをしながら。説明をおこなったり、今はこのページを解説していると、何度も現時点にいる状況を解説した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

新規手法によるナノ粒子の調製

ナノ粒子の保存方法

新規投与ルートの開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
安全衛生委員会	委員	委員として会議に参加した。年休休暇の取得を積極的に促進した。
図書館委員会	委員	委員として会議に参加した。積極的に発言した。
安全委員会（薬学）	委員	安全委員会委員として、毒劇物の安全管理の書類の改定を積極的に行った。
CBT運営委員会（薬学）	委員	４年生の試験のCAI試験の運営を滞りなく行った

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

本年度の１月２６日に小学生の児童に理系の楽しさを教える「サイエンス広場で遊ぼう」のイベントを講師として参加した

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席

2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は、授業内容においては一定の満足度を感じている。しかしながら研究活動においては著しく停滞していると反省している。来年度は教科書を作成するので、それによって多少は人類の進歩に貢献できると考えられる。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 神田　紘介

1．教育理念

私は、本学赴任まで、多くの臨床経験と教育経験も積んできた。どのような人材が現場や患者から求められているのか、理解してきたつもりである。薬剤師は、患者に寄り添う存在であり、また、医療人として、自己研鑽だけでなく、後進の育成も行う必要がある。そのため、ホスピタリティーの精神が必須であり、その模範となるべく、自ら実践する。また、現代医療は、エビデンスに基づいた医療が行われており、混合玉石の情報を科学的に正しく評価、取捨選択し、応用することで問題解決していくことが求められている。学生時代に十分にトレーニングしておくことが、今後の薬剤師人生において強い武器となる。卒業研究においては、医療現場に通じる実践的な課題を設定し、科学的問題解決のプロセスを経験させることで、問題解決能力をもち即戦力となりうる人材育成を目指す。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	7/30(前期)	2	10	①⑨
医薬品安全性学	7/15(前期)	1.5	1	①②④
総合演習ⅢＡ	5/23(前期)	1.5	2	①②③④⑧⑨
総合演習ⅢＡ	5/23(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	97	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	4	①②③④⑧⑨
実務実習（病院・薬局）	1/1(通年)	20	102	①④⑥⑦⑪⑫
専門演習Ⅱ	5/23(通年)	1.5	101	①②③⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	7/30(後期)	2	88	①②③④⑧⑨
病院薬学	5/15(後期)	1.5	83	①④
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
処方解析	21/33(後期)	2	97	①④⑥⑦
処方解析	21/33(後期)	2	97	①④⑥⑦
処方解析	21/33(後期)	2	97	①④⑥⑦
総合実習	18/21(後期)	1	102	①④⑥⑦⑪⑫
ホスピタリティ演習Ⅱ	4/10(前期)	0.5	83	①④⑥⑪⑫
ホスピタリティ演習Ⅰ	8/8(後期)	0.5	95	②⑦
ホスピタリティ演習Ⅲ	4/8(後期)	0.5	97	①④⑥⑪⑫
医薬品安全性学	7/15(前期)	1.5	7	①②④
調剤Ⅰ	18/51(前期)	2	98	①②④⑥⑪
調剤Ⅰ	18/51(前期)	2	98	①②④⑥⑪
調剤Ⅰ	18/51(前期)	2	98	①②④⑥
調剤Ⅱ	21/66(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅱ	21/66(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅱ	21/66(前期)	2	98	①②④⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は医薬品安全性学、後期は病院薬学について授業アンケートを実施した。

前年度の授業アンケートを参考に授業改善を行った結果が、満足度が医薬品安全性学が4.2→4.4、病院薬学は4.6→4.5であった。医薬品安全性学は過年度生の科目となっているため、内容をより分かりやすくする工夫を行い満足度が向上した。また、病院薬学については、予習課題を課すことで問題意識を持ちながら、講義を聴講できるようにした。また、動画を多用し、集中力が途切れないように工夫した。

病院薬学についてはピ逃げをしている学生がいるとの指摘があり、次年度は対策を検討しているところである。双方向型の講義にも引き続き取り組んでいきたいと思っている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅲ（再）	2	11	4/9, 4/11
専門演習Ⅰ（再）	2	6	5/8, 6/19

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・がん化学療法の副作用軽減に関する研究

悪心・嘔吐の動物評価系を使用し、食欲改善可能な制吐療法の開発に取り組んでいる。

日本副作用データベース（JADER）を使用し食欲改善可能な薬剤の探索を試みている。

・医療データベース等を活用した医療薬学研究

日本医療機能評価機構が収集している医療事故事例を使用し、薬剤関連医療事故の事例解析を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	5	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大分県玖珠郡における地域医療の現状／in press／長崎国際大学論叢／105頁～114頁／共著／原著論文

薬局薬剤師のオンライン服薬指導の現状と意識調査／in press／日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌／6頁～15頁／共著／原著論文

薬局薬剤師を対象としたオンライン服薬指導の現状および教育ニーズに関する調査／2024年5月／薬学教育／https://doi.org/10.24489/jjphe.2024-006／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

シスプラチン誘発性悪心・嘔吐、食欲不振および体重減少に対するホスネツピタントの有効性の検討／2025年3月／日本薬学会第145年会

ラット評価系を用いたシスプラチン誘発性悪心・嘔吐、食欲不振および体重減少に対する デキサメタゾン、パロノセトロン単独療法および併用療法の有効性の検討／2024年11月／第5回長崎県薬剤師学術大会

ChatGPTを用いた医療コミュニケーション実習支援アプリの作成／2025年3月／日本薬学会第145年会

がん患者における薬剤関連医療事故に関する現状および調査／2025年3月／日本薬学会第145年会

日本の有害事象報告データベースを用いた食欲不振の発症に関連する医薬品の不均衡分析／2025年3月／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部事前学習運営委員会	委員	OSCEに関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部実務実習運営委員会	副委員長	実務実習に関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部自己点検評価委員会	委員	自己点検評価に用いる。ポートフォリオ解析の資料作成を行った。
OSCE実施委員会	委員	OSCEに関する企画立案及び実務に従事した。
生涯学習・教育委員会	委員	生涯学習に関する企画立案及び実務に従事した。
CAI運用・活用委員会	委員	CAI課題、週間試験の運用に従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎薬学コンソーシアム	委員	特になし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
医療シミュレーション教育者養成プログラム『SimBegin』の紹介	8月18日	東京薬科大学	薬学教育学会・レールダルジャパン
がん教室	12月4日	九州文化学園中学校	九州文化学園中学校
薬学部進学に向けた高校生セミナー in 佐世保	2月8日	長崎国際大学	長崎県
リケフェスin SASEBO	6月29日	長崎国際大学	佐賀大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県薬剤師会研修協議会	委員	2020年9月～	長崎県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育分野において、医療コミュニケーション実習に（株）カケハシとコラボし、電子薬歴システム（musubi）を使用した服薬指導実習の導入を行い、十分な教育効果を確認した。来年度以降も継続できるようmusubiの導入を行う予定である。また、昨年度実施した文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の成果についていくつか講演を行い、広報活動を行った。

研究分野において、卒業研究生6年生5名、5年生6名の研究指導を行い、今年度は4名の学生が日本薬学会第145回年会にて成果発表を行う予定である。論文については、昨年度行った調査研究について、長崎国際大学論叢に1報、薬学教育、ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌に1報アクセプトといった結果であった。本年度は実験研究についても蓄積したデータについていったんの投稿を目指す。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 田中　宏光

1．教育理念

一人一人の幸福に基づいた人類の持続的発展に貢献する教育活動

日本の教育制度の充実は、中等教育から高等教育にまで及んできた。社会は、科学技術の発展と相まって進展し、そこから発生する社会問題の解決には教育活動のさらなる発展が欠かせない。さらに教育活動の深化に支えられた社会の発展が科学技術の発展に寄与し、人類のより幸福な社会を切り開くものと期待される。

社会の発展は、特定の人の犠牲の上には成り立たない。一人一人の幸福の総和を最大にすることが人類の持続的発展に欠かせない。その一人一人の幸福の追求の需要な要素として教育環境があげられる。

最近まで大学は、インフラストラクチャー的に、教育を望む一部の学生しか入学できない状況にあった。現在では、下位の志望になってもそれを選択すれば学生全員が大学に入学できるほどに高等教育機関が完備されている。一方で中等教育とは異なり、国公立大学と比べ、私立大学への進学には経済的な障害が存在する。全員が高等教育を受けることができることへの障壁は、経済的側面だと考えられる。進学したい学生全員が高等教育を受けることができるために、経済的側面に関しての障壁を下げるべく、大学教育内容の充実とともに、大学で進められた研究成果を社会に還元し、大学が主体的に学生の経済的障壁を撤廃すべく、努力する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①④⑥⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	1	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
分子生物学	8/15(前期)	1.5	86	①⑨
基礎の生物学	15/15(前期)	2	21	②③
医療生命倫理	3/15(後期)	1.5	86	⑤⑥⑪
分子細胞生化学演習	3/8(後期)	0.5	47	②④⑩
薬学英語	2/15(前期)	0.5	89	①⑤⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑥⑦⑪⑫
薬学入門	1/15(前期)	1.5	89	②③⑩⑪
微生物学・免疫学実習	9/27(前期)	1	82	①⑤⑩
ゲノム創薬学	6/15(前期)	1.5	98	②④⑨
地域の理解と連携	1/15(後期)	2	200	②③⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

分子生物学：満足度3.9

ゲノム創薬：満足度4.2

基礎の生物: 満足度4.6
生命倫理: 満足度4.7
分子細胞生物学: 満足度4.2
分子生物学の講義の満足度が3.9なので、分子生物学の講義を中心にさらにわかりやすい資料を作成し満足できる講義にしたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生殖細胞分化及び細胞のがん化の分子メカニズムの解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	3	4	2	2	490万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

HASPIN阻害剤のがん抑制効果／2024.7／BIO Clinica／39 50-53／単著／総説

HASPIN阻害剤クメストロールを含む豆モヤシの抗がん、抗アルツハイマー効果／2025.2／BIO Clinica／40　68-72／単著／総説

The Natural HASPIN Inhibitor Coumestrol Suppresses Intestinal Polyp Development, Cachexia, and Hypogonadism in a Mouse Model of Familial Adenomatous Polyposis (ApcMin/+). ／2024.9／Biology／13(9):736. doi: 10.3390/biology13090736.／共著／論文

Comparison of Serum Testosterone Levels in Male Wild Boars and Domestic Pigs in Japan.／2014.9／Wild／1(1), 57-62; https://doi.org/10.3390/wild1010005／共著／論文

Improving fertilization rates in IVF using rutin and quercetin in preculture medium or through oral administration.／2015.1／Front Vet Sci .／11:1506029. doi: 10.3389/fvets.2024.1506029.／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ビタミンP経口摂取による高齢マウスの妊孕性改善についての解析／2024年6月8,9日／日本アンドロロジー学会 第43回学術大会

アルツハイマー病モデルマウス5XFADの認知症発症は、HASPIN阻害剤クメストロールを多く含むモヤシの経口摂取により抑制される。／2024年6月8,9日／日本アンドロロジー学会 第43回学術大会

Oral Administration of Bean Sprouts Containing a HASPIN Inhibitor Improves disease status in Senescence-Accelerated Mouse, SAM.／2024年5月2-5日／27TH TESTIS WORKSHOP

Inhibitor of HASPIN, which is exclusively expressed in male germ cells, suppresses cancer cell proliferation.／2024年5月2-5日／27TH TESTIS WORKSHOP

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
文部科学省 科学研究費補助金　基盤Ｃ　代表	文部科学省	2024-2026	390万円
文部科学省 科学研究費補助金　基盤Ｃ　分担	文部科学省	2022-2024	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
長崎国際大学動物実験委員会	副委員長	公私動協の「動物実験に関する外部検証」を受検
長崎国際大学薬学部共同機器委員会	委員	滞りなく委員を務めた
長崎国際大学倫理委員会	委員	滞りなく委員を務めた
長崎国際大学薬学部倫理委員会	委員	滞りなく委員を務めた
地域連携センター	委員	滞りなく委員を務めた
薬学部学生委員会	委員	滞りなく委員を務めた

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
公私動協の「動物実験に関する外部検証」	委員長	公私動協の「動物実験に関する外部検証」を受検

(3) 課外活動の指導等

全学軽音楽部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

４回のオープンキャンパスそれぞれ参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
Ser-Thr kinase HASPINの天然阻害剤クメストロールを多く含む豆モヤシの加齢に対する効能の解析	2024年6月9日	日本アンドロロジー学会 第43回学術大会　ランチョンセミナー講演	ロート製薬
男性の不妊治療について	2024年1月30日	長崎国際大学　会議室	埼玉県議会事務局

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

- ２件の特許申請、「大腸癌治療剤、腸ポリープの増加や悪液質の発症を抑制するための薬剤」及び「男性性腺機能低下症治療剤、テストステロン値の増加を促進又は男性性腺機能低下症の発症を抑制するための薬剤」
- 2024年 3月，4月再放送，6月再放送　「いちおし！九州沖縄」　NHK長崎　（福岡・佐賀・長崎）
- 2024年 10月 11日長崎新聞に田中宏光の研究開発記事が記載される
- 2025年 2月20日の健康産業流通新聞に研究記事が紹介される。「長崎国際大学ベンチャーリプロム」
- 2025年 3月 6日の健康産業流通新聞に研究記事が紹介される。「長崎国際大学　田中宏光　とは」
- 2025年 3月 20日の健康産業流通新聞に研究記事が紹介される。「長崎国際大学ベンチャー　佐世保食品工房の研究成果」

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動　教育に関して、分子生物学の講義に関して学生の評価を得るように、教材研究を進めたい。
広報活動　大学の広報に関しては、テレビ、新聞を通じで長崎国際大学を研究活動を広めることができた。
研究活動　アンドロロジー学会に評議員就任、製薬会社提供の学会での講演活動等、長崎国際大学オリジナルの研究成果が広く認められた。
大学運営　動物飼育施設の運営を滞りなくサポートし、その他の委員会を通じで大学運営に貢献できた。
さらに来年は、長崎国際大学発ベンチャー企業の活動を通じて、大学の広報活動、運営に貢献したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和６(2024)年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 出口　雄也

１．教育理念

私の教育理念は、授業を通して学生が基礎的な知識を修得することはもちろんのこと、授業内容に興味を持ち、自ら学ぶ姿勢を持たせることを重視している。授業内容に興味を持ってもらう動機付けとして、まずは私個人に興味をもってもらうことを意識している。授業内外での私との接触を通して学生との信頼関係を築きつつ、共に学んでいく環境を作ることを意識しており、意見交換を通して世の中の諸問題に「気付かせる」こと、そして興味を持って「自ら考える」ことを目指している。その際、情報を得る必要があるが、様々な情報に溢れている昨今、有用な情報を選択できる能力をつけさせることも重要である。卒業後、患者さんに情報提供する際にも、溢れる情報に流されるのではなく、学んだ知識や学び続けて得た知識からできるだけ正しく判断して、その情報を提供することが求められる。そのため、成績評価では定期試験に加えてレポートを評価の対象とした科目も用意している。レポート作成を通して、薬学部のディプロマ・ポリシーの「（２）情報収集、分析力」に掲げている「有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる」の能力の獲得にも貢献していると考えている。なお、レポートを課す科目においては、そのフィードバックを授業内に実施することで、他学生の意見を知り広い視野を持たせることも意識している。授業内での学生との意見交換は、学生のコミュニケーション能力の向上に加え、本学の建学の理念にもある「よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現」にもつながると信じている。上記を通して、医療薬学分野で実践的に活動できる薬剤師になれると考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	10	なし
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	2	なし
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	95	⑪
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	⑪
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	⑪
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	101	⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	⑥⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	⑥⑪
総合演習ⅢＢ	4/30(後期)	2	88	⑪
地球環境論	15/15(後期)	2	192	①③⑧⑩⑫
衛生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	95	①②③
食品機能学	11/15(前期)	1.5	95	①②③⑧⑨
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	97	①⑦⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	97	①⑦⑪
処方解析	6/33(後期)	2	97	①⑦⑪
処方解析	6/33(後期)	2	97	①⑦⑪
総合実習	18/21(後期)	1	102	①⑦⑪
地球環境と倫理	10/15(前期)	1.5	93	②③⑩
専門基礎学習Ⅰ	7/10(通年)	0.5	97	⑪
ホスピタリティ演習Ⅰ	3/8(後期)	0.5	95	⑪
臨床栄養学	15/15(前期)	1.5	84	①②⑩
物理化学実習	21/21(前期)	1	83	①④⑧⑩
衛生薬学実習	15/21(前期)	1	83	①②④⑤⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は「臨床栄養学」、後期は「衛生化学Ⅰ」と「地球環境論」でアンケートを実施した。臨床栄養学は満足度は3年連続で4.7であった一方、理解度は過去2年の4.5と比べて4.3と低下し、3年生の学力の低下が懸念された。衛生化学Ⅰは満足度は過去3年間で4.6～4.7、理解度は4.4～4.6と例年並みで推移している。地球環境論は満足度は4.5と過去2年の4.3～4.4と比べて高く、理解度は過去3年と同じ4.4であった。これまでの前期開講から後期開講に変わり、受講者数も例年の100名前後から241名と急増したが、例年並みの推移であった。一方で、タッチ逃げなど不真面目な学生も多く出席を欠席に修正することが多々あり、41名がD判定あるいはF判定となった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	公衆衛生学	15/15(後期)	2	28
九州文化学園歯科衛生士学院	衛生学・公衆衛生学	15/15(後期)	2	29
九州文化学園調理師専門学校	食生活と健康	13/13(前期)	2	17
九州文化学園調理師専門学校	食生活と健康	20/20(後期)	2	17

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ（再）	2	6	2024年4月16日、6月4日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

①食品関連物質の分析に関する研究

②大気浮遊粉塵中の生物由来物質濃度の季節変動と喘息発作の関連に関する研究

③錠剤型食品の崩壊性に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

薬学領域の食品衛生化学（第4版）／共著・編著／2025年3月／廣川書店／共著：頁数（未定）

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

玄米の精米、炊飯に伴うエンドトキシンの低減について／2024年9月4日／フォーラム2024 衛生薬学・環境トキシコロジー

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会（全学）	委員	薬学部の代表として委員会に出席した。
教務委員会（薬学）	委員	2年生のオリエンテーションの準備、進行を担当した。教養セミナーBでは「地域包括ケアシステムにおける薬剤師の事例集」について進行と取りまとめを行った。

国試・CBT対策委員会（薬学）	委員	マークシートで実施する週間試験の取りまとめを担当した。6年生の夏期及び冬期勉強会の実施を担当した。
CBT実施委員会（薬学）	委員	体験受験、本試験の実施にあたり、PC管理者として準備、実施を担当した。
OSCE実施委員会（薬学）	委員	本試験の実施にあたり、ST2の副責任者として準備、実施を担当した。
就職委員会（薬学）	副委員長	12/1実施の薬学部企業研究セミナーの準備、実施を担当した。同日開催された低学年セミナーも担当した。5年生ガイダンスのサポート、次年度のガイダンス日程の調整を行った。
地域連携委員会（薬学）	副委員長	高校生夏休み薬学体験学習、猶興館薬学体験学習のサポートを担当した。3年生の寄付講座（5/8）、4年生の寄付講座（11/20、11/27）のサポートを行った。
生涯学習・教育委員会（薬学）	委員	11/3に実施した第13回長崎国際第g買う薬学部生涯教育セミナーの準備を担当した。
自己点検・評価委員会	委員	衛生系の代表として会議に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・地域連携委員として8/10-11に高校生薬学研究体験学習、8/22-23に猶興館高校薬学体験学習に協力した。

・オープンキャンパス（8/25）で高校生、保護者と懇談した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	欠席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
色付き食塩水で虹をつくろう！／理科教育の早期啓蒙と地域への貢献	10月23日	九州文化学園小学校	学長裁量経費

機能性表示食品の安全性はどのようにして評価されているのか　～紅麹製品による健康被害から考える～	1月24日	Google Meetでのオンライン配信	長崎県薬剤師会
発泡入浴剤をつくろう！／サイエンス広場で遊ぼう	1月26日	佐世保市少年科学館	佐世保市教育委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市環境政策審議会	委員	令和5年6月21日～令和7年6月20日	佐世保市長
一般廃棄物処理計画部会	部会長	令和6年1月31日～	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

テレビ佐世保「紫外線にご注意を③」放映（5月1日）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

昨年に引き続き、事前学習のサポートとして「医療コミュニケーション」「処方解析」「総合実習」、佐藤先生に退職に伴う「地球環境と倫理」の追加、「専門基礎学習Ⅰ」や「ホスピタリティ演習Ⅰ」など、前期は14コマ/週、後期は19コマ/週となることもあり、例年以上に多忙な1年を過ごした。2年学年主任として実力試験の成績下位者に対してCAI補習を13回実施し、勉強習慣をつけ知識の定着を目指した。また、19名の学生と個別面談を行い勉強や大学生活の悩みの相談にのるなど、留年防止のためにできるだけのことは行った。昨年度、2年生で40名が留年となったが、これらの取り組みを通して留年者を大幅に減らすことができると期待している。研究に関しては時間を確保できず、最低限の卒業研究指導にとどまり、学会発表も1件だけと赴任して以降最も成果を出すことができなかったため、猛省している。公共団体の委員として、佐世保市環境政策委員会では、部会長として2025～2034年度の「生活排水処理基本計画」の検討を行い、1月28日に市長へ答申書を提出した。今後は2027年度以降の「ごみ有料化制度」と「プラスチックリサイクル」について検討を行う予定である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 藤井　佑樹

1．教育理念

人間性と専門性を修得した長崎国際大学ブランドの薬剤師を輩出させるため、薬剤に関する知識、自身で疑問を解決する習慣、人の気持ちを汲み取れる人材を作ることに努める。まず高い薬学知識を身につけさせるために、薬物が作用する人体や細胞の構造やはたらきに関する知識を教授する。さらにそれらが化学、物理などの他の科目、学問と関連していることを意識させ、学問を俯瞰出来る力を修得させる。

研究室の配属生に対し、海洋無脊椎動物レクチンや糖鎖生物学の卒業研究テーマを与え、タンパク質の精製や細胞増殖制御の実験方法やその原理を学習させる。この経験を元に薬剤師国家試験で出題される問題に対して対応できる力を養わせる。また卒業研究の成果を発表させることで、自身の研究を簡潔に人に説明できる力を身につけさせる。これは医療の現場で薬の効能・薬理作用について簡潔に説明する力をつけることに役立つことが期待される。

勉学以外にも生活や就職などのサポートも行うことを意識し学生と接する。将来、学生が自立した際に、後輩へアドバイスを送れるような人材作りを行い、ホスピタリティの精神を獲得した薬剤師を世に輩出し、大学のブランディングとともに社会貢献を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	97	①⑨⑩
専門演習Ⅰ	9/15(通年)	3	4	①⑨⑩
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑫
機能形態・生化学演習	2/12(後期)	0.5	2	①②⑨⑪
機能形態学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	1	①②⑨
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
機能形態・生化学演習	2/12(後期)	0.5	84	①②⑨⑪
基礎の生物学	15/15(前期)	2	39	②
機能形態学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	84	①②⑨
薬学英語	2/12(前期)	0.5	89	①⑤⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
ホスピタリティ演習Ⅱ	2/10(前期)	0.5	83	①④⑥⑪⑫
ホスピタリティ演習Ⅲ	4/8(後期)	0.5	97	①④⑥⑪⑫
コンピュータ基礎ⅠＡ	15/15(前期)	1	88	②④⑪
機能形態学実習	21/21(前期)	1	99	①②⑥⑦⑩
薬剤学実習	18/21(後期)	1	83	④⑩⑪
地域の理解と連携	1/15(後期)	2	200	②④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

機能形態学IIの授業アンケートで全体の満足度として4.9点の高評価を得ることができた。今後も学生の満足度を維持できるように時代にあった教育方法を取り続けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

糖鎖はDNAやタンパク質に次ぐ、第三の生命鎖と呼ばれ、細胞機能に重要な役割を果たすとして、注目されている分子である。細胞の「顔」とも言われる糖鎖は細胞表面に存在し、生体分子との相互作用により、シグナル伝達を調節し、細胞死、分化、細胞増殖などの生命現象を起こすことが知られている。

本教員は糖鎖結合性タンパク質レクチンの新規構造と機能に着目し、レクチン一糖鎖による相互作用を介した生命現象に着目し、以下の研究テーマに従事している。

・海洋無脊椎動物からの新規糖鎖結合タンパク質「レクチン」の探索と細胞制御機構の解明
・計算科学と糖鎖生物学の異分野融合による人工改変レクチンの創製方法の確立
・ポスト分子標的薬の開発を目指した人工レクチンの創製と機能解析
・大腸菌を用いたレクチンの分子クローニング

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	4	2	2	473万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Multifunctional Cell Regulation Activities of the Mussel Lectin SeviL: Induction of Macrophage Polarization toward the M1 Functional Phenotype.／2024年6月／Mar Drugs／doi: 10.3390/md22060269／共著／論文

Novel Galectins Purified from the Sponge Chondrilla australiensis: Unique Structural Features and Cytotoxic Effects on Colorectal Cancer Cells Mediated by TF-Antigen Binding／2024年6月／Mar Drugs／ 22(9):400.／共著／論文

Carbohydrate-Binding Properties and Antimicrobial and Anticancer Potential of a New Lectin from the Phloem Sap of Cucurbita pepo.／2024年5月／Molecules／29(11):2531.／共著／論文

Effectiveness of Microbiological Assays as an Alternative Method to Determine the Potency of Antibiotics: A Review／2024年6月／Hacettepe University Journal of the Faculty of Pharmacy／44(2), 153-164.／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Comparative characterization of galectins discovered from Oceanian marine sponges／2024年8月／Australian Glycoscience Symposium 2024

腫瘍糖鎖Tn抗原に結合する九十九島産新種ナマコCladolabes kirara由来レクチンの 一次構造解析と糖鎖結合性のプロファイリング／2025年3月／日本薬学会第145年会

ヒト膵臓癌細胞に対するOphiocordyceps nutantsの腫瘍効果／2025年3月／日本薬学会第145年会

分子科学計算に基づく分子改変によるMytiLec-1の糖鎖結合認識に対する基礎検討（２）／2025年3月／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
実験と計算科学の融合による任意の標的ガングリオシドに選択的な人工レクチンの開発	日本学術振興会	2023年4月～2027年3月	468万円

冬虫夏草レクチンを用いるアミロイドーシス研究の新展開	日本学術振興会	2023年4月～2026年3月	5万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携委員会	委員長（薬学）	佐世保北中学、高校生薬学体験の企画、運営、実行に携わり、中高生の科学への好奇心を高めることに貢献した。
入試募集委員会	委員	高校で出張講義を行い、薬剤師の魅力や薬学部の実態を概説し、本学の魅力を伝えた。
国家試験対策委員会	委員	6年生単位認定試験の試験問題の編集や準備を担当し、公正に試験が行われるように、薬学部に貢献した。
教務委員会	委員	オムニバス科目で開催される寄付講座の運営、実行を主担当し、貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点(J-GlycoNet) 支援型糖鎖共同研究に採択されたことから、本学と国際共同研究を行っているイタリア共和国トリエステ大学マルコ・ゲルドル博士を本学へ招聘し、『爆発的な遺伝子拡大をみせる二枚貝レクチンの最新研究』の演題名の特別講演会を開催した。本学へ約1週間(2024年8/5-8/9)滞在し、九十九島水族館 海きららとの海産動物共同調査、人工レクチンの開発、レクチンの分泌機構の解析など、地域の特色を活かした研究を行った。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究や教育に加え、地域連携委員会では高校生を対象した夏休みの薬学体験を2件、主催することで細胞の組織の形態の学びを通じて、高校生の科学への興味を向上させる取り組みを行うことができた。入試募集員会活動では化学発光をテーマとして体験実験を行うことで本学薬学部の魅力をアピールすることができた。入学後の講義内容も充実させ、長崎県内および九州出身の学生、保護者から信頼を勝ち取れる大学になれるように貢献していきたい。国家試験対策にも力をいれ、在学生の学習意欲向上につなげていきたい。採択された科研費（基盤研究C：代表1件、分担1件）の研究テーマの遂行に集中することができた。来年度は国際共同研究を強化させたことで研究をさらに加速させると 共に、査読付き国際雑誌に発表していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 藤木　司

1．教育理念

本学学生の教育に対する貢献を考え、3ポリシーに則った講義、研究指導等を優先し実施することを理念とする。そのためには日頃より教育内容、研究に関する向上と精査を行いPDCAサイクルを実施し、質の高い医療従事者として活躍できる薬剤師を養成することを最終目標とする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	②⑨
総合演習ⅢＡ	2/32(前期)	1.5	2	②⑨
総合演習ⅢＡ	2/48(前期)	1.5	95	②⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	97	②⑨
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	4	②⑨
専門演習Ⅱ	2/35(通年)	1.5	101	②⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	①⑤⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	①⑤⑩
総合演習ⅢＢ	3/43(後期)	2	88	②⑨
分子生物学	7/15(前期)	1.5	86	②⑨
食品機能学	4/15(前期)	1.5	95	②⑨
基礎の生物学	15/15(前期)	2	27	②⑨
薬学英語	1/15(前期)	0.5	89	①⑤⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	4	①④⑤⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑫
微生物学・免疫学実習	6/9(前期)	1	82	④⑨⑩
感染防御学	3/15(前期)	1.5	89	②⑧⑨
感染防御学	3/15(前期)	1.5	89	②⑧⑨
感染防御学	3/15(前期)	1.5	89	②⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	3/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度の講義と比較して、本年度も学習の理解度と満足度を意識した講義内容となるよう に講義スライドおよび説明資料などのコンテンツにおける改善に努めた。特にアクティブラーニングにも配慮した内容で講義を 提供できるよう双方向授業の一部としてresponの活用や小テストに関する理解を高めてもらえるように細部にわたる点において工夫を行った。新規講義や新規内容での講義に関する資料作成や講義内容に関して、改めて内容につい て再度精査し授業アンケートにおいて指摘があったポイントについて改善を施した。概ね例年通り学内平均を上回る評価を得ることができた。1年生の基礎の生物学については生物学関して理解度が低いクラスということもあり、本年度も補習を実施し学習の補助を行っ た。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

細胞老化に関わる分子基盤の解明と抗老化シグナル機構の網羅的解析に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト正常線維芽細胞TIG-1におけるCAGE（Cap Analysis of Gene Expression）法による細胞老化関連遺伝子の探索／2024年11月28日／第47回日本分子生物学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	CHサポートセンター運営に関するサポート及びNPSサポート業務
国試・CBT対策委員会(学科)	委員	渉外、学科内試験、演習、外部模試、遠隔講義実施運営・成績管理
入試・募集委員会(学科)	委員	入試・募集に関わる広報活動及び出張講義
CAI運用・活用委員会(学科)	副委員長	学内CAI試験設定・実施・運営・成績管理
安全管理委員会(学科)	委員	毒劇物管理・アルコール担当
教務委員会(学科)	委員	学科教務に関わる業務、運営
OSCE実施委員会(学科)	委員	OSCEに向けた準備、実施、運営に関するサポート業務

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

CHサポートセンター運営委員会帰属ピア・サポート組織NPS研修会の企画、参加、運営など。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①第1回オープンキャンパス/7月21日/長崎国際大学
②第2回オープンキャンパス/8月4日/長崎国際大学
③第3回オープンキャンパス/8月25日/長崎国際大学

④出張講義/10月17日/佐世保南高校
⑤推薦入試A日程/11月23日/本学会場

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	-	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	-	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	-	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	-	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	-	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	-	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	-	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	-	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象)	対象外

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本動物細胞工学会	評議委員	2024/4～2025/3	日本動物細胞工学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）
クリーンキャンパス活動/11月18日

6．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動
なし

7．受賞等
なし

８．活動全般についての自己点検・評価

2024年度は講義教育面において、授業の成果が評価され授業アンケートでは全体平均以上の評価を得ることができた。講義資料およびコンテンツや講義スタイルについて、より一層の教育効果、満足度が得られるよう取り組んだ成果が現れた。研究面では学術研究論文を投稿できなかったため、未発表データについて更なる業績を詰めるように努力したい。あわせて外部資金獲得についても改善や努力を行っていきたい。同時に各種委員会における活動においても教育の質や効果の向上を目指して精進したいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 藤本　京子

1．教育理念

薬学とは、物理・化学・生物学を基礎に多分野にまたがる学問である。それゆえ、広い視野を持って総合的に物事を判断できる薬の科学者を育成することを目標とする。私が担当している生化学系の科目は、低学年開講であるが故、医療分野とのつながりが意識できていない学生が少なからず存在している。そのため、本授業では自分自身を構成している細胞と食べることの重要性を説き、細胞から組織、細胞から個体、恒常性の破綻から疾病につながることを連想できるような構成にしている。考える視点をミクロからマクロにマクロからミクロに自由自在に変換できる人材の育成を目指している。

勉学だけに限らず、他人の気持ちを汲み取ることができる人間尊重の理念も身に付けてもらいたい。そのために、授業中でわからない所がある学生には、学生同士で教え合う事、理解したことを共有する事をアクティブラーニングの時間に実践している。これらのことを通して、6年後には常に探究心をもち、学識と医療倫理を兼ね備え、人々や地域社会に貢献できる人材を育成することを教育理念として掲げる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	①⑨
生化学Ⅲ	7/15(前期)	1.5	2	①⑨⑩⑪
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
機能形態・生化学演習	2/12(後期)	0.5	2	①②⑨⑪
生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	3	①⑨⑩⑪
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
機能形態・生化学演習	2/12(後期)	0.5	84	①②⑨⑪
生化学Ⅲ	7/15(前期)	1.5	92	①⑨⑩⑪
コンピュータ基礎ⅠＢ	11/15(後期)	1	87	②④⑪
分子細胞生化学演習	3/12(後期)	0.5	47	②④⑨
総合実習	18/21(後期)	1	102	①④⑪
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	89	④⑤⑥⑦⑫
薬学入門	1/15(前期)	1.5	89	②③⑩⑪
機能形態学実習	3/21(前期)	1	99	①②⑥⑦⑩
調剤Ⅰ	15/51(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅰ	15/51(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅰ	15/51(前期)	2	98	①②④⑪
生化学実習	9/21(後期)	1	97	①②④⑪⑫
微生物学・免疫学実習	9/27(前期)	1	82	①④⑤⑩
生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	82	①⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
プライマリ・ケア演習	3/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは、前期の2年生「生化学Ⅲ」と後期の1年生「生化学Ⅰ」について実施した。
満足度はそれぞれ4.7と4.8であり、いずれも全体平均を上回る結果となった。授業では、学生の表情を見ながら進行速度を調整し、質問対応にはリフレクションカードを活用した。さらに、次回の授業冒頭で解説を行うことで理解を深められるよう工夫した。必要に応じて個別対応も行い、すべての質問に真摯に向き合ったことが、良い結果につながったと考えられる。
1年生に対しては、授業外に補講を実施し、少人数の利点を活かして個別に細やかな指導を行った。今後も結果に慢心することなく、学生の意欲向上に努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
生化学Ⅰ　補習	11	15	2024/10/7、10/21、 10/28,11/18,11/25,12/2、12/9、 12/16、12/23、2025/1/6、1/20
総合演習ⅢA	1	20	2024/4/17

3．研究活動

(1) 研究テーマ

①　乳酸菌代謝産物がストレス応答にもたらす影響

精神面と腸内環境のつながりは深く、「腸脳相関」という言葉でもよく知られている。心的外傷後ストレス障害（PTSD）を発症している人の腸内環境には異常がみられるとの報告もあることから、腸内環境とストレス応答の関係を明らかにするために、マウスを用いた恐怖の条件付け実験をおこなっている。腸内環境を整えるものとして、PS-B1を摂取させたマウス群と、水道水のみを与えたマウス群を準備し、腸内環境の変化と恐怖ストレス下における行動の違いについて解析をしている。

②　妊娠中に摂取した乳酸菌代謝産物が仔に与える影響

乳酸菌代謝産物を摂取したマウスの腸内細菌叢は、1週間で変化がみられ、ストレス応答に対する行動にも有意差が見られた。そこで、これらの乳酸菌代謝産物は、妊娠期にも安全に摂食できるのか、また仔へのリスクはないのかマウスを用いて検討を行っている。雌雄の交配時から授乳期までPS-B1を毎日経口投与し、仔マウスを4週齢で離乳。離乳した仔マウスは、PS-B1は与えず通常のエサで12週齢まで飼育し、その後、仔マウスの成長や、ストレス応答での行動変化、また恐怖記憶を司る海馬への影響を解析している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	100万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

妊娠期の母親のポストバイオティクス摂食が仔マウスの恐怖ストレス反応に及ぼす影響／2024年3月／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
乳酸菌生産物質の生理活性に関する研究	株式会社　バイオジェノミクス	令和6年4月1日-令和8年3月31日	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	会議に参加した
薬学図書選定	委員	教育に関連する本の選定を行った。
薬学教務	委員	オリエンテーションの準備・実施を行った。
薬学CBT実施	委員	CBT体験受験や本試験の準備や、実施を行った。本試験は、滞りなく実施することができた。
薬学入試募集	委員	オープンキャンパスの準備や実施を行った。また、学内イベントに関する問題点や改善点を報告した。
学生サポート室	委員	前期にサポート室要因としてお昼の時間に部屋で待機をしていたが、その期間は、誰からの要請もなかった。
ハラスメント相談員	委員	今年度は、特に相談は受けていない。
薬学入学前・初年次教育	委員	初年次に情報弱者をつくらないため、とくに中間試験の成績不振者との面談を繰り返した。また、補習を行った。
薬学OSCE実施	委員	OSCE準備や学評価者説明会の準備などを行った。
薬学学内実習	委員	実習室内の清掃や、不足品、破損品などの点検を行った。
薬学安全管理	委員	試薬の管理状況などの検査に協力をした。
動物室管理	委員	動物認証評価のための資料作成や、当日の外部評価者の受け入れ態勢などを整えた。そのほか、動物室の安定的な運用を心掛けた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

国際協力ワールドビジョンへの寄付を行い、子供たちが自分で生きる力を身につける活動に貢献した。また、地域清掃活動、防災訓練に参加した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学部の教員と有志の学生たちで、開国祭に出店を行った。小さな子どもでも楽しめるゲームを用意し、全員に景品を配ることで、利益よりも楽しさを重視した場を提供した。
一方で、小学生の保護者から「学祭には関係者以外は入構できないと思っていた」という声があり、同様に考えている地域住民が多いのではないかと不安を感じた。次年度は、より地域の人々が気軽に立ち寄れるような雰囲気づくりに努めたい。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も担当科目は責任を持って実施し、授業アンケートでも高い満足度を得ることができた。学生へのサポートとしては、定期的に連絡を取り、特に試験前や再試験前には激励のメールを送ることで、精神的な支援にも努めた。
委員会活動では、各委員会で協調性を保ち、提出期限を順守しながら円滑に業務を進めた。研究活動については、少しずつデータを収集し、学会発表の申し込みまで進めることができた。ただし、新しい解析方法や手技に取り組む時間を十分に確保できなかったため、次年度は研究活動により多くの時間を割くことを課題としたい。また、2月には、薬剤師国家試験の引率に初めて参加し、試験前の学生の緊張を和らげるよう励ました。この経験をもとに次年度の6年生に対し、早期からの試験対策の重要性の意識づけ、計画的な学習を促せるよう努めていきたい。
入試募集委員として高校の進路ガイダンスに参加し、薬学部のPR活動を行った。少子化の影響により、今後の学生確保が一層困難になることが予想されるため、積極的なPR活動を継続していく必要がある。特に、地方のコミュニティでは口コミの影響が大きいため、大学として地域に根ざした取り組みを進めていくことが重要だと考える。その一環として、開国祭にあわせたオープンキャンパスの実施を提案したい。受験生だけでなく地域住民にも大学の魅力を伝えることが地元高校生の入学を後押ししてくれるのではないかと期待している。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 山田　耕平

1．教育理念

医療、化学技術、社会構造がダイナミックに変化する時代において、社会に貢献する薬剤師の育成には、資格取得に必要な知識・技能の伝達のみならず、取得後も学び続ける姿勢、すなわち成長を楽しむ心の育成と、医療人としての責任感、すなわち人間力の育成が必須である。私はこれらの育成を以下のように実践したい。

(1) 成長を楽しむ心の育成

成長を楽しむ心を醸成できれば、社会貢献の意志とその遂行能力の向上も伴うと考えられるため、重要な素養であると言える。成長を楽しむことができるようになるには、成長を実感し、やればできるという自信をつける必要がある。

(2) 人間力の育成

よりよい社会を創造する人材には学力だけではない、以下の3点の人間力が求められるので、その向上を支援したい。

① チャレンジ精神と行動力、② 他者と協働するコミュニケーション力、③ 高い倫理観

常に学生と向き合い信頼関係を築き、ポテンシャルを引き出す努力を続けたい。学生に対してホスピタリティを尽くすことで建学の理念を体現し、学生にその精神を伝えていく所存である。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	②③⑨⑪
医薬品化学Ⅰ	4/15(前期)	1.5	1	①②③⑨
専門基礎学習Ⅱ	5/10(通年)	0.5	1	②③⑨⑪
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	②③⑨⑪
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	②③⑨⑪
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	②③⑨⑪
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	②③⑨⑪
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	②③⑨⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
有機薬化学Ⅱ	13/15(後期)	1.5	1	①②③⑨
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	②③⑨⑪
医薬品化学Ⅱ	5/15(後期)	1.5	59	①②③⑨
医薬品化学Ⅰ	4/15(前期)	1.5	79	①②③⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	②③④⑤⑥⑦⑧⑩
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	②③④⑤⑥⑦⑧⑩
ホスピタリティ演習Ⅱ	5/10(前期)	0.5	83	②③④⑤⑥⑨
専門基礎学習Ⅱ	5/10(通年)	0.5	78	②③⑨⑪
有機薬化学実習	33/36(後期)	1	96	①②③④⑩⑪
有機薬化学Ⅱ	13/15(前期)	1.5	99	①②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期：有機薬化学Ⅱの満足度は4.5、後期：生物有機化学の満足度は4.7となり、比較的高水準で推移していると思う。

授業改善点：宿題の内容を変更した。これまでは問題集の演習のみであったが、解答を写しているだけの学生が相当数いると感じた。提出状況は良いため、よりよい勉強法に切り替えさせる必要性を感じた。そこで演習のみならず、授業のまとめを文章で

書くことを追加した。文章にするためには考えて読み込まねばならず、結果として質の良い勉強になったのではないかと考える。実際、例年に比べて中間試験・定期試験ともに平均点は最高点であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保高等専門学校	一般化学	4/15(前期)	2	8

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
薬化学総論 補習	10	35	2024年5月9日～7月19日
有機薬化学Ⅰ 補習	13	35	2024年10月15日～2025年1月7日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生体高分子の精密化学変換を志向した実用的反応の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	3	3	1579万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

DEVELOPMENT OF DESULFURATIVE BORYLATION FOR THE CONVERSION OF CYSTEINE IN PEPTIDES／2024年10月29日／第61回ペプチド討論会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
小型自動車等機械振興事業に関する補助事業	公益財団法人JKA（代表）	2024年4月~2026年3月	1000万円
挑戦的研究（開拓）	科学研究費助成事業（分担）	2024年4月~2027年3月	150万円
基盤研究（C）	科学研究費助成事業（代表）	2022年4月~2025年3月	429万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	副委員長	入試・広報関連資料の作成、オープンキャンパス運営、入試監督、入試採点、高校訪問など、多岐にわたって行った。
共通機器管理委員会	委員	NMRの管理・運営を主に担当した。
安全管理委員会	副委員長	廃棄物管理、廃液管理を主に担当した。実験の手引きの作成を行った。安全管理に関わる学内の掲示物の見直しを行った。
教務委員会	委員	期初のオリエンテーション運営やシラバスチェックリーダーを行った。
就職委員会	委員	主に５年生向け就職説明会の運営を行った。
自己点検・評価委員会	委員	認証評価に向けた学部運営の点検・見直しを行った。
CAI運用・活用委員会	委員	主に３年生向けCAI試験の管理・運営を行った。

国試CBT委員会	委員	主に単位認定試験の準備を担当した。
３年生学年主任	主任	3年生向けのイベント等の管理・運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

西海学園高校ガイダンス2024年9月9日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州支部	幹事	2024年度～現在	日本薬学会九州支部
薬学教育協議会有機化学系教科担当教員会議	担当教員	2021年度～現在	薬学教育協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県高等学校総合文化祭【自然科学部門】第３０回科学研究発表大会　審査員

2024年10月26日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

講義に関しては、授業のやり方や宿題の出し方を工夫することで学生の自学を促すことができた。実際に学生の授業評価も上々で、【内容がむずかしいが、先生の講義はわかりやすい】というコメントももらえた。今後も切磋琢磨したい。

校務においては、特に入試募集委員会の副委員長として入試関連業務やオープンキャンパス業務に精力的に取り組んだ。入学数が減少しているため、来年度は状況確認、原因究明、対策をしっかりと行っていきたい。

研究活動としては、まとまった研究費が頂けたので、大いに研究を進めることができた。今後も精進していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 石原　知明

1．教育理念

私は、AIやロボットで置き換わることのできない、次世代で活躍することのできる薬剤師を養成することを目指して教育活動に取り組んでいます。

これからの薬剤師には、医師などの医療スタッフと協力して治療に関わることのできる能力がこれまで以上に求められます。そのために、「高度な専門的知識」を持つことはもちろんのこと、それに加えて「問題・課題の発見能力」、「それらを解決するための情報調査能力・論理的思考力」、「それらを適切に伝えるプレゼンテーション力と内容を議論する力」が必要不可欠であると考えます。これらの能力はいわゆる通常の講義形式の授業だけでは習得することが難しいため、研究室での教育活動を通してこれらの能力が習得できるように、一対一での徹底的なトレーニングを行っています。これにより、将来的に活躍が期待される、真に患者さんの治療に貢献することのできる薬剤師の養成が可能になると考え、日々学生さんと向き合っています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	0/27(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	9/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	0/40(通年)	3	4	①②④⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
細胞生物学	6/15(後期)	1.5	2	①②⑨
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
細胞生物学	6/15(後期)	1.5	91	①②⑨
基礎の生物学	15/15(前期)	2	57	②⑨
分子細胞生化学演習	2/12(後期)	0.5	47	②④⑨
薬学英語	2/12(前期)	0.5	89	①⑤⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
ホスピタリティ演習Ⅲ	2/8(後期)	0.5	97	①④⑥⑪⑫
生化学実習	9/21(後期)	1	97	①②④⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

アンケートでは、受講学生の満足度が4.6－4.7（5点満点）と、高い満足度の授業が提供できたと考えている。小テストや論述問題の添削など、学生さんが躓くポイントに対してきめ細やかな対応が功を奏していると考えている。また、薬との関連や最新の研究についての話を随時行うことで、学生さんたちが生物に興味を持ち、面白いと思ってくれるような工夫を行なった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立佐世保東翔高校	職業別分科会	1/1(後期)	なし	なし

こころ未来高等学校	職業ガイダンス	1/1(後期)	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
生化学補習	3	16	2024年10月7, 21, 28日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生体内には極めて多様な脂質分子種が存在し、それらの質的・量的な制御は生体恒常性において重要な役割を果たしている。近年の質量分析器の技術革新により、生体内に存在する脂質分子種を包括的に捉えることが可能になっている。このような技術基盤を用いてこれまでに、老化に伴い現れる様々な脂質代謝変動が明らかになりつつある。しかしながら、そのような変動が加齢に伴う生体恒常性の破綻や老化に関連する疾患（認知症、心血管疾患、メタボリックシンドロームなど）においてどのような役割を果たすのか、その因果関係についてはほとんど明らかにされていない。そこで私は現在、加齢に伴う脂質代謝変化を包括的に解析し、その脂質代謝変化のキーとなる代謝酵素を同定することを通し、脂質代謝変化と老化に関連する表現型との因果関係を分子レベルで明らかにすることを目指して研究を進めている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	2	2	2	916万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Deuterium-reinforced polyunsaturated fatty acids protect against muscle atrophy by STZ-induced diabetic mice.／2025年3月／Free Radical Biology and Medicine.／DOI: 10.1016/j.freeradbiomed.2025.02.015／共著／論文

A lipidome landscape of aging in mice.／2024年4月／Nature Aging.／https://doi.org/10.1038/s43587-024-00610-6／共著／論文

マウス加齢変容のノンターゲットリピドミクス／2025年3月／炎症と免疫／33(2). 91-6.／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

A型ウエルシュ菌感染に対する宿主応答の解析／2024年8月／第97回日本細菌学会総会

黄色ブドウ球菌のバイオフィルム形成を阻害する膜酵素の同定／2024年9月／九州微生物研究フォーラム 2024

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
老化に伴い発現する脂質代謝異常とその生理学的役割の解明	基盤研究(C)	2022-04-01 - 2025-03-31	416万円
老化に伴い増加するビスモノアシルグリセロリン酸によるオートファジー制御機構の解明	基盤研究(C)	2026-04-01 - 2029-03-31	500万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	4年生の学年主任として中心的な役割を果たした。 学年主任として国試・CBT委員会のサポートを行った（単位認定試験の準備など）。 生物系科目の次年度シラバスのチェックを行った。
安全管理委員会	委員	感染性廃棄物の処理を行った。 安全の手引きのリニューアルを行なった。

入試募集委員会	委員	4回のオープンキャンパスの準備や、当日の高校生やご家族と交流し、本学薬学部のアピールを行った。 高校生を対象とした出張授業を行い、薬学部や薬剤師に関する情報提供を行った。高校生に薬に関する興味を持ってもらえるように配慮した。 募集増加のためのアイデアを学部長に提案した。
学生委員会	委員	新たな試みとして、新入生が大学生活を楽しく送れるように４月に新入生歓迎イベントを開催し、上級生との交流を行った。
広報委員会	委員	薬学部教員の教員紹介ページの更新と薬学部教員からのホームページトピックスのアップを行なった。
自己点検・評価委員会	委員	プレイスメントテストの結果、GPA、留年、休学退学などのデータをまとめ、入試区分の見直しが必要かどうか考察した。 第三者評価に向けた準備を行った。
地域連携委員会	委員	高校生を対象とした夏休みの体験実験に参加した。 ホスピタリティ演習Ⅲの寄附講座の評価を担当した。
研究等倫理委員会	委員	申請された実験計画の審査を行った。 規則の変更についての提案を行なった。
教育基盤センター運営委員会（全学）	委員	入学前教育の企画、運用、評価を行った。 離学防止対策として、新入生が大学生活を楽しく送れるように新入生歓迎イベントを開催し、上級生との交流を行った。
広報委員会（全学）	委員	大学のアピールのために、ホームページの更新について具体的な提案をおこなった。 イベントごとに写真の撮影を行なった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

長崎県立佐世保東翔高校　職業別分科会・11月19日・「薬学への招待」
こころ未来高等学校　職業ガイダンス・2月26日・「薬学への招待」
大学ホームページ 教員紹介の更新
大学ホームページ トピックスの更新
九州文化学園SDGsイベント用の動画作成

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬学への招待	11/29	長崎県立佐世保東翔高校	入試募集委員会
薬学への招待	2/26	こころ未来高校	入試募集委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

総合企画室と連携し、九州文化学園として参加するSDGsイベントで使用する動画撮影を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動に関して、アンケートの結果からほとんどの学生さんに対して高い満足度の授業を展開できたものと考えている。また、小テストや論述課題の添削を行ったことで、理解できていないポイントを把握することができたので、その点をカバーするように授業展開の修正などを行って対応できたと考えている。学生さんの「考える力」を醸成するための策を考える必要があると感じており、この対策を来年の課題とし、より実りのある授業を目指したい。

研究活動に関して、論文として英文が２報、和文が１報掲載されたほか、新たに英文１報が投稿中の状態である。また、来年度から新たな科研費を頂けることが決まっている。新たなテーマでの研究展開も行なっており、今後も精力的に活動していきたい。

委員会活動において、離学防止や募集強化を目的とした活動に精力的に取り組んだ。離学防止対策として、学生生活の満足度向上のために新入生と在学生の交流会を行った。これにより、サークルに所属する学生が増加したようである。また、募集の強化として、入試募集委員会での提案や広報委員会で大学HPの改変についての議論を進めている。今後も積極的に参画し、大学の発展に貢献したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 榎本　彩乃

1．教育理念

私の教育理念は、薬剤師に不可欠な自然科学の基礎知識と応用力を確実に修得させることで、問題解決能力を十分に備え、実践で活躍できる薬剤師を育成することにある。これにより、「質の高い健康と福祉を人々に提供する」というSDGsの目標に貢献できる人材を輩出したい。

近年、AIや機械化の発展により、従来に比べて医療スタッフの技量に依存せず、質の高い医療を提供しやすくなると予想されている。この結果、薬剤師の多くの単純業務はAIに代替されると考えられており、人間に求められるのは、対人での議論の中で適切な薬学的知識を確実に提案できる技量である。

そのためには、根本となる基礎知識を基に、点と点を結びつけて考察できる論理的思考力が重要となる。私は、生涯にわたって活用できる確実な知識を、実践と結びつけながら教授し、学生が主体的に学べる環境を提供したいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	3/30(後期)	2	88	①⑨
薬品物理化学Ⅰ	5/15(前期)	1.5	97	①④⑧⑩
基礎の物理学	15/15(前期)	2	25	②③⑨
薬品物理化学Ⅱ	5/15(後期)	1.5	100	①④⑧⑩
物理学演習	12/12(後期)	0.5	28	②③⑨
物理化学実習	21/21(前期)	1	83	①④⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの結果を踏まえると、物理を苦手とする学生が多い中でも、理解度・満足度は4.5/5以上と比較的良好であったと考えられる。講義ごとに課題兼アンケートを提出させ、可能な限り学生の要望に応えるよう努めた。その結果、「高校時代よりも物理ができるようになったと感じる」という意見をはじめ、好意的な意見を得ることができ、また平均点についても昨年よりも上がった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の物理学補習	10	30	2024/4~2024/7
総合演習IIIB（6留）	1	10	2024/4/30

３．研究活動

(1) 研究テーマ

オーバーハウザー効果MRIの臨床化を目指したOMRIシステム低電力化及び汎用性向上に関する研究、生体内因性ラジカルを指標とした脳内酸化ストレス状態の計測手法開発をはじめとして、磁気共鳴法を用いたフリーラジカル検出手法の開発及び新規測定機器・測定手法の開発を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	4	2	2	4672万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Line-Shifting Triarylmethyl Radicals for Imaging of Enzyme Activity Using Overhauser-Enhanced Magnetic Resonance Imaging: Application to Alkaline Phosphatase／2024/11/23／Chemical & Biomedical Imaging／https://doi.org/10.1021/cbmi.4c00059／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

生体加熱低減を目的とした低電力OMRI法の開発／2024/11/4／第63回電子スピンサイエンス学会

EPRI法・OMRI法を用いた生体内フリーラジカルin vivo計測手法の開発／2025/1/28／第3回 DNP研究会

EPRI法・OMRI法を用いた生体内フリーラジカル計測装置の現状と展望／2025/2/28／分子研研究会/スピン生命異分野研究会

臨床利用を目指した生体内フリーラジカル計測技術開発と応用／2025/2/27／長崎国際大学学術研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
内因性抗酸化物質を指標とした非侵襲な脳内酸化ストレス状態定量的評価手法の新規構築	日本学術振興会	2023年4月 - 2026年3月	1872万円
臨床用OMRIの技術基盤の構築と実証研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	2024年4月 - 2028年3月	2800万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究不正防止委員会	委員	研究費を獲得している薬学部教員の監査を行った。
薬学部学生委員会	委員	学生委員として特待生成績の判定業務、保護者会等のイベントでの準備・当日対応等を行った。
薬学部教務委員会	委員	6年学年主任として国試ツアーに参加したほか、週ごとの時間割の確認、随時試験日程調査及び調整、教室確保の業務を行った。
国試CBT対策委員会	委員	主に5年生試験の編集・準備・解析を担当し、また全体の試験準備担当者の割り振り等を行った。
CAI活用委員会	委員	CAIによる試験問題登録、週間試験の設定と解析、またCAI問題に対する疑義回答を行った
薬学部動物室管理委員会	委員	動物室管理のため備品の確認や清掃等を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
予測不能な未来を楽しもう！理系進学で拓く意外なキャリアパス	2024/11/11	智翔館佐世保駅前校	智翔館、長崎国際大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	令和6年度～現在に至る	日本学術振興会
電子スピンサイエンス学会	現地実行委員	令和6年11月1日～11月4日	第63回電子スピンサイエンス学会実行委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動について：本年度も、昨年度に引き続き、学生の希望を可能な限り取り入れた講義の実施を心がけた。また、学生の自主的な学習を促進するために、自習用のプリント等を作成・提供し、一定の学習支援を行った。これにより、一部の学生において成績向上の効果が見られ、特に後期の演習科目では全員が合格点を取得するなど、学習成果の向上が確認された。今後も、学生の理解度や学習意欲を考慮した講義を行うよう努め、さらなる学習効果の向上を図る。

研究活動について：研究活動に関しては、複数のプロジェクトをほぼ一人で同時並行的に進めている状況であり、現時点では十分な研究成果を得られていない点が課題である。この状況を改善するため、パートの雇用等による業務負担の軽減を図り、研究の進行をより加速させることが必要である。今後は、研究の効率化を進め、論文執筆・投稿の促進を目標とする。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 大久保　伸哉

1．教育理念

以前私が病院薬剤師として実務実習に励む薬学部生を指導した際に、長崎国際大学の学生は他大学の学生と比較して、患者のみならず職員に対する気配りも上手で心の優しい学生が多い印象を受けた。これは、長崎国際大学の建学の理念の「人間尊重」の重要性を学生が理解し、「ホスピタリティの探求・実現」を実行しているからだと思う。このことは、長崎国際大学の魅力であると同時に大きなアドバンテージだと実感しており、大学教員となった現在、私もそのような学生を育てる教育を行いたいと考えている。そのために、以下の理念を掲げるとともに以下の手法を用いる。講義においては、病院および薬局での勤務経験を活かし、ひとつの事項に対し病院薬剤師あるいは薬局薬剤師の視点から内容を吟味した講義を実施する。例えば、薬剤師として患者から求められる知識・アドバイスにおいて、病院と薬局で共通する点あるいは異なる点を区別しながら示す。それによって、病院薬剤師と薬局薬剤師の役割や求められる職能の違いを、学生がより具体的にイメージできるようになり、非常に有意義な講義になると考える。演習では、担当する領域（実務）の国家試験過去問題を解かせ、解答の解説に力を注ぎ、確実に点をとれるような演習を実施する。また、本領域においては、薬剤師としての適切な倫理観を問うような問題が多くあるので、正答の選択肢の解説よりも、誤りの選択肢のどこが適切でないのか時間をかけて解説し、学生が誤解なく理解できるような演習にすることを心がける。知識の習得のみならず、人間尊重の理念に基づいた、薬剤師にふさわしい倫理観を構築できるような演習にする。実習では、臨床の現場は作業スピードと正確さを重要視することから、素早いスピードを保ちつつ正確さを損なわないような動き方や考え方を、学生に自ら考えさせるような指導を行う。その際には、ホスピタリティの探求を意識させ、効率を優先するあまり、共に作業にあたる者の気分を害するような動き方になってしまわないよう最大限留意させる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	7/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	5/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	5/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	4	①②④⑨
実務実習（病院・薬局）	1/1(通年)	20	102	①④⑥⑦⑪⑫
専門演習Ⅱ	5/23(通年)	1.5	101	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	7	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	7/30(後期)	2	88	①⑨
調剤学	5/15(前期)	1.5	103	①②⑨
在宅医療概論	1/15(前期)	2	194	①②⑤⑩⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
処方解析	21/33(後期)	2	97	①②④⑥⑦
処方解析	21/33(後期)	2	97	①②④⑥⑦
総合実習	18/21(後期)	1	102	①④⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
調剤Ⅰ	24/51(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅰ	24/51(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅱ	24/66(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅱ	24/66(前期)	2	98	①②④⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

大学教員就任5年度目としては、問題ない評価であったのではないかと感じている。それと同時に、これまでの5年間を通して評価が悪くなかったことから、私の授業に大きな問題はないと考えられ、現状を維持していくことが重要であると考えている。初年度から『次年度は、本年度の評価を下回ることがないよう、作成済みの講義資料（実習で使う配布資料含む）のアップデートを行い、説明する際のセリフを磨き、整然とした分かりやすく熱意のこもった授業を実施することを目標とする。』ということを継続して掲げてきた。個人的には、目標に定めた事項を本年度もおおむね実行できたのではないかと考えている。次年度も同様のことを意識しながら、わかりやすい授業になるよう心掛けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢＡの特別補習	1	17	2024年4月22日
総合演習ⅢＡの補習	1	30	2024年5月14日
総合演習ⅢＡの特別補習	1	17	2024年5月21日
専門演習Ⅰ（再）	1	9	2024年5月22日
専門演習Ⅰ（再）	1	9	2024年6月26日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

『医療用医薬品成分に対するモノクローナル抗体を用いた応用研究』

医療用医薬品として使用される薬用成分に対するモノクローナル抗体を作製し、薬物濃度を測定するためのELISAおよび新規測定法の開発を目標に日々研究に取り組んでいる。最終的には、臨床における血中薬物濃度測定法への適応を目指している。

『オートファジー制御機能成分を用いた抗がん活性評価と応用研究』

漢方薬の素材である生薬に着目し、約130種の生薬エキスライブラリーの中からオートファジー制御活性を有する生薬エキスを見出した。続いて、それらに含有される活性成分のオートファジー制御作用および作用機序を検証し、がん細胞のオートファジーを阻害する活性成分を発見しました。今後は、がん細胞がオートファジーを介して獲得する様々な細胞防御機構に対して、見出した活性成分の機能評価を行うことで、オートファジー制御を介した新たな抗がん剤開発の礎となれるような研究を行っていく。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ラコサミドの副作用発現に影響する因子の解析／2024年11月4日／第34回日本医療薬学会年会

牛蒡子の主要成分アルクチゲニンは短時間処理によってがん細胞特異的に細胞増殖抑制効果を発揮する／2025年3月28日／日本薬学会第145年会

牛蒡子の主要成分アルクチゲニンの細胞増殖抑制効果／2025年3月28日／日本薬学会第145年会

ダビガトランの出血性有害事象に影響する因子の解析ならびに新規ダビガトラン血中濃度測定法の開発／2025年3月28日／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
（全学）就職委員会	委員	薬学科代表として、毎月開催される委員会に参加した。
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	外部主催の模試（薬学ゼミナール等）の実施担当者として、事前準備・当日の運営・回答用紙の主催者への郵送および成績の解析などを行った。
薬学部入試募集委員会	委員	オープンキャンパスの際に、キャンパスツアーで見学する模擬薬局・模擬病室・模擬クリーンルームに、実務家系教員を1か所当たり1名以上配置できるよう、実務家系教員のスケジュール調整を行った。
薬用植物園運営委員会	委員	薬用植物園の定期的な巡回、倒れた看板の立て直し等を行った。
薬学部事前学習運営委員会	委員	会議の議事録作成等。
薬学部OSCE実施委員会	委員	会議の議事録作成等。
薬学部実務実習運営委員会	委員	会議の議事録作成等。
薬学部生涯学習・教育委員会	副委員長	第13回生涯教育セミナーを企画し、演者の選定や事前準備、当日の運営を行った。加えて、薬剤師の単位取得（研修センター）に関する諸手続きやデバイスの準備、当日の受付や単位認定の申請手続き等を行った。
薬学部就職委員会	委員	薬学部企業研究セミナーの実施を担当した。
同窓会薬学部門支援委員会	委員	薬学部1期生の幹事を兼任しており、適宜、1期生に対する事務連絡等や退職教員による最終講義の案内を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・【長崎南ＳＳＨ事業「未来ﾃﾞｻﾞｲﾝｽｸｰﾙ」】における講師／令和6年10月22日／長崎南高校

・【長崎国際大学薬学部×智翔館タイアップ企画　佐世保発　地元で学ぶ～研究者編～　リケダンリケジョ　予測不能な未来を楽しもう！】　における講師／令和6年11月11日／佐世保智翔館

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外

2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

国際査読付き学術誌の査読：3件

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、前期および後期ともに授業アンケートの評価は悪くなかった。また、初めて担当した教養セミナーは、最初は戸惑いもあったが最終的には問題なくかつ楽しく実施できた。今年度の振る舞いを、毎年実施（継続）できるよう尽力する。

研究に関しては、例年に引き続き担当している2名の学生が両名とも学会発表（薬学会年会）を希望したため、魅力的な発表ができるよう、十分な時間をかけて指導を行った。また、学会発表に備えて、データ解析を含めた発表資料作成における助言や研究内容の理解を深めるためのディスカッションを適宜行っているので、万全の状態で発表日を迎えさせることができると思われる。なお、今年度新たに得た結果をもって、次年度内に論文を執筆し、査読付き国際誌へ投稿する予定である。

最後に1年間の総括として、大学教員5年目になり、担当する業務が非常に多くなった。研究に費やすことのできる時間は限られたが、隙間時間を見つけ実験を重ね、納得のいく結果を得ることができた。次年度も現在のモチベーションを維持しながら業務遂行に努め、教育活動と研究活動の両立に努めたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 川嵜　達也

1．教育理念

私の教育理念のキーワードは，1）知の融合・活用 2）数学アレルギーの脱感作 3）学生と授業を作る，である。

1. 学生が薬剤師に成長する上で，科学的思考力の修得は必須である。科学的思考の根底にあるのは自然科学の知識である。学生は種々の科目で日々知識を得ていくが，往々にして各知識間のつながりに気づかず，定着度が低く，活用の仕方がわからない。そのため，（動態と物化生，分析，衛生など）分野間のつながりを意識させることを重視している。また，コロナ禍で培われた非対面実習の経験を活かして，実験研究において知が如何に活用されているか，写真資料で示している。

2. 薬物動態学は，数学に立脚する学問であるが，薬学系の教科書は理論が省略されすぎており，式の暗記に陥りがちである。さりとて数学系の教科書は必要以上に理論が細かく数学に苦手意識を持つ学生が独学することは難しい。そこで，基礎と実学の良いとこ取りを提供し，教科書の行間・背後に隠れている数学的な物事の捉え方，考え方を身につけるために問題演習を実施している。

3. 理解度の様々な学生に対して講義するに当たり，薬学教育モデルコアカリキュラムに規定されている項目を最低限網羅するだけでなく，適宜内容の増減，反復が必要と考える。そこで，講義毎に理解度を確認するための小テストを実施するとともに，自由記述欄を設け講義への要望を記入してもらい，次回講義時にフィードバックしている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	10/30(前期)	2	10	①④⑨
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	95	①
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	14/3(通年)	3	4	①②④⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	①
総合演習ⅢＢ	10/30(後期)	2	88	①⑨
臨床薬物代謝学	7/15(後期)	1.5	80	①⑧⑨
薬物動態学	15/15(前期)	1.5	103	①⑧⑨
総合実習	18/21(後期)	1	102	①④⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	4	⑥⑦⑩
コンピュータ基礎ⅠA	5/15(前期)	1	88	②④⑪
調剤Ⅰ	15/51(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅰ	15/51(前期)	2	98	①②④⑪
薬剤学実習	21/21(後期)	1	83	④⑩⑪
分析化学・放射線化学実習	13/27(前期)	1	100	①②③④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生の基礎学力に応じた専門科目(臨床薬物代謝学，薬物動態学)講義内容の改定を目指して，manabaを活用した双方向性講義におけるアンケート結果を収集し適宜講義資料を改善した。薬物動態学では中間試験を導入し，学生の理解度向上を定期試験にて確認した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
6年生 演習 特別補修	3	17	4/24. 5/14, 5/23

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・薬物トランスポーターの迅速機能解析を目指した構造・機能・制御機構に関する研究

・トランスポーターを標的とする食品/薬物-薬物相互作用に関する研究

・抗腫瘍創薬を志向した種々レクチンの機能的異種発現・精製に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	2	2	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Novel Galectins Purified from the Sponge Chondrilla australiensis: Unique Structural Features and Cytotoxic Effects on Colorectal Cancer Cells Mediated by TF-Antigen Binding／2024/8/31／Marine Drugs／10.3390/md22090400／共著／論文

Multifunctional Cell Regulation Activities of the Mussel Lectin SeviL: Induction of Macrophage Polarization toward the M1 Functional Phenotype／2024/6/11／Marine Drugs／10.3390/md22060269／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

分子科学計算に基づく分子改変によるMytiLec-1の糖鎖結合認識に対する基礎検討 (2)／2025/3/27／日本薬学会第145年会(福岡)

腫瘍糖鎖Tn抗原に結合する九十九島産新種ナマコCladolabes kirara由来レクチンの一次構造解析と糖鎖結合性のプロファイリング／2025/3/28／日本薬学会第145年会(福岡)

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費24K15170基盤研究(C)（研究分担者）	日本学術振興会	2024/4/1-2027/3/31	0万円
科研費23K06190基盤研究(C)（研究分担者）	日本学術振興会	2023/4/1-2027/3/31	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学放射線防護委員会/薬学部RI施設管理委員会	放射線取扱主任者・安全管理担当	放射性同位元素等の規則に関する法律改正に伴う本学防護規程の改定
薬学部入試募集委員会	委員	大村高校出張講義担当

薬学部CAI運用活用委員会	委員	単位認定試験実施準備，監督，成績集計担当
薬学部地域連携委員会	委員	寄附講座採点等
薬学部OSCE実施委員会	委員	OSCE レーン副責任者，調剤I，総合実習担当
薬学部図書選定委員会	委員	図書選定
薬学部教務委員会	委員	オリエンテーション等
薬学部国試･CBT対策委員会	委員	週間試験準備・成績解析、模試・販売・学内試験準備等
全学研究センター委員会	委員	論叢査読依頼等，研究報告会実施

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・2025年2月8日大村高校 進路ガイダンス(出張講義/実験体験)　担当
・2024年6月29日リケフェス in SASEBO 担当
・2024年10月27日 佐賀大学リケフェス2024 担当

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

Scientific Reports誌査読担当4回

Medicinal Chemistry Research誌査読担当3回

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究面では，科研費基盤Cに不採択であったが，学内共同研究者の分担2件を通じて，論文採択2件，学会発表2件であった。教育面では，薬物動態学で中間試験を導入し，学期終了時における学生の理解度向上に繋げた。昨年に引き続き，入試募集に繋がる出張講義を担当し，新規に，QSP事業における実習体験を担当した。放射線防護委員会では，専任放射線取扱主任者として，原子力規制庁の定期査察に対応した。引き続き，研究，教育，学内運営をバランスよく行い大学運営に貢献したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 倉岡　卓也

1．教育理念

生涯学習し、人のことを考えて行動できる薬剤師の育成を基本理念としています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	0/45(通年)	3	4	①②④⑨
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	101	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	4/30(後期)	2	88	①⑨
地球環境と倫理	2/15(前期)	1.5	93	②③⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
ホスピタリティ演習Ⅲ	2/8(後期)	0.5	97	①④⑥⑪⑫
コンピュータ基礎ＩＡ	5/15(前期)	1	88	②④⑪
衛生化学Ⅱ	7/15(前期)	1.5	77	①⑩
生化学実習	9/21(後期)	1	97	①②④⑪⑫
微生物学・免疫学実習	15/27(前期)	1	82	①④⑤⑩
感染防御学	2/15(前期)	1.5	89	⑧⑨
感染防御学	2/15(前期)	1.5	89	⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

衛生化学Ⅱ及び生化学実習についてアンケートを実施した。いずれも4.5前後と概ね良好な評価が得られた。

衛生化学Ⅱについては、他の科目（特に物理、化学、生物）と結びつけて授業を行い、知識の定着を意識して授業を行った。また、国や公共機関が公表しているデータを見ながら、解釈の仕方を解説した結果だと考えられる。一方で、特定のテーマに時間を掛け過ぎて後半のテーマが中途半端な内容となっていたため、来年度は時間配分を改善したい。

生化学実習については、目的・実験手法の意義について丁寧に説明したため、大部分の学生の満足度が高い結果となった。しかし、実験の注意事項の説明不足等があったため、来年度は十分な説明を実施する。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	微生物学	30/30(前期)	2	62

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅲ（再）	1	3	2024年4月26日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

（1）抗生物質を利用した新しい研究用試薬の開発：微生物が産生する二次代謝物は様々な生理的機能を持つことが知られている。放線菌の産生する抗菌活性を有する抗生物質群のうち、ある糖鎖に特異的に結合し複合体を形成、沈殿させる物質を見出しました。このあたかもレクチンの様な性質を利用して新しい研究試薬への応用を検討している。

（2）冬虫夏草の人工培養で産生される生理活性物質の探索：昆虫生体培養法を用いて冬虫夏草の安定供給に成功している企業と提携し、この抗腫瘍活性本体（低分子化合物）の特定及び構造決定を目標に冬虫夏草培養液の分離・精製を進めるとともに、正常細胞への影響を動物実験等から評価することで、新規医薬品リード化合物の発掘と同時に他の生物活性を探索している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	5	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

薬剤耐性の新興カンジダ症原因酵母 Candida norvegensis N-結合型マンナンの化学構造／2025年3月5日／日本農芸化学会2025年度札幌大会

異なる温度で培養したCandida auris細胞壁マンナンの構造変化について／2025年3月5日／日本農芸化学会2025年度札幌大会

出芽酵母細胞壁に見出された糸状菌型マンナン構造／2025年3月5日／日本農芸化学会2025年度札幌大会

病原性酵母 Candida orthopsilosis 細胞壁から精製したN結合型マンナンの構造解析／2025年3月29日／日本薬学会第145年会

ヒト膵癌細胞に対する Ophiocordyceps nutans の抗腫瘍効果／2025年3月27日／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試・CBT対策委員会	委員	アンケートの作成・実施・集計、模擬試験の準備・管理を担当した。
CAI運用・活用委員会	委員	CAI試験の準備及び当日の管理、試験結果の集計を担当した。
薬学部学生委員会	委員	卒業式の準備・当日の学生誘導を担当した。
生涯学習・教育委員会	委員	生涯学習セミナーの準備、当日の参加者誘導を担当した。
薬学部地域連携委員会	委員	ホスピタリティ演習Ⅲの一環で行われる「地域の期待に応える実践活動」の運営を担当した。
同窓会薬学部門支援委員会	委員	同窓会薬学部門と大学との連携に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育面に関しては、2つの科目について授業アンケートを実施し、いずれも例年と同様の評価となり概ね良好な結果となった。来年度もこの結果を維持しつつさらに向上させるために、分かりやすく丁寧な授業及び実習を心がけたい。

研究面に関しては、論文を投稿することができなかったが企業の協力があり、これまでできなかったHPLC分取を実施することができた。また、薬学部研究発表会の質疑応答の時間で助言いただいたことにより、期待するデータを出すことができた。来年度は論文投稿を目指して邁進する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和６(2024)年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 末廣　真理恵

１．教育理念

薬学教育においては、６年制薬学部を卒業し誕生した薬剤師の現状を点検・評価し、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改訂が進んでいる。その中で、今後臨床系の科目や病院・薬局における実務実習のさらなる充実を図る必要性が強調されている。私は、薬剤師の実務を経験した教員として、臨床の場で働くために必要な知識や考え方を学生に伝え、学生自身が能動的に学習する意欲の向上に貢献していきたい。また、私自身が長崎国際大学薬学部の卒業生で、６年制教育を受けて薬剤師になり、実際に実務実習や国家試験を経験していることから、比較的学生に近い立場の教員として学生の意見を学部の運営にも活かしていけるよう努力していきたい。

これからの薬剤師に求められる資質の１つとして「研究マインドを持った薬剤師」が挙げられる。実際に病院薬剤師として勤務していると、様々な職種の医療スタッフが専門性をそれぞれ発揮する「チーム医療」において「薬剤師の視点」が他の職種から強く求められていると感じることが多くある。薬学部の学生は共用試験や国家試験に合格することにばかり目を向けがちだが、学部の学生のうちに研究に触れておくことは、将来の選択肢を増やすとともに薬剤師として働くために必要な資質や生涯学び続ける姿勢を養う上で非常に大切である。私が実務系の教員とし現場の薬剤師の視点を生かして研究活動を行うことで、今後、薬剤師となっていく学生に「研究」を身近に感じてもらうことができると考えている。さらに研究に興味を持った学生が、将来薬剤師として活躍する中で自分自身の視点で臨床現場における問題点を見つけ発信できるように、そして、1人1人の学生が医療現場で必要とされる存在となれるような指導を行いたいと思っている。その結果として長崎国際大学薬学部を、薬剤師として活躍するために必要不可欠となる「問題解決能力」を醸成する大学としての位置づけを確固としたものとすることに微力を注ぎたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
専門基礎学習Ⅱ	10/10(通年)	0.5	1	①④⑥⑨⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	88	①⑨
病院薬学	5/15(後期)	1.5	83	①②④
薬事関係法規	7/15(前期)	1.5	102	①⑧⑨
医療コミュニケーション	24/31(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
医療コミュニケーション	24/31(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
処方解析	33/33(後期)	2	97	①②④⑥⑦
処方解析	33/33(後期)	2	97	①②④⑥⑦
総合実習	18/18(後期)	1	102	①④⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	④⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	④⑦⑫
ホスピタリティ演習Ⅱ	8/8(前期)	0.5	83	①④⑥⑪⑫
専門基礎学習Ⅱ	10/10(通年)	0.5	78	①④⑥⑨⑪⑫
調剤Ⅰ	33/39(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅰ	33/39(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅱ	27/36(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅱ	27/36(前期)	2	98	①②④⑪

学際連携研究	1/15(前期)	2	198	②③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの結果、概ね高得点を得られていたので、今後も引き続き高評価を得られるよう努力する。出席に関してもっと厳しくして欲しいという意見があったので、来年度以降の授業に活かしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合実習の補習	10	70	2024年12月9、10日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

薬剤師業務に関する各種臨床研究
若年者への薬の適正使用に関する薬教育の効果に関する研究
新型コロナワクチンの有害事象と抗体価に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

新型コロナワクチン5回接種後有害事象とインフルエンザワクチン同時接種の影響／2025/03/27／第145回　日本薬学会
保険薬局応需処方箋の一元化に関する横断研究／2025/03/27／第145回　日本薬学会
全国保険調剤データから見た処方薬一元管理に対する施設背景の影響／2025/03/29／第145回　日本薬学会
かかりつけ薬剤師届出薬局数に　影響を及ぼす因子についての調査／2024/11/10／第5回長崎県薬剤師学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
九文中学校薬剤師体験教室	10月23日	長崎国際大学	九文中学校
キッズキャンパス「薬剤師体験教室」	11月9日	長崎国際大学	佐世保市薬剤師会
高校生薬学セミナー	2月8日	長崎国際大学	長崎県

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

講義、実習等の内容の見直しを行い、概ねより円滑に進めることが可能となった。業務の効率化を図り、来年度は研究活動に重点をおけるよう努力したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 相田　美和

1．教育理念

確かな知識とホスピタリティの精神に基づいて、患者やその家族、他の医療従事者等と接することのできる薬剤師として、活躍できる人材の育成を願っている。担当科目は、環境や薬毒物の害から健康を守るために必要な領域であるので、人や動植物の安全な生活を考慮して行動できる医療人を育てたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	4/27(前期)	2	10	②
総合演習ⅢＡ	2/27(前期)	1.5	2	②
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	②
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	②
専門演習Ⅰ	6/40(通年)	3	4	②
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	101	②
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	2	⑥⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	⑥⑪
総合演習ⅢＢ	4/30(後期)	2	88	②
毒性学	15/15(後期)	1.5	79	②⑨
裁判化学	15/15(前期)	1.5	84	②⑨
衛生薬学実習	15/18(前期)	1	83	②⑪⑫
香粧品学	15/15(後期)	1.5	79	②⑨⑩
学際連携研究	1/15(前期)	2	198	②⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの満足度の項目は昨年度と同程度であった。

授業回毎に確認問題を配布し、復習を促している。また、特に学生が苦手とする箇所は、授業中に問題を解き、解説している。確認問題があって復習しやすかったとの授業アンケートのコメントもあり、一定の効果はあったと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学	組織発生学	10/10(後期)	1	29

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習Ⅰ	2	4	2024年6月12日、2024年6月19日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

気道における匂い成分の生理作用の解明を目指している。

匂い成分は鼻などの嗅覚神経細胞に発現する嗅覚受容体に認識されるとその情報が嗅球に送られて匂いとして感知される。揮発性である匂い成分は吸気として呼吸器と接するが、呼吸器に異所性に発現する嗅覚受容体の働きは不明な点が多い。そこで、ヒ

ト正常気道細胞株と発現する嗅覚受容体およびそのアゴニストを用いて、気道における匂い成分の嗅覚受容体を介した生理作用を解析する。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	10万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト正常気道上皮細胞におけるcinnamaldehydeにより誘導される細胞死の様相／2025年3月28日／日本薬学会第145回年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
生活環境を阻害する微生物の活動抑制に役立つ『バイオ衛生器具』の評価に関する研究	有限会社ホテイ産業研究所	2024年4月1日～2025年3月31日	10万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学内実習委員会	委員長	共通実習機器のメンテナンスや学内実習費の有効利用を通して、円滑で有意義な実習の遂行に努めた。
国家試験対策委員会	委員	5年生担当として、専門演習Ⅱ/総合演習Ⅱの単位認定試験実施・解析を行った。
研究等倫理委員会	委員	遺伝子組換え実験、動物実験等の倫理申請の審査を分担した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外

2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市情報公開審査及び個人情報保護審議会委員	委員	令和元年11月～現在に至る	佐世保市長
長崎県都市計画審議会委員	委員	令和5年7月～現在に至る	長崎県知事

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動について：今年度から全回担当することになった科目について、授業評価はおおむね昨年度同様であった。学生の理解度等を参考にして、授業の流れをより分かりやすいものにしていく。

研究活動について：担当学生が日本薬学会大会でポスター発表することになっている。今後は、それをもとに論文にまとめていく。

大学運営について：担当する委員会の活動は、いずれも滞りなく実施できた。今後も状況に合わせて柔軟な対応することで円滑な運営に貢献する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 髙崎　伸也

1．教育理念

医療人として高い人間性を備えた上で、高度な専門的知識を持ち、さらに知的好奇心を育てることで変貌する社会に対応するのに十分な専門的知識を生涯学び続ける意欲を持ち、他者との円滑なコミュニケーションを行うことができ、学んだ知識を存分に発揮することができ、これらにより社会に出てから直面する様々な課題を自己で解決していくことのできる人材を育てる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	95	①⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	①⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
臨床検査学	15/15(後期)	1.5	1	②⑩
総合演習ⅢＢ	10/30(後期)	2	88	①⑨
基礎の数学	15/15(前期)	2	13	①②④
医学概論	3/15(前期)	2	55	①②③⑨
臨床検査学	15/15(後期)	1.5	83	②⑩
臨床医学概論	15/15(前期)	1.5	100	②⑩
臨床生理学実習	18/18(後期)	1	83	①②③⑦⑩
学際連携研究	1/15(前期)	2	198	②④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期後期ともに、アンケート結果も4.6-4.8とかなりの高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと（双方向の講義スタイル,タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り）が良い評価につながっていると考えられ満足している。大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、今までの疾病関連の講義内容が土台となっているため。おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。毎講義の自学学習の量が少ないようだが、試験結果から習熟度は十分と判断できるため、宿題などを課すことで学生の負担を増加させすぎることが懸念されるためしないこととする。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	生理学(1年生)	15/15(後期)	2	30
九州文化学園歯科衛生士学院	生理学国試対策演習(3年生)	2/2(集中)	2	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢＡ(6留)	1	2	2024年4月17日
総合演習ⅢB(6留)	1	10	2024年4月17日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

出芽酵母を用いた液-液相分離現象の解明および治療への応用

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

出芽酵母タンパク質の天然変性領域の熱安定性、電荷分布およびコンフォメーションの特性／2025年3月27日／第145年会 日本薬学会

出芽酵母の天然変性タンパク質の熱または酸変性操作を含む精製／2025年3月27日／第145年会 日本薬学会

天然変性領域内のリン酸化修飾による電荷分布と相互作用の変化に関するドライおよびウェット解析／2025年3月28日／第145年会 日本薬学会

Stm1タンパク質内の電荷分布およびリン酸化修飾によるその変化が液-液相分離現象に与える影響／2025年3月28日／第145年会 日本薬学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試・CBT対策委員会(薬学科)	幹部委員	学内単位認定試験の総括、編集、実施、解析
学生委員会(薬学科)	委員	保護者会、卒業式、学長カフェなどの運営を行った。
国際交流委員会(全学)	委員	国際交流に関わる内容の決定、学際の弁論大会の運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

全てのオープンキャンパスに参加し広報活動を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	-	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席

2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

大学外の講義を受託し、社会貢献した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
夏季短期留学(フィリピン)の案内支援	薬学部の学生1名に対して支援した	2024年9月	国際交流委員会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学部の数学の入試問題の作成および採点を行った。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと（双方向の講義スタイル,タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り）が良い評価につながっていると考えられ満足している。結果、前期後期ともに、アンケート結果も高評価を得ることができ、現状のスタイルでよいと考えている。また、専門でない科目の基礎の数学などの担当も取り組み問題なく行うことができた。他大学での講義も高評価を得ることができている。研究面では新たに立ち上げた研究分野で多くの結果を出すことができ、自身及び指導した学生3名の学会発表を行うことができた。また、大学運営では、薬学国試対策、学生委員会、入試作問、国際交流委員会など多岐に渡り貢献できた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 中村　沙織

1．教育理念

本学科の学生はほとんどが薬剤師国家試験合格を目標としている。私の教育理念は、国家試験に必要な専門知識を伝えるのはもちろんのこと、学ぶことのおもしろさを少しでも伝え、生涯にわたり学び続ける力を育てたいというものである。
よって、講義では、学生がより興味を持てるようにわかりやすい資料と説明を心掛ける。ポートフォリオを活用し、学生からの質問に対する返答や追加の解説等を行うことで、受け身ではなく積極的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。さらに、学生実習や卒業研究等を通して、実験に対する姿勢や論理的な思考・判断の仕方を伝える。卒業時には、自ら考える力と、仕事に対する誇りとやりがいをもった薬剤師になってくれることを期待している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
機器分析学	7/15(後期)	1.5	1	①②③④
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①④⑨
機器分析学	7/15(後期)	1.5	90	①②③④
基礎の数学	15/15(前期)	2	25	②③⑨
日本薬局方概論	4/15(後期)	1.5	102	①②③④
ホスピタリティ演習Ⅲ	2/8(後期)	0.5	97	①④⑥⑪⑫
分析化学演習	4/12(前期)	0.5	101	①②③④⑨
分析化学・放射線化学実習	8/18(前期)	1	100	①②③④⑤⑩
衛生薬学実習	9/18(前期)	1	83	①②④⑤⑦⑪⑫
生薬学実習	18/18(後期)	1	95	①②③④⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

（機器分析学）満足度は4.4→4.5→4.6→4.5→4.7と推移している。今年度はこれまでで最も良い評価を得ることができて安心している。講義内容を振り返り、足りなかった点を補いつつさらに向上させていきたい。

（基礎の数学）満足度は4.6→4.7→4.3→4.3→4.7と推移している。講義中の様子を見ながら時間配分を調整したり、解説を追加したりした結果、学生の理解を多少は深めることができたと感じる。今後さらに個々の学生にも気を配っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅲ（再）	1	12	2024年4月15日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①ASAP-MS分析法による簡易高選択的分析法の開発
②脳腫瘍放射線療法前後の生体成分分析
③動脈硬化の起因物質に関する臨床分析化学的研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	心の健康調査 配慮面談等
薬学部教務委員会	委員	4年生学年主任、オリエンテーション、 プレイスメントテスト、履修の手引き編集等
薬学部学生委員会	委員	特待生継続審査、保護者会・卒業式の準備等
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	国家試験ツアー担当、4年生学内試験担当、 摸試・販売・学内試験準備等
同窓会薬学部問支援委員会	委員	地域の期待に応える実践活動等
安全管理委員会	委員	実験の手引き編集等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部広報受付	受付担当	大学HP掲載のための学部受付

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外

2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
九州文化学園小学校理科教育啓蒙授業	2024年10月23日	九州文化学園小学校	学長裁量経費「理科教育の早期啓蒙と地域への貢献」

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県公共事業評価監視委員会	委員	令和3年6月～現在に至る	長崎県土木部建設企画課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学生がより興味を持てるようにわかりやすい資料と説明を心掛けている。ポートフォリオを活用し、学生の理解度確認や追加の解説、質問に対する返答を行う等、臨機応変に対応している。主に担当している「基礎の数学」、「機器分析学」の授業アンケートでは、それぞれ満足度4.7と過去最高の評価を得た。

研究面では、研究室所属学生の卒業研究をみる傍ら研究を進め、定期的に学会で研究成果を発表するようにし、論文の投稿につなげていきたい。学生には、卒業研究を通して実験に対する姿勢や論理的な思考・判断の仕方を伝えるよう心掛けている。

大学運営に関しては、本年度よりCHサポートセンター運営委員会の委員となり、配慮面談等を担当した。薬学部教務委員会（4年生学年主任、履修の手引き編集等）、薬学部学生委員会（特待生継続審査、保護者会等）、薬学部国試CBT対策委員会（国家試験ツアー担当等）、薬学部広報受付担当、同窓会薬学部問支援委員会に参加している。また、2015年より入学試験問題の作成にも携わっている。
社会貢献としては、長崎県公共事業評価監視委員会（2021～）の委員を務めている。また、理科教育の啓蒙や薬剤師の職業紹介のため、小学生を対象とした体験学習等に積極的に参加した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 縄田　陽子

1．教育理念

講義では、①解りやすく興味を引く授業、②薬学共用試験・国家試験を想定した授業、および③卒業後も記憶に残る授業の3点を心掛ける。

（実践内容）

講義は教科書に加え複数の参考書から解りやすいものを抜粋した図や表を用いてのパワーポイントにて行う。講義での配布資料は一部書き込み形式とし、学生の講義に対する意欲を促す。また、説明では臨床で頻用される薬物を中心に学生に薬理学を理論的に理解させ、学習への意欲を促す工夫をする。さらに、国家試験を低学年次より意識できるよう、講義内容に関連する国家試験問題を配布しポイントを明確にする。また、一連の講義の中で適宜レポートを課し、短時間でも発表する機会を設けたい。このように参加型の講義にすることで学生に講義内容を印象付け、卒業後も記憶に残る授業となる事が期待できる。医療の現場での薬剤師としての発言・処方提案や患者への薬剤指導は、薬理学の知識がベースにあってこそ内容に重みが増し、良好な人間関係あるいは信頼関係を築く助けになると考えている。国家試験に合格させるだけの講義ではなく、医療の現場で活用できる講義を目指したい。

学生実習は、①講義で学んだ薬理学の知識が定着すること、②実習を通して新薬開発の一端を学ぶこと、および③実習結果をまとめ、発表する力を身に着けることに視点を置き実施する。

（実践内容）

実習書は薬理学実習を初めて経験する学生が容易に理解できること、また実習書を参考にして容易に実験を遂行できる内容で作成する。実習当日の説明では、理解が難しいと想定される箇所を中心に、図や表を用いた説明を行い学生の理解が深まる工夫をする。学生に課すレポートでは、結果の考察に加えて関連する国家試験問題を課題として与え、学生が実習内容と国家試験とのつながりを意識できるものにする。実習後のレポート作成では、実験結果を単にまとめるのではなく、実際に得られた結果と理論的な結果との相違について考察させ、問題解決能力を養う。また、実験結果の発表ではパワーポイントを使った発表を指導し、プレゼンテーション能力を養いたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	1/27(前期)	2	10	⑧⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2）	9/15(前期)	1.5	2	②③⑧⑨
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	2	⑧⑨
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	95	⑧⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	⑧⑨
専門演習Ⅰ	2/40(通年)	3	4	⑧⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	①②⑤⑥
卒業研究（６年）	0/60(通年)	4	2	①②⑤⑥
総合演習ⅢＢ	10/30(後期)	2	88	⑧⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2）	9/15(前期)	1.5	76	②③⑧⑨
薬理学Ⅳ（中枢）	15/15(後期)	1.5	76	②③⑧⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	②④⑤⑥⑩
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	②④⑤⑥⑦⑩
機能形態学実習	18/21(前期)	1	99	④⑤⑩
薬理学実習	24/24(後期)	1	83	④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	3/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

主要担当科目である薬理学ⅢおよびⅣについて記載する。

薬理学Ⅲの授業評価アンケートによる満足度は2023年度は4.6ptとなり昨年度と同様の数値であった。一方で、講義進度の速さがアンケートより得られたことから後期開講の薬理学Ⅳではこの点に配慮し講義を実施した。講義途中で適宜配布する復習問題は一定の学習向上効果が得られていると考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校看護専攻科	薬理学	3/15(後期)	1	59
九州文化学園小中学校	保健体育（薬物乱用の害）	2/2(後期)	1	60

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

脳内エンドカンナビノイドの機能解明および神経精神疾患治療薬への応用

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	2	1	1	468万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

薬物自己投与実験法を用いた依存性薬物に対する渇望再燃の発現機序と依存症治療薬の探索／2024年11月／ファルマシア／1035-1039／単著／総説

Methylenedioxymethamphetamine (MDMA) impairs cognitive function during withdrawal via activation of the arachidonic acid cascade in the hippocampus／2024／Drug Alcohol Depend／doi: 10.1016/j.drugalcdep.2024.　111139.／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ギャンブル行動症の新規モデル動物の確立を指向した行動薬理学的検討／2025年3月／第145回日本薬学会年会

カンナビノイドCB1受容体の機能不全はオキシトシンおよびコルチコステロン分泌制御を介した自閉スペクトラム症様行動の発現に関与する／2024年11月／第77回日本薬理学会西南部会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
報酬／罰による意思決定に基づく新規アディクションモデル動物の探索と治療戦略	日本学術振興会 科学研究費助成事業（基板研究C）	2024年4月～2028年3月	468万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会（全学）	委員	動物実験室の運営・管理担当
学生委員会（全学）	委員	学生生活のサポート全般
学生委員会（薬学）	副委員長	委員長補佐、フレッシュマンセミナー主担当、卒業アルバム主担当、開国祭主担当

国試・CBT対策委員会（薬学）	委員	総合演習Ⅲ試験編集・実施担当
教務委員会（薬学）	委員	新入生担任配属担当、時間割編成担当
カリキュラム検討委員会（薬学）	委員	５次カリキュラムの検討
生涯学習委員会（薬学）	委員	生涯学習セミナーの企画・開催

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献「あなたは大丈夫？心と体を蝕むネット依存の恐ろしさ」	2024年12月	九州文化学園高等学校	学長裁量経費

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

1. 教育活動について

レポートや課題を用い学生の興味・理解を促す工夫を施し講義を実施した。学年によって講義の理解力が異なることから、課題の解説を講義内に実施し理解を促した。授業評価は昨年度から安定している。

２．研究活動について

本年度は、学会発表２件、査読付き論文発表1件、和文総説1件を達成出来た。

新規に外部資金を獲得した。

３．大学運営活動、社会活動および国際交流について

大学運営活動では、昨年度同様に貢献できたと考えている.

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 吉田　達貞

1．教育理念

私の教育理念は、共用試験や国家試験に合格するために必要な物理化学や統計学の知識を学生に教育するだけでなく、薬を中心に据えた生命現象の不思議さ、複雑さ、面白さを物理化学的観点や統計学的アプローチを用いて論理的に考察することができ、医療・保健・福祉の担い手の一員として次世代を先導していく薬剤師・薬学人を育成することです。よって、担当の授業では、（1）薬学を理解する上で必須となる基礎的な物理化学の概念や原理に基づき広範な生命化学の現象を理解する能力を修得すること、（2）医療や生命現象の膨大な実データをコンピュータを活用した統計論や確率論に基づき体系的かつ客観的に整理、分析し、共通原理や規則性を見抜く能力を修得することを重視します。薬剤師が担う医療業務は言うまでもなく全て科学的根拠に基づくものであり、現実の臨床や医薬品開発の現場では、これまでに経験したことが無いような問題にも取り組み、独自の答えを与える力が要求されます。したがって、学部の低学年から論理的かつ厳密な思考能力を養う訓練を重ねることは、医療現場で冷静に問題を処理・解決するために不可欠であり、卒業後の将来に亘って大きな財産になるものと信じています。そのため、授業では学生には単なる公式の丸暗記ではなく、その背景にある科学的根拠や理論を辛抱強くじっくりと理解することの大切さを学んで頂きたいと考えています。その手助けをすることが私の教育の責任です。何よりも寄り添い型の授業展開を心掛け、学生との信頼関係を築くことで、一人でも多くの学習意欲を高く維持することに努めて参ります。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①⑨⑩
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	4	①⑨⑩
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	2	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
薬学統計学	15/15(前期)	1.5	93	①②⑨⑩
基礎の物理学	15/15(前期)	2	27	②③⑨
ホスピタリティとSDGs	2/15(前期)	2	89	④⑤⑥⑦⑫
物理学演習	12/12(後期)	0.5	27	②③⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	89	②③⑩⑪
物理化学実習	21/21(前期)	1	83	①④⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

下記のとおり、担当科目に関する授業アンケートの結果、概ね好評価を得ることができました。しかしながら、今年度も受講者の若干名が単位を取得することができなかったことが非常に残念でなりません。次年度も今年度の配布資料等を見直し、講義動画の主要部分を抜粋したものを予習教材として反転学習的にmanabaで事前公開し、学生に供して参ります。

・基礎の物理学：満足度4.9，理解度4.7
・物理学演習：満足度4.9，理解度4.7
・薬学統計学：満足度4.7，理解度4.5

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学佐世保校	統計学	15/15(第4Q)	2	154

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
「基礎の物理学【薬A】」の補習	10	6	2024/4/15, 4/22, 5/13, 5/20, 5/27, 6/3, 6/10, 6/24, 7/1, 7/8
「物理学演習【薬A】」の補習	1	7	2024/12/4

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・レクチンによる分子認識機構の計算科学的解明と精密な機能改変

・分子動力学計算を用いた翻訳終結複合体の分子間相互作用エネルギーの解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	442万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Chemical structures of polyketides and alkaloids isolated from a culture of fungus Curvularia moringae／2024年10月／Fitoterapia／10.1016/j.fitote.2024.10626／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

縮環型ピラノキノリチン誘導体の凝集誘起発光メカニズムの解明／2024年6月／第61回化学関連支部合同九州大会

分子科学計算に基づく分子改変によるMytiLec-1の糖鎖結合認識に対する基礎検討(2)／2025年3月／日本薬学会第145年会

分子動力学計算を用いた翻訳終結複合体の分子間相互作用エネルギーの解析／2025年3月／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金・基盤研究（C）	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	442万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター会議	委員	卒業生アンケート、大学IRコンソーシアム主催の「新入生・上級生調査」、文部科学省「全国学生調査2024」の実施に協力し、その集計結果より、学部内における課題の抽出と対策の提案を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	2024年度教育基盤センター紀要にIRセンター部門として薬学部の状況報告を行った。
CAI運用・活用委員会（学科）	委員長	国家試験およびCBT対策としてCAIシステムの運用と整備に従事した。1年生向けのリメディアル科目の登録問題数を1,585問まで拡充した。従前どおりに週 間試験および単位認定試験問題の追加登録も進めた。各学年の学内CAI試験（全52回+付随の追試験10回）の準備とその円滑な実施に努めるとともに、長期休みや実務実習中の課題、留年生向けの課題等の管理を行った。また、メールでの疑義照会の受付に通年対応した。

国試・CBT対策委員会（学科）	委員	4～6年生の各総合演習／専門演習において、CAIを用いた単位認定試験および週間試験、補習を含む課題の準備と円滑な実施、成績集計・解析による今後の動向予測を担当した。
CBT実施委員会（学科）	委員	本学のCBT体験受験、本試験、再試験において、管理者として試験の厳正かつ円滑な実施に従事した。
入学前・初年次教育委員会（学科）	委員	物理・数学系の担当として、入学者の教育教材の選定ならびに入学前教育の一環として課題の添削・フィードバック指導、入学前のスクーリングを担当した。
図書選定委員会（学科）	委員	専門研究分野の計算科学、情報科学分野に関連した図書選定に携わった。
教務委員会（学科）	委員	入学式後、新入生に対するmanabaおよび生涯メールの設定補助に従事した。
自己点検・評価委員会（学科）	委員	4次カリキュラム適用入学者の入試形態毎の入学後の学業成績（プレイスメントテストなど）、留年・退学率の比較による入試形態の見直しを実施した。
薬学部内LAN受付担当（学科）	委員	新任教員の先生方のPCおよびWi-fiネットワーク設定のサポートに従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①早期体験学習の一環として、長崎県環境保健センターへ1年生31名を引率訪問し、施設見学ならびに研究機関としての機能・業務を見聞することで、薬剤師の働きについて理解を深めさせた（2024年11月6日）。

②日本薬学会第144年会（横浜／2025年3月26-29日）における研究成果のポスター発表を所属研究室5年生2名に対して指導した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加/2024年7月21日、8月4日、8月25日、2025年3月16日/本学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	-	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	-	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	-	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	-	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	-	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	-	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	-	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	-	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	-	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会構造活性相関部会	幹事	2011年度～現在に至る	日本薬学会構造活性相関部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学内クリーンキャンパス運動に参加／2024年5月27日、2024年11月20日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動：　1年生の学年主任として初めて担当講義もありましたが、担当の学部講義の授業アンケートの結果は概ね満足のいくものでした。研究室配属の6年生3名が国家試験に合格し、第一希望先に薬剤師として就職できたことに安堵いたしました。その一方、17名の担任学生のうち、2年生の2名が原級留置となったことを真摯に受け止め、今後より一層の学修・大学生活面でのサポートをして参ります。

研究活動：　新規に代表1件、分担1件の科研費に幸いにも採択されたため、実験機器を新規に導入することができました。これを活用し、来年度はさらに研究を発展させて参ります。科研費以外の外部資金の申請にも関連分野の公募があれば、より積極的に挑戦して参ります。

大学運営活動：　CAI運用・活用委員会委員長を拝命してから5年が経過し、属人化していた多くの業務内容を委員の先生方と共有することができました。次年度は任期の区切りになるため、現行のCAIシステムからR8年度導入予定の新システムへの設問移行に注力し、学内試験の引き継ぎが円滑に進むよう努めます。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和６(2024)年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 大神　正次

１．教育理念

私の教育理念は、「自発的・積極的に学び、自身で考えて判断することのできる学生の育成」である。

よって、授業では授業中の発言や質問、少人数での討論、相互の教え合い学習など積極的な授業参加を重視している。学生には、答えをただ丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」、「そのように考えた根拠は何なのか」、「別の場合だったらどうなるのか」など、正解を導き出すための考え方や理論的な思考法を学びながら習得して欲しい。高校までの受け身の学習姿勢を脱却し、自分自身の頭で考えて問題を解決する能力を習得して欲しいと考えている。そのために、アクティブラーニングを主体とした課題解決型の授業方法を導入し、学生自らが考えてアウトプットができる習慣を身につけさせたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/27(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	0/27(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	0/40(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
総合演習ⅢＢ	3/30(後期)	2	88	①⑨
基礎の化学	15/15(前期)	2	49	①②③⑤⑧⑨⑩
基礎の化学	15/15(前期)	2	29	①②③⑨
有機薬化学実習	33/36(後期)	1	96	①②④
分析化学・放射線化学実習	18/18(前期)	1	100	①②③④⑤⑩
化学演習	12/12(前期)	0.5	29	①②③⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【前期：基礎の化学（薬）】

満足度は全体平均よりも低く、4.1ptであった。昨年度からBクラスを担当しているが、学生の学ぶ姿勢が年々低下し続けているように感じる。授業ごとに毎回アンケートを取り、質問等に回答しmanabaでフィードバックし、次の授業の前半で振り返りを中心に実施しているが、学生から出される質問が質・量ともに低下が著しく、表面的な受け身の学習（スライドの重要事項の暗記、回答の丸写し、CAI等課題の未実施、主体的な学習姿勢の欠如　など）になっているように感じられた。

講義後終了直後の質問やメールおよびmanabaの機能を利用して個別対応を実施しているが、昨年度よりも利用者数はさらに減少した。次年度以降も引き続きもっと活用するよう促したいが、学生の学習意欲や勉強に取り組む意識・姿勢が改善されなければ効果はほとんど期待できないように感じる。

自由記述欄のコメントには肯定的な内容の方が多いが、指摘された点は真摯に受け止めて次年度以降の授業改善につなげたい。

【前期：基礎の化学（観光・福祉・栄養）】

今年度初めて受け持つクラス（薬学部以外の学生）ということで、どのように進めていけばよいか困惑する場面が多くあったが、学生の苦手意識を払拭し、楽しみながら化学や大学での学びに少しでも興味を持ってもらえるようにと工夫した。自由記述のコメントには「わかりやすい」「楽しい」など肯定的な意見が多く、少しは当初の目的に貢献できたのではないかと振り返る。

この科目では定期試験が無く、過去の授業評価はレポートやプレゼンテーションと簡単な小テストが主な評価項目だったことから、２～４年生の一部の履修生で「出席さえしておけば簡単に単位がもらえる」との印象があったのではないかと推察する。実際にそのような学生が数名いたことも確認している。理解度の定着や学習に対する積極的な姿勢のためにも、定期試験の実施ま

たは確認テストを複数回設ける必要があると痛感した。この点は次年度以降のシラバス変更で改善したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
1年生補習（基礎の化学・化学演習）	10	44	火曜5限
1年生補習（薬化学総論）	10	51	木曜4限
1年生補習（有機薬化学I）	13	54	火曜4限
1年生補習（放射線化学）	5	34	木曜3限

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１）長期実務実習による薬学生のストレス負荷を軽減する手段の提案とその効果検証

２）薬学教育における学修支援の在り方についての探索的研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

POMS 2を用いた実務実習による薬学生の気分状態推移の検討／2025年3月27-29日／第145回　日本薬学会（福岡）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員	委員	教養セミナーA主担当（とりまとめ）、プレイスメントテスト化学担当、オリエンテーション準備等
国試・CBT対策委員会	委員	4年生CAI週間試験管理・結果解析等担当、4留生ノートチェック等担当、6留生出欠管理・ノートチェック等管理担当、6留生単位認定試験その他実力試験準備等
CAI運用・活用委員会	委員	4留生CAIチャレンジ実施状況管理、CAI疑義・質問対応、問題精査
学生サポート室	室員	後期サポート室担当（水曜昼休み）
教育支援センター運営委員会	委員	教育支援センター環境整備、学生使用状況確認・監督、留年生モチベーションアップ講座実施、モチベーションアップセミナー開催、留年生学生面談、留年生学生対応、学生相談
入学前・初年次教育	委員	入学前教育課題（化学）採点、新入生対象オンラインスクーリング、新入生対象教育オリエンテーション（4月）

教育支援センター：SA	管理担当	オリエンテーション説明、SA学生募集、SA実施管理・対応窓口
薬学部RI施設管理	施設管理担当者	RI施設管理、安全管理、RI施設立ち入り検査対応、資料準備

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナーAワーキンググループ	委員	薬学科とりまとめ調整役（日程や教室の調整、ビブリオバトル等の実施要領作成、教員および学生への案内）

(3) 課外活動の指導等

薬学部サッカーサークル　顧問及び監督

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（3回）

九文高校薬学部訪問

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、低学年時からのアクティブラーニングを主体とした学習を積極的に取り入れている。毎回の授業で学生からの意見を収集することにより、説明が不十分であった部分や学生の理解が低かった部分を次回の授業やポートフォリオをもちいて補足したり、授業の進め方を改善するように努めている。

大学運営面においては、安全管理担当者・施設管理担当者として放射線管理に従事する他、国試CBT対策

委員会、初年次教育などで貢献できていると考えている。特に教育支援センター専任教員として主に留年生の学習面や生活面でのサポートに尽力した。薬学部のSA管理においては、学生間のマッチングや各種連絡事項の伝達、勤務状況の管理などをおこなった。SA/SSともに登録者数および利用実績は前年度に比べて増加した。

研究面では、教育支援センターでの業務と関連して、学修支援が必要な薬学部生に対する支援の在り方について研究を進めている。また、薬学生の長期実務実習における気分変化をオンラインアンケート検査を用いて調査を継続しており、年度末の薬学会にて発表予定である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 北川　翔大

1．教育理念

長崎国際大学が建学の理念に掲げている「人間尊重」を基盤とし、確かな知識と豊かな人間性を持つ薬剤師を育成することを目指している。そのために講義や研究活動では、薬剤師国家試験の合格だけでなく、薬剤師として活躍するために必要な能力を身に着けてもらうことを常に念頭においた教育を行う。特に研究活動では、他者と協力して研究を進めていく上で社交性や道徳感を育んでもらうとともに、得られた結果について考察を重ねることで思考力および問題解決能力等も習得して欲しいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①⑨
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	0/23(通年)	1.5	101	①⑨⑩
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	88	①⑨
基礎の化学	8/15(前期)	2	15	①⑨
有機薬化学実習	18/18(後期)	1	96	①②④⑩
衛生薬学実習	18/18(前期)	1	83	①②④⑤⑦⑪⑫
生薬学実習	18/18(後期)	1	95	①②③④⑨
化学演習	13/13(前期)	0.5	20	①⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

就任後、初めての講義ということもあり、講義資料の準備やテストの難易度調整に苦労したが、授業満足度は4.6～4.9ということで全体平均と同程度であった。

基礎の化学、化学演習では毎授業の終わりにアンケートを取ることを心掛けたところ、復習スライドに関する要望があったため対応した。また、授業終わりには授業スライドと授業中に取り組んだ問題およびその解説を manaba で公開することで、学習効果を高める工夫を行った。

学生からの質問も随時受け付けていたが、実際に研究室を訪問した学生は数名であったため、次回からは定期的に質疑対応に関するアナウンスを行うことで、積極的に質問を受け付けたい。また、授業の改善を目指して、今後も manaba 上のアンケートを利用したフィードバックに励んでいきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学補習	9	40	4/16, 4/23, 5/7, 5/14, 5/28, 6/4, 6,11, 6/18, 6/25

３．研究活動

(1) 研究テーマ

天然物からの医薬品シーズの探索研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	273万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Antihypertensive and Angiotensin I-Converting Enzyme-Inhibitory Effects of the Leaves of?Sesamum indicum?and Bioactive Compounds／2024年11月／Chem. Pharm. Bull.／org/10.1248/cpb.c24-00565／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

青嚢の降圧作用および活性成分の解析／2024年9月／生薬学会 第70回年会

ゴマ葉の降圧作用および活性成分の解析／2024年10月／第10回食品薬学シンポジウム

ゴマ葉（青嚢）の考察作用と栽培時における活性成分の変化／2025年3月／日本薬学会 第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
研究活動スタート支援	日本学術振興会	2024年7月31日～2026年3月31日	273万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	委員	オープンキャンパスの運営を行った。 高校生を対象とした出張講義を行い、薬学部や薬剤師に関する情報を提供した。
薬用植物園運営委員会	主任	付属薬用植物園の管理運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席

2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	欠席
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

日本薬学会第144年会 優秀発表賞（口頭発表の部） 受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学生の基礎的な学習能力の向上のため、復習も兼ねながら解説を詳しく行うことを心掛けている。これにより授業ごとの繋がりを理解してもらうとともに、反復学習による学習効率の向上にも繋がることが期待される。

研究活動では、一つ一つの操作を体験してもらうだけでなく、その原理について学習してもらい、薬剤師国家試験で出題された関連問題にも挑戦してもらうことで、学生自身のモチベーション向上に繋がるように工夫している。また、今年度は研究活動スタート支援に採択され、原著論文を1報執筆したが目標には届かなかったため、来年度も年2報を目指して頑張っていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 中島　健輔

1．教育理念

大学人として、自身で考え、学ぶ習慣を身に着けて欲しいと考えている。
日々の学習習慣がない学生も多数、見受けられるため、そのような学生には
国家試験合格のためには、継続的に学習をすることが大切であり、
勉強をしない日を作らず、少しでも机に向かい、勉強時間を増やしていくように指導している。
効率も重要だが、量をこなしたという自信をつけることが重要と考え、指導を行っている。
さらに、受け身ではなく、自ら、率先して授業、実習などに参加し、様々な疑問点を抽出し、
解決までのプロセスを見出せるような教育を心掛けている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	2/30(前期)	2	10	①
総合演習ⅢＡ	2/30(前期)	1.5	2	①
総合演習ⅢＡ	2/30(前期)	1.5	95	①
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	97	①
専門演習Ⅰ	2/40(通年)	3	4	①
実務実習（病院・薬局）	2/40(通年)	20	102	①
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	101	①
総合演習ⅢＢ	2/30(後期)	2	88	①
調剤学	4/15(前期)	1.5	103	①
医療コミュニケーション	31/31(後期)	2	97	①
処方解析	33/33(後期)	2	97	①
総合実習	18/18(後期)	1	102	①
調剤Ⅰ	40/40(前期)	2	98	①
調剤Ⅱ	40/40(前期)	2	98	①

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生のアンケート結果もよく今後も同様に継続していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

新規抗うつ物質の探索

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	1	1	416万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Upregulation Effect of Citrus Species on Brain-Derived Neurotrophic Factor／2024年／JNSV／61-71／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

血中BDNF濃度低下を示すモデル動物としての老化促進モデルマウスの有用性評価／2024年11月／日本薬学会九州支部

Evaluating citrus extract-induced brain-derived neurotrophic factor upregulation effect to identify drug candidates for central nervous system disorders／2024年11月／NUTRICON

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
カンキツ成分に着目した末梢組織を作用点とするうつ病予防・改善薬創製の試み	科研費	2022年4月～2025年3月	416万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席

2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

日本薬学会第144年会優秀発表賞（指導学生）

８．活動全般についての自己点検・評価

論文や科研費など研究面において多くの成果を得ることができた。
今後も継続していきたい。

またR7年度以降も科研費が採択されたので多くの成果を発表していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 波多江　日成子

1．教育理念

・九州文化学園の建学の精神を基盤に、豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる薬剤師を育成する。
・医療従事者としての自覚をもち、自律性、主体性、創造性に富み、自己啓発できる態度を育成する。
・患者を支えるチーム医療の一員として協働する役割と責任を果たすための基礎的能力を育成する。
・他の人と協力して問題解決に取り組む能力を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	1/27(前期)	2	10	①⑨
総合演習ⅢＡ	1/27(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	97	①②④⑨
専門演習Ⅰ	0/40(通年)	3	4	①②④⑨
専門演習Ⅱ	0/23(通年)	1.5	101	①②③
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	88	①⑨
医学概論	2/15(前期)	2	55	①②③⑨
コンピュータ基礎ⅠＢ	12/15(後期)	1	87	②④⑪
医療コミュニケーション	0/31(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
医療コミュニケーション	0/31(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
基礎の化学	8/15(前期)	2	15	①⑨
総合実習	18/21(後期)	1	102	①④⑪
専門基礎学習Ⅰ	7/7(通年)	0.5	97	②④⑨⑩
ホスピタリティ演習Ⅰ	3/8(後期)	0.5	95	②⑦
物理化学実習	21/21(前期)	1	83	①④⑧⑩
調剤Ⅱ	12/66(前期)	2	98	①②④⑪
調剤Ⅱ	12/66(前期)	2	98	①②④⑪
臨床生理学実習	21/24(後期)	1	83	①②③⑦⑩
化学演習	12/12(前期)	0.5	20	①⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

基礎の化学、化学演習ではクラスに合わせた授業を行い、課題提出で復習する習慣をつけさせた。更にCAIでも課題を出し、CAIを使った勉強方法を浸透させた。また授業外での補講では、わからないところは1対1で質問できるような環境を作った。アンケートも平均的であった。

臨床生理学実習では、学生の質問に対し丁寧に対応しており、独自のアンケートの結果も良好であった。さらに、実習書においては分かりにくい表現にならないように学生の意見を聞き、改善等を行っている。さらに、実習後のレポート課題で内容を深く勉強させている。

コンピュータ基礎IBでも、質問に丁寧に対応し学生の技術向上に努めた結果、アンケートの結果も良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学補習	10	44	4/16,23,30,5/7,14,28,6/4,11,18,25,7/9

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「赤血球膜タンパク質バンド３の３次元構造解析」

本研究は、赤血球が適切に酸素を組織へ運搬・供給するのに重要な役割を演じている膜タンパク質バンド3（anionexchanger1; AE1）の高分解能三次元結晶構造解析を行い、その陰イオン透過分子機序の解明を目指すものである。バンド3は大きく外向き型と内向き型の２つの形態をとり、近年我々は外向き型バンド3でモノクローナル抗体との共結晶（3.4Å）及びバンド3単体（4.5Å）の構造解析を行うことができた。そこで次のステップとして、内向き型バンド3の結晶構造を共結晶型・単体型で解析し、外向き型・内向き型両面の高次構造から、赤血球膜における陰イオン透過の詳細なメカニズムを提唱することを目的とする。

「新規プロテインC活性測定法の開発」

血液凝固抑制因子であるプロテインCは、様々な遺伝子多型が存在し、発現量が低下する変異体や、活性が低下する変異体などがある。現在主流となっているプロテインC活性測定法は、合成基質を用い、活性化プロテインCのプロテアーゼ活性を測定することしかできないため、そこに至るまでの障害を見つけることができない。そこで我々の研究室では、生体内の凝固カスケードを模した測定法で、多くの変異を検出できる測定法を開発している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ペプチド基質を用いた血中ダビガトランの定量的濃度測定法の開発／2025年3月27日／日本薬学会第145年会

血液凝固制御因子プロテインCの新しい活性測定法の開発／2025年3月27日／日本薬学会第145年会

プロテインC蛋白質変異体の作成と活性に関する検討／2025年3月27日／日本薬学会第145年会

術前・術後のプロテインS比活性測定による静脈血栓塞栓症発症のリスク解析／2025年3月27日／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会（学科）	委員	オリエンテーション、2年学年主任
国試CBT対策委員会（学科）	委員	試験準備、試験監督割り当て
CAI運用活用委員会（学科）	委員	CAI利用試験の問題確認、修正、学生の春・夏休み期間の課題の設定、CAI試験設定

入試募集委員会（学科）	委員	オープンキャンパス
CBT実施委員会（学科）	委員	CBTの実施
同窓会薬学部門支援委員会（学科）	委員長	国試ツアーでの支援物資、学会発表における発表学生への支援金補助、各種花束贈呈等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、担当している実習、演習で分かりやすく丁寧な説明を心がけている。さらに、補習等を行い、聞きやすい環境づくりと、1対1でのきめ細やかな指導を行っている。また、実習中気づいた点や実習後のアンケートにより、見直すべき項目や実習書の記載の仕方などを次年度に反映している。

研究活動においては、研究室配属学生の卒業研究指導と共に行っており、バンド３タンパク質と基質であるPLPとの共結晶の条件を検討中である。また、プロテインCの変異体発現、精製の条件を検討中である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 福森　良

1．教育理念

薬剤師教育という観点で考えた時に、深い薬学的な知識と確かな技術はもちろん必要であるが、それとともに患者さんに接し患者さんの事を考える上で、豊かな社交性や道徳性を持った薬剤師の育成が重要であると考えています。これまでの経験や知識を伝えることで、薬物治療に責任を持つ薬剤師の養成や、柔軟性と人間性に富む国際的な薬学人育成を念頭に、薬学教育と薬剤師育成教育に従事したい。また、研究者教育として、これまで私が携わってきた研究に関する知識や技術を学生達に伝えることのみならず、自分自身が日々新たな知識や技術を身につけることに精進し、最先端の知識や技術を持ち、得た知識や技術を生かし考え応用することのできる人材の育成を行うことを目標に教育を行ないたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	10/30(前期)	2	10	①⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2)	6/15(前期)	1.5	2	①②⑨
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	2	①⑨
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	95	①⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	97	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	4	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	101	①⑨
総合演習ⅢＢ	10/30(後期)	2	88	①⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2)	6/15(前期)	1.5	76	①②⑨
コンピュータ基礎ⅠＢ	9/15(後期)	1	87	②④⑪
コンピュータ基礎ⅡA	15/15(前期)	1	2	②④⑪
医療コミュニケーション	33/31(後期)	2	97	①②④⑥⑦⑨
総合実習	18/18(後期)	1	102	①②④⑥⑦⑨
機能形態学実習	18/18(前期)	1	99	①②⑥⑦⑩
薬理学実習	21/15(後期)	1	83	①②③④⑥⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「薬理学Ⅲ」「コンピューター演習ⅠB」「コンピューター演習ⅡA」の講義を担当した。授業アンケートによる満足度の平均は薬理学Ⅲ「4.4」、コンピューター演習ⅠB「4.8」の評価であり、昨年度より満足度が上昇し、一定の評価を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションと行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校看護専攻科	薬理学	8/15(後期)	2	60

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

グルタミン酸は酸性アミノ酸の一種であり、タンパク質合成やエネルギー産生といった普遍的な細胞機能に関わるのみならず、中枢神経系においては代表的な神経伝達物質として働いています。この脳内グルタミン酸シグナルの破綻は、一過性脳虚血後の遅発性神経細胞死や統合失調症の病態生理など様々な神経精神疾患へ関与するものと考えられています。これらの病態の多くは難治性であり、根本的な治療法や治療薬が見つかっていない現状です。このように、分子生物学・行動薬理学的なアプローチを用いて、グルタミン酸神経系に着目した根本的な治療法や治療薬がない難治性の神経精神疾患（認知症や統合失調症など）の機序解明や治療薬開発に関する研究プロジェクトを進めています。

また、脳内“大麻様物質(エンドカンナビノイド)”の役割を解明する研究およびその機能不全と精神疾患の関連について、カンナビノイドCB1受容体欠損マウスを駆使しながら追究しています。さらに情動・意欲・認知機能におけるエンドカンナビノイドの働きに着目して、認知障害や情動変容のメカニズムを解き明かす新たな糸口が得られることも期待しています。さらに、精神疾患における新規治療薬の可能性を探索しています。このように、精神疾患発症のメカニズムについて、脳内カンナビノイドの側面から明らかにする研究プロジェクトを進めています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	1	1	300万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Anxiolytic and antidepressant effects of inhibitors of endocannabinoid degrading enzyme in chronic restraint-stressed mice.／2024年5月／The International College of Neuropsychopharmacology 2024

エンドカンナビノイド分解酵素阻害薬は慢性拘束ストレス負荷による不安様および抑うつ様行動の発現を改善する.／2024年8月／生体機能と創薬シンポジウム2024

慢性拘束ストレスにより発現する不安様および抑うつ様行動における脳内エンドカンナビノイドの関与／2025年3月／第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会

慢性拘束ストレスによる抑うつ様行動に対する5-アミノレブリン酸の効果／2025年3月／日本薬学会年会2025

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
大麻をはじめとする薬物の効果的な予防啓発活動の実施及び効果検証に向けた 調査研究（23KC0501）	山本経之（共同研究者）・厚生労働省	2023年4月-2026年3月	300万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	卒業研究要旨集の編集を行った。
薬学部入試募集委員会	委員	高校での進路ガイダンス及び、オープンキャンパス薬学部プログラムの運営を行った。
薬学部機器管理委員会	委員	薬学部共同機器・動物室の管理運用を行った。
薬学部就職委員会	委員	薬学部就職説明会の企画・運営を行った。
薬学部CAI運用活用委員会	委員	4年生の週間試験の運用を行った。
薬学部動物管理委員会	委員	薬学部動物室の適切な運営・管理を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部テニスサークル顧問として、管理・監督を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

薬学部入試募集委員として県内の高校へ、出張講義として薬剤師・薬学部ガイダンスを行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	出席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

・教育面においては、「薬理学Ⅲ」の講義を担当した。授業アンケートによる満足度の平均は「4.4」の評価であり、一定の満足度を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションと行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。

・大学運営面においては、薬学部委員として、就職ガイダンスや薬学部就職説明会を運営することで学生の就職状況の向上に努めた。また、薬学部入試募集委員としては現在までに2校の高等学校に直接伺い「薬剤師の進路ガイダンス、模擬講義」を行うことで入試募集に努めた。

・研究面においては、国際学会「CINP 2024」においてポスター発表を行った。また、その他4件の学会で口頭・ポスター発表を行った。現在、１報の論文を投稿中である。さらに、１報の投稿に向けて準備を進めており、今年早い時期での投稿を目指して作成している。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 助手　　氏名 李　政洙

1．教育理念

有機化学は「手を動かして学ぶ学問」だと考えている。教科書の知識だけではなく、実験を通じて反応がどのように進むのかを自分の目で確かめることが、理解を深めるために大切な段階だと思う。実験の中で試薬の変化を観察したり、思いがけない結果に直面したりすることで、知識がより実感を伴ったものになると考えている。

実習では、単に決められた手順をこなすのではなく、「なぜこの操作が必要なのか」「どんな工夫ができるのか」を考えることを大切にしている。反応条件を少し変えるだけで結果が大きく変わることもあり、それを実際に体験することで有機化学の奥深さを感じてもらいたいと思っている。

また、研究室での実験指導では、実験が思い通りに進まないことも学びの一部であることを伝えている。失敗したときこそ、その原因を探ることで新しい発見につながることもある。有機化学は、繰り返し実験を重ねることで理解が深まる学問であることから、学生が自ら試行錯誤しながら学び、実験の楽しさを実感できるような環境を作ることが、私の教育の大切な役割だと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業を持ってない為、該当なし。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

ペプチドにおける脱硫黄的ホウ素化反応の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	出席
2024/4/2	183	－	第1回授業研修会	出席
2024/4/10	184	－	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	出席
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	－	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	出席
2024/7/3	189	－	第2回授業研修会	出席
2024/7/8	190	－	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	－	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	－	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	出席
2024/12/9	197	－	第4回授業研修会	出席
2025/3/25	198	－	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

［江南SKY語学院夏研修］薬学実習体験の韓国語資料作成及び授業通訳、授業準備、補助を行った(2024.07.31)。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

助手就任1年目として、主に有機化学実習や生薬学実習の補助を担当し、試験監督などの大学業務も行った。研究活動では論文発表や学会発表の実績はまだないが、今後の発展に向けて取り組んでいる。また、韓国人対象の体験学習にも参加し、韓国人教員としてできる業務を行うことができた。来年はより多様な活動に積極的に関わり、教育・研究の両面で成長できるよう努めていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 6（2024）年度

学科　薬　　職名 助手　　氏名 福成　温

1．教育理念

私は本学の特徴的な教育である、他者を思いやる気持ち「ホスピタリティ」を有し、高度な薬学的専門性を生かし医療現場で活躍できる薬剤師を育てることに重点をおいている。薬剤師免許を有する薬学研究者として大学での教育活動や研究活動に従事し、学生の国家試験合格を念頭に置いた教育の実践を心がける。大学で学ぶことのできる論理的思考力の身に付け方や最先端の薬学研究に触れることによる研究者としての薬学・医療へのアプローチ方法を伝授する。長崎の佐世保という地方から、世界へ羽ばたく人材育成を目標に、国家試験合格のアドバイスや学生生活の悩みにも対応できる教員として学生へ真摯に向き合っていく所存である。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度主担当となる授業は無い。衛生薬学実習、処方解析実習、総合実習の補助業務を担当した。学生の実習においての学習効果が高まるように今後指導方法を工夫していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

アミロイドーシスの病態解析と治療法の開発　健康長寿を目指した加齢性疾患の病態解析と治療法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

膠原病診療実践バイブル／共著・編著／2025年2月／南江堂あ／327-330

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

希少疾病ライブラリ　全身性アミロイドーシス／２０２４年６月／ＣａｒｅＮｅｔ．ｃｏｍ／https://www.carenet.com/report/library/general/rare/cg002755_011.html／共著／総説

Arginine: A potential prophylactic supplement for transthyretin amyloidosis／2024年12月／Biochemical and Biophysical Research Communications／https://doi.org/10.1016/j.bbrc.2024.150770／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Arginine, as a possible amino acid for prevention of ATTR amyloidosis.／2024年5月／XIX International Symposium of Amyloidosis

眼ATTRアミロイドーシス治療を目指したアルギニンのTTRに対する影響の検討／2024年10月／第11回日本アミロイドーシス学会学術集会

薬剤耐性ヒト癌細胞に対する Cordyceps ophioglossoides の抗腫瘍効果／2025年3月／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部　就職委員会	委員	会議への参加、就職説明会の実施
薬学部　地域連携委員会	委員	会議への参加、高校生薬学体験の実施
薬学部　同窓会薬学部門支援委員会	委員	同窓会への事務連絡
薬学部　入試募集委員会	委員	会議への参加、オープンキャンパス運営
薬学部　OSCE実施委員会	委員	会議への参加、OSCEの実施

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	182	1	新着任教員対象SD・FD	対象外
2024/4/2	183	−	第1回授業研修会	対象外
2024/4/10	184	−	ICT活用による教育内容向上に関する研究会	対象外
2024/4/24	185	2	修学上の配慮学生に関するSD・FD	出席
2024/4/24	186	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2024/5/9	187	−	研究倫理	出席
2024/6/26	188	4	機関別認証評価受審にあたり	欠席
2024/7/3	189	−	第2回授業研修会	対象外
2024/7/8	190	−	コンプライアンス(研究費の不正について)	出席
2024/7/31	191	5	大学の財務状況に関して	欠席
2024/7/31	192	−	科研費申請に係る勉強会	出席
2024/9/3	193	−	利益相反マネジメント研修	出席
2024/9/25	194	6	機関別認証評価に関して	対象外
2024/10/4	195	7	学生支援SD・FD	出席
2024/12/6	196	8	QSP共同SD・FD	対象外
2024/12/9	197	−	第4回授業研修会	対象外
2025/3/25	198	−	学生生活サポート室新規室員対象FD（令和7(2025)年度室員対象）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

第11回アミロイドーシス学会　優秀演題賞受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

助手2年目としての教育活動と研究活動の両立に努めた。教育活動に関しては実習の補助を主たる業務とし学生の質問対応や手技の評価、フィードバックを行った。研究活動に関しては、得られた研究成果をまとめ学会発表を3件、論文を1報執筆することができた。優秀演題賞の受賞も経験ができた。今後もアミロイドーシスに関する知識や研究に関する新たな実験手技の取得に励み、教育研究者としての素養を深めていくことのできるよう、鋭意努力していく所存である。